

戦姫絶唱 シンフォギア
仮面ライダーフィ
ス新たな世代の戦い

桐野 ユウ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

サードとの戦いから 数十年が立った……

健介たちの間にも子どもができる……

そして 今 新たな戦いが始まろうとしているのであった

目次

第一章 新たな 世代

新たな 仮面ライダーフィス | 1

調 切歌 翼思い.....

15

幹部襲来!! | 23

ドラゴナイトハンターZを使いこなせ

| 40

ビルド対三人のライダー | 49

復活の母親たち 親子のコンビネー

ション | 59

戻ってきた ガングニール奏者

76

相手の困惑 | 85

双子の攻撃!! ブレイブ スナイプ レ

バル50へ | 92

時空発生装置 | 100

登場人物 | 107

仮面ライダーフィスの設定 | 116

第二章 コラボ

参上!! 異世界の戦士たち!! | 134

健介のお話と新たな仲間 | 151

激闘!! 戦士たちとの戦い | 159

祥平の体の異変 | 165

祥平の新たな力 そしてあった人物と

は | 174

健介の真実!!・・・そして

184

破壊獣襲来!!

199

遺跡の秘密

209

帰ってきた相田 健介 激突 ダーク

フィス!!

219

仮面ライダーデステイニーの設定

240

動きだす 歯車

246

大火炎軍団と機械軍団

吠える動物 ダークチェンジ

270

テイニの秘密 そして現れた女性たち

289

現れた 武者 ゲンム グレードビリ

オン

299

機械兵団 兵器登場!!

要塞へ

317

フィス デステイニー対ダークフィス

怒りの激突!!

342

奇跡の戦い

第三章 日常とギヤラホルン

366

セレナ 怪盗をする

ギヤラホルンへ

復活の歌姫たち

動きだす 大火炎軍団 新たな幹部現

411

380

391

411

!!	復活のバクテス!! 駆けつけた戦士たち	498	ンチ!!	バクテスの本気 デステイニー 大ピ	602
!!	グレートビリオン	485	イダー	キャットの攻撃 現れた 謎の仮面ラ	562
!!	燃え盛る 勇気 フェニックスモード	479	新たな 姿 レベル50	復活をした幹部怪人たち	553
	行く場所	466	エグゼイドゼロ 再び!!	あの戦いが再び ガーマス	542
	現れた 仮面ライダーゲーム	458	最初の敵	光の戦士 ウルトラマンジード	533
	ダークパラドクスの目的	452			524
	日本大噴火作戦	444			
	大激突	437			
	現れた黒いパラドクス	430			
	る	421			
	第四章 コラボ再び 復活のバクテス	485			
	復活のバクテス!! 駆けつけた戦士たち	498			
	マツハ 新たな力	591			
	バクテス基地再び	584			
	新たな 姿 レベル50	573			
	燃え盛る 勇気 フェニックスモード	479			
	行く場所	466			
	現れた 仮面ライダーゲーム	458			
	ダークパラドクスの目的	452			
	日本大噴火作戦	444			
	大激突	437			
	現れた黒いパラドクス	430			
	る	421			
	第四章 コラボ再び 復活のバクテス	485			
	復活のバクテス!! 駆けつけた戦士たち	498			
	マツハ 新たな力	591			
	バクテス基地再び	584			
	新たな 姿 レベル50	573			
	燃え盛る 勇気 フェニックスモード	479			
	行く場所	466			
	現れた 仮面ライダーゲーム	458			
	ダークパラドクスの目的	452			
	日本大噴火作戦	444			
	大激突	437			
	現れた黒いパラドクス	430			
	る	421			
	最初の敵	515			
	あの戦いが再び ガーマス	533			
	エグゼイドゼロ 再び!!	542			
	復活をした幹部怪人たち	553			
	キャットの攻撃 現れた 謎の仮面ラ	562			
	イダー	562			
	新たな 姿 レベル50	573			
	バクテス基地再び	584			
	マツハ 新たな力	591			
	バクテスの本気 デステイニー 大ピ	602			
	ンチ!!	602			

第5章 盗まれた フルボトル

盗まれた フルボトル

612

最悪な戦い

621

彼女の決意

631

フィス対アルビオン

638

現れた謎の黒いライダーたち

646

帰ってきた健介

659

ハザードフォーム

666

ダークデイケイドの正体

674

カナトの真実 彼の関係

684

闇を追いはらえ!!

693

秘策

699

番外編 健介 翔平の世界へ

712

第六章 強敵ダグエン

新たな敵 ダグエン出現!!

719

第一章 新たな 世代

新たな 仮面ライダーフィス

サードとの戦いから 数十年が立った．．．．
健介は調たちと結婚をして 子どももできた．．．．

「ふあああ．．．．．」

一人の女性があくびをしている

「愛 そろそろ起きないといけないぞ？」

愛 「わかつているよ フィルス」

フィルス 「やれやれw」

私の名前は相田 愛．．．．母は月読 調で父は相田 健介 そう私のお父さんは
仮面ライダーフィスと呼ばれていた存在だ．．．

愛 「．．．．．」

今私が見ているのは 写真．．．．そう父が映っている写真である

フィルス 「バディが消えてもう数年がたったか．．．．．」

愛「……………そうだね……………」

そう今 私の父 相田 健介は行方不明になった……………

愛「お父さん……………いったいどこにいったの？」

その事件は もう四年前……………起きた事件であった……………私はそのころ中学生だった……………

父たちはある調査をしにいったが……………光が発生をして父は行方不明になった……………
フィルスは……………私を持つことになった……………

調「おはよう 愛……………」

愛「おはよう 母さん」

母である 調お母さん……………

調「ご飯ができているよ」

愛「うん」

そういつて私はご飯を食べる フィルスは充電をしている

調「愛 そろそろ迎えが来るんじゃない？」

愛「ふえ？」

そういつて時間を見る

愛「あああああああ!!まづい!!」

そういつてファイルスを持ち

愛「いつてくる!!」

調「行つてらつしやいw」

そういつて私はドアを開ける

「ヤッホー愛」

愛「おはよう 真奈」

彼女は相田 真奈 そう名前の通り 私にとつては双子みたいなものだ・・・

そう母親は 暁 切歌・・・そううちのお母さんである 月読 調とはコンビを組んでいた人だ

愛「もしかして今日も?」

真奈「うん・・・元氣そうに見えるけど・・・やっぱりお父さんのことが・・・ね」

愛「うん・・・」

私たちも寂しいが・・・やっぱりお母さんたちは一番つらいと思う・・・その事件の時に近くにいたのはお母さんたちだ・・・

だからこそ私たちの前では元氣そうにしてるけど・・・夜になると

調「健介・・・健介・・・健介・・・健介・・・」

つと泣いている母を見る……お父さん……いつたどこに……
「いーいー!!」

二人「!!」

私たちの前に謎のタイトを来た人たちが襲い掛かってきた!!

愛「あれって……」

フィルス「二人とも!!あれはシヨツカーの戦闘員だ!!」

真奈「え!!」

フィルス「あれはかつてバディたちが倒した シヨツカーの戦闘員だ……だがどうして……」

愛「どうしよう……あれは!!」

みると子どもがおびえている……

真奈「どうしたらいいの……」

愛「……このままじゃ……子どもが!!」

フィルス「……」

愛「フィルス……お願いがあるの……」

フィルス「まさか……」

愛「あの子を守りたい……だから仮面ライダーシステムを使わせて!!」

ファイルス「……それはだめだ……君まで戦いに巻き込またくない……」
愛「でも……今戦わないで……いつ戦うの!!あの子がピンチなのを見過ごしたくない!!」

ファイルス「……愛……ふふふふふ」
するとファイルスが笑っている

ファイルス「やはり 君は一番健介の性格が出ているなw」

愛「そうなの？」

ファイルス「そのとおりだwわかった 愛!!私を押すんだ!!」

愛「押す？」

そういつて押すと

ファイルス「仮面ライダーモードLADY!!」

愛「これが……」

ファイルス「次は 動物アイコンを押すんだ!!」

愛「わかった!!」

そういつてライオンを押す

ファイルス「ライオンモード!!」

ファイルス「そして私をフィストドライバーにセットをするんだ!!」

愛「変身!!」

愛はフィリスをフィスドライバーにセットをした!!

フィリス「ライオンモード!!」

愛の姿が変わり かつてのあの姿が帰ってきた

SONG基地

「この反応は!!翼 司令!!」

翼「どうした……」

「仮面ライダー反応です!!」

翼「まさか……健介さん……いや彼じゃない……じゃあ一体誰が……」

翼は画面を見る そこには 自分が愛した人が変身をした仮面ライダーフィスがう

つつているからだ

もどつて

「な!!仮面ライダーフィスだと!!」

フィス「これが……お父さんが変身をした……仮面ライダーフィス」

「おのれ!!この俺クモ男をなめるな!!やれ戦闘員ども!!」

戦闘員「いー!!いー!!」

戦闘員たちはフィスに襲い掛かってきた

ファイルス「愛 君にとって初の戦いだ・・・私がアドバイスをする ライオンモードは基本のモードだ 武器はその爪ライオンクロード!!」

私はファイルスをアドバイスをきいて 腕の部分をみると 爪が展開される

ファイルス「よし!!は!!」

私は現れた ライオンクロードで戦闘員たちを切り裂いていく

戦闘員「いー!!いー!!」

戦闘員は次々に切り裂いていく

ファイルス「ああああああああああ!!」

さらに蹴りを入れて連続で戦闘員たちを吹き飛ばす

ファイルス「次は私の武器アイコンを押すんだ」

ファイルス「これね!!」

そういつて私はボタンを押した

ファイルス「ライオンソード!!」

するとファイルスから剣が出てきた

ファイルス「おつと」

ファイルス「ライオンモードの武器 ライオンソードだ!!」

ファイルス「は!!」

私は出てきた ライオンソードで戦闘員を攻撃をする

戦闘員 「いー!!いー!!」

戦闘員たちも攻撃をしてきた

フィス 「あわわわわわわ!!」

やはり多数相手に苦戦をする

フィルス 「大丈夫だ ライオンモードの力でも奴らを吹き飛ばすことができる!!」

フィス 「そうなの!!ええい!!」

そういつて立ちあがった

戦闘員たち 「いーいーいーいー!!」

フィス 「すごい・・・これがフィスの力？」

フィルス 「まだまだだぞ？フィスの力は」

クモ男 「おのれ・・・くらえ!!」

そういうとクモ男は私をとらえるために糸をはいた

フィス 「であ!!」

私は糸を切った

フィルス 「私をライオンソードにセットをするんだ!!」

フィス 「わかった!!」

そういつて私はウイルスをセットをした

ウイルス「そして必殺アイコンを押ししてくれ!!」

そういつて私は必殺アイコンを押す

ウイルス「必殺!!ライオブレイク!!」

フィス「はああああ・・・は!!」

ライオン型のエネルギーが飛ぶ

クモ男「どあ!!」

ウイルスを戻して

ウイルス「さあ止めを刺そう!!」

フィス「わかった!!」

そういつてウイルスの必殺アイコンを押す

ウイルス「必殺!!ライオンメテオストライク!!」

フィス「はあああああああ!!」

私はダツシユをして

フィス「おりやあああああああ!!」

ジャンプをして回転キックをお見舞いさせる

クモ男「ぐあああああああああああああああ!!」

私の蹴りをくらった クモ男は爆発をした

フィス「ぐ!!」

フィルス「敵の反応なしだ……よくやった 愛」

真奈「愛——————」

フィス「真奈……ふう」

フィルス「お疲れだ 愛 最初にしてはいい腕だぞ？」

愛「ありがとう フィルス あ、子供は？」

真奈「大丈夫だよ 避難させておいたよ」

愛「ありがとう 真奈」

すると私たちのところに黒い車が現れた

中から降りてきたのは

翼「真奈 愛!!」

二人「翼お母さん!!」

この人は 父 相田 健介 つまりお父さんの奥さんでもあるってお父さん……ど
れだけいるって……奏者全員と結婚をしているからねw

子どもがいるのって 調お母さん 切歌 お母さん 翼お母さんなんだよね……

ほかの人もやったらしいけど……今 お腹にいるのはクリスマスお母さんとマリアお

母さんなんだよね……

「真奈!!愛!!大丈夫!!」

そこに現れたのは 翼お母さんの娘で 相田 剣……って女のに剣……

剣「うう……それは私も気にしているから……」

あ、ごめん……

翼「それよりもだ……どうして仮面ライダーフィスが……」

フィルス「それは私が判断をしたからだ……」

翼「フィルス……」

フィルス「すまない翼……だが彼女の目は彼が助けたいという目をしていった……」

「だからこそ彼女を仮面ライダーフィスへとやったんだ……」

翼「そうか……なら二人ともお母さんが基地で待っている……一緒に

行こう」

二人「わかりました」

そういつて私たちは車に乗り SONG基地へついた

響「二人とも」

二人「響お母さん」

響「無事でよかった……」

彼女は立花 響 彼もだが ガングニール奏者でもあり 私たちの先輩でもある
奏「よかったぜ あんたたちが無事で」

彼女は翼お母さんの相方で 天羽 奏さん はいこの人も健介お父さんの奥さん……あー多すぎるよーでも実は皆さんにはかわいがってもらってましたw

私たち三人は生まれた時間も同時らしく びつくりをされたそうです

翼「では改めて……愛……あなたにはこのSONGで……仮面ライダーとしてたたかってもらうことになります……」

愛「……」

翼「本来は私たちはあなたを戦わせるには……」

それはわかってます……でも

愛「翼お母さんの気持ちはわかります……でも私は決めました……父が守ろうとしていることを……私は ファイルスと共に戦いたいです!!」

ファイルス「愛……」

真奈「私も……変身ができたらな……」

エルフナイン「できますよ」

切歌「エルフナイン どういうことですか?」

エルフナイン「ゲームードライバーを使うのですよ」
そういつて出したのであつた

ガシャットも一緒だ

エルフナイン「これには健介さんが共に戦つた仮面ライダーエグゼイドの仲間 スナイプのデータが使われております これはそのガシャットです」

そういつて出されたガシャットは バンバンシユーツイニング ジェットコンバット
ドラゴナイトハンターZ ガシャットギアデュアルβ であつた

真奈「ありがとうございます!!エルフナインさん!!」

キヤロル「ただし 使うなら ジェットコンバットまでだ そのほかは特訓などを
ていかないときついぞ」

真奈「はい!!」

剣「私もブレイブという仮面ライダーの力を使える・・・共に頑張つていこう!!」
愛「そうだね・・・ファイル これからよろしくね!!」

ファイル「ああ愛!!」

調「・・・・・・・・・・・・・・・・」

セレナ「心配?」

調「うん・・・・・・・・私も戦いたいけど・・・・・・・・」

響「無理をしないで……まだ翼さんや調ちゃん 切歌ちゃんは……」

そう私たちはギアを装着することはできるが……するとあの時の光景を思い出し
てしまう……そう健介が消えたあの日を……

麗菜「大丈夫よ あの子は私の息子よ 必ず生きているわ」

つと言うのは 相田 麗菜さん つまり健介のお母さんだ

調「麗菜さん……」

麗菜「信じましょう……あの子を……そして見守るわよ あの子を……」

さてここはある場所

「まさか 仮面ライダーフィスが復活をするとはな……」

「いかがしましょう……セレウス様」

セレウス「まあいい……あの相田 健介ではないのなら 我々は勝てるだろう……」

我々 大火炎軍団がな」

そういつていたのであった

調 切歌 翼思い

翼 side

翼「 」

私はあの日から 装着をしてない . . . いや装着ができないのだ

あの日のことがバックフラッシュをして . . . 体が震えてしまい . . . 剣が持て
なくなってしまうた . . . それよりも私は近くにいたのに . . . 愛する人を守れなかつ
た

剣「母上 またその顔をしています 」

翼「 」

剣「父上のことは母上のせいじゃないと思います 」

翼「 わかっている . . . わかっている!! だが . . . 私 」

そう . . . 何が防人だ 愛する人を守れなくて . . . 何が防人だ 私

は . . . 最低だ

翼「うう 」

剣「母上 」

私はどうしたらいいのだ……健介さん……どうして消えてしまったの……
私は……私は……

切歌 side

切歌「……………」

真奈「ママ？」

切歌「……………」

真奈「ママ!!」

切歌「!! もう真奈びっくりしたデース!!」

真奈「さつきから呼んでいるのにママが反応をしないからだよ!!」

切歌「ごめんです……………」

はあ……私何やっているんだろう……娘が戦おうとしているのに……私はイ

「ガリマさえも装着ができないなんて……………」

健介が消えた日から……私は怖くなった……今までは平気で装着をしてたイガ

リマを装着ができなくなった……歌おうとしたらあの日のことが蘇ってしまい……

やめてしまう……………」

切歌「……………」

真奈「ねえママ……………」

切歌「なんです？」

真奈「パパってママにとってどういう人だったの？」

切歌「そうですね……健介は私たちのために……本当に一緒にいてくれた……」

真奈「そうなんだ……」

切歌「うん……まだ真奈たちが生まれる前……健介と一緒に戦ってきたのデ-

ス……」

真奈「……ママ……」

切歌「でも……ぐす……あの日……ぐす……えぐ」

真奈「ママ……もういいよ……大丈夫……パパは絶対に生きて帰ってくる!!」

切歌「ぐすえぐ……うあああああああ」

真奈「ママ……」

調 side

私はいつも通り 本を読んでいた 首飾りとしてシャルシヤガマを付けている……だけれど私はもう装着することはしない……あの日から……

私は悲しみが上まっているからだ……あの日健介を守れなかった……自分がいや……娘の前では元気のふりをしているが……もう限界……

健介がいない……愛した人がいない……

調 「健介・・・・・・・・・・」

私もあなたの元へ行きたい・・・・・・・・もういいよね？

「だめだ!!」

調 「!!」

私は手を止めた・・・・・・・・

調 「え・・・・・・・・今の声・・・・・・・・」

そう私は聞き覚えがある・・・・・・・・声だ・・・・・・・・

私はダツシユをして声の方へ行くが・・・・・・・・誰もいない・・・・・・・・

調 「・・・・・・・・でも・・・・・・・・あの声は健介・・・・・・・・」

ファイルス 「調？」

調 「ねえファイルス・・・・・・・・」

ファイルス 「なんだい？」

調 「今 誰か通ってなかった？」

ファイルス 「残念ながら誰も通ってないぞ」

調 「そう・・・・・・・・なの・・・・・・・・」

ファイルス 「調!!その包丁は!!まさか!!」

調 「最初は死のうと思つた・・・・・・・・でもそれを止める声が聞こえたの・・・・・・・・」

ファイルス「その声がバディだというのか？」

調「うん……………」

ファイルス「調……………健介は生きている　あの男はそういう男だからな……………」

調「そうだね……………」

愛「どうしたの　ママ　ファイルス」

ファイルス「何でもないさ……………さあ明日も速いんだ」

そういつてファイルスは娘を寝かせに行つた

調「……………シャルシャガナ……………いつかはあなたを再び装着できるように頑張る……………」

そういつて私はペンダントを握りしめる

???

セレウス「……………さて行け　火炎魔人」

火炎魔人「お任せを!!」

そういつて燃え盛る　火炎魔人は出ていくのであつた

ファイルス「愛!! 敵が現れた!!」

愛「わかつた!!」

そういつて私はファイルスをもって走る

一方でSONGでも

翼「劍……………」

劍「わかっていきます 母上行ってきます!!」

そういつて劍はいく

真奈「さて私も!!」

そういつて彼女も向かっていく

三人のライダーたちが今集結をする!!

愛「あれが!!」

火炎魔人「貴様が仮面ライダーだな!!俺は大火炎軍団 火炎魔人さまだ!!」

ファイルス「愛 奴は炎を使うようだな」

愛「そうだね!!」

そういつてファイルスをかまう

ファイルス「シャークモード!!」

愛「よし……へん」

二人「ちよつとまった!!」

愛「おつととと」

劍「愛 私も参戦をするぞ!!」

真奈 「私もだよ!!」

愛 「はいはい それじゃあ三人で変身と行きますか!!」

剣 「剣術 弑式!!」

「タドルクエスト!!」

真奈 「第2シューティング!!」

「バンバンシューティング!!」

愛 「いくよ!!」

ファイル 「シャークモード!!」

3人 「変身!!」

「タドルメグルタドルメグル タドルクエスト」

「ババンバン ババンバン バンバンシューティング」

愛は仮面ライダーフェイス シャークモードに

剣は仮面ライダーブレイブ クエストゲーマーレベル2

真奈は仮面ライダースナイプ シューティングゲーマーレベル2になったのだ

ブレイブ 「仮面ライダーブレイブ 参る!!」

「ガシヤコンソード!!」

スナイプ 「狙い撃つよ!!」

「ガシャコンマグナム!!」

フィス「いくよ!!二人とも!!」

ファイルス「シャークセイバー!!」

火炎魔人「こい!!仮面ライダー!!」

幹部襲来!!

ブレイブ side

ブレイブ「……………」

ブレイブは今ガシャコンソードを構えながら 思っている 父のことを…………

剣の剣は 父 健介から学んだものである…………まだ彼女が6歳の時…………

彼女は父 健介から学んでいたのだ

健介「いいかい 剣…………剣は確かに強い…………けど守り切れないときもある…………

その時は」

そういつて健介は剣を構えながら

健介「己の限界を超えない程度…………たとえ剣が折れようとも立ちあがろうとする

心を忘れるな…………そして仲間を信じること」

剣「信じること……………」

健介「そうだ……………」

ブレイブ「父上……………」

すると火炎軍団の戦闘員たちが襲ってきたのだ

ブレイブ「は!!」

ブレイブはガシヤコンソードを構えて

ブレイブ「参る!!」

まず前にいた戦闘員を切っけいき 後ろから来たのをガシヤコンソードをまわして
切りつけたのだ

「ううう!!」

戦闘員たちは火炎弾を投げてきた

ブレイブ「そんなもの!!」

そういつてダツシユをして回避をしていく

Bボタンを押して氷モードにしたのだ

「コ・チーン」

ブレイブ「であ!!」

地面に突き刺して 凍らせたのであつた

さらにダツシユをして切つたのであつた

ブレイブ「私に切れないものなどない!!」

スナイプ side

やるねー剣・・・なら!!

スナイプ「は!!」

私はガシヤコンマグナムを放ち 戦闘員たちを撃つていく

スナイプ「まだまだ」

そういつてBボタンを押して ガトリングのように弾を放った

スナイプ「おっと 甘い甘い」

回避をしながら やるが ごちーん

スナイプ「いったー！ー！ー！ー」

どうやらこん棒が私の頭に当たったようだ

スナイプ「このー！ー！ー!!」

私を殴った相手にガシヤコンマグナムを付けて撃ちまくったのであった

「ぐおおお………」

スナイプ「もう!!女の子の頭を殴るなんて!!」

素晴らしいながら

スナイプ「もう!!」

Aボタンをおしてライフルモードにした

「ズ・キューン!!」

スナイプ「しっこい!!」

そういつてライフフルモードで攻撃をする 威力は高いけど 連射ができないんだよね・・・でも!!

スナイプ「は!!」

私は撃ちながら ダツシュをして 次々に撃つていく・・・

スナイプ「さーて」

Bボタンを押して FULLCHARGEをした弾を

スナイプ「ファイア!!」

放ち 戦闘員たちを倒した

スナイプ「さーて愛のところに行かないとね!!」

そういつて私はダツシュをした

フェイス side

フェイス「はああああああああああ!!」

火炎魔人「甘いわ!!」

私のシャークセイバーを奴は炎のこん棒でガードをする

火炎魔人「くらうがいい!!」

口が開いて

フェイス「いかん!!かわすんだ!!」

フェイス「ぐ!!」

火炎が放たれたが 私は回避をした

火炎魔人「どりやどりや!!」

フェイス「ぐ!!」

私はシャークセイバーで受け止めるが パワーが強くて

火炎魔人「くらうがいい!!」

フェイス「きやああああああ!!」

火炎魔人の攻撃を受けて フェイスは吹き飛ばされる

フェイス「ぐ!!なら!!」

そういつて動物アイコンを押した

フェイス「パワーならパワーよ!!」

フェイス「ゴリラモード!!」

フェイス「チェンジ!!」

姿がシャークモードからゴリラモードに変わった

両手の装甲についたゴリラナックルでフェイスは殴りかかる

フェイス「どりやああああああああ!!」

火炎魔人「ぐお!!」

右手のゴリラナックルをガードをしようとしたが そのこん棒が粉碎されたからだ
火炎魔人「まさか 俺のこん棒を!!」

フィス「どりやああああああああああああ!!」

さらに連続して殴るのであった

その様子がある男が見ている

「あれが仮面ライダーか……俺の火炎魔人をな……へ!!面白いぜ!!」

すると彼の姿が変わり 燃え盛るまるで不死鳥のような姿になった

「この俺……バーニングフェニックスさまが相手をしてやるか」

そういつて彼はビルから降りる

一方でブレイブとスナイプも合流をしたのであった

ブレイブ「大丈夫か!!」

スナイプ「お待たせ!!」

そういつて二人も駆けつけた

フィス「ありがとう!!」

火炎魔人「まさか俺の戦闘員たちを全滅させてきただと!!」

ブレイブ「これで終わりだ!!」

ガッシュン!!

スナイプ「そうそう」

ガツシュン!!

ガシヤット!!キメワザ!!二人はそれぞれのガシヤットを武器に挿入をする

フィス「フィルス!!」

フィルス「わかつている!!」

そして必殺アイコンを作動させる

フィルス「必殺!!ゴリラメテオパンチャー!!」

「タドル（バンバン）クリティカルフィニッシュ!!」

三人「はあああ・・・は!!」

三人の技が はなたれる

火炎魔人「ひいひいひいひい!!」

「ひゃっはーひゃっはー!!」

三人「!!」

爆発が起こり 煙がはれると

フィス「なにあれ・・・」

火炎魔人「バーニングフェニックスさま!!」

フェニックス「大丈夫か 火炎魔人」

火炎魔人「フェニックスさまがどうしてここに!!」

フェニックス「なーに大事な部下がやられるのを見てられなくてな それにこいつらと戦いたいと思ってるな!!」

そういつて彼は大剣を出した

フェニックス「仮面ライダーが三人もいるとはな……俺の心がたぎってきたぜ!!」
SONG基地

響「!!」

翼「立花!!」

響「今戦えるのは私だけ……なら!!」

翼「しかし……」

響「大丈夫ですよ 翼さん……健介さんが守ろうとしてきた命を見捨てれるわけないですよ!!」

そういつて響は出た

響「……」

「出番か?」

響「うん 出番だよ コーベルト」

そういつて彼女に姿を現せた

コーベルト「そうか」

彼はコーベルト 健介さんが私のために作ってくれた アーマー

響「うん……………」

コーベルト「仕方がない……………あいつらは装着ができないからな……………」

響「うん今は奏さんやセレナちゃんはいない……………奏者としては私だけ……………い

くよ!! *Balwusyal Nesceel gungnir tron*」

そして彼女がガングニールを纏うとともに

コーベルト「は!!」

コーベルトは分離をして 響の腕部 脚部 胸部 背部 そして頭部へと合体をし

た

響「は!!であ!!ほあああああああ!!」

背中のウイングが展開をして 響は飛び立ったのだ

翼「立花……………」

翼は胸のペンダントを握る

翼「……………私は情けない……………」

二人「……………」

それは調 切歌も同じであった 娘が戦っているのに何もできない自分が……………

さて一方で

ブレイブ「はあああああああ!!」

フェニックス「ふん!!」

ブレイブが放った ガシヤコンソードをフェニックスは炎の大剣で受け止めた

スナイプ「この!!」

スナイプはガシヤコンマグナムを放った

火炎魔人「フェニックス様!!」

火炎魔人が自分の体でガードをしたのだ

フェニックス「火炎魔人!!」

火炎魔人「平気でございます!!」

フィス「でああああああああ!!」

フィスはイーグルモードになってフィスガンとイーグルライフルの二丁で攻撃をす

る

二人「ちい!!」

フェニックス「おりゃ!!」

ブレイブ「ぐ!!」

火炎魔人「ふん!!」

スナイプ「きゃあああああああ!!」

フィス「二人とも!!」

フェニックス「さーでこれで終わりにしてやろうか 仮面ライダー!!」

そういつて大剣がさらに燃えて 三人のライダーたちに攻撃をしようとしたとき

「はあああああああああ!!」

上空から 何かがけり入れてきたのだ

フェニックス「どあ!!」

火炎魔人「フェニックス様!!」

三人のライダーは誰があいつを吹き飛ばしたのかを見る

「間に合ったみたいだね」

そこに立っているのは オレンジ色で腕部はナツクルガードを装備しており首元に

はマフラーが装着されており さらにそれを纏っているかのように腕部 胸部 脚部

背部 頭部に合体をしている 青いパーツが装着されている

そう彼女は立花 響 ガングニール奏者である

フェニックス「いって………ほう これは立花 響か………」

響「お前たちは何者なのかしら？」

フェニックス「俺は大火炎軍団幹部 バーニングフェニックス 長いからフェニックス

スとも呼んでくれ まさかあんたが出てくるなんてな……まあいい火炎魔人 撤退をするぞ」

火炎魔人「俺はまだ!!」

フェニックス「俺をかばったときのダメージがある……今は引くぞ!!」

火炎魔人「ふえ……フェニックス様!!は!!」

フェニックス「なかなか楽しかったぜ 仮面ライダーたち……だが次は勝たせてもらうぞ」

そういつてフェニックスは消えるのであった

響「く!!」

響は両手をガードをした

響「逃げられた……」

コーベルト「反応なしだ」

響「そうみたいだね……さて三人とも大丈夫?」

そういつて響は彼女たちに言った

フィス「はい……」

ブレイブ「まだ足りないみたいですよ」

スナイプ「私もだよ……」

響「大丈夫だって 私なんかには比べたら」

フィス「そうなんですか？」

響「うん・・・・・・・・私ね ずっと前に起った コンサート事件の時・・・・奏さんのガングニールの破片を受けてね・・・・なんとか生きてきた・・・・でも」

私たちは響さんの顔が悲しそうになっているのを見た

響「つらかった・・・・人殺しとか言われたしね・・・・生き残った人たちはそういうことを受けてきたの・・・・・・・・」

そう悲しい過去だった・・・・・・・・

響「・・・・・・・・ごめんね・・・・こんな話をして・・・・さあ帰ろう」

そういつて私たちは戻る

フィルス「・・・・・・・・・・・・・・・・」

愛「ねえフィルス・・・・・・・・」

フィルス「なんだい 愛」

愛「響さんの言っていた過去の事件って？」

フィルス「そうだね・・・・私たちもかわっているわけじゃないからな・・・・当時 SONO Gがまだ2課という組織だったころ ネフシユタンの鎧の実験をするために ツヴァイウイングのコンサートで起動実験をしていたのだ」

剣「それって母上の……」

フィルス「だがそれは失敗をした……ノイズたちの襲撃でな……そこで
はノイズにおそわれて死んだ者や逃げる際にドミノ倒しで死んだものなどたくさんの
死者が出たんだ……」

真奈「そんなことが……」

フィルス「そう 響はその時に奏の GANG ニールの破片が刺さり、だがそこに仮面ラ
イダー 鎧武が彼女たちを助けたそうだ……そして響はそこから批判を受けてきた
そうだ……」

響「そう……それがずっと前に起った コンサート事件の全貌……総ては了子
さんがおこなったことらしいんだ……」

愛「響さん」

響「大丈夫だよ こうして健介さん達にも出会えたんだから……」
そういつて彼女は笑っている

基地へ戻った後 私はある場所へいた

「そう……あの子たちが……」

マリア・カデンツァヴナ・イヴ いや今は 桐野 マリアと言っておこう
「つたく……」

もう一人は雪音 クリス 彼女も桐野 クリスとなのつておこう．．．ほとんどが前の名前を使っているが 桐野性である

今彼女たちがいるのは病院だ．．．私ことファイルスは今彼女たちがたたかっていることを伝えたのだ

マリア「まだ調たちは．．．．．」

ファイルス「残念ながらも．．．．．」

マリア「そう．．．．．」

ファイルス「そういえば子どもは」

クリス「ああ元気だぜ．．．もう少しで退院ができるぜ」

そういつてるが 彼女たちは出産をしたのだ そう健介の子どもだ

それも女の子だ

ファイルス「やれやれ バディがないのは残念だ．．．．．」

マリア「そうね．．．．．」

クリス「だがあいつが残っていたのはあるぜ．．．子どもという結晶をな．．．あたしはパパやママが死んでしまつて愛情を伝えきれなかった．．．だからこそあたしはあの子を悲しませたりしない．．．．．」

ファイルス「そうだったな．．．．君の家族は．．．．」

クリス「さて名前をだな……………」

マリア「そうね……………」

フィルス「バディならこうつけているじゃないかな？クリスとの子供は 優子 マリ

アとの子供は 歌奈と」

クリス「優子」

マリア「歌奈……………いい名前ね」

フィルス「バディはおそらくつけていたかもしれないな……………」

そういつて私たち3人は笑うのであった

一方で

セレウス「そう……………仮面ライダーが3人も」

フェニックス「そういうこったセレウス どうする気だ」

セレウス「そうね……………ところで火炎魔人は？」

フェニックス「あいつは今傷を癒している しばらくは活動ができねえ」

セレウス「どうする気なの？」

フェニックス「火炎魔人に変わるやつがいるぜ 出て来い」

「お呼びですか フェニックス様」

フェニックス「来たな ガルン お前に火炎魔人の任務を引き継いでもらうぞ」

ガルン「お任せください
フェニックスさま」

ドラゴナイトハンターZを使いこなせ

SONG基地 シュミレーション室

フィルス「いいかい 君達はまだ自分たちの力をわかりきってない状態だ」

フィス「うん それはわかっているよ」

フィルス「そのとおりだ まず君達はもつとレベルアップをしないといけない」

ドラゴン「で呼び出されたのが」

ライオトレイン「私たちってことか」

フィス「どういうこと？」

ドラゴン「俺たちのモードは特殊ってことだ」

ライオトレイン「うむ 通常よりもパワーがあがるが制御が難しいってことだ」

フィス「なるほどね」

フィルス「まず 愛にはドラゴンモードとライオトレインモードになれてもらう」

フィス「わかったわ」

一方ブレイブとスナイプは

スナイプ「レベル3までは制御ができるわね」

っとコンバットシューティングゲームになっている スナイプ

ビートクエストゲーマーになっているブレイブであつた

ブレイブ「ああ・・・そして」

そういつて金色のガシヤットを出した

ブレイブ「今度はこれね」

スナイプ「ドラゴナイトハンターZ・・・レベルは5・・・」

そういつて2人は見る

スナイプ「どうする？」

ブレイブ「やらないと・・・奴に勝てない」

そういつて2人はドラゴナイトハンターZを起動させる

「ドラゴナイトハンターZ!!」

ブレイブ「剣術 五式」

スナイプ「第5シューティング」

「ガシヤット!!レベルアップ!!ドツドドドラゴナナイト ドラドラ ドラゴナイトハ

ンター Z!!」

っと装着された 二人はフルドラゴンだ・・・

ブレイブ「こ・・・これが・・・」

スナイプ「ドラゴナイトハンターZの……ぐうう……」

二人はドラゴナイトハンターZの力に制御がしきれてないのだ

フィス「なに!!」

二人「ぐおおおおおおお!!」

見るとドラゴナイトハンターZを装着をしてフルドラゴンになった二人でつた

フィルス「まずい!!ドラゴナイトハンターZの力に制御ができてない!!」

フィス「どうしよう!!」

ドラゴン「愛!!俺を使え!!」

フィルス「何を言っている!!危険すぎる!!」

ドラゴン「健介は俺を一回で制御をしたんだ……こいつもあいつの娘だろ?」

フィルス「確かにそうだが……」

フィス「やろう!!」

フィルス「愛!!」

フィス「お父さんが一回で成功をしたんでしょ!!……なら私は相田 健介の娘よ!!

だから!!」

ライオトレイン（あの目……似ているな……）

ドラゴン（ああ……健介に似ているな……剣や真奈も似ているが……やは

り・・・)

つとドラゴンたちは愛を見ていうのであった

ファイル「わかった・・・ドラゴン!!」

ドラゴン「わかってるよ!!愛!!俺のモードを押しな!!」

ファイル「これね!!」

ファイル「ドラゴンモード!!レディ!!」

ドラゴン「いくぜ!!」

するとドラゴンジェットターが分離をして ファイスに装着をしていくのであった

ファイル「ドラゴンモード!!セットアップ完了!!」

ファイル「だあああああああああ!!」

ファイル「・・・」

二人「あ・・・愛?」

ファイル「すごい・・・力を感じる・・・お父さんも最初はこんなのかな?」

ドラゴン「おいこれって」

ファイル「成功のようだな」

ファイル「さーて二人を止めるよ!!」

二人「おう!!」

ブレイブ「ぐう……」

スナイプ「があああ!!」

フィス「二人とも!!自分の意思をもって!!」

ブレイブ「あ……愛!!」

スナイプ「ぐううう……」

フィス「二人とも 相田 健介の娘でしょ!!お父さんが見ていたらどう思うの!!」

ブレイブ「ち……父上が……」

スナイプ「パパが……」

剣（そうだ……父上はどんときにもあきらめたりしてなかった……）

真奈（たとえ体がボロボロになっても戦い続けてきたんだ……）

二人「私たちはその娘!! こんなの に負けてたまる
か—————!!」

つと二人は気合を入れた!!

ブレイブ「感謝をする」

スナイプ「ありがとうね!!」

そういつて三人は言うのであつた

フィス「ねえねえ せつかくだしさ……」

ブレイブ「なるほどな……」

スナイプ「いいね……」

同じ時間に産まれた 三人は三つ子じゃないのに考えることがわかるらしい そんな
て今回は せつかく力が使えるようになったし 試そうといったのであった

そしてお互いに離れて 構えるのであった

フィス「いくよ!!」

フィルス「ドラゴンシールド」

そして剣を抜いた

ブレイブ「参る!!」

スナイプ「いくよーーー!!」

つと三人は激突をした

スナイプは左手のドラゴレールガンで攻撃してきた

フィス「く!!くらえ!!」

フィスは胸部にドラゴンの頭部が出現をして火炎放射を放ったのだ

ブレイブ「火炎なら私もだ!!」

そういつてブレイブも火炎で相殺をしたのだ

さらに剣同士が激突をして

スナイプ「一気に蹴りを付けよう!!」

ブレイブ「その意見には参戦だ」

フィス「そうだね!!」

そういつて必殺の構えをする

二人はガシヤットを抜いて キメワザホルダーへセットをした

「ガシヤットキメワザ!!ドラゴナイトクリティカルストライク!!」

ブレイブはドラゴソードにエネルギーを スナイプはドラゴレールガンにエネル

ギーをためているのだ

フィルス「必殺!!ドラゴンブレイク!!」

フィス「はあああああ………」

三人「は!!」

三人の技が激突をして 衝撃が飛ぶ!!

三人「きやあああああああ!!」

三人は吹き飛び 変身が解除をされる

愛「いたたたた………」

剣「く………」

真奈「いつたい………」

「全くもう……元気でいいのか悪いのか」

つと一人の女性がいた

三人「セレナお母さん!!」

そう彼女は 桐野 セレナ マリアの妹だ

彼女にはベルトをしているのがある それはビルドドライバー これも健介が残してくれたものであり

現在は色々と変身が可能であった

セレナ「お疲れドラゴン」

そういつてクローズドラゴンを変形を解除させるのであった

セレナ「それじゃあ私が試してあげる」

そういつてビルドドライバーを装着をして フルボトルを振っている

「ラビット タンク!!ベストマッチ!!アーユウーレディ!!」

セレナ「変身!!」

「鋼のムーンサルト!!ラビットタンク!!いえーい!!」

セレナの姿が変わり 仮面ライダービルドになったのだ

ビルド「さて実験を始めるわよ」

そういつてドリルクラッシュヤーを構える

フェイス「まじですか・・・」
ブレイブ「やるしかないか・・・」
スナイプ「まじですか」

ビルド対三人のライダー

ビルド「さあかかってきなさい」

そういつてビルドは構えるのであった

フィス「どうする……」

ブレイブ「戦うしかないよ」

スナイプ「なら私が援護をするよ」

そういつてジェットコンバットのガシヤットを入れる

スナイプ「第三シューティング!!」

「ガチャーンレベルアップ!! ジェットジェットインザスカイ!! ジェットジェット
ジェットコンバット」

コンバットシューティングゲームレベル3になった

ブレイブ「いきます!!」

フィス「はああああああああああ!!」

フィスとブレイブはライオンモードとクエストゲーム2になって武器を構える

ビルド「なるほどね……」

まずビルドはドリルクラッシュャーで二人の剣を受け止める
スナイプ「は!!」

スナイプは上空から コンバットガトリングで攻撃をする
ビルド「ふふふ」

ビルドは笑いながら 受け止めた二人の剣をはじいた後 銃モードにして スナイプに攻撃をする

スナイプ「わつと!!」

ビルドはフルボトルを振って 変えたのであつた

「タカ!!ガトリング!!ベストマッチ!!」

ビルド「ビルドアツプ」

「天空の暴れんぼう!!ホークガトリング!!」

そして翼を広げて 空を飛ぶ

スナイプ「げ!!」

フィス「させない!!」

フィルス「イーグルモード!!」

翼を広げて 空を飛ぶ

フィス「は!!」

イーグルライフルでビルドに攻撃をするが
ビルド「おっと」

ホークガトリンガーで相殺をしていく

さらに風を発生をさせて 二人のスピードを下げろ

ブレイブ「空か・・・」

ブレイブは空を飛べないため 攻撃ができない

ビルド「さーて」

そういつてホークガトリンガーをまわしている それを十回する

「フルバレット!!」

ビルド「はあああああああああああ!!」

すると計算式が現れて 2人のライダーにガトリングの雨をあびせる

2人「うあああああああああ!!」

ブレイブ「愛!! 真奈!!」

地上へ降りてきた 二人をキャッチをした

フィスはライオンモードに スナイプはシューティングゲームに戻る

ビルドは着地をして 忍者とコミックのフルボトルを振っている

「忍者!! コミック!! ベストマッチ!!」

ビルド「ビルドアップ」

「忍びのエンターティナー ニンニンコミック」

4 コマ忍法刀を装備して 攻撃をする

ビルド「は!!」

ビルドは右手から手裏剣状のエネルギーを発生させて それを投げてきたのだ

ブレイブ「は!!」

ブレイブはガシャコンソードで手裏剣をたたき落とす

ファイルス「ビートルモード!!」

フィス「チェンジ!!」

フィスはビートルモードになって 頭部のビートルホーンに雷エネルギーをためた

フィス「ビートルサンダー!!」

頭部から雷エネルギーが放たれた

ビルド「おっと」

スナイプ「ばーん!!」

ライフルモードにしたガシャコンマグナムをはなったのだ

ブレイブ「であああああああ!!」

さらにブレイブが接近してきたのだ

ビルド「なら」

ビルドは忍法刀のトリガーを1回引く

「分身の術!!」

3人「!!」

するとビルドが三体に増えたのだ

フィス「どれが本物!!」

スナイプ「まずいよ 私接近ないよ」

ブレイブ「うろたえるな!!」

そういつてブレイブは氷モードにして ガシヤットをガシヤコンソードにセットをした

「ガシヤットキメワザ!!ダドルクリティカルフィニッシュ!!」

ブレイブ「飛べ!!」

そういつて二人を飛ばすと地面にガシヤコンソードを刺したのであった
ビルド「!!」

一体のビルドが避ける ほかの2体は氷漬けになったのだ

ブレイブ「あれが本物だ!!」

スナイプ「そういうことか!!」

そういつてガシヤコンマグナムを放つ

フィス「は!!」

ビートルアックスガンモードにして放つ

ビルド「おっと!!」

ビルドは忍法刀ではじかせるが、そこにブレイブが接近をする

ビルド「いい作戦ね」

ブレイブ「ありがとうございます」

ビルド「でも」

「火遁の術!!」

燃え盛る剣がブレイブを切る

ブレイブ「ぐあ!!」

「ハリネズミ!!消防車!!ベストマッチ!!」

ビルド「ビルドアツプ!!」

「レスキュー剣山 ファイヤーヘッジホッグ!!」

姿が変わったのであった

ブレイブ「また変わった!!」

ビルド「ふん!!」

右手のハリネズミの手から針が発生をして それを飛ばしてきたのだ

フィス「まずいまずい!!」

スナイプ「なら!!」

メダルをとった

「鋼鉄化!!」

ブレイブ「く!!」

ブレイブは高速のメダルをとり

「高速化!!」

素早く動くのであった

フィルス「落ち着け 愛!!リフレクトディフェンダーを使うんだ」

フィス「そうか!!」

そういつてフィルスをとり ボタンを押す

フィルス「リフレクトディフェンダー!!」

ブレイブ「は!!」

ビルド「おっと!!」

ビルドは左手のラダーで受け止めたのだ

ブレイブ「な!!」

ビルド「残念だけど これで終わりよ!!」

そういつて右手でレバーをまわしていく

「READY GO!! ボルトティックファイニッシュ!!」

するとライダーが伸びて ブレイブを殴り

ブレイブ「ぐ!!」

さらに上空へとび

ビルド「はああああああああああ!!」

回転をして針をたくさん放ったのだ

3人「きやああああああ!!」

3人は変身を解除されるのであった

ビルドも着地をして変身を解除をした

セレナ「ふう……いい汗を書いたわ」

真奈「つてこれ……完全に」

剣「八つ当たりですね……」

愛「きゅーーーーー」

セレナ「お疲れ様 でもあなたたちはまだまだ強くなるわよ……私や響ちゃんや……

奏さんのように」

そういつてセレナは去るのであった

セレナ「・・・・・・・・・・健介さん・・・・・・・・」

セレナはフルボトルを持ちながら思うのであった

司令室

翼「久しぶりだな セレナ」

セレナ「はい 翼さんも・・・・・・・・司令官がお似合いになってきましたよ」

翼「・・・・・・・・そうだな・・・・・・・・」

セレナ「まだ・・・・・・・・装着が・・・・・・・・」

翼「・・・・・・・・ああ・・・・・・・・」

セレナ「そうですか・・・・・・・・でもいつまでも逃げているのはだめですよ」

3人「・・・・・・・・・・」

セレナ「あの子たちが戦っている・・・・・・・・母親としてはつらいかもしれないわ・・・・・・・・

でもあなたたちが戦えない以上・・・・・・・・彼女たちが頑張るしかないのよ・・・・・・・・」

3人「・・・・・・・・・・」

セレナ「つらいかもしれないわ・・・・・・・・でも健介さんなら・・・・・・・・戦えなくなっても

娘を助けると思うわよ」

そういつてセレナは自分の部屋へ行くのであった

翼 「・・・・・・・・」
切歌 「・・・・・・・・」
調 「戦えなくても助ける・・・・・・・・か・・・・・・・・」
そういつて健介が思うことを考えるのであつた・・・・・・・・

復活の母親たち 親子のコンビネーション

ガルン「ここだな・・・奴らの発電所は・・・」

「は!!その通りであります!!」

ガルン「よしお前ら!!ここを徹底的に壊せ!!」

「おーーーーー」

SONG基地

「翼 司令!!」

翼「どうした!!」

「発電所に敵が!!」

翼「まずい・・・あの発電所は私たちの本部につながっているものだ・・・もし

破壊されたら」

愛「行こう!!」

そういつて三人は行くのであった

ライオトレイン「まっていたぞ!!さあ発電所まで直行だ!!」

そういつてライオトレインに乗り込み 変身をしたのだ

発電所

ガルン「いいぞ!!もつと暴れるんだ!!」

そういつて壊そうとしたとき

「ライオビーム!!」

ガルン達「どああああああああ!!」

ライオトレイン「発電所前に到着!!破壊する前だぜ!!」

フィス「よいしょ」

スナイプ「おっと」

ブレイブ「ふ」

三人のライダーが降りたのであった

ガルン「なるほど貴様たちが仮面ライダーか」

ブレイブ「この発電所は破壊させるわけにはいかない!!」

スナイプ「覚悟して!!」

フィス「いくよ!!」

そういつて三人のライダーは武器を構えるのであった

ガルン「やれ!!者ども!!」

「ほいーほいーほいーほいー!!」

大火炎軍団の戦闘員たちがこん棒をもって攻撃をしてきた

ブレイブ「これより 大火炎軍団と戦闘を開始!!」

スナイプ「さーて狙い撃つよ!!」

フィス「いきます!!」

スナイプはガシヤコンマグナムを連射をして戦闘員たちを近づけさせないようにしている

だがそれでも来るが

スナイプ「私 接近戦が苦手とは!!」

そういつて蹴飛ばした

スナイプ「いつてないよーっーだ!!」

ブレイブ「は!!」

ブレイブはガシヤコンソードをふるって切り裂いていく

ブレイブ「・・・・・・・・・・・・・・・・」

無言で構え・・・・・・・・

ブレイブ「であ!!」

回転切りをして戦闘員たちを倒していく

ブレイブ「・・・・・・・・伊達に防人の母上の剣技を見て育ってきた・・・・・・・・わけじやな

い!!」

そういつて次々に切っつけていく

ブレイブ「は!! 蒼ノ一閃!!」

エネルギー刃を飛ばす 本来はアマンノハバキリを装着をした技だが・・・私はこれをガシャコンソードでできるはずと試した結果できた・・・

ブレイブ「であああああああああ!!」

フェイス「よつと」

私は今敵の攻撃をかわしながら 右腰につけている フェイスガンを抜いて 相手に放つ

フェイス「それぞれ」

連続で放ち 相手を倒していく

フェイス「多いな・・・」

フェイス「そうだな 愛!!」

フェイス「モードチェンジだね!!」

フェイス「そうだな・・・」

フェイス「チェンジ!!」

フェイス「エレファントモード!!」

ゾウのエネルギーが纏い　フェイス　エレファントモードになった
フェイス「いくよ!!」

ファイルス「エレファントノーズ!!」

そういつてエレファントノーズが戦闘員を捕まえて

戦闘員「え?」

フェイス「それそれ!!」

そういつて振り回す

戦闘員「だああああああああああ!!」

戦闘員Aは目を回しながら言うのであった

フェイス「そこに整列!!」

戦闘員たちは並んで

フェイス「シユート!!」

投げ飛ばしたのであった

ファイルス「NICESTRIKEだ!!」

ガルン「馬鹿者!!何並んでいるんだ!!」

戦闘員「す・すみませんおやびん!!」

ガルン「全く情けない・・・今度は俺様が相手だ!!」

そういつてガルンは武器を持ち 立ちあがるのであった

フェイス「二人とも」

ブレイブ「わかつている」

スナイプ「油断はしないよ!!」

そういつて構え直すのであった

私はエレフアントソードアンドシールドに変えて 攻撃をする

ガルン「ふん!!」

ガルンはその持つている武器で受け止める

ガルン「か!!」

するとガルンの目が光り

フェイス「きやああああああ!!」

ブレイブ「愛!!」

スナイプ「この!!」

スナイプはガシヤコンマグナムを連射をして放つが

ガルン「そんなもの!!」

もっている武器を回転させて ガードをする

ブレイブ「はああああああああ!!」

ブレイブも攻撃をするが

ガルン「甘いわ!!小僧ども!!」

そういつてガルンは三人を吹き飛ばしたのであつた

三人「きゃああああああ!!」

SONG基地

翼「く……………」

翼は悔しいのだ…………自分の娘が戦っているのに…………自分は何をしているんだつて…………

「それでいいのか…………翼」

翼「え……………」

「翼さん?」

翼「今の声は……………」

「調 切歌もだ……………」

2人「!!」

三人はあたりを見る

「今 俺たちの娘が戦っているんだ…………お前たちが助けなくてどうするんだ……………」

翼「け…………健介さん……………」

調 「どこ……どこなの？」

切歌 「健介………」

「やられてしまう……娘たちが……それでいいのか!!」

翼 「……そんなこと………」

調 「できるわけないよ!!」

切歌 「真奈は……私の」

三人 「大事な娘だ!!」

そういつて三人は急いで向かうのであつた

サーガ 「待っていたぜ!!」

翼 「サーガ………」

サーガ 「乗りな!!翼……相棒!!」

翼 「ああ!!」

そういつて翼はサーガにまたがり

ドラゴン 「よう!!」

ドラゴン ジェッターが待っていたのだ

ドラゴン 「急ぐぜ!!」

そういつて二人を乗せるのであつた

調「待っていて……愛!!」

切歌「真奈……」

翼「剣……」

三人「今行くから!!」

そういつて三人はそれぞれの思いで向かったのであった
一方で

ガルン「おら!!」

フェイス「が!!」

ブレイブ「ぐ……」

スナイプ「が……」

ガルン「はああああああああああ!!」

三人「きやああああああ!!」

三人は変身が解除をされてしまったのだ

愛「あう……」

剣「こんなところで……」

真奈「うう……」

ガルン「なかなかやるが……俺の敵ではなかったな!!」

そういつてガルンは攻撃をしようとしたが

ドラゴン「おら!!」

ドラゴンジェッターの口から光弾が放たれたのだ

ガルン「ぐ!!何者だ!!」

するとバイクが止まった

剣「サーガ!?!」

そう母上が使っているサーガだ・・・でも誰が

翼「剣!!」

剣「母上!?!」

どうして母上たちが!!

ガルン「貴様ら・・・・・・・・」

愛「ダメ!!ママ!!」

真奈「そうだよ!!装着ができないのに!!」

調「だとしても・・・娘がピンチなのに・・・いつまでも閉じこもっているわけにはいかない!!」

切歌「そうデース!!健介がいたら・・・何て言われるかねw」

そういつて2人は笑っている

翼「そのとおりだ．．．．もう二度と．．．失うわけにはいかないのだ!!」
 そういつて三人はギアを持ち

三人「．．．．．」

聖書を唱えるのであった

翼「Imyuteus amenohabakiriron」

調「Various shu; shagana tron」

切歌「Zeious igalimaraizen tron」

するとペンダントがひかって彼女たちの体に装着されていく

アマノハバキリ シュルシヤガナ イガリマが今復活をしたのだ!!

愛「あれが．．．．お母さんのシャルシヤガナ．．．．」

剣「あれこそが．．．．母上の．．．．」

真奈「ママ．．．．．」

翼「立てるな 剣」

剣「もちろんです」

調「まだいけるでしょ？」

愛「うん!!」

切歌「さあ行くデース!!」

真奈「うんママ!!」

そういつて三人もゲーマードライバーを付けたら フィルスをかまう

愛「いくよ フィルス!!」

フィルス「了解だ!!」

剣「いきます!!」

真奈「いくよーーー!!」

フィルス「ライオトレインモード!!レディ!!」

ライオトレイン「俺の出番だな!!」

「タドルクエスト」

剣「第二剣術」

「バンバンシューティング!!」

真奈「第二シューティング!!」

三人「変身!!」

フィスはライオトレインが分離合体をした ライオトレインモードに

剣はブレイブ 真奈スナイプになったのだ

翼「さあ・・・反撃と行こうじゃないか!!」

そういつてギアの剣を構える

切歌「行くデース!! 久々ですけど!!」

そういつて鎌を構える

調「うん・・・でもいける!!」

ヨーヨーを構えるのであった

オーベル「調ーーーーおいらを忘れないでくれーーーー」

調「ごめんオーベル」

そういつてオーベルを構えるのであった

フェイス「いくよ!!」

そういつて六人はガルンに攻撃をする

ガルン「ふん!!」

ガルンは持つているのを攻撃をするが

翼「甘い!!」

翼はギアを大きくして受け止めた

翼「剣!!」

ブレイブ「はい!!」

ブレイブはガシヤコンソードで攻撃をする

ガルン「ぐ!!」

調「はああああああああああああ!!」

調はたくさんの鋸を放つ

フィス「は!!」

フィスはライオバズーカで攻撃をする

ガルン「ぬ!!」

スナイプ「ママ!! 行って!!」

切歌「任せるデース!!」

そういつて援護射撃をする スナイプ そして鎌をもった切歌が切りかかるので
あつた

切歌「であああああああああ!!」

鎌の攻撃がガルンを引かせる

ガルン「ぐ………先ほどよりも力があがっているだと………」

フィス「なんでだろう……お母さんと一緒に戦っているみたいだよ」

調「私もだよ まるで健介と一緒に戦っているみたいだよ」

そういつてお母さんが笑つたのを久々に見たかもしれない……

フィルス「バディ……さあ止めを刺そう!!」

全員「ええ!!」

ブレイブ「いくぞ!!」

スナイプ「うん!!」

「がしゃつと!!キメワザ!!タドル(バンバン)クリティカルストライク!!」

翼「はあああ……」

切歌「いくですよ!!」

調「これで!!」

フィス「フィルス!!」

フィルス「もちろん!!必殺!!ライオメテオトレインストライク!!」

光のレールが放たれて ガルンの動きを止める

ガルン「ぐお!!」

翼「でああああああああ!!」

切歌「デース!!」

調「ええい!!」

三人の武器がガルンを切り裂き

三人のライダー「だあああああああああ!!」

三人ライダーのトリプルキックがガルンに命中をするのであった

ガルン「お……お見事……」

そういつて爆散をするのであった

翼 「終わったみたいだな．．．．．」

ブレイブ 「母上．．．．．どうして装着が．．．．．」

翼 「．．．．．健介さんが声をかけてきたような気がしたんだ」

愛 「お父さんが．．．．．」

調 「うん．．．．．それでいいのか あなたたちが戦っているのに．．．．．ってね」

切歌 「だから私たちはここへ来ることができたし 再び相棒を装着ができるようにな

れたデース」

調 （健介．．．．．きつと会えるよね？）

つと思う 調たちであった

一方 S O N G 基地に向かう人物

「さーて久々に戻ってきたぜ 元気にしてっかな？」

「お母さん だまって帰ってきてよかったの？」

「いいだろう 翼たちを驚かせようとなw」

「はあ．．．．．奏お母さんはいつもそうなんだから．．．．．」

奏 「つたくいじやねーか 茜」

茜 「お父さんもよく お母さんと」

奏「おいおいひどいな・・・」

茜「さて久々に愛たちにも会えますから」

奏「それじゃあ行くとするかな」

そういつて歩くのであった

戻ってきた ガングニール奏者

さて翼たちがライオトレインが基地へ到着をしたのであった
ライオトレイン「SONG基地へ到着だぜ!!」

翼「皆 お疲れ様だ」

「よう 帰ってきたんだな」

翼「ん? 奏!!」

奏「久しぶりだな 翼」

翼「ああ奏も」

愛「奏お母さん!!」

奏「久しぶりだな 愛」

愛「茜は?」

茜「いますよ 愛」

愛「茜ーーーーー」

つとぎゆつと抱き付いたのであった

愛「皆さんもお久しぶりです でも皆さんどこへ?」

剣「ええー出動をしてみました」

奏「出動？」

真奈「そう発電所に敵が現れたので」

奏「だがどうして翼たちも……まさか？」

調「うん 装着ができるようになったの!!」

奏「そうか!!よかったじゃねーか!!」

響「それに マリアさん達も退院が決まりましたし」

奏「そうかあいつらも子どもを産んだもん……」

剣「そういえば茜も仮面ライダーになれるだったな？」

茜「ええ……」

そういつて出したのはディケイドドライバーを出したのであった

真奈「なるほどねw」

茜「そういうことです」

そういつてしまうのであった

響「そういえば未来 会ってないな……」

翼「一応 おじさまの本部部隊への転属となったからな……」

奏「そうだな……あたしらのようにフリーに動ける感じじゃないからな……あつ

ちは」

セレナ「そうだね」

奏「おうセレナ」

セレナ「お久しぶりです 奏さん」

奏「そうだったな お前はアガートラームを今はマリアの方に移植をして」

セレナ「今はビルドで戦っています」

奏「だったな……」

そうセレナのは ずっと前に起った戦いでマリアのが大破をしてしまい 修理が不能になってしまったのを セレナのをを使って マリアのにしたため セレナはギアをまとうことができなくなったのであった

そして今はビルドに変身をして戦うのであった

一方で大火炎軍団は

セレウス「そう ガルンがね」

フェニックス「まさかギア奏者がな……面白いぜ……さてセレウスどうするか」

セレウス「そうね……」

「フェニックス様」

フェニックス「お前は バルンスト」

バルンスト「仮面ライダー抹殺任務 このわたくし目にお与えください」
フェニックス「バルンスト わかった!!お前に仮面ライダー抹殺任務を授ける!!」
バルンスト「必ずや フェニックス様とセレウス様に仮面ライダー抹殺任務成功の結
果を報告します」

そういつて消えるのであった

さて一方で

翼「ふう……………」

響「翼さん なにせ久しぶりに装着をしましたからね」

翼「ああ……………これほどなまっているとは……………自分が情けないさ……………」

奏「しようがないさ あの二人もそうだが……………お前もあいつの近くにいたから……………」

翼「わかつているさ……………」

茜「それじゃ始めましょうか」

そういつてライドブツカーからカードを出して

茜「変身!!」

「カメンライド デイケイド!!」

すると茜の姿が変わり 仮面ライダーデイケイドになった

ブレイブ「なら私が相手をする」

そういつてガシヤコンソードを構える

デイケイド「では始めましょう」

ライドブツカーソードモードにして構える

ブレイブ「はああああああ!!」

ブレイブは接近をしてガシヤコンソードをふるった

デイケイド「おっと」

デイケイドはライドブツカーでうけとめて お互いに引けない

ブレイブ「であ!!」

デイケイド「やるわね ならデイケイドの力見せてあげる」

そういつてカードを出す

デイケイド「変身!!」

「カメンライド ブレイド」

すると姿がベルト以外が仮面ライダーブレイドになったのだ

ブレイブ「変わった?」

デイケイド「姿が変わっただけだと思わないことよ!!」

そういつて接近をして ブレイラウザーをふるった

ブレイブ「なら!!」

そういつて下がりながらメダルをとる

「高速化!!」

ブレイブ「は!!」

デイクライド「ぐ!!」

デイクライドブレイドは高速したブレイブの攻撃を受けてしまう

デイクライド「なら!!」

「アタックライドメタル」

するとデイクライドブレイドの体が鋼鉄化になった

ブレイブ「が!!」

攻撃をしようとしたブレイブは固くなった攻撃にはじかれた

「アタックライド スラッシュ」

デイクライド「であ!!」

威力が上がった斬撃が ブレイブのボディを切る

ブレイブ「きゃああああああ!!」

ブレイブは攻撃を受けて下がる

ブレイブ「なら 第三剣術」

「ドレミファビート!!」

「がちゃんレベルアップ!!ドドドレミファソラシド オツケドレミファビート」

そういつてビートクエストゲームレベル3になった

ブレイブ「は!!」

ブレイブは右手のDJが使うようにして 踊るように動いたのであった

デイケイド「な!!」

デイケイドブレイドは剣で攻撃をしたが交わされて さらにリズムにのってガシヤ

コンソードで攻撃をしてきたのだ

デイケイド「なら 変身!!」

「カメンライド 響鬼」

姿が仮面ライダー響鬼になった

「アタックライド 音激棒 烈火」

そういつて烈火を装備して

デイケイド「は!!」

烈火弾を飛ばす

ブレイブ「く!!」

ブレイブも音符爆弾で反撃をするのであった

「ファイナルアタックライド ヒヒヒビビキ!!」

デイケイド「であ!!」

びたつと音激鼓をつけて

デイケイド「爆裂強打の型!!」

そういつて思いつき叩いたのだ

ブレイブ「ぐうううう!!」

吹き飛ばされたのであつた

デイケイド「今回は私の勝ちですな」

ブレイブ「今度は負けない!!」

そういつてお互いに握手をするのであつた

一方で

フェイス「うわ!!」

スナイプ「う．．．．．」

2人は今 母親と戦っていたが

スナイプは切歌の鎌が首のところ

フェイスも調の鋸をうけかかっているのだ

調「ふう．．．．．久々に動いたから．．．．．」

切歌「疲れたデース」

2人「お母さんに負ける私たちって……」
そういつて落ち込むのであった

ビルド「まあ調たちも鍛錬だけはしていたし……ねえ」
そういつてビルドことセレナは苦笑いをするのであった

一方で病院

響「お待たせしました マリアさん クリスちゃん!!」

クリス「おう 響!!」

響「これが……」

クリス「おう 優子だ」

マリア「私のは歌奈よ」

響「よろしくね 優子ちゃん 歌奈ちゃん!!」

ライオトレイン「おい そろそろ出るぞ」

3人「安全運転でね」

ライオトレイン「まかせろって!!」

そういつてライオトレインで乗って帰るのであった

相手の困惑

バルンスト「ここが奴らがいる場所か……」

バルンストは街並みをみているのであった

バルンスト「ふっふっふセレウス様のためにも 出て来い!! 仮面ライダー!!」

そういつて街を破壊するのであった

バルンスト「出てこなければ貴様の愛したこの街を破壊をするぞ!!」

つと戦闘員たちを出すのであった

奏「おいおい」

愛「行こう!!」

そういつて仮面ライダーたちは出動をするのであった

セレナ（みようだわ……何か怪しいわ……）

そういつてセレナは出るのであった

ライオトレインが停車をしたのであった

フィス「やめなさい!!」

そういつて降りる

バルンスト「来たな!! 仮面ライダー……っ。って一人増えているし!!」
デイクイド「ん? ……あたしか」

バルンスト「おのれ 新たな仮面ライダーか!!」

デイクイド「仮面ライダーデイクイドよ」

バルンスト「おのれ……増えようとも俺は変わりないわ!!」

そういつて構えるのであった

バルンスト「俺は大火炎軍団のバルンスト いざ参る!!」

そういつてバルンストは構えている斧をふるうのであった

ブレイブ「参る!!」

スナイプ「いくよー……!!」

デイクイド「やるさ」

フェイス「いくよ!!」

そういつて全員が戦闘を開始したのであった

フェニックス「やっているな……」

そういつてフェニックスは上から見ている

フェニックス「さーて俺も仕事を」

「急行!!」

フェニックス「!!」

すると電車型のエネルギーが飛ぶのであった

そこには海賊ハッシャーを構えるセレナの姿があったのだ

フェニックス「ほう これはセレナ・カデンツァ・ヴナ・イヴさん……」

セレナ「私の名前を知っているとみると……」

フェニックス「いかにも俺はバーニングフェニックス 幹部だ」

セレナ「なるほど なら」

そういつてビルドドライバーをセットをして フルボトルを振った

「ウルフ!!掃除機!!A-Y-O-U-L-A-D-Y」

セレナ「変身!!」

トライアルフォーム ウルフ掃除機になったのだ

フェニックス「ほう……」

ビルド「は!!」

右手のウルフクローで攻撃をする

フェニックス「ぐ!!」

フェニックスは大剣をふるった

フェニックス「くらえ!!」

フェニックスは炎の弾を飛ばすが

ビルド「そーれ」

掃除機で炎の弾を吸い込むのであつた

ビルド「は!!」

さらに接近をしてウルフクローで攻撃をする

フェニックス「く!!やるな」

そういつて大剣で攻撃をする

ビルド「なら!!」

「フェニックス ロボ ベストマッチ!!」

ビルド「ビルドアッブ!!」

「不死身の兵器 フェニックスロボ イエーイ」

ビルド「であ!!」

翼を開いて 空を飛び攻撃をする

フェニックス「おっと!!」

そういつてフェニックスも翼を開いて 攻撃をするのであつた

一方で

デイケイド「は!!」

スナイプ「であ!!」

2人はガンモードとガシヤコンマグナムを放つ

バルンスト「ふん!!」

バルンストは盾でガードをする

ブレイブ「は!!」

フィス「であああああああああ!!」

バルンスト「は!!」

光弾を飛ばした

2人「うあ!!」

デイケイド「大丈夫?」

フィス「なんとか」

ブレイブ「ならば!!」

スナイプ「ええ!!」

「ドラゴナイトハンターZ!!」

ブレイブ「第五剣術」

スナイプ「第五シューティング」

「ガチャンレベルアップ!!ドドドラゴナナナイト ドラ ドラ ドラゴナイトハンター

Z!!」

そういって2人はフルドラゴンになった

バルンスト「ほほー面白いパワーアップか」

そういってバルンストは構えるのであった

ブレイブ「参る!!」

スナイプ「は!!」

スナイプはドラゴレールガンで攻撃をする

デイケイド「変身!!」

「カメンライド ゴースト!!」

デイケイドゴーストオレ魂になった

フィス「よーし!!チェンジ」

フィルス「ライノスモード!!」

そういって変わるのであった

バルンスト「いくぞ!!」

そういって攻撃をする

デイケイド「は!!」

デイケイドはガンガンセイバーでガードをして

フェイス「ライノスタツクル!!」

そういつて突撃をしたのであつた

バルンスト「おっと」

フェニツクス「どああああああああ!!」

バルンスト「フェニツクス様!？」

ビルド「大丈夫!!」

そういつてビルドも降りてきた

フェニツクス「いたたたた・・・油断をした」

バルンスト「どうしますか!!」

フェニツクス「仕方がない また会おうか 仮面ライダーたち」

そういつて炎を出して消えたのであつた

フェイス「消えた・・・」

そういつてフェイスたちも撤退をしたのであつた

双子の攻撃!!ブレイブ スナイプ レベル50へ

「ここはセレウスの基地内の和式……」

「……」

「お頭!!」

「どうしました、夜叉丸に夜切丸」

夜切丸「お頭 我々武士部隊はいつ出れるのですか!!」

「……」

夜叉丸「弟の言う通りです!!我々武士部隊も……」

「……」

すると彼は立ちあがる

「セレウス様のところへ行きます」

2人「お供します!!」

そういつて彼は立ちあがり セレウスがいる間の扉を開けるのであった

セレウス「ん?これはミスター武者……あなたがここへ来るとはどういう要件です

か?」

武者「セレウス様　どうか我々にも仮面ライダー討伐の命を与えてください」

セレウス「あなたがそんなことを言うとは……思ってもなかったですよ」

武者「申し訳ございません……ですが　部下たちも出撃出撃を待っているのです
が……」

セレウス「そうでしたね……ごめんなさい　では今回は武者　あなたに任せます」

武者「は!!い　でよ　夜叉丸　夜切丸!!」

2人「は!!」

武者「おぬしたちに　仮面ライダー討伐任務を授ける」

2人「ありがたき幸せでございます!!」

SONG基地

真奈「……バンバンシユミレーション」

剣「タドルファンタジー……」

そういつてガシャットギアデュアルβを見ている

2人はさらにレベルを上げようとするが……ドラゴナイトハンターZでもあの
状態になる……それをしかも50とくる……

真奈「……」

剣「……」

すると警報が鳴る!!

2人「!!」

愛「二人とも!!」

茜「出撃だ!!」

そういつて四人は出撃をするのであった

響「・・・・・・・・・・・・・・・・」

「ママ・・・・・・・・・・・・・・・・」

響「花菜?」

「ごめん 響 連れて来ちゃった」

響「未来・・・・・・・・でもどうして」

花菜「ママ・・・・・・・・私も戦いたい・・・・・・・・」

響「まだだめ・・・・・・・・花菜はまだ15歳・・・・・・・・」

花菜「でも!!愛お姉ちゃんたちが戦っているのに!!私だつて仮面ライダーになれるの
に!!」

響「花菜・・・・・・・・」

確かに 花菜は戦うことができる・・・・・・・・仮面ライダーゴーストとして・・・・・・・・でも私
は娘を自分のように戦わしたくない・・・・・・・・もしかしてお母さんたちもこんな気持

ちだったのかな……

「おいおいお嬢ちゃんが戦っているのに娘さんが戦わないなんてことはないだろ？」

響「ムサシ？」

そういつてアイコンが出てきたのだ 花菜は15のアイコンを持っている

エジソン「それに私たちがついていきますし……問題ないですよ さらに言えばレジエ

ンドアイコンも手伝ってくれまーす」

響「……………」

響は考えるのであった……………」

響「わかった……………」でも無理だけはしないでね」

花菜「うん!! ありがとうママ!!」

セレナ「……………」

「お母さん？」

セレナ「どうしたの 紗夜」

紗代「……………」うん何でもないよ」

セレナ「あなたも出たいのでしょ？」

紗代「!!」

セレナ「愛たちと一緒に生まれたあなただからわかるでしょ？」

紗代「……………」

セレナ「マリア姉さんやクリスさんが優子 歌奈を産んだからね あなたも仮面ライ
ダーとして戦いたいのでしょ？」

紗代「……………うん 私だって……………お父さんの子だもん……………」

そういつてベルトを付ける……………そのベルトは
セレナ「……………」

フォーゼドライバーをつける娘を見るのであった

セレナ「行つてきなさい あの子たちと共に」

紗代「うん!!」

そういつてスイッチを入れる

「3 2 1」

紗代「変身!!」

フォーゼ「しゃ!!宇宙きたー……………!!」

そういつて右手のスイッチを押す

「ロケット ON」

右手が変わり ロケットが発生をして出動をしたのであった

一方で愛たちはその出現する場所へ向かっていると 敵が現れるのであった

デイケイド「アンタたちが」

夜叉丸「いかにも!!我らは武者軍団の一人 夜叉丸」

夜切丸「同じく夜切丸!!」

2人「お前たちの命もらい受ける!!」

ブレイブ「・・・・・・・・・・」

スナイプ「・・・・・・・・・・」

すると二人が前に立つ

フェイス「剣?真奈?」

ブレイブ「ここは・・・・・・・・・・」

スナイプ「私たちに任せて!!」

そういつてガシャットギアデュアルβを出して

「タドルファンタジー」

「バンバンシュミレーション!!」

ブレイブ「第50 剣術」

スナイプ「第50 シューティング!!」

「!!デュアルガシャット!!ガチャン!!デュアルアップ!!」

「タドルメグルアールピジー タドルファンタジー」

「スクランブルだー出撃 発進 バンバンシュミレーション!!発進!!」

そういつてブレイブは タドルファンタジー スナイプはバンバンシュミレーションを装着したのであつた

2人「ぐ……」

フィス「二人とも!!」

デイケイド「待つて」

フィス「茜……」

ブレイブ「負けない……」

スナイプ「こんなものに……」

2人「負けてたまるか……!!」

2人「どあ!!」

ブレイブ「……力がみなぎる!!」

スナイプ「これなら!!」

夜叉丸「おのれ……」

夜切丸「兄者!!」

夜叉丸「やるぞ!!」

「ちよつと待つた……」

「待ってください!!」

6人「!!」

花菜「変身!!」

「開眼 オレ!!レッツツゴウ覚悟 ゴゴゴゴースト!!」

仮面ライダーゴーストになった

フオーゼ「しゃ!!宇宙きたー!!!!!!」

フェイス「紗代 花菜ちゃん!？」

フオーゼ「おうさ!!仮面ライダーフオーゼ!!」

ゴースト「私も戦います!!」

そういつて構えるのであった

夜叉丸「おのれ!!」

夜切丸「仮面ライダーが増えたとしても!!」

フェイス「さあやろう!!」

時空発生装置

夜叉丸「くらえ!!」

夜叉丸は手裏剣を投げて 攻撃をしてきた

フィス「は!!」

フィスは腕のライオンクロウを展開をして

フィス「ふふふ」

それを受け止めたのだ

ブレイブ「は!!」

フォーゼ「ライダーロケットパンチ!!」

ブレイブはガシャコンソードをフォーゼはロケットパンチを放つのであった

夜叉丸「どああああ!!」

夜叉丸は吹き飛ばされる

夜切丸「であああああああ!!」

ゴースト「く!!」

ゴーストはガンガンセイバーで受け止めるが 夜切丸の剣に押されている

デイケイド「は!!」

デイケイドも参戦をするが 夜切丸は剣で受け止めて さばいていく

スナイプ「私に任せて!!」

するとスナイプから搭載機が発進された

夜切丸「なんだ!!」

夜切丸は剣で落としていくが たくさんだしているスナイプの搭載機に苦戦をしてる

スナイプ「それ!!」

そして砲撃ユニットで攻撃をする

夜切丸「どあ!!」

夜叉丸「夜切丸!!」

そういつて同時に手裏剣を投げるが

ゴースト「ニュートン!!」

「開眼!! ニュートン!! リンゴが落下 引き寄せまっか!!」

ゴースト「えい!!」

右手の斥力で手裏剣を返したのであつた

2人「どあああああああ!!」

フェイス「ファイルス!!」

ファイルス「うむ!!ウルフモード!!」

フェイス「チェンジ!!」

ウルフモードになり

フェイス「ウルフカッター!!」

右足についている オオカミのしっぽのカッターが飛ぶ

ファイルス「必殺!!ウルフカッターブレイク!!」

そして戻ってきたウルフカッターを両手でつかんでさらにエネルギーをためて
投げつけていく

するとウルフカッターが分裂をして 二人を切り裂いていく

2人「どああああああああ!!」

ブレイブ「これで!!」

スナイプ「終わりよ!!」

「キメワザ!!タドルクリティカルスラッシュ!!」

「キメワザ!!バンバンクリティカルファイア!!」

「ファイナルアタックライド デイデイデイケイド!!」

「ダイカイガン!!オレ!!オメガドライブ!!」

「ロケット ドリル リミットブレイク!!」

五人「はああああああああああ!!」

五人は一気に飛び そのまま蹴りをくらわせたのであった

夜叉丸「弟!!」

夜切丸「兄上!!」

2人「御屋形様——もうしわけございません!!」

そういつて爆散をしたのであった

基地

武者「む・・・・・・・・・・・・・・・・」

そして巻物開いて

武者「・・・・・・・・夜切丸 夜叉丸・・・・・・・・ご苦労であった・・・・・・・・安らかに眠るがい

い・・・・・・・・」

そういつて巻物に習字の筆で夜切丸たちの名前に線を引くのであった

武者「どうやら・・・・・・・・彼らの力を侮っていたようですね・・・・・・・・」

「御屋形様!!」

武者「怒涛丸・・・・・・・・」

怒涛丸「お願いです!!俺に出撃を!!」

武者「いいえ……どうやらセレウス様がしばらく我々は待機をするようですよ」
怒涛丸「どういうことですか!!」

一方でフェニックスは

フェニックス「セレウス様 完成をしました 時空発生装置でございます!!」

セレウス「うふふふ 楽しみね……さてフェニックス それを起動したら撤退をして 私たちは様子をうかがうわよ」

フェニックス「は!!」

そういつて通信を切り

フェニックス「よしさつそくスイッチを入れる」

「は!!」

スイッチが入り 機械が起動をする

フェニックス「よし撤収だ」

「よろしいのですか?」

フェニックス「ああ……今はな……さてどうなるか仮面ライダー……阻
止できるかな?」

そういつてフェニックスは燃えるように戻るのであった

一方 S O N G では

「大変です!!翼司令!!」

翼「どうした!!」

「大きなエネルギーを感じ!!」

翼「エネルギーだ!!」

そういつて翼は指示をする

翼「総員!!戦闘態勢をとれ!!奏者及び仮面ライダーたちは大至急集合だ!!」

そういつて集結をさせるのであった

剣「母上 どうしたのですか!!」

翼「ああ・・・突然だが高エネルギーが発生したのだ・・・」

クリス「あれかよ・・・」

そういつて画面が出ていると 何かがちちらへ接近をしている・・・いや大きな何

かだ

翼「うむ・・・マリアと雪音は待機だ」

2人「え!?!」

セレナ「そうだよ姉さん 子どもがまだ小さいのに・・・それに姉さんたちは復帰は

まだ・・・」

奏「そういつこつたあたしたちにまかせな」

マリア「皆・・・・・・・・」

クリス「悪いな・・・・・・・・」

未来「基地は私が守ります!!」

翼「よし出動をする!!」

そういつて出動をするのであった

登場人物

相田 愛

健介と調の子どもで 性格は母親みたいにじーっとみたりせず 明るく接している
普段は元気にふるまっているが 夜になると父がいない悲しみに覆われて泣くことがある……

子どもが大火炎軍団のクモ男に襲われているのを見て ほっとけない!!の思いを
ファイルに伝えて ファイルスをつかって新たな仮面ライダーフィスへと変身をする
ファイルス

スマホ型のAIを搭載されている フィスサポートシステムである
相棒である健介を救えなかったため 娘である愛に仮面ライダーシステムを使わせな
い決意をしていたが・・・彼女の目を見て 健介と似ているのとその決意に負け 彼女
を新たな仮面ライダーフィスへと変身させる

なれない彼女のためにアドバイスをしたりしているのであった
相田 調

元月読 調である 健介の奥さんとなり 愛を産む……

かつて 健介たちと一緒にある遺跡を調査をしているとき 自分がいたのに健介が消えてしまったことで ショックを受けてしまい シャルシヤガナを装着ができなくなってしまう……

だが娘たちが戦っているのに自分たちが戦わないのと健介の声を聴いて 再びシャルシヤガナを装着する決意をして 愛と一緒に戦うのであった

相田 真奈

健介と切歌の娘であり 健介のことをパパ 切歌のことをママと呼んでいる

ゲームードライバーを使って仮面ライダースナイプに変身をし ガシヤコンマグナムを使った攻撃や 足蹴りで接近攻撃をしたりする

性格は母親同様に明るく デースとかおよよとか言わないのである

常識は母親よりはあるのであった

変身時は「第二シユューティング」である

相田 切歌

元 暁 切歌で 真奈のおかあさんである 調同様に彼女もイガリマを装着をすることができなかつたが……

健介の声や娘たちの戦う姿をみて 復活をしたのであった

イガリマ装着後も娘との模擬戦で勝つなどかつての力を残しているのであった

相田 剣

健介と翼の子どもで 母親同様剣を使った攻撃が得意で 蒼ノ一閃などの技をガシャコンソードで再現するほどである

名前の剣だが 翼がつけたので 最初は健介はこの名前はなっと なったが 上目遣いされたので 結局この名前になったのであった

性格は母親同様な性格だが 翼とは違い 家事は得意である

ゲーマードライバーを装着をして 仮面ライダーブレイブに変身をする

変身時は「第二剣術」である

相田 翼

元 風鳴 翼であり 剣のお母さん

現在はSONG基地を弦十郎から受け継いで 司令官になっている かつての調査で健介を失った悲しみで アマノハバキリを装着ができないほどになっていたのだ……

だが調 切歌と同様に復活をし 司令官兼アマノハバキリの奏者として復活をしたのであった

相棒のバイク サーガと合体をすることで アーマーモードになる

相田 茜

健介と奏の子どもで 母親と一緒にしばらくは旅をしていた 愛 真奈 剣 茜
紗代は同い年で 仮面ライダーになったのは茜が先で先輩ライダーになる
性格は母親に対してツツコミをする担当である でも優しい性格で 仲間思いであ
る

変身ライダーはデイクイドである

相田 奏

元 天羽 奏で ガングニール奏者である 彼女は翼たちとは違い 健介のそばに
いなかった・・・が悲しいのは事実であった・・・

ガングニール奏者として先輩として娘たちと共に戦っているのであった
槍を使った攻撃が得意である

相田 紗代

健介とセレナの娘であり 仮面ライダーフォーゼに変身をする

性格はセレナ同様に大人しいが 戦いの決意をしたときにフォーゼドライバーを付
けてセレナの前に現れたのであった

そして仮面ライダーフォーゼとなり 愛たちに合流をするのであった

相田 セレナ

元 セレナ・カデンツアヴナ・イヴである

現在 アガートラームはかつての戦いでマリアのが破損をしてしまい それをセレナが譲ったので 現在は健介が作ったビルドドライバーを使って 仮面ライダービルドに変身をする

戦っていたのが長かったのもあり フイス ブレイブ スナイプ相手に一人で勝つほどの実力を持ち

フェニックスとの一騎打ちでも苦戦をしないほどである

ビルド変身時は 「さあ実験を始めましょう」である

相田 花菜

健介と響の娘で 愛たちよりは3歳下である

仮面ライダーゴーストに変身をして戦う

愛たちが戦っているのに自分だけ戦わせてくれない 母 響に自分も戦いたい!!守りたい!!という思いを伝える

そして合流をしてゴーストに変身をするのであった

相田 響

元立花 響で ガングニール奏者である 髪も長くなっており 戦うときはポニーテールにしている

花菜を戦わせないために自分が自ら立って 相棒であるコーベルトと合体をした

モードで戦ってきたのであったが 娘の思いを聞いて決意をして彼女を戦闘へ立たせるのであった

コーベルト

健介が作った 響専用アーマー ステルスシステムを搭載しており 普段は姿を消している

響が家事に苦戦をしているときにも手伝ったりしている

響に 腕部 脚部 胸部 背部 頭部へ合体をして パワーアップさせる

相田 優子

健介とクリスの子ども 生まれたばかりである

相田 クリス

元 雪音 クリスである 現在は産休をしており イチイバルを装着をしてない

言葉も今は男言葉を使わないようにしている・・・それは子どもに自分が使っている言葉を覚えさせたくないのと 自分は親が死んでしまったから愛情を伝えることができなかつたため 自分が娘の愛情を伝えようと決意である

相田 歌奈

健介とマリアの子ども まだ赤ちゃんである

相田 マリア

元マリア・カデンツァヴァナ・イヴであり 元歌手 アガートラームの奏者であるが
現在は歌奈を育てるために 産休をしているのであった

相田 未来

現在は弦十郎の総司令官で本部の方へと移籍をしているが 現在はSONG基地へ
戻っており 花菜の面倒を見たりしている 神獣鏡である

仮面ライダー

今作で登場をしている レジエンドライダーたちは健介が作ったものであり 残し
ておいたものだ

仮面ライダー フォース

ご存知健介が変身をしていたものであり 愛がフィルスをつかって変身をする
モードは前作同様

ライオン イーグル ビートル シャーク ゴリラ トータス ラビット ドラゴ
ン ライノス エレファント クラブ スコーピオン ウルフ クロコダイル カメ
レオン オクトパス ライオトレイン フェニックス

エレメントスタイルやライトニングドラグユニコーン シャイニングモード ダ
クネスモード ダークネスシャイニングモード シンフォギアモードなど

そしてレジエンドライダーでクウガからビルドまで変身が可能である

さらに祥平からもらった轟天霸王フォームがある

仮面ライダーブレイド

相田 剣がゲーマードライバーをつかって変身をした姿 ガシヤットはタドルクエ
スト ドレミファビート ドラゴナイトハンターZ ガシヤットギアデュアルβ タ
ドルレガシーである

仮面ライダースナイプ

相田 真奈がゲーマードライバーを使って変身をした姿 ガシヤットはバンバン
シューティング ジェットコンバット ドラゴナイトハンターZ ガシヤットギア
デュアルβである

仮面ライダーディケイド

相田 茜が変身をした姿 カメンライドは昭和から平成である
アタックライドは本編で使わなかったものも使用をする

仮面ライダーゴースト

相田 花菜が変身をする ゴーストドライバーで変身をする アイコンは本編で登
場をした 15のアイコンに レジエンドアイコンなどをしようする グレイトフル
やムゲンにもなれる

仮面ライダーフォーゼ

相田 紗代が変身をした姿 コズミックエナジーを使って変身をする スイッチは全種類を使え さらにレジェンドスイッチにS-1にランチャーステイツ用にスイッチもある

さらにフュージョンスイッチでメテオステイツやメテオなでしこステイツになる
仮面ライダービルド

セレナが変身をする 本編みたいにネビュラガスを使用しないため 誰でも変身ができるが セレナ専用になっている フルボトルは本編で登場をしていくうちに増えて行く予定

仮面ライダーフィスの設定

仮面ライダーフィス

変身の仕方

スマホ型の変身システム フィルスをかまひ 仮面ライダーモードが起動をさせる
そしてフィスドライバーが発生をする 動物アイコンか仮面ライダーのアイコンを
おして

「変身!!」といい フィスドライバーにフィルスをセットをする

そしてそのアイコンのエネルギーが発生をして 仮面ライダーフィスへと変える
次にモードを紹介をする

ライオンモード

仮面ライダーフィスの基本形態でもあり ライオンの力をモチーフしたモード
腕部にはライオンクロウを展開をする バランスがとれた姿をしているのである
武器はライオンソードが武器である 最初に変身される形態でもある

イーグルモード

鳥の力を解放した姿のフィス 背中にはイーグルウイングと呼ばれる翼を持ち 空

を飛ぶことができるフオーム

武器は イーグルライフルで モードチェンジをして ガトリングモード さらに後ろ部分にはフィスガンを連結をして イーグルバスターモードになることで威力があがるのである

ビートルモード

カブトムシの力を解放したフィス 角のビートルホーンは伸ばすことで貫く角になり さらに雷エネルギーをためることで ビートルサンダーと呼ばれる技を使用することができる

武器はビートルアックスで 持ち手を変えることでガンモードにすることができる
シャークモード

鯨の力を解放させた フィス 背中のマントは相手の攻撃をふさいだりできるもので

さらにノコギリザメヘッド ハンマーヘッドと呼ばれるパーツを両手に装着をすることが可能である

武器はシャークセイバー 長刀である

ドラゴンモード この形態だけは ドラゴンジェットターが分離合体をして装着される姿で ドラゴンウイングにドラゴンテイル 胸部にはドラゴンヘッドなどが装着さ

れる

形態としては強いが制御が難しいのが欠点だが 愛はそれを健介同様に使いこなしているのであった

武器はドラゴンソードとシールドである

ゴリラモード

ゴリラの力を解放した姿で 両手にはゴリラナックルと呼ばれる ナックルユニットが装備されており それをロケットパンチとしてはなったりできる

武器はゴリラハンマー なおゴリラナックルは必殺技を使うと復元されて戻る

トータスモード

かめの力を解放させた フィス この形態はどの形態よりも防御が強いモードだ

左手に装備されているトータスシールドは飛ばしてトータスブーメランとして投げつけることができ そのシールドには強力な線が装着をされているため 戻したりできるようになってい

ラビットモード

兎の力で ラビットダッシュをして高速移動 ラビットジャンプですごく高く飛ぶことができるモードだ

武器はラビットアロー

オクトパスモード

かつては仮面ライダーガーマスが使用していたモードをフィスがインストールで使用可能にしたモードだ

背中からタコの足が八本でてきて オラオラオララッシュをすることが可能

武器はオクトパスランチャーで砲撃だけじゃなく ビームを放つことが可能である

スコープオンモード

サソリの力を解放させた フィス かつてはこれを使った悪事をしようとした敵のモードを奪った形態だ

しっぽにはさそりのしっぽが生えており それが伸びて相手を刺したりして毒を入れたり 逆にそれを味方から毒をとったりすることができる

武器はスコープオンランサー

シンフォギアモード

本来は形態としてなかった姿……奇跡の力と呼ばれている

シンフォギア奏者の力を使用することができ なったときは響のガングニールモードになるが アマノハバキリやイチイバルモードになることでその武器が使用可能になるのであった

シンフォギアモードエクストライブモード

シンフォギアモードがさらにパワーアップをした形態でエクストライブモードになるモードだ この形態になるためにはみんなの思いが一つになったときになれるためふだんからなれるってわけではない………

ライオトレインモード

ライオンモードのパワーアップ形態といえいいだろう ライオトレインが分離合体をしてなる形態

武器もライオンクロウなどの威力が上がっており、ライオビームを使用することができるライオンモードよりも強力になっている

武器はライオバズーカにライオソード ライオバズーカにライオソードをセットをすることで砲身が伸びるのであった

フェニックスモード

不死鳥の力を解放した姿 イーグルモードよりも高速で飛ぶことができ 背中の中から炎の弾が放たれる

武器はフェニックスライフル×2は連結してロングライフルモード さらに手の甲からフェニックスソードと呼ばれるビームソードが展開される

ライノスモード

サイのちからを解放した姿 ライノスタックルという技を使用することができる

武器はライノスドリルにライノスブレード

エレファントモード

ゾウの力を解放した姿 足を大きくして地面に叩くことで相手の動きを止めたりできる

武装も豊富で エレファントソード&シールド エレファントハンマー エレファントノーズである

クラブモード

カニの力を解放した姿 頭部の口部からバブル光線と呼ばれる 泡を放ち爆発させる

武装はクラブシザース クラブシールドである

カメレオンモード

カメレオンの力を解放した姿 カメレオン同様に保護色をすることで消えることができる 忍びモードでもある

左手の装甲を展開してそこから舌を出して相手を絡ませたり することができる

武器はカメレオンレイピア

ウルフモード

狼の力を解放させた姿 ウルフクローやウルフキックなど接近特化型になっている

のであった

武器は尻尾のウルフカッターであり、それを飛ばして腕に装着をして切りつけたり、持って攻撃をしたりできる

クロコダイルモード

クロコダイルの力を解放させたすがた。パワーが特化されており、蹴りでクロコダイルの口のエネルギーで蹴りを入れたいする

武器は右手にクロコダイルヘッドは相手をつかんでかみついたりする。左手にはクロコダイルテイルを装着をして、相手を薙ぎ払う

シャイニングモード

シャイニングエッジという剣を手にしたとき、なったモードで、光の魔法を使った攻撃をしたりするモードで、背中では光の翼を持っている

ダークネスモード

かつて倒したダークネスが自らの力をフィスにインストールした姿であった

ダークネスが使っている、槍と盾を装備しており、シャイニングの逆で黒く、背中の羽も黒いのであった

シャイニングダークネス

シャイニングモードとダークネスモードを一つにした姿、右側がシャイニングの白

左側がダークネスの黒になっている

武器もシャイニング ダークネスの武器を使用することができる

ライトニングドラグユニコーンモード

フィス最強の形態で 一度ドラゴンモードになり それがさらに光って ユニコーンが現れて 装着されてパワーアップをした姿!!

今までのフィスの姿の超えるチカラを持っているのであった

ケンタウルス形態などもとることができるモードでもある

武器もユニコーンジャベリンとドラグーンセイバーと強力な武器を持っている

エレメントスタイル

フィスがエレメントアタッチメントをフィスドライバーにセットをしたモード

フィルスは右腰の方へ移されて 変わる姿であった

この姿のフィスは火 水 風 土 雷などの属性攻撃をフィルスを使わなくても使用できるモードである

武器はエレメントバスターであり さらにフィスの武器を全部使用でき ウルフカッターやライオソードなどもしようができるのであった

仮面ライダーモード

これは平成ライダーたちの力を使用ができ 姿はベルトのフィルス以外はその仮面

ライダーの姿になることができる

クウガモード

仮面ライダークウガの力を解放させた姿 フォームチェンジボタンでマイティドラゴン ペガサス タイタン ライジング アルティメットの姿になることができる
アギトモード

仮面ライダーアギトの力を解放させた姿 フォームチェンジでフレイム ストーム トリニティー バーニング シャイニングになることができる バイクモードを押すとバイクがドラゴンジェットターがアギトのバイクに変わる

龍騎モード

仮面ライダー龍騎の姿になることができる ミラーワールドにはいつて鏡から攻撃をしたりすることができる 武器アイコンでドラグセイバー ドラグシールド ドラグクローを装着ができる フォームチェンジでサバイブになる

ファイズモード

仮面ライダーファイズの姿になる バイクモードを押すことでドラゴンジェットターがオートバジンになる 武器アイコンでフォンブラスター ファイズエッジ ファイズショット ファイズポインターを出すことができる

フォームチェンジでアクセル ブラスターになる

ブレイドモード

仮面ライダーブレイドの姿になる 武器アイコンでブレイラウザーを出したり アイコンでラウズカードを使うことができる

フォームチェンジでジャック キングになる

響鬼モード

仮面ライダー響鬼の姿になる 音激棒烈火を武器に必殺技を放つこともできる

フォームチェンジで紅 装甲になる

カブトモード

仮面ライダーカブトの姿になった姿 武器アイコンでカブトモード キャストオフ ボタンでライダーモード クロックアップボタンでクロックアップができる

フォームチェンジでハイパーモードになる

電王モード

仮面ライダー電王の姿になった姿 武器アイコンでデンガツシャー フォームチェンジボタンで ロッド アックス ガン ウイング クライマックス ライナー 超クライマックスになる

キバモード

仮面ライダーキバの姿になった フォームチェンジボタンでガール バツシャー

ドツカー ドカバキ エンペラーになり 必殺技を発動させることでなんでか夜になる

デイクイドモード

仮面ライダーデイクイドの姿になる 武器アイコンでライドブツカーが さらにアイコンを押すことで イリユージョンやインジシブル ギガントなどを発動できる

フォームチェンジボタンでコンプリートフォームになる

ダブルモード

仮面ライダーダブルの姿になる フォームチェンジボタンでハーフ全部 ファング ジョーカー エクストリーム ゴールデンエクストリームになる

オーズモード

仮面ライダーオーズの姿になった 武器アイコンでメタジャリバー メダガブリューを

フォームチェンジボタンでガタキリバ ラトラーター サゴーズ タジャドル シャウタ プトテイラ タマシー ブラカワニ スーパータトバへと変わる

亜種形態にはなれないようである

フォーゼモード

仮面ライダーフォーゼの姿になる ボタンを押すことでロケットなどのアストロス

イッチのが使えるようになり フォームチェンジボタンでエレキ ファイヤー マグネット ロケットステイツ ランチャーステイツ コズミックスステイツ メテオステイツ メテオなしコステイツになる

ウイザードモード

仮面ライダーウイザードの姿になる 武器アイコンでウイザーソードガン アイコンで押すことで バインドなどの魔法を使ったり フォームチェンジボタンでウオーター ハリケーン ランド さらにドラゴン インファイニティー インファイニティードラゴン インファイニティーオールドラゴンへとなることもできる

鎧武モード

仮面ライダー鎧武になる 武器アイコンで無双セイバーを フォームチェンジでパイン イチゴ ジンバー系 カチドキ 極アームズになる

極アームズでは武器アイコンを押すことで武装を使うことができるようになる
ドライブモード

仮面ライダードライブになった姿 武器アイコンでハンドル剣 ドア銃 トレーラー砲も使用でき タイヤボタンでタイヤを召還して装着をする

フォームチェンジでワイルド テクニック デットヒート フォーミュラー ネクス トライドロンになる

ゴーストモード

仮面ライダーゴーストの姿になる 武器アイコンでガンガンセイバーを使用することができ フォームチェンジでゴーストがなった魂 グレイトフル ムゲンになることができる

エグゼイドモード

仮面ライダーエグゼイドの姿になる レベル2が基本形態になる

武器アイコンでガシャコンブレイカーを フォームチェンジでゲキトツ シャカリキ ドレミファ ジエツト マキシマム ドラゴナイトハンター ムテキになる

ビルドモード

仮面ライダービルドの姿になる 武器アイコンでドリルクラッシュシャー ホークガトリンガー 4コマ忍法刀 海賊ハッシュシャーなどを装備ができ

フォームチェンジでゴリラモンドなどのベストマッチの姿になる

必殺技 共通

「○○ストライク」 ライダーキックで その動物のエネルギーや仮面ライダーの力を解放させて放つ蹴り技でもある (ライオンモードならライオメテオストライク)

「○○バスター」 カミが変形をした プラスターにエネルギーをチャージをして 放つ技 (ライオンモードだったら ライオンバスター)

次にモードで放つ技。これはファイルスをそれぞれの武器にセットをして必殺アイコンを押すことで発動ができる。

ライオンモード

「ライオメテオブレイク」ライオン型のエネルギーを飛ばしたり。回転切りをする技

「ライオ○○」属性のアイコンを押すことで放つ。エネルギー状のライオンを放つ

イーグルモード

「イーグルフルブラスト」イーグルライフルから放たれる鳥型のエネルギー

ライフルモードは1発の威力で相手に攻撃をし。ガトリングモードはたくさん鳥型のエネルギーを飛ばす技

「イーグルキャノン」イーグルバスターから放たれる強力な技

ビートルモード

「ビートルブレイク」相手に斜めに切り裂いたり。カブトムシ型のエネルギーを飛ばす技

シャークモード

「シャークスプラッシュ」鯊型のエネルギーを飛ばす。そのまま相手を切る技である

ゴリラモード

「ゴリラボンバー」ゴリラナックルを装着をして。片手及び両手にエネルギーをため

て放つ技

片手だと 相手を強力なアップパーで吹き飛ばし

両手は地面を叩き あいてを空中に浮かせてロケットパンチで相手を撃破する

「ゴリラジャイアントバーン」ゴリラハンマーを相手にたたきつける技

ドラゴンモード

「ドラゴニックブレイク」剣を一旦ドラゴンシールドに納め エネルギーがたまった剣で相手を切り裂く技

「ドラゴンレクト」相手を落ち着かせたりする技 殺生能力がない技である

ラビットモード

「ラビットシューティングアロー」ラビットジャンプで上空へとび 相手にエネルギーの矢を連射をして放つ技

ライオトレインモード

「ライオトレイン砲」ライオバズーカにライオソードをセットした状態からフィルス
をセットをして ライオトレインの幻影が放たれて 敵を倒す

「ライオトレインフィニッシュ」蹴り技だが 相手を光のレールで動きを止めて そのまま決める技

オクトパスモード

「オクトパスバニツシュ」 タコ型の砲弾がたくさん飛び 相手に張り付いて爆発をす
る

「オクトパスビーム」ビームモードから放たれる強力なビーム

スコープオンモード

「スコープオンインパクト」サソリ型のエネルギーを相手に飛ばすか 相手を連続で切
り裂い苦技でもある

カメレオンモード

「カメレオン レイピアストライク」カメレオン型のエネルギーを飛ばすか 鞭状に
なったレイピアを相手に突き刺す技である

クラブモード

「クラブメテオクラツシュ」クラブシザースを相手にブーメランの刃を飛ばすか 相
手を切り裂く技

ライノスモード

「ライノスドリルクラツシャー」ライノスドリルを装着をしたまま 相手に突撃をして
粉碎をする技

「ライノス大の字切り」ライノスソードで相手を大の字に切り裂く技

エレファントモード

「エレフアントクラッシュ」 エレフアントソードが伸びて相手を切り裂く技

「エレフアントメテオクラッシュ」 エレフアントハンマーを振り回して相手にたたきつけつ技

「エレフアントノーズスラスト」 エレフアントノーズを相手に貫かせる技

フェニックスモード

「フェニックスバード」 自分自身が炎の鳥のように燃え上がり 相手に突撃をする技

「フェニックスバスター」 フェニックスライフルから強力なエネルギーの弾が放たれる

エレメントスタイル

「エレメントウエーブ」 エレメントが光 それを両手に集まり 放たれる技

「エレメントキャノン」 エレメントバスターに属性のクリスタルをセットをして放たれる技

ウルフモード

「ウルフカッターブレイク」 ウルフカッターをエネルギーを込めて光の刃にして相手に投げつけて切り裂く技

クロコダイルモード

「クロコダイルクラッシュャー」 クロコダイルヘッドを相手にかませて そのまま相手を粉砕する技

「クロコダイル砲」 クロコダイルヘッドの口が開いてそこからエネルギーを放つ技では最後にフィルスのアイコンを紹介をしよう

動物アイコン これはフィスに変身をする アイコンである

仮面ライダーモード こちらは平成ライダーの姿に変身をする姿

武器アイコン それぞれの姿の武器を出すことができるボタン

必殺アイコン 必殺技を出すアイコン

イリユージョン 分身を作る

リフレクトディフェンダー 防御の結界を張る

ファイア 炎属性をつける

アイス 氷属性をつける

サンダー 雷属性をつける

ウインド 風の属性をつける

マツハダツシュ スピードを上げる

バインド 相手を拘束する

ドラゴンジェッター フィルスの中にいる ドラゴンジェッターを召喚する

ライオトレイン フィルスの中にいる ライオトレインを召喚する

第二章 コラボ

参上!!異世界の戦士たち!!

フェニックスが起こした 次元発生装置

それによつて現れた敵が発生をした

翼「なんだあれは」

そういつてSONG基地で翼は言う

響「機械でしようか」

そう宇宙に現れた 謎の要塞それはいつ現れたのか

翼「いずれにしても油断はできない」

そういつて彼女は言うのであつた

さてその要塞では

「」

「マスター」

「どうした?」

「地球へ到着をしました」

「ふむ……謎の発生はここでもいいのかな？」

「ハイその通りでございます」

そういつて要塞から地球を見ている

「美しい……だがそれを汚そうとしている地球人を抹殺をせねばなるまい……カナリアよ」

カナリア「はいマスター」

「機械兵団を出撃させるのだ」

カナリア「わかりました 機械兵団出撃」

すると要塞からたくさんの機械兵団が出撃をしたのであった

それはSONGでも確認をしたのであった

翼「よし 全員出動だ!!」

そういつて出撃をするのであった

フィスはスナイプと一緒に攻撃をする 母親である切歌 調も一緒だ

ブレイブはデイケイドと一緒に 翼 奏でも一緒である

フォーゼはゴーストと共に 響 セレナも一緒であった

それぞれのところには機械兵団の戦闘員たちが降り立とうとしている

スナイプ「させない!!」

そういつてスナイプはガシャコンマグナムをライフルモードにして 次々に放つて落としていく

フィス「フィルス!!」

フィルス「わかった!!フェニックスモード!!」

フィス「は!!」

フィスはフェニックスモードになって

フィルス「必殺!!フェニックスバード!!」

そうつて燃え盛る鳥になって次々に敵を落としていく

切歌「行くデース!!」

調「はああああああああああ!!」

調たちもギアを展開をして 次々に落としていく

スナイプ「よーし!!」

「ジェットコンバット!!」

スナイプ「第三シューティング!!」

「バンバンシューティング!!アガツチャジェットインザスカイ!!ジェット

ジェット!!ジェットコンバット!!」

コンバットシューティングゲームレベル3になって空を飛び コンバットガトリ

ングで攻撃をする

フェイスもフェニックスライフルで攻撃をする

一方 ブレイブやデイクイドたちも到着をして 攻撃を開始をしていた

ブレイブ「これより 謎の機械に攻撃を開始をする!!」

デイクイド「さてやるか!!」

そういつて二人も武器をとり

翼「サーガ!!」

サーガ「ドツキング!!」

合体をして

翼「参る!!」

奏「いくぞー—————!!」

ブレイブ「は!!」

ブレイブはガシヤコンソードを使って 次々に機械たちを切っていく

ブレイブ「く!!」

だがその攻撃は届かなかった

ブレイブ「?」

デイクイド「危なかったですね」

デイケイドがライドブッカーガンモードで敵を撃破したのであった

ブレイブ「助かった」

デイケイド「気にするな」

ブレイブ「そうですね!!」

そういつてガシャコンソードを投げたのであった

デイケイド「ふ……ふ」

そういつて抜いて そのまま切り裂いたのであった

ブレイブ「これで先ほどの貸しはなしですよ」

デイケイド「ふ……そうですね」

そういつて剣を返す

翼「はああああああああああ!!」

翼はホイールを投げて 敵を撃破する

奏「どりやああああああ!!」

奏も槍で次々に刺していく

翼「であ!!」

翼はランサーを出して 連結させて攻撃をする

翼「参る!!」

ランサーに炎が纏い

翼「一閃両断!!」

そういつて一閃で機械たちを切り裂いたのだ

奏「やるな・・・翼 おっと」

奏は相手の攻撃をかわして 顔面に槍を突き刺したのだ

奏「あたしだってまけてられないんだよ!!」

そういつて抜いたのであった

さて一方で

響「あそこだね!!」

ゴーベルトと合体をしてる響

ビルド「さていきましよう!! 響さん!!」

響「うん!! セレナちゃん!!」

ビルドはドリルクラッシュャーのドリルを外してガンモードにして 放つ

響「だああああああああああ!!」

響はパワーアップされた拳でロボットたちを殴っていく

ゴースト「よーし私も 武蔵さん!!」

ムサシ「やるか!!」

「開眼!!ムサシ 劍豪ズバット 超劍豪!!」

ムサシ魂になってガンガンセイバーを二刀流にして攻撃をする

ゴースト「はああああああああああ!!」

ガンガンセイバー二刀流モードにしたムサシ魂はロボットを切り裂いていく

フォーゼ「おっと!!」

「チエンソー チエンソーON」

右足にチエンソーモジュールが発生をして切りつけていく

「チエンアレイ チエンアレイON」

さらに右手にチエンアレイモジュールが発生させて

フォーゼ「であああああああああ!!」

それを勢いよく叩き落として ロボットたちを浮かせる

ビルド「は!!」

ゴリラモンドに変わって その剛腕な右手で殴り倒していく

響「あちよーろーろーろー!!」

響回し蹴りをして 破壊をしていくが……………

ビルド「これは……………」

響「多すぎません!!」

それはほかの場所でもそうだった……

ブレイブ「いくら切つても……」

デイケイド「こうも多く来られるとな!!」

そういつて切つていくが

翼「まだくるのか……」

奏「まずいぞ 翼……」

フィス「く!!」

スナイプ「愛!!どあ!!」

切歌「真奈!!」

調「切ちゃん!!」

切歌「く!!邪魔をするなデース!!」

調「愛!!」

フィルス「まずいこのままでは」

まずは響サイドから

4人とも疲労が出ていた……かなりの敵を倒したが……それ以上に敵は出てきてきりがないのだ……

特に

2人「はあ……はあ……」

響「まずいね……」

ビルド「確かに……特に子どもたちにとっては……」

響「そうだね……」

そういつて構えていると

上から 何かが刺さったのだ

4人「!!」

「はああああああああああ!!」

そして降りてきた 戦士はその槍を抜いて

「カモン!!バナナスカツシユ!!」

「であああああああ!!」

そしてそのまま一撃を加えるのであった

響「あなたは!!」

「戒斗!!」

ビルド「翼さんに奏さん!?!いや若い……」

そう彼こそはかつて健介と共に戦った戦士 駆文 戒斗 仮面ライダーバロンで

あった

バロン「お前たちは……そうかこの世界は健介がいる世界か」
翼「そうみたいだな」

アルマ「追いついた……」

バロン「遅いぞ アルマ!!」

アルマ「もう!!勝手に移動をするからだよ!!」

そういつてゴーストドライバーを装着をして

「バッチリミトイテー バッチリミトイテー」

アルマ「変身!!」

「開眼!!アルマ!!魂の戦士!!魂のゴッド!!」

姿はムゲン魂に似ているが オレンジである

アルマ「さて」

そういつてガンガンハンドを出して ガンモードにして放つ

バロン「いくぞ!!」

そういつてバロンたちも攻撃をする

バロン「であ!!」

翼「はああああああああああ!!」

奏「どりやああああああ!!」

さらに翼や奏も攻撃をしていき次々に撃破していく

ゴースト「すごい……………」

響「前よりもパワーアップをしている……………」

ビルド「うん……………」

バロン「これで終わりだ!!」

「カモン!!バナナスパーキング!!」

バロン「は!!」

地面にバナスピアーを刺して バナナのエネルギーが発生して敵を撃破していく
一方で翼たちの方も苦戦をしているのであった

翼「く……………」

ブレイブ「母上……………」

デイケイド「ちよつとこれは……………」

奏「いくらあたしたちでもこれはな……………」

そういつてさらに敵が増えて行く……………」

だが

「キメワザ!!マイテイクリティカルフィニッシュ!!」

「はああああああああ!!」

4人「!!」

さらに

「マッスル化!!」

とう音声と共に上から戦士が降りてきたのであった

くらった敵は爆散をしたのであった

「キメワザ!!ガングニール（アマノハバキリ）クリティカルストライク!!」

2人「はああああああああああ!!」

さらに二人の戦士も降りてきて 攻撃をしたのであった

翼「今のは」

「久しぶりだな……もしかして健介の私」

翼「その台詞を言うことは お前はクロトの世界の私だな」

エグゼイド「どうやら無事のようなだな パラド」

するとエグゼイドの体からパラドが出てきた

パラド「任せろ」

「パーフェクトパズル」

パラド「変身」

「デュアルアップ ゲットザグロリー インザ チェイン！パーフェクトパズル!!」

そういつて仮面ライダー パラドクス パズルゲーマーになった

エグゼイド「さて いくぞ!!翼 響!!」

2人「うん!!(ああ!!)」

そういつて3人は攻撃を開始をする

ブレイブ「母上 彼らはいったい」

翼「安心をしる 彼らはあなたの父上と一緒に戦った人たちだ」

ブレイブ「父上と共に戦った……」

パラドクス「大丈夫だろう」

そういつてパラドクスは守るために来た敵を

パラドクス「おら!!」

蹴りなどで倒していく

エグゼイド「おりゃ!!」

エグゼイドはガシヤコンブレイカーをソードモードにして攻撃をする

翼「はああああああああああ!!」

響「でああああああああ!!」

さらに連続で切っていく 殴っていくのであった

デイケイド「ねえ母さん」

奏「なんだ茜」

デイケイド「どうしてあちらの翼お母さんたちはゲーマードライダーをつけているのですか？」

奏「ん？あーあれか あれはシンフォギアライダーというらしいぜ」

デイケイド「シンフォギアライダー……」

奏「そう あたしたちの姿をモチーフした いわばブレイブみたいな感じだ」

ブレイブ「私……ですか」

そういつて戦いを見る

エグゼイド「とどめだ!!」

「ガシャットキメワザ!!」

二人もキメワザホルダーにセットをする

「ガシャットキメワザ!!」

「マイティ（ガングニール）（アマノハバキリ）クリティカルストライク!!」

3人は一気に飛び 蹴りをかましたのであった

エグゼイド「さて……」

そういつて翼たちのところへいくのであった

一方でフェイスたちの方も

フェイス「はぁ……はぁ……」

フィルス「数が違いすぎる……このままでは!!」

「どりゃああああああ!!」

「シヤカリキ クリティカルストライク!!」

すると車輪が飛んできたのだ

フィルス「彼は……」

スナイプ「私と同じベルト!」

エグゼイド「どうやら間に合ったようだね」

フィルス「君はもしかして 祥平か!!」

エグゼイド「おう フィルス 健介さんもお久しぶりです!!」

フェイス「……?」

フェイスは首を傾けたのだ

エグゼイド「ちよつと健介さん!!一緒に星のせいを倒したじゃないですか!!」

フェイス「えつとごめんなさい……私 戦ってないです」

エグゼイド「え!」

フィルス「話は後だ!!」

フェイス「そうだった!!アーナス!!」

アーナス「わかったわ!!」

そういつて仮面ライダールミナスになった

ルミナス「でああああああああ!!」

ルミナスはレミリア スカーレットのスピア・ザ・グングニグルを構えて 投げて貫通させていくのであった

エグゼイド「よしおれも!!」

そういつてすぽーすアクシオンゲーマーレベル3から

「マイティブラザーズ ダブルエックス!!ダブルアツプ!!マイティマイティブラザーズ
ダブルエックス!!」

っとレベルXXになったのであった

パラド「それじゃあいくぜ!!」

祥平「いくよ!!」

そういつて2人は分裂をして ガシャコンキースラッシュャーとガシャコンブレイ
カーを装備して 撃破をしていく

フィス「ねえフィルス」

フィルス「なんだい 愛」

フィス「あの人私のことお父さんって言っていたけど……」

ファイルス「彼は高田 翔平 仮面ライダーエグゼイドだ・・・前に一緒に戦ったことがあってね」

ファイルス「それで私のことを健介さんって呼んでいたんだね」

3人「はああああああああああ!!」

3人の攻撃が命中をして 撃破したのであった

私たちはとりあえずこの人たちをSONGへ連れていくのであった

健介のお話と新たな仲間

SONG基地 司令室

翼「ようこそSONG基地へ 知っておると思いますが．．．桐野 翼です」

戒斗「貴様のことはいい．．．ところで」

そういつて戒斗が言った

戒斗「こいつらは誰だ？」

翼「彼女たちは私たちの娘です」

クロト「娘だと!!」

翼（ク）「まさか結婚をして．．．子供まで．．．」

響（ク）「すごいですね．．．健介さんって．．．」

翼（戒）「だが．．．私はまさか別世界の私を見るとは」

奏（戒）「あああたしもだ．．．」

祥平「そういえば．．．フェイスに変身をしていた君は．．．」

愛「相田 愛です」

クロト「愛?．．．だがどうして君がフェイスに 確か健介が変身をしていると思った

が・・・・・・・・」

全員「・・・・・・・・」

戒斗「確かにな・・・・そして健介の姿が見えないが・・・・奴は」

翼「健介さんは・・・・いません・・・・」

異世界の人たち「な!!」

調「今から数年前・・・・私たちはある遺跡を調査をしました・・・・その調査をしているとき・・・・」

ファイルス「バディは謎の光に包まれて・・・・行方がわからなくなってしまったのだ・・・・・・・・」

全員「・・・・・・・・」

戒斗「すまん・・・・・・・・」

祥平「まさか・・・・・・・・」

クロト「お前は確かエグゼイドに変身をしていた」

祥平「高田 祥平です」

切歌「どういうことでーす?」

祥平「実は おれがこの世界から帰る時・・・・俺は健介さんと握手をしたんです・・・・」

その時 皆さんが悲しむ姿が映ったのです」

クロト「一種の未来予知って奴か……」

戒斗「……だが健介が行方不明か……」

響（ク）「でも私たちはどうしてここへ」

翼「どういうことですか？」

クロト「俺たちに世界にもそいつらが現れて 戦っていたんだ……そうしたらい

きなりホールが現れて 俺たちは吸い込まれてしまったんだ」

戒斗「そつちもか……俺たちも戦っている時に」

祥平「俺はあの予知夢を見てから嫌な予感がして 内緒でここへ来たんです」

翼「……」

クロト「……そうか……（しかし健介が行方不明で……その娘たち……か……）」

戒斗（時間が俺たちの世界よりも早い……子どもが成長をしているとみると……）

そういつて2人は考えていると 警報がなる!!

全員「!!」

愛「この警報は」

そういつて愛が言う

「敵反応です!!」

見ると 先ほどの機械兵团たちが暴れているのであった

愛「行こう!!お父さんが守ってきた世界を守らないと!!」

だが愛はバランスを崩しかける

クロト「おっと・・・お前らは疲れている・・・ここは俺たちがやるさ」

剣「しかし!!」

戒斗「そんな疲れ切っている奴らを連れて行ったら足手まといだ・・・休んでおけ」

そういつて祥平たちも行くのであった

真奈「あたしたちが守らないといけないのに・・・」

茜「だが私たちはこの状態だ・・・」

紗代「悔しいよ・・・お父さんが守ってきたのに・・・」

花菜「そうだね・・・」

そういつている子どもたちであった

調「・・・」

一方で異世界の戦士たちは戦っている女性がいたのだ

「はあ・・・はあ・・・」

クロト「あれは・・・もしかしてルノか？」

戒斗「お前の知り合いみたいだな」

祥平「とにかく助けましょう!!」

クロト「だな」

「マイティアクションX!!」

「バナナ!!」

「マイティアクションX!!」

三人「(大) 変身!!」

「がちゃん!!レベルアップ!!マイティジャンプ!!マイティキック!!マイティマイティアクションX!!」

「カモン!!バナナアームズ!!NIGHT OF SPEAR」

2人はエグゼイド 戒斗はバロンになった

エグゼイド(ク)「え?」

エグゼイド(祥)「え?」

翼(ク)「エグゼイドが二人!」

響(ク)「ええええええええええええ!!」

翼(戒斗)「どっちがどっちだ!!」

奏(戒斗)「ありやー」

つとこちらも混乱をしたのであった

「ギキギキギキ」

「??????」
敵も混乱をしているみたいであった

ルノ「えつと・・・え？」

2人エグゼイド「とりあえず!!ノーコンテニューでクリアしてやるぜ!!」

そういつて2人のエグゼイドはガシャコンブレイカーで攻撃をするのであった
バロン「俺たちもいくぞ!!」

そういつて攻撃をするのであった

エグゼイド(ク)「は!!」

高速化!!メダルをとり 攻撃をしていく

エグゼイド(祥)「よーし!!」

エグゼイド(祥)は何かをみて投げる

「混乱!!」

すると相手は味方に砲撃をするのであった

バロン「は!!」

「マンガーアームズ!! FIGHT OF HAMMER!!」

そういつてマンガーパーニッシャーで敵にたたきつける

パラドクス(ク)「心がたぎるな」

そういつてパラドクスはノックアウトファイターになっており 殴って殴って敵を撃破していくのであった

奏たちも協力をして 撃破をしていく

すると砲撃が飛んできたのだ

全員「!!」

ルノ「大丈夫ですか？」

そういつてルノがワイバーンでガードをしたのであった

エグゼイド（ク）「助かる!!」

すると

「ライオビーム発射!!」

ビームが飛んできたのだ

降りてきたのはフィスたちであった

バロン「貴様ら」

フィス「皆さんの気持ちはうれしいです!!」

ブレイブ「ですが・・・この世界は父上が命をかけて守ってきた・・・」

スナイプ「私たちが頑張らないでどうするのっての!!」

デイクイド「そういうこった」

ゴースト「私もみんなの役に立ちたいです!!」
フォーゼ「いくぜー—————」

そういつてフェイスたちも参戦をするのであつた
バロン「なら見せてみる!!お前らの覚悟を!!」
全員「はい!!」

激闘!! 戦士たちとの戦い

フィス「はああああああああああ!!」

フィスはライオンクロードで敵を切りつけていく

バロン「は!!」

バロンもマンゴーパニツシャーで吹き飛ばす

フィス「であああああああああ!!」

バロンが吹き飛ばした敵をフィスは追撃をして

ゴースト「は!!」

ロビン魂になってアローモードで撃ちぬいていく

バロン「ほういい連携だな」

フィス「ありがとうございます!!」

ブレイブ「はああああああああ!!」

ブレイブはガシヤコンソードで切っていく

エグゼイド(ク)「ほーう……」

スナイプ「は!!」

銃で撃っていく

響(ク)「この二人とも連携がすごいね!!」

エグゼイド(ク)「そうだな・・・戦いはまだまだだが・・・連携に関してはいいみたいだ」

翼(ク)「そうだな・・・」

デイクライド「さて」

「カメンライド ファイズ!!」

デイクライドファイズになって

フォーゼ「どうするの?」

デイクライドFZ「まあ見ておいて」

エグゼイド(祥)「何をするのですか?」

「フォームライド ファイズ アクセル!!」

スタートアップ!!

すると高速で移動をして 次々に撃破をしていく

フォーゼ「それ!!」

「ガトリングON!!」

そういつて左足にガトリングモジュールが出てきて 攻撃をしたのであった

ルノ「すごい……です」

フィス「はああああああああああ!!」

フィスはライオメテオストライクを発動させて 撃破したのであった

敵は撤退をして 基地へ帰還をするのであった

パラド(ク)「しかし……」

パラド(祥)「なんだ?」

パラド(ク)「いやエグゼイドを見たとき 俺もいるかと思つたが……やつぱりいる

んだなつて」

パラド(祥)「だな 俺もだぜ」

アーナス「……パラドが二人」

クロト「お前もバクスターなのか?」

アーナス「そうね 私は祥平の中のバクスターよ」

戒斗「そういえば愛たちはどうしたんだ?」

調「愛たちは今は休憩室で休ませている」

翼「さすがにな」

祥平「ですね……」

響「そういえば 祥平さん」

祥平「なんですか？」

響「あの時 健介さんと握手をしたとき何を見たんです？」

祥平「……俺が見えたのは 涙を全員が流していました……セレナや響……翼さんたちも……」

翼「おそらく……」

セレナ「うん……健介が消えた日だね……」

切歌「……健介……」

クロト（しかし……健介はいつたどこに消えたのか……）

アルマ（……うーん）

戒斗（どうだアルマ……）

アルマ（だめだね……彼がどこにいたのはわからないな……）

戒斗（そうか……すまない）

ファイルス「バディ……」

祥平「いつか会えますよ!!」

戒斗「そうだな……永遠に別れじゃない……あいつはそういう男だから……」

クロト「だな……あいつが簡単に死ぬとは思えんから……」

そういつてかかって共に戦った友たちは言う……相田 健介という男が死ぬはずが

ない……彼らは信じているからだ……必ず帰ってくる……

奏「だな……あたしたちではできるかぎりのことをするだけだな？」

セレナ「はい!!姉さんやクリスさんが戦えない今……私たちが頑張ります!!」
さて一方で 敵はというと

「カナリアよ どうやら邪魔者が地上にいるようだな……」

カナリア「はい 仮面ライダー シンフォギアと呼ばれる者たちでござい
ます……」

「なるほど……仮面ライダーとシンフォギアと呼ばれる……か……ふむ……」
「マスター 私たちを出動をしましょう」

「ほう お前らが行くというのか」

「ええ奴らの戦力を考えますと このまま機械兵団を出せば 私たちが不利だと思いま
す」

「確かにな いいだろう いけ!!ゼーバス ガリユー ジータ バスー グリユーヨ」
「はは!!」

そういつて五人は出動をしたのであつた

祥平「うぐ……」

ゼロ「おい大丈夫か 祥平」

祥平「なんとか・・・ね」
そういいながら体を引きずるのであった

祥平の体の異変

祥平「うう・・・・・・・・・・」

ゼロ（おいやっぱり・・・・・・・・）

祥平「ゼロさん 今は黙っておいてください・・・・・・・・パラドたちも」

2人（わかったが・・・・・・・・）

そういつて祥平は歩いていくのであった

愛「へえ・・・・・・・・ルノさんつてワイバーンの操縦者なんですわね」

ルノ「はい・・・・・・・・でも私体が弱いですから・・・・・・・・」

愛「そうなんだ・・・・・・・・」

ルノ「でもクロトさんたちと出会ったんですよわね」

愛「クロトさんつて確かエグゼイドに変身をしていた」

ルノ「はい!!」

愛「へー・・・・・・・・」

そういつて2人は歩いていると

祥平「はあ・・・・・・・・はあ・・・・・・・・」

2人「祥平さん!?!」

そういつて2人は走って 祥平を医務室へ連れていくのであった
連絡を聞いた全員が祥平がいる 医務室へ向かったのであった

クロト「これは……」

「これはレイブラッドの影響だろう」

戒斗「誰だ」

あたりを見るが声をした人物はいない すると祥平の左手のプレスレットがひかっ
て姿が投影される

ゼロ「俺はウルトラマンゼロ」

翼「ウルトラマンゼロ……」

真奈「そのゼロさん 祥平さんにいったい」

ゼロ「今 祥平の体はレイブラッド星人がこいつの体に乗っ取ろうとしている……」
響(ク)「それってもしそうなら……」

ゼロ「……完全にこいつの意識はなくなり 体はレイブラッド星人に乗っ取られ
てしまう」

全員「!!」

祥平「うう……」

レイブラッド星人「くつくつく……」

すると祥平が起き上がって……ゲームードライバーを装着をした
全員「!!」

みるとマイティアアクションXの色が黒くなっていく

クロト「プロト……いや違う」

レイブラッド「変身」

「ダークマイティX」

すると黒い音声が流れる

「ガシャット レベルアップ!!ダークジャンプ ダークキック ダークマイティX」

色はゲンムみたいだが……ダークエグゼイドに変身をしたのだ

ダークエグゼイド「くつくつく……」

「ステージセレクト!!」

するとステージが変わる!!

翼（戒斗）「これは!!」

クロト「ステージセレクトをしたのか……なら!!」

そういつてクロトもゲームードライバー クロトの翼たちもゲームードライバーを

戒斗はロッキードを 戒斗の世界の翼たちもシンフォギアを

そして愛たちも変身をしたのだ

ダークエグゼイド「くつくつく……」

「ガシヤコンバトルナイザー」

するとベリアルが装備している ギガバトルナイザーみたいなものを持ち 振り回してくる

ゲムム「いくぞ」

「ガシヤコンブレイカー」

バロンもバナスピアーを構えて それぞれ全員が武器を構える

フェイスはスコーピオンモードになっている

ダークエグゼイド「くらえ!!」

ダークエグゼイドはガシヤコンバトルナイザーから光弾を放ってきた

ルノ「えい!!」

ルノはそれを剣ではじいていく

デイケイド「は!!」

ブレイブ「はあああああああああ!!」

デイケイドとブレイブは接近をして攻撃をするが

ダークエグゼイド「くつくつく」

ダークエグゼイドはそれをふさいで はじかせる
ゲナム「させん!!」

ゲナムはマッスル化のメダルをとり 攻撃をする
バロン「は!!」

バロンもその隙を使つて バナスピアーをさす

ダークエグゼイド「ちい」

ダークエグゼイドは下がるが

スナイプ「くらえ!!」

「ガシャット キメワザ!! ジェットクリティカルストライク!!」

フォーゼ「ライダー100億ボルトバースト!!」

エレキステイツになった フォーゼは攻撃をする

ダークエグゼイド「ふん!!」

だがそれをはじいてフォーゼのボディにダメージを与えて 飛んでいるスナイプを
撃退した

スナイプ「きゃああああああ!!」

切歌「真奈!!」

「開眼!! ツタンカーメン!! ピラミッドは三角 王家の資格!!」

そういつてガンガンハンド鎌モードにして攻撃をする

ゴースト「は!!」

響「どりやあああああああ!!」

相棒であるゴベルトを合体させた 親子の攻撃がダークエグゼイドをふきとばす

ダークエグゼイド「くつくつく．．．．．」

ゲンム「ちいそういうことか」

バロン「攻撃をするな!!」

翼（戒斗）「戒斗!?!」

アルマ「まさか奴は．．．．．」

フェイス「まさか今までの攻撃は」

ダークエグゼイド「そのとおりだ こいつの体に受けているのだよ．．．．．」

ゲンム「ちい．．．．．」

そういつてゲンム達は攻撃を止める

ダークエグゼイド「では．．．．ぐ!!」

ビルド「止まった!?!」

祥平「お．．．お願いです．．．い．．．今のうちに．．．攻撃を!!」

するとパラドクス（祥）とアーナスがダークエグゼイドを止めたのだ

パラドクス（祥）「祥平!!」

ルミナス「暴走はとめて!!」

ダークエグゼイド「邪魔だ!!」

そういつて二人を吹き飛ばしたのであつた
すると祥平に戻る

祥平「ぐ……」

パラドクス（祥）「……頼みがある……」

フィス「え？」

パラドクス（祥）「フィルス……確かフィスにはエグゼイドのモードがあつたな」
フィルス「ああ確かにある……まさか!!」

パラドクス（祥）「そうだリクロミングをつかつて祥平にあてる……だが」

調「……反対よ」

パラドクス（祥）「な!!」

調「……愛にそんなことはできない……させない」

クロト（母親としては……その反応だな……）

パラド「だが俺だって祥平を失いたくないんだ!!」

調「だとしても!! 私たちは健介を失った!! こんな思いを娘たちにさせたくない!!」

切歌「調・・・・・・・・・・・・・・・・」

戒斗「・・・・・・・・・・・・・・・・」

愛「お母さん・・・・・・・・私やる!!」

そういつて

ファイルス「エグゼイドモード!!マキシマムマイティモード!!」

そしてガシヤコンキースラッシュヤーを構えて

「ガシヤットキメワザ!!マキシマムマイティクリティカルフィニッシュ!!」

そういつてリクロミングが入ったのを放ったのだ

だが

ダークエグゼイド「ふっふっふ・・・・・・・・」

そうくらったのは祥平だけだったのだ やつはすでに祥平の力を手にしていたのだ

ダークエグゼイド「だが貴様らに受けた傷が大きい 逃げるんでも」

祥平「させない!!」

ダークエグゼイド「無駄だ・・・・貴様に何ができる・・・・エグゼイドの力を失ったお

前などに!!」

そういつてダークエグゼイドは光弾を放ち

祥平「!!」

祥平は爆散をしたのだ

ルミナス「祥平!!」

ダークエグゼイド「はっはっはっはっは!!」

祥平 side

祥平「俺は・・・死んだのでしょうか」

「お前は、まだ死んでないさ」

祥平「あなたは!!」

祥平の新たな力 そしてあつた人物とは

祥平「あなたは……健介さん!!」

彼が目覚めた場所は白い場所……そして彼が見た人物は……

かつて仮面ライダーフィスとしてともに戦った人物 相田 健介がいたのだ

健介「……………」

祥平「ここは……………」

健介「お前は死んじやいない……………」

祥平「え……………」

健介「そしてお前はまだ戦える……………」

祥平「でも……僕はもうエグゼイドには……………」

健介「……………」

そういつて投げたのはスマホであつた

祥平「……………」

健介「フィルス同様の性能をもつた変身アイテムだ……………」

祥平「え……………」

健介「その中には……………」

祥平「健介さん？」

健介「どうやら時間のようだ……………その中にはいいものが入っているさ……………調
たちを……………頼んだぞ」

祥平「待つてください!!健介さん!!健介さ……………」

一方で地上つまり　フィスたちは

ダークエグゼイド「ふっはっはっはっはっはっは!!」

パラドクス（祥）「よくも祥平を!!」

パラドクス（ク）「よせ!!」

パラドクス（祥）「離せ!!あいつに祥平が!!」

フィス「許さない!!」

そういつて全員が攻撃をしようとしたとき

光が発生をした

全員「!!」

ダークエグゼイド「なに!!」

そうそこにいたのは祥平だからだ

パラドクス（祥）「祥平!!」

ゲンム「お前……」

バロン「さっき奴の攻撃で」

祥平「話はあとです……」

ダークエグゼイド「バカめ……貴様は変身さえもできなくせに……私に勝てる
とでもおもっているのか!!」

祥平「そんなことはない!!俺には……新たな力を得たんだ!!」

そういつて出したのは

フィス「あれって!!」

フィルス「私!？」

そう祥平が持っているのはフィルスと同じ型をしたものだったからだ!!

ダークエグゼイド「なんだそれは……」

祥平「これこそ……俺の新しい力です!!」

ゼロ「力を感じるぜ!!」

するとスマホが光りだした

祥平「!!」

ゼロ「どああああああ!!なんだ!!」

するとアイコンが出てきたのだ

祥平「これが……俺の新しい変身!!」

「ゼロモード!!」

すると彼の体が装甲が発生をして その姿はゼロの力が入った姿になったのだ
ダークエグゼイド「なんだキサマは!!」

「俺は……いや俺たちは……仮面ライダーエグゼイドゼロ!!」

そう仮面ライダーエグゼイドゼロの誕生だ!!

ダークエグゼイド「エグゼイドゼロだと……返り討ちにしてくれるわ!!」
そういつてガシヤコンバトルナイザーを構えて攻撃をしてきた

エグゼイドゼロ「であ!!」

エグゼイドゼロは走り そのままけりをかましたのだ

ダークエグゼイド「どあ!!」

ダークエグゼイドは後ろへ吹き飛ばされる

ダークエグゼイド「馬鹿な!!ただのけりで私が吹き飛ばすと!!ふざけるな!!」
そういつて光弾を発射をしたが

エグゼイドゼロ「ゼロスラッガー!!」

そういつて飛ばして 光弾をはじいたので

エグゼイドゼロ「であ!!」

さらにそのまま飛ばして ダークエグゼイドにダメージを与える

「ダークエグゼイド「ぐおおおおおおおおおおおおおおおおおおお!!」

エグゼイドゼロ「ああああああああああ!!」

さらに接近をして こぶしのラツシユをかますのであった

「ダークエグゼイド「おのれ……」

「ダークエグゼイドは武器を構えて

「ダークエグゼイド「出でよ!! 怪獣たちよ!!」

すると光りだして 怪獣たちが発生をした

「ゲンム「なら あいつらは」

「バロン「俺たちに任せろ」

「フィス「ええ 祥平さんはやつをお願いします!!」

「エグゼイドゼロ「はい!!」

そういつて仮面ライダーたちや奏者たちは怪獣たちを相手に戦っている中 エグゼ

イドゼロはダークエグゼイドを倒すために行く!!

「エグゼイドゼロ「ああああああああ!!」

「ガシャコンブレイカー!!」

スマホ型の武器アイコンを押して ガシャコンブレイカーを出して攻撃をする

「ダークエグゼイド「ちい!!」

ゲムム「遅いぞ」

そういつてプロトスポーツゲーマーを装着をして ホイールを投げつける

「ぶっ飛びモノトーン ロケットパンダ!!」

ビルド「はああああああああああああ!!」

空を飛び 大きな爪で切り裂いていく

響ズ「はああああああああああああ!!」

二人の響は同じけりで吹き飛ばしていく

「バンバンクリティカルファイアー!!」

スナイプ「は!!」

「タドルクリティカルスラッシュ!!」

ブレイブ「ああああああああああ!!」

翼ズ「参る!!」

三人の翼たちは次々に切り裂いていくのであった

「ファイナルアタックライド デイデイデイデイケイド」

「ファイアーリミットブレイク」

フォーゼ「ライダー爆熱シュート!!」

「デイケイド「は!!」

「デイケイドはデイメンションブラストで爆熱シユートともに放ち かいじゆうたちを撃破をしていく

「ファイルス「クラブモード!!」

「フィス「は!!」

「クラブシザースで攻撃をしていく

「調「はああああああああああああ!!」

「切歌「デース!!」

「アルマ「それ!!」

「ゴースト「は!!」

「ガンガンハンドで攻撃をしていくのであった

「エグゼイドゼロ「であああああああああ!!」

「エグゼイドゼロのエグゼイドゼロキックが命中をして ダークエグゼイドの武器を

吹き飛ばす

「ダークエグゼイド「馬鹿な．．．．なぜおまえに私が．．．．」

「エグゼイドゼロ「当たり前だ!!この力は．．．おれ一人の力じゃない．．．これ

は．．．ある人が俺に託した 力なんだ!!」

ゼロ「決めようぜ!!」

「必殺!!エグゼイドゼロメテオストライク!!」

エグゼイドゼロ「とう!!」

エグゼイドゼロは空を飛び

エグゼイドゼロ「でああああああああ!!」

エグゼイド　そしてゼロの幻影が発生をして

ダークエグゼイド「おのれ!!」

「キメワザ!!ダーク　クリティカルストライク」

ダークエグゼイド「死ねーーーーーー!!」

そういつて飛び　お互いの蹴りが命中をする

ばちばちつと両方のエネルギーが激突をしていく

エグゼイドゼロ「俺は……ウルトラマンの力と仮面ライダーの力が一つになった……俺は仮面ライダーエグゼイドゼロだ!!でああああああああ!!」

ダークエグゼイド「ぐ……ぐううう……」

エグゼイドゼロ「でああああああああ!!」

ついに激突は終わり　エグゼイドゼロのけりがダークエグゼイドを吹き飛ばした

ダークエグゼイド「ば……馬鹿な……この……レイブラッド星人であ

る……私が……！！」

そういつて爆散をしたのであった

ゲナム「どうやら向こうも終わったようだな」

そういつてガシヤットを抜いた

バロン「そうだな」

そういつてロックシードを解除をした

アーナス「祥平あんた」

祥平「迷惑をかけたね ごめん」

パラド（祥）「全くしんぱいかけさせやがって!!」

調「……ねえ 聞かせて……どうしてあなたがそれを」

調がさしたのは スマホである……

祥平「あつたんです……彼に」

ファイル「彼……まさか!!」

祥平「そうです……健介さんです」

翼「な!!健介さんだ!!」

調「ねえ……どこで……どこであつたの!!ねえ!!」

そういつて調は祥平に聞き出そうとするが

切歌「調 落ち着いてほしいデース!!」

愛「お母さん!!これじゃあ祥平さんが話せないよ」

調「ごめん・・・・・・・・・・・・・・・・」

祥平「あつたのは 白い場所でした」

ルノ「白い場所ですか？」

祥平「はい・・・・俺はまだ死んじやいない・・・・新たな力を渡すって言われたのが」

クロト「このスマホってことか・・・・・・・・」

そういつてクロトはスマホを見ている

戒斗「ただのスマホだな・・・・・・・・」

フィルス「だが彼は変身をしている・・・・・・・・」

するとスマホが光り出した

全員「!!」

すると何かが移り出した

調「あ・・・・ああああ・・・・・・・・けん・・・・すけ・・・・・・・・」

そう映っていたのは 相田 健介だったのだ

健介「・・・・・・・・久しぶりだね・・・・・・・・調」

健介の真実!!・・・そして

SONG基地にて

翼「けんすけ・・・さん・・・」

健介「・・・といっても姿はこの状態だけだな・・・」

クロト「さて健介 話してもらおうぞ」

健介「といっても話せることは少ない・・・」

愛「お父さん・・・」

健介「愛 大きくなった・・・ 剣に真奈 紗代 花菜・・・」

剣「父上・・・」

真奈「パパ・・・」

健介「さて話すでしょう・・・俺の状態のことも・・・今の俺は危険な状態だ・・・」

全員「!!」

クロト「どういうことだ!!」

祥平「そうですよ!!」

健介「・・・今 邪悪な力が目覚めかけようとしている・・・そして俺はあの

遺跡を調査の時 光に飲み込まれた……だがそれは邪悪な意思が出ようとしていた……俺は奴を俺の体に封じ込めた……」

クロト side

そうだったのか……健介 お前はずっと闇と戦ってきたのか……みると 調たちが泣いている……」

セレナ「健介さん……」

調「そ……そんな……」

健介「ううう……」

すると光が消えかけようとしている……」

調「健介!!」

健介「……すまない……クロト 戒斗 祥平……もし俺が現れてお

前たちに攻撃をしようとしたら……」

「俺を殺してくれ」

そういつて消える

翼「……殺してくれ……」

響「どうして……どうしてなんですか……健介さん……」

切歌「どうして……自分が死のうとするのデース……」

調「・・・・・・・・・・・・・・・・」

調は部屋を出ていく

愛「お母さん!!」

祥平「俺が追いかけますよ!!」

そういつて愛と祥平は追いかけるのであった

セレナ「・・・・・・・・・・・・・・・・」

翼(ク)「クロト・・・・・・・・」

クロト「ああ・・・・・・・・(俺は奴を殺せるのか・・・・・・・・あいつを・・・・・・・・健介を・・・・・・・・)」

奏(戒斗)「なあ戒斗」

戒斗「・・・・・・・・なんだ・・・・・・・・」

奏(戒斗)「あんたは・・・・・・・・健介を殺せるのか・・・・・・・・」

戒斗「・・・・・・・・昔の俺だったら・・・・・・・・やっていたかもしれない・・・・・・・・だが・・・・・・・・

今俺はあいつを殺すことは・・・・・・・・できない・・・・・・・・」

翼「・・・・・・・・すまない少し 調のところへ行く」

そういつて翼も追いかける

さて一方で追いかけている二人は

パラド(祥)「よつと」

アーナス「ふう」

そういつて増えたのであつた

追いかけていくと 座っている調がいたのだ

愛「お母さん・・・・・・・・」

調「・・・・・・・・」

調は無言だった・・・・体育座りをしていたのだ

祥平「・・・・・・・・」

パラド（祥）「・・・・・・・・」

アーナス「・・・・・・・・」

調「・・・・・・・・」

愛「お母さん？」

調「どうして健介はいつも一人で抱えているの!!」

いつものとは違う母に愛もびっくりをしている

調「・・・・・・・・どうして・・・・・・・・どうして・・・・・・・・健介・・・・・・・・あなたはいつも・・・・・・・・一

人で・・・・・・・・」

ファイルス「・・・・・・・・バディ」

調「うう・・・・・・・・ああ・・・・・・・・うあああああああああああああああああ

ああああああああああああああああああああああああああああああああ

調の大きな声は・・・・・・とても悲しい声であった・・・・・・愛する人は生きています・・・・・・
だけどその体は闇に徐々に侵されている・・・・・・

そしてもし自分が攻撃をしようとするなら・・・・・・殺してくれ・・・・・・

おそらくそれは相田 健介として死にたいという彼の思いだ・・・・・・

だけど調たちは死んでほしくない気持ちだから・・・・・・つらいのだ・・・・・・

「見つけたぞ!!仮面ライダー!!」

全員「!!」

「ガリュー!!」

「ジーター!!」

「バスー!!」

「グリューヨ!!」

「ゼーバス!!」

「[[[[[[ゼーバス特戦隊!!]]]]」

そういつてポーズを決めたのであった

愛「えつと敵?」

パラド(祥)「みたいだな」

そういつて全員がゲームードライバーを装着をして

愛「フィルス!!」

祥平「ゼロさん」

ゼロ「いくぜ!!」

フィルス「愛」

調「・・・・・・・・・・・・・・・・」

調はぎりつとにらんで・・・・・・・・シャルシヤガナを装着をした

フィルス「ライオンモード!!」

「ゼロモード!!」

「パーフェクトノックアウト!!」

つと変身をしたのであった

ルミナス「いくわよ!!」

そういつてレイフラになって攻撃をする

グリユーヨ「きえええええええ!!」

ルミナス「な・・・・・・・・え?」

パラドクス(祥)「どあ!!」

ルミナスがパラドクス(祥)に激突をしたのであった

エグゼイドゼロ「なんだ!!」

フィス「超能力つてこと!!」

調「・・・・・・・・・・・・・・・・」

フィス「であああああああああ!!」

フィスもフィスガンソードモードにして攻撃をしたが

ガリユー「ふん!!」

エグゼイドゼロ「であ!!」

ゼロスラツガーを投げる

バスー「は!!」

バスーは光弾をだして　ゼロスラツガーをはじいたのだ

ジータ「いくぜ!!」

するとダツシュをして連続の蹴りをいれていく

パラドクス(祥)「ちい!!」

ガシャコンパラブレイガンアックスモードでガードをする

調「・・・・・・・・ぎり」

フィルス「調?」

調「・・・・・・・・お前らが・・・・・・・・」

全員「!!」

調「お前らがいなかったら……健介は……」

SONG基地

「シャルシヤガナの力が……あがって……きや!!」

翼「!!」

クロト「なんだ……」

戒斗「俺たちもいくぞ!!アルマ!!」

アルマ「任せて!!」

そういつて扉を開いて 行くのであった

一方

調「うあああああああ!!」

大きな鋸が4つに増えて まずグリユーヨを刻んでいったのだ

グリユーヨ「ぎやあああああ!!」

ゼーバス「グリユーヨ!!」

調「お前らが!!お前らが!!」

そういつて怒りのまま攻撃をする

フェイス「お母さん!!」

エグゼイドゼロ「だめです!!」

調「邪魔だ!!」

そういつて二人に攻撃をしたのだ

フィス「ぐ!!」

エグゼイドゼロ「ぐあ!!」

調「があああああああああああああああ!!」

そのまま ジータ バスーに攻撃を続ける

ゼーバス「ちい!!」

ゼーバスはバスターをはなち 調に当てたのだ

調「・・・・・・イグナイト 抜剣!!」

さらにイグナイトを発動させたのだ

フィス（お母さん・・・・・・いったいどうして・・・・・・）

調「があああああああああああああああ!!」

そのまま ガリューを貫いたのだ

ガリュー「ぐほ・・・・・・」

ガリューはそのまま倒れたのだ

調「あははははははは!!」

切歌「調!!やめるデース!!」

そういつて切歌が止めるが

調「邪魔・・・切ちゃん」

そういつてひじ打ちをしたのだ

切歌「が!!」

スナイプ「ママ!!」

そういつてスナイプは行く

調「殺す・・・あいつらをみんな・・・ころしてやる!!」

そういつて調が行こうとしたとき

「だめだ!!」

何かが現れたのだ

ファイルス「あれはバディ!!」

そう現れたのは健介だった

健介「やめるんだ・・・調・・・」

調「離して・・・健介・・・」

健介「自ら闇へと行こうとするな・・・」

調「・・・」

健介「・・・・・・うぐ」

健介は調から離れて

健介「うぐ・・・・・・ぐあああ・・・・・・」

すると黒い スマホを持ち

「ダークライオンモード」

すると姿が黒いフェイス ライオンモードになったのだ

ダークフェイス「があああああああああああああ!!」

ダークフェイスはそのままゼーバスたちに攻撃をしたのだ

ゼーバスたち3人は攻撃をするが ダークフェイスそれを受けてもそのまま攻撃をし

て ダークスマホをダークライオセイバーにセットをして

「ダークライオブレイク」

ダークフェイス「があああああああああああああ!!」

そのまま三体を切り裂いたのであった

そして標的を フェイスたちに変えたのだ

バロン「くるのか」

エグゼイド「健介・・・・・・」

ガシヤコンブレイカーを構えるが

エグゼイド「……………く」

エグゼイドゼロ「俺たちに」

バロン「あいつを倒せというのか……………」

ダークフィス「がああああああああああああああ!!」

ブレイブ「父上!!」

デイケイド「く……………お父さん相手に戦えなんて」

ゴースト「嫌だよお父さん!!」

スナイプ「会えたのに……………」

フィス「お父さん!!」

ダークフィス「がああああああああああああああ!!」

ダークフィスはダークライオソードを振りかざしながら 攻撃をしてきたのだ

パラドクス（祥）「すっかりしやがれ!!」

パラドクス（ク）「クロト!!なんかないのか!!」

エグゼイド「くそ……………こんな時に何も思いつかないなんて……………」

ダークフィス「ぐああああああああ!!」

2人のパラドクスを吹き飛ばしたのだ

エグゼイドゼロ「パラド!!」

エグゼイドゼロはエメリウムスラッシュを放ったのだ

「ダークフィス」が!!」

それを両手のダークライオンクロウを展開をして ふさいだのだ

調「健介!!もうやめて!!」

そういつて調が前に立ったのだ

フィス「お母さん!!だめ!!」

だがダークフィスの攻撃は調の前で止まる

「ダークフィス」ぐ・・・・・・ううう・・・・・・ぐおおおおおおおおお

「おおおおおおお!!」

そういつてダークフィスは消えるのであった

調「けん・・・・すけ・・・・」

すると倒れたのだ

フィス「お母さん」

そういつてフィスは母親を抱きかかえると

調「すー・・・・すー」

寝ているのであった

エグゼイド「おそらく緊張が解けたんだろう・・・・」

バロン「あれが健介が暴走をした姿・・・・・・・・」
フィス「お父さん・・・・・・・・」

一方で

健介「はあ・・・・・・・・はあ・・・・・・・・」

「まだ抵抗を続けるか・・・・・・・・人間」

健介「だまれ・・・・・・・・俺の体がどうなろうとも・・・・・・・・お前を・・・・・・・・必ず止める・・・・・・・・」

そういつて健介はオッドアイになりかかっていたが・・・・・・・・また元に戻るのであった
さて一方で

「カナリアよ」

カナリア「はいマスター」

「ゼーバス特戦隊が敗れたそうだ」

カナリア「まさか・・・・・・・・かの者たちが・・・・・・・・」

「そのとおりだ・・・・・・・・さてどうするか・・・・・・・・」

そうちて考えている

SONG基地

「そうか 健介が生きていたんだな」

翼「はい おじさま・・・・・・・・」

翼は今連絡をしているのは 本部司令官として行っている 風鳴 弦十郎であった
弦十郎「・・・・わかった 麗菜君には連絡をしておく 未来君には・・・・・・・・」

翼「すでに立花が向かっています」

弦十郎「そうか・・・・もう少しで俺もそっちへ行く」

翼「おじさまがですか？」

弦十郎「そうだ お前も指揮よりも戦った方がいいだろ？」

翼「感謝をします」

さて一方で

未来「あれ・・・・・・・・」

健介「・・・・・・・・」

未来「にい・・・・さん・・・・・・・・」

兄妹が再会をしていたのであった

破壊獣襲来!!

未来 side

今 私の前に……行方不明になっている……健介兄さんがいた……

未来「にい……さん……」

健介「未来……」

未来「にいさ「くるな!!」兄さん？」

健介「来るな 未来……」

未来「どうして!!」

健介「今の俺は……自分でも何をするのかわからない……もう抑えているのが限界になってきているんだ!!」

未来「いったいどういうことなの!!」

健介「ぐ……ぐおおお……ぐおおおおおおおおお!!」

「ダークライオンモード!!」

すると健介はダークフェイスになって未来に攻撃をしようとしたのだ!!

「未来!!」

ダークライオンソードを受け止めたのは

未来「響!!」

受け止めたのは立花 響であった

響「健介さん!!」

ダークフェイス「ぐおおおおおおおおおお!!」

ダークフェイスはそのまま逃げたのであった……

響「未来!!大丈夫!!」

未来「ねえ響……」

響の肩に未来は手を置いた

未来「兄さんは……兄さんはどうしてなの……」

見ると未来は目から涙を流していたのだ

響「未来……」

未来「どうして兄さんばかり……あんな目に合わないといけないのよ!!」

響「……」

未来「ああああああああああああああああ!!」

響は未来を抱きしめることしかできなかつたのだ……どういふ風に声をかけ

るのか……何を話したらいいのか……今の未来にはつらすぎるからだ……

だからこそ彼女が落ち着いたとき……この話をするにしたのであった

一方でSONG基地では 健介の今の体の状況をファイルスがつっていたので見ることにしたのであった

翼「こ……これは!!」

そこに映っていたのは……健介のほとんどが黒くなっているのだ

クロト「これは……ここまで闇が進んでいたのか……」

切歌「もし……これが完全になったら……」

全員「……」

すると警報が鳴る!!

愛「どうしたの!!」

「新たな反応です!!」

モニターを見ると

戒斗「あれは!!」

セレナ「ネフィリム……どうしてあれが!!」

翼「あれがどうであれ……私たちがやることはひとつ!!出動だ!!」

そういつて全員が出動をした

ライオトレイン「到着だぜ!!」

そういつて降り立つ

ビルド「ネフィリム……………」

エグゼイドゼロ「セレナ」

ビルド「私にとつてはあんまり会いたくなかつたわ……………」

そういつてビルドはドリルクラツシャーを構えている

エグゼイド「いくぞ!!」

そういつて全員が武器を構えたとき

「ダークストライク!!」

すると上空から何かがネフィリムを蹴り飛ばしたのだ……………」

フィス「お父さん……………」

ダークフィス「……………そうかてめえらが……………俺の敵だな」

そういつて構えている

エグゼイドゼロ「健介さん 何を言っているのですか!!」

ダークフィス「健介? あーこの体の奴か……………俺の邪魔をした男だな」

調「……………」

切歌「……………」

ダークフィス「愚かな男よ……………私の邪魔をしなければよかったのを自分の体で……………」

愚かすぎる」

調「黙れ……黙れ黙れ!!」

切歌「健介の体でしゃべるんじゃないやねえ!!」

そういつて2人は切りかかる

エグゼイド「おい!!」

翼「貴様!!」

ブレイブ「父上の体を返せ!!」

そういつて行くのであった

バロン「ちい!!」

エグゼイドゼロ「俺たちも止めましょう!!」

そういつて彼女たちの後へ続く

調「はああああああああああ!!」

切歌「くらうデース!!」

そういつて2人は鋸と鎌で攻撃をする

ダークフィスはそれをダークライオオソードで受け止めたのだ

ビルド「はああああああああああ!!」

ドリルクラツシャーで攻撃をする

翼「であああああああああああ!!」

「タドルファンタジー!!」

「バンバンシユミレーション!!」

そういつてブレイブ スナイプはレベル50になったのだ

スナイプ「この!!」

砲撃を放つ

ダークフェイス「ちい」

ブレイブ「はああああああああああ!!」

ブレイブが上からガシャコンソードで攻撃が当たる

ダークフェイス「ぐ」

ディケイド「は!!」

ゴースト「であああああああああ!!」

さらにライドブツカーソードモードとガンガンセイバーがダークフェイスに命中をしたのだ

エグゼイド「ならこれだ」

「ドラゴナイトハンターZ!!」

バロン「なら俺は」

「レモンエナジー」

エグゼイドゼロ「ルナミラクルゼロ!!」

そういつて青くなったのであった

ハンターアクションゲームマーレベル5　フルドラゴン　バロン　レモンエナジーに
なつたのであった

バロン「は!!」

バロンは接近をして　ソニックアローで攻撃をした

ダークフェイス「は!!」

ダークフェイスはダークライオンクロウで攻撃をしたが

エグゼイド「でああああああああああ!!」

エグゼイドのドラゴブレードがそれをふさいで　さらにドラゴンファンクから火炎
放射が放たれたのだ

ダークフェイス「ぐあ!!」

フェイス「祥平さん!!」

エグゼイドゼロ「ああ!!ミラクルゼロスラッガー」

そういつて切り裂いていくのだ

フェイス「でああああああああああ!!」

ファイルス「ライオブレイク!!」

斬撃が命中して ダークフィスを吹き飛ばしたのだ

ダークフィス「ぐ……まだこの体になれないからか……」

そういつて抑えているのであった

調「健介の体を返して!!」

そういつて攻撃をしたが

健介「いいのか？」

調「!!」

健介「俺を攻撃したら この体に傷がつくぞ？」

調「ぐ」

ダークフィス「馬鹿め!!」

するとダークフィスになって調を蹴ったのだ

調「がは!!」

フィス「お母さん!!」

ダークフィス「さてこれでとどめを刺してくれるわ!!」

ダークライオソードを振りかざしたが

調「……?」

「ダークフェイス」「ぐ……き……貴様……まだ意識があったのか!!」
そうダークフェイスの動きがカクカクになっているのだ

バロン「まさか 健介の意識があいつを抑えているってことなのか!!」

ダークフェイス「ぐ……相田 健介!!俺の邪魔をしおって!!」

調「健介!!」

ダークフェイス「ぐううう……やむを得ん!!」

そういつて消えるのであった

調「健介……!!」

エグゼイドたちも変身を解除をしたのであった

クロト「……」

戒斗「……」

祥平「……」

誰も声をかけられなかったのだ……

さて一方で

ダークフェイス「おのれ……相田 健介……いつまでも私の邪魔をしよつて……まだ慣れていないからかもしれないが……まあいい いずれこの体も私になるだろう……ふっはっはっはっはっは!!」

そういいながら変身を解除をしたのであつた

SONG基地へ戻ると

弦十郎「どうやら戻ってきたようだな……」

翼「おじさま……」

風鳴 弦十郎がいたのであつた

遺跡の秘密

弦十郎「・・・・・・・・・・・・・・・・」

クロト「お久しぶりです」

弦十郎「そうだなクロト君　さて君たちにはすぐに出発をもらうぞ」

戒斗「どういうことだ・・・・・・・・俺たちにどこへ行かせようとしている・・・・・・・・」

弦十郎「それは遺跡だ」

三人「!!」

ファイルス「まさか・・・・・・・・再びあそこへ行くことになるとは・・・・・・・・」

祥平「その場所とは？」

弦十郎「健介が行方不明になった遺跡だ・・・・・・・・」

そして全員が向かったのであった

クロト「ここが・・・・・・・・その遺跡なのか」

その場所は広く　中には文字などがかかれています・・・・・・・・

調「まさか・・・・・・・・またここへ来るなんて・・・・・・・・」

切歌「・・・・・・・・ですね・・・・・・・・ここには二度と来たくなかったな・・・・・・・・」

翼「ああ……………」

そういつて三人はあるく

セレナ「……………今のところは何もありません……………」

「……………ますか？」

クロト「ん？」

戒斗「なんだ」

アルマ「何か聞こえた？」

「私の声が……………聞こえますか？」

全員「!!」

すると光が発生をして彼女たちを包み込んでいくのであった

愛「……………ここは？」

剣「何もない場所だ……………」

「お待ちしておりました……………」

全員「!!」

見ると女性が立っていた……………

真奈「あなたは？」

「私はアマメウス……」

クロト「アマメウスだと……」

アマメウス「……今 健介さんの体にいるものは……かつて私たちが封印をしていた闇……」

戒斗「だがなぜその封印が解けたんだ……そして奴はどうして健介の中に」

アマメウス「……健介さんは……奴の封印が解かれたとき すぐにその強大な闇を自分の体に取り込んだのです……」

調「……健介はどうなるの……」

アマメウス「……おそらく闇に支配されて……彼という意識はなくなってしまうでしょう……」

調「ふざけないで!! あんたたちのせいで!! 健介は!!」

調は怒っていた……そのせいで健介は自ら苦しんでいる……何もできない……アマメウス「……」

クロト「俺たちがすることは決まった……健介から闇を追い払うことだ」

戒斗「そうだな……俺たちがすることはまずそこからだな」

アマメウス「ならこれをお持ちください」

そういつてアマメウスは何かを渡した

愛「それは？」

アマメウス「闇が彼の体から出たときにこれをやつにおかけください」

そういつて愛は受け取るのであった

そして光が消えて……愛たちは先ほどいた場所にいたのであった……
クロト「……」

戒斗「戻るか」

そういつて戻る時 連絡が来た

弦十郎「皆 よく聞いてくれ 敵が出現をした……そこに健介が現れて 敵と交戦をしている」

全員は急いで向かっていた

ダークフィス「ぐああああああああああああああ!!」

現場へつくと ダークフィスが咆哮をあげながら敵を切っていたのだ

ダークフィス「……ぐぐ……み……んな……」

エグゼイド「健介か!!」

ダークフィス「はや……く……俺を……たお……してくれ……」

バロン「ふざけるな!!」

エグゼイドゼロ「健介さん あきらめないでください!!」

ダークフェイス「ぐ……ぐおおおおおおおおおおおおお!!」
そういつておそいかかってきたのだ

デイケイド「お父さん!!」

ゴースト「パパ!!」

そういつて2人は抑えるが　ダークフェイスは攻撃をした

2人「きゃああああああ!!」

ブレイブ「く!!」

スナイプ「う……」

二人も武器を構えるが

スナイプ「撃てない……パパを撃つなんて……」

ブレイブ「切れない……私には」

ダークフェイス「ぐああああああ!!」

2人「が!!」

2人は蹴り飛ばされた

フェイス「お父さん……」

ファイルス「バディ　やめるんだ!!これ以上は!!」

ダークフェイス「ぐああああああ!!」

フィス「く!!」

フィルス「ライオンソード!!」

そういつて受け止めた

同じライオンモードが激突をする

エグゼイド「であ!!」

エグゼイドゼロ「であああああああああああ!!」

二人も入り

バロン「は!!」バロンのバナスピアーが刺さった

ダークフィス「ぐうううう……」

ダークフィスは抑えているが

ダークフィス「くつくつく」

先ほどとは違う雰囲気になった

フィス「お前か……」

ダークフィス「死ね」

そういつて連続した斬撃刃を飛ばし　フィスたちを吹き飛ばした

エグゼイド「なら!!」

「マイティ　シャイニング!!」

そしてゲーマードライバーを外して

エグゼイド「だ——いへんしん!!」

エグゼイド シャイニングゲーマーになった

エグゼイド「は!!」

ガシャコンブレイカーで攻撃をする　ダークフィスのダークライオソードを受け止めている

バロン「は!!」

マンゴーアームズになって攻撃をしていく

ダークフィス「ぐお!!」

エグゼイドゼロ「ストロングコロナモード!!」

そういつてパワー形態になって攻撃をしていく

ダークフィス「おのれ……」

そういつて構える

フィス「お父さん!!もうおねがい!!目を覚まして!!」

ダークフィス「無駄だ!!お前の父親は私に負けた!!」

ブレイブ「父上はそんな弱くない!!」

スナイプ「この世界を守ろうとしてきた男なんだよ!!パパは!!」

デイケイド「それにお母さんたちを守ってきたんだ……」

ゴースト「だから!!お父さん!!」

五人「目を覚まして!!」

ダークフェイス「無駄だと……うぐ!!」

するとダークフェイスが苦しみだしたのだ

ダークフェイス「ぐおおおおおおおおおおお……馬鹿な!!」

(娘たちが俺を呼んでいる……だからこそ俺は頑張れる!!)

すると光が発生をして

ダークフェイス「ぐあ!!」

ダークフェイスが倒れていた

そして もう一人の男が立っていた

健介「……」

相田 健介だった

調「け……健介?」

健介「……随分待たせてしまったね……調」

調「健介……健介!!」

調は健介に抱きついた 長い間行方不明になっていた……彼……戻ってきてく

れた・・・

ファイル「バディ」

健介「ファイル 迷惑をかけたな」

ファイル「お父さん ファイル返すよ」

健介「いいや・・・愛 それはお前が持つていてほしい・・・」

ファイル「でも・・・」

健介「見せてほしい・・・お父さんにお前が使うファイルを!!」

ファイル「うん!!」

健介「剣 真奈 紗代 花菜!!お前たちの力も見せてほしい!!」

四人「はい!!」

ダークファイル「おのれ・・・だがようやく我も自由になれた・・・なら遠慮はし

ないぞ!!」

ファイル「それは私たちの台詞です!!」

ブレイブ「父上の体をもてあそんでくれた罪は重いぞ!!」

デイクイド「そういうことだ」

ゴースト「覚悟をしてください!!」

ファイル「ライトニングドラグユニコーン!!」

「タドルレガシー!!」

「バンバンシユミレーション!!」

「クウガ アギト 龍騎 ファイズ ブレイド 響鬼 カブト 電王 キバ ダブル
オーズ フォーゼ ウィザード 鎧武 ドライブ ゴースト エグゼイド!! ファイナ
ルカメンライド デイクライド!!」

「グレイトフル!! ガッチリミナーコッチニシナ!!」

全員「変身!!」

フィスはライトニングドラグユニコーン ブレイブはレガシーゲームマーレベル10
0 スナイプはシユミレーションゲームマーレベル50 デイクライドはスーパーコンプ
リートフォームに ゴーストはグレイトフルになったのだ

フィス「覚悟をしてください!!」

エグゼイド「なら俺たちは……雑魚たちを倒す」

バロン「お前たちは奴を倒せ!!」

エグゼイドゼロ「見せてあげましょう!!」

ルノ「皆 頑張つて!!」

五人「はい!!」

ダークフィス「こい!! 仮面ライダー!!」

帰ってきた相田 健介 激突 ダークフェイス!!

ダークフェイス「くらうがいい!!」

ダークフェイスはダークライオソードから斬撃刃を飛ばした

スナイプ「は!!」

スナイプは砲撃でその斬撃を消して そのまま砲撃を続けたのだ

ダークフェイス「どあ!!」

ダークフェイスはスナイプの砲撃で ダメージを受けた

ブレイブ「はああああああああああ!!」

ゴースト「でああああああああああ!!」

さらにブレイブ ゴーストの二人の斬撃がとび ダークフェイスはさらにダメージを受ける

フオーゼ「でああああああああああ!!」

さらにフオーゼ コズミックスティツが

「エレキ ON!!」

バリズンソードにエレキスイッチをセットをして ソードモードにしたバリズン

ソードでダークフィスを切りつける

ダークフィス「ぐおおおおおおおおおおおおおおお!!」

ダークフィスはダメージを受けていく

エグゼイド「はああああああああああ!!」

さらにエグゼイド シャイニングゲーマー

バロン「は!!」

バロン レモンエナジーアームズ

エグゼイドゼロ「であああああああああ!!」

エグゼイドエロ

ルノ「ええい!!」

ルノのワイバーンがそれぞれの武器で ダークフィスに攻撃をした

フィス「だああああああああ!!」

さらにフィスが接近をしてユニコーンヘッドで連続したドリルパンチをダークフィ

スに当てていく

ダークフィス「ぐお!!」

フィス「あなただけは絶対に許さない!!お父さんの体をつかったこと!!」

そういつて蹴り

フェイス「私たちやお母さんを悲しませたこと!!」

そういつてユニコーンジャベリンでさらに攻撃をして

フェイス「さらにお父さんの体を使って人質にしたこと!!」

ドラグーンセイバーで切っていく

フェイス「私たちは絶対に許さない!!」

デイクライド「愛!!」

「ファイズ カメンライド ブラストアー」

するとデイクライド 超コンプリートフォームの隣にファイズ ブラストアーが立って

いた

「ファイナルアタックライド ファアファアファイズ!!」

デイクライド「はあああ．．．は!!」

2人はフォトンバスターを放ったのだ

ダークフェイス「ぐああああああ!!」

ダークフェイスは吹き飛ぶ

ダークフェイス「馬鹿な．．．闇である私が．．．なぜ人間に押されているのだ

!!」

フェイス「当たり前です!!あなたにはわからないことです!!」

「フィルス「愛!!これだとどめをさすぞ!!」

フィス「うん!!」

デイケイド「なら私たちも!!」

そういつて全員が隣に立った

「ファイナルアタックライド デイデイデイケイド!!」

「リミットブレイク!!」

「ゼンダイカイガン グレイトフル オメガドライブ!!」

「キメワザ!!タドル クリティカルストライク!!」

「バンバンクリティカルファイアー!!」

フィルス「必殺!!ライトニングメテオストライク!!」

6人「はああああああああああああああああ!!」

6人は一気に飛び

6人「はああああああああああああああああ!!」

シックスライダーキックをダークフィスにお見舞いさせようとしたが

「させませんよ」

エグゼイド「な!!」

見ると ひとりの女性が 6人のライダーキックを受け止めていたのだからだ

アルマ「戒斗!!」

そこに避難を終わらせてきた 奏者たちが到着をした

翼（ク）「なんだあれは……」

切歌「健介!?!」

健介「話は後だ!!」

そういつて見ているのであつた

カナリア「は!!」

カナリアは6人のライダーたちを吹き飛ばしたのだ

6人「きやああああああ!!」

エグゼイドゼロ「貴様は!!」

カナリア「始めまして 私はカナリア……あなたが戦っている機械兵団の

幹部とでも言っておきましょう」

奏（ク）「その幹部が何の用だい!!」

カナリア「そうですね……私が用があるのは」

ダークフェイスへ振り向いた

そして ぐさ!!

ダークフェイス「ぐお……ぐああああああ!!」

そうダークフィスを貫いて そのまま消滅をさせたのであった

全員「な!!」

カナリア「私がほしかったのは この闇の力・・・そしてこれですよ」

そういつて持っていたのは

「ダークライオンモード」

カナリア「変身」

すると彼女の体を覆う 仮面ライダーダークフィスへと変身をしたのであった

健介「お前はそれが目的だったのか」

ダークフィス「そうですね我がマスターの命であなたたちの戦いを見ましたので・・・

それであなたたちが彼をピンチにさしてくれましたので このチャンスをうかがっていた

のですよw」

そういつて笑うのであった

バロン「貴様!!」

そういつてバロンたちは攻撃をしようとしたが

ダークフィス「・・・無駄ですよ」

「ポーズ」

すると時が止まったようになった

ダークフェイス「は!!」

そういつて右腰についているダークフェイスガンガンモードで彼らを撃つたのだ

ダークフェイス「ふ」

「リストタート」

3人「ぐあああああああ!!」

エグゼイド「今のは・・・ポーズだと・・・」

ダークフェイス「その通りです 神童 クロト・・・いいえ 織斑 一夏」

クロト「どうして俺の前の名前を・・・」

ダークフェイス「簡単ですよ あなたたちの戦いはずっと見てきましたので・・・そこにいる駆文 戒斗 高田 祥平 ルノ・アーカディア・・・あなたたちの戦いは見えたのですから・・・ずっとね」

バロン「なんだと・・・」

祥平「まさか!!」

ダークフェイス「ええ夢の星との戦いも そしてあなたたちが共闘をして マーベル博士やダークジエネラルと戦ったことも・・・」

健介「・・・」

ダークフェイス「まあ今は関係ないでしょう・・・さて私の役目はここまでです・・・」

それでは彼らが相手をしてくれますよ」

そういつてダークフィスが指を鳴らすと 機械が現れる

ダークフィス「合体機械 アクスタイン 彼らをやっつけなさい」

そういつてダークフィスは消えるのであった

フィス「ぐ……」

健介「……変身ができたらな……」

そう健介は今 変身アイテムがなかったからだ……ファイルスは今 愛が使用をし

ているため フィスになることができないのだ

すると光が発生をした

健介「!!」

調「健介!!」

健介「ここは……」

アマメウス「……」

健介「あなたは……」

アマメウス「本当にごめんなさい……私たちが奴の封印を……」

健介「あの時感じた……あなただったんですね」

アマメウス「そうです……あの闇は私たちがここへ封印をしたもの……そ

してあなたには多大なご迷惑をおかけしました……」

健介「奴がもし出ていたらこの世界は終わっていた……だから俺はこの中に奴を
入れたんです……」

アマメウス「……でもあなたは……」

健介「わかっているつもりです……今 俺の体には光と闇が流れているのを……」
そういつて彼は目を開く、先ほどの目の色が変わっており 片目は赤くなっており
もう一つは青になっている

アマメウス「これを受け取りください」

そういつて彼女が投げたのは

健介「カードとベルト？」

するとカードが光り出した

健介「これは……」

カードが光って 名前が出てきた

「よろしく頼むよ」

健介「？」

「……だ ベルトです」

すると先ほど静かだったベルトがしゃべり出した

健介「お前は」

「私には名前がありません……………」

健介は少しだけ考えて

健介「お前の名前はデステイニーだ」

デステイニー「デステイニー 運命ですネ……インプット 私はデステイニーです」

健介「よろしく頼むよデステイニー」

デステイニー「ではマスター 私を腰にセットをしてください」

健介「こうだな？」

そういつてセットをした

デステイニー「はい それで先ほどのカードを私にインストールをしてください」

そういつて健介はベルトにカードを近づけると カードが消えて ベルトに吸収さ

れる

デステイニー「仮面ライダーデステイニー!!コンプリート!!」

すると健介の体が光りだして 姿が変わったのだ

「これが……………」

デステイニー「そうですマスター 名前は仮面ライダーデステイニー」

デステイニー「…………デステイニー」

ティニ「はい!!」

わかりずらくなるため ベルトの方がティニになりますので

デステイニー「ティニ いくぞ!!」

ティニ「はいマスター!!」

そういつて彼は背中中の翼を開いて空を飛ぶ

光が消えてそこに立っていたのがいた

エグゼイド「なんだあれは・・・」

バロン「先ほどまでいなかったぞ」

ルノ「一体誰なんでしょうか・・・」

「俺は 仮面ライダーデステイニーだ!!」

そういつて 彼はカードを出して

ティニ「スラッシュブレイカー」

すると剣が出てきて装備をする

デステイニー「であああああああああ!!」

背中中の翼が開いて 彼は空を飛ぶ

アクスタイン「・・・」

アクスタインは右手をふりかざしてデステイニーにめがけてくる

「デステイニー「甘い!!」

「デステイニーはそれをかわして スラッシュブレイカーで攻撃をする

「デステイニー「テイニ ほかに何かがある」

「テイニ「フォームを変えるカードがあります」

「デステイニー「これか!!」

「そういつてカードを出して テイニにかぎす

「テイニ「フォームカード デステイニー ヘビーウェポンモード!!」

すると地上へ着地をすると デステイニーの肩部には脚部にミサイルが装着をされていき さらに両手にはツインガトリングが装着されていく 色も先ほどよりも青くなっていく

翼「雪音みたいになったのか!!」

「デステイニー「は!!」

胸部装甲が展開をして ガトリングが回転をして弾が放たれる

さらに肩部 脚部のポットが開いてミサイルが飛ぶ

アクスタインはその攻撃を受けて ダメージを与えられる

「デステイニー「まだまだ!!」

ティニー「フォームチェンジ ミラーモード」

すると色が今度は緑になり ミラーモードとなった

デステイニー「ミラーナイフ!!」

そういつて右手を前に出すと ミラーナイフが飛び アクスタインに命中をしてい

く

アクスタインは砲撃をして 仮面ライダーデステイニーは命中をした・・・だが

バロン「な!!」

そうデステイニーは割れて 落ちたのは鏡だったのだ

デステイニー「残念」

そういつて武器カードをかざす

ティニー「ミラートマホーク」

そういつて二丁投げて アクスタインの頭部の角を切ったのだ

デステイニー「この姿だと鏡を使ったトリックキーが使えるってわけさ」

そういつて鏡を出して 右腰についていた銃を出して 鏡に放つ

すると鏡にはいった弾が別の鏡から出てきたのだ

そしてその弾がアクスタインに命中をして アクスタインは倒れる

デステイニー「まだまだ」

そういつてフォームカードを出して

ティニ「工事現場モード!!」

すると色が黄色くなったのだ

デステイニー「であああああああああああ!!」

すると機械が現れた ミキサー車だ

それが左手に装着されて

デステイニー「ウォールシユート!!」

ミキサー車からコンクリートが放たれて アクスタインの足に命中をしたのだ

さらにシヨベル クレーン車が現れて それが両手に装着された

デステイニー「ワイヤーフックパンチ!!」

そういつてクレーンを放ち 体を巻き付かせて

デステイニー「シヨベルナツクル!!」

そういつて連続した バケツで殴り

そして右手にドリルが装着された

デステイニー「いくぞ!!」

そういつてカードを出した

ティニ「必殺!!マキシマムテンペスト!!」

すると右手のドリルが回転してデステイニーの背中の翼が開いて 空を飛ぶ
デステイニー「でああああああああああ!!」

ドリルで次々にアクスタインを攻撃をしていき 穴を開けていく

デステイニー「これで終わりだー！ー！ー！ー！ー！ー!!」

そして腹部に穴が空いて・・・それがとどめとなりアクスタインは爆散をしたので
あつた

そして着地をして 手をベルトの前に出すと カードが出てきたのだ
すると姿が戻り 健介になったのだ

ルノ「健介さん？でいいのですか」

健介「君は始めましてだね 俺は相田 健介 ありがとうね」

ルノ「いいです!!ルノ・アーカディアです!!」

クロト「健介 久しぶりだな」

健介「クロト 戒斗 祥平・・・えっと何十年ぶり？」

戒斗「まあそうなるか・・・だが俺たちよりもお前に会いたいひとがいるだろ
？」

祥平「そうですよ」

健介はそう思い振り返ると

そこに立っているのは自分が守りたいと思っていた 愛する人と娘たちであったか
らだ

調「け……健介……」

調は涙を流しながら 愛する人の名前を言う

健介「……これが本当の再開だな……ただいま 調 切歌 翼 セレナ
響 奏」

調「健介……健介……」

そういつて彼女たちは健介のところに行き 彼に抱き付いたのだ

切歌「夢じゃないですよね!!本物の健介ですよね!!」

健介「ああ俺は本物だよ 切歌」

翼「よかった……よかったです……健介さん」

奏「ぼつかやろう!!あたしたちがどれだけ心配をしたと思ってるんだ!!」

健介「それに関してはすまない……」

ファイルス「バディ」

健介「ファイルス……娘たちを守ってくれてありがとうな」

ファイルス「バディ 私は何もしてない……彼女たちを仮面ライダーにしまっ
たんだ……だから」

健介「いいや それでも俺はお礼を言うぜ……ありがとうな」

ティニ「あのー私をわすれないでください マスター」

ファイルス「なんだ 女の人だと!!」

ティニ「私です」

するとベルトが人になった

ファイルス「なんとベルトが人になれるのか!!」

ティニ「まあそうですね 変身が必要な時は私を呼べばすぐに飛びますよ」

健介「それよりも」

ティニ「そうでした 始めまして ファイルスさん 私は今 マスターのパートナーを

務めています デステイニーといいます ティニでかまいません」

ファイルス「そうか…… 私はファイルスだ よろしく頼む」

ティニ「はい」

戒斗「だが問題はカナリアという女だ」

クロト「そうだな……」

祥平「奴はダークフィスの力と闇を自分の中に入れた……しかも人格を消滅をさ

せたのでしょうか？」

アーナス「だったら厄介じゃない？」

愛「お父さん……」

健介「大きくなったな 愛……真奈 剣 茜 紗代……花菜も」

そういつて大きくなった 娘たちになでなでをしている

剣「父上……恥ずかしいですが……でも今は……」

健介「はっはっは 剣 母親に似てきたな 美人になるさ」

剣「び……美人……ありがとうございます 父上」

そういつて笑っている娘たちを見る

真奈「そういえばパパ!!」

健介「どうしたんだ?」

真奈「実はねクリスマスママとマリアママも子供を」

健介「子どもだと!!誰の子どもだ!!」

茜「お父さん落ち着いて お父さんの子どもだよ」

健介「え……そ……そうか……」

紗代（まあ不安になるよね……お父さんだって……本当は私たちと一緒に暮らしたかった……でもその体に取り込んでいる闇がいつ私たちを襲ってくるかわからないから……お父さんは行方をくらましたんだ……）

つとセレナの娘である紗代はそう思ったのであった

そしてその様子を見ているクロト達

クロト「よかったな 健介……………本当の意味で帰ってこれたんだからな」

響（ク）「うう 感動ですよ……………これ健介さんだつてつらかったのに……………仲間たちから離れないといけないから……………」

翼（ク）「そうだな……………彼女たちだけじゃない……………彼も苦しんでいた……………」

戒斗「……………」

アルマ「あれ？戒斗涙を流してるね」

2人「え!？」

戒斗「……………俺だつて泣くときはある……………あいつは帰ってきた……………あいつらの元に……………あいつが行方不明と聞いたときは俺もびっくりをした……………あいつは共に戦ったからな……………あいつの強さを俺も知っているからな……………」

アルマ「あーこの間 世界から戻ってきたときに言っていたね」

戒斗「そうだ……………再びこの世界へ来た時……………あいつに娘なんていなかったからな……………俺たちが来た時よりもこの世界は進んでいることになった……………だがあいつの姿を見えなかったからな……………まさか自ら闇をとりこんでいたとはな……………だがあいつらしいやり方だと俺は思ったのさ」

アルマ「そうだね」

祥平「よかった……」

アーナス「そういえば祥平 黙ってきたのはこのため？」

祥平「そうだね」

パラド（祥平）「いつたい何が見えたんだ？あの時」

祥平「翼さん達が涙を流していた……のが見えたんだ」

ゼロ「だがそれが現実になった……それがあの映像だったってわけか……
だがお前はエグゼイドになれない……」

祥平「だとしても俺には皆がいる……まあ説明が大変だけどねw」
そういつて笑っている祥平

ゼロ「……」

ゼロは無言でウルティメイトブレスの中で見ているのであった

そして彼らはSONG基地へ戻る時

ライオトレイン「久しぶりだな 健介」

健介「ああライオトレイン お前もありがとうな」

ライオトレイン「俺ができることはこいつらに力を貸してやることだけだ」

そういつて再びライオトレインに乗り込むのであった

SONG基地に帰還をした俺たちを待っていたのは

クリス「健介!!」

マリア「健介!!」

クリスとマリアであった

麗奈「おかえり 健介」

未来「兄さん・・・・・・・・」

健介「ああ心配をかけたな 未来・・・・もう大丈夫だ」

未来「にいさんーーーーーー」

そういつて未来は健介に抱き付いた

ティニ「・・・・・・・・む・・・・・・・・」

ファイルス（おかしいな・・・・彼女の健介を見る目が・・・・まるで乙女・・・・ま・・・・

まさかね・・・・・・・・）

つとファイルスがティニを見て思ったことであった・・・・

健介は戻ってきた だが敵はまだまだいるのであった

仮面ライダーデスティニーの設定

デスティニードライバー

意思を持つているベルトで 人間状態になることが可能なベルト

姿は高町なのはで *strikerS*の姿である CVも田村 ゆかり

健介のことはマスターと呼び 健介が呼べばいつのまにかそばにいるってことらしい

性格はやさしく ライダーの人たちに互角で戦えるのであった 人間の姿のままですが彼女には何か秘密を抱えているようだ……その隠していることとは
ドラグーン 健介がつくった ドラゴンジェット同様に人工AIを搭載しているマシンであり 相棒である

ドラゴンジェット同様にバイクやジェットモード さらに車モードになることも可能である

変身

健介がデスティニードライバーを腰にセットをして 左腰についているからカードを出す

仮面ライダーデステイニーと書いたカードを ベルトの前にかざして 変身という

カードがベルトに吸収されて 仮面ライダーデステイニーに変身が完了をする

カードには武器カード フォームカード 必殺カード 仮面ライダーカードと四種類ある

フォームを紹介をしよう

デステイニーフォーム 基本形態で 最初はこの姿から変身をする

基本形態ながら 背中 of 翼を展開をして 空を飛ぶことができる

姿は デステイニーガンダムそのものであり 武器はデステイニーの武器がそのままに

スラッシュブレイカーという剣を装備している 主に高機動な戦いをする戦法でもある

フルバーストモード フォームカードで変わったデステイニーの姿

色はヘビーアームズカスタムがモチーフであり 武装もヘビーアームズカスタムだが 背中には翼が残っており それ以外が変わった感じである

弾切れなども起こることもないので撃ち放題である

工事現場モード 言ってしまうと ダイボウケンのような姿になる 両手は通常の

腕をいっているが、そこにドリル、シヨベル、ミキサークレーンが合体をして、それぞれの技が使用可能になる。

さらに両手両足に合体をしたら、ダイタンケンみたいになり、必殺技はアルティメットフラッシュである。

ミラーモード 鏡を使った姿になる。デスティニーで色は緑とミラーマンがモチーフである。

武器はミラートマホークという斧以外にも、ミラーマンが使ったミラーナイフ、シルバークロス、ミラーローリングが使える。

そのほかにもミラーナイトがした鏡の姿を作ったり、鏡を作ってそこから銃を放ち、弾がどこかの鏡から出てくるようにしている。

エレメントモード この姿はフィスのエレメントスタイルと同様な姿になり、主に属性を使った攻撃が得意である。

こちらはフオームカードで変身をするため、楽は楽である。

炎 風 水 土 雷 岩などの属性を使用することで様々な攻撃が可能になる。武器もエレメントソードにエレメントライフルが装備されており、エレメントパワーを注入することで、その属性の攻撃をしようすることができるようになる。

シャイニングダークネスモード 健介の中にある光と闇の力を解放させることで使

えるフォームカードで 姿はフィスのシャイニングダークネスモードと同様である

武器はシャイニングカリバーとダークネスブレイドとフィスが使用しているのとは違う武器になっている 二刀流の剣から放たれる斬撃で相手を切ることができる

必殺技はシャイニングダークネススラッシュ

ドラグーンモード デステイニーにドラグーンが合体をした姿 背中のウイングなども収納されて ドラグーンの翼に変わる 武器もドラグーンセイバーを使用してフィス ドラゴンモードのように ドラグーンの顔や爪を出したりして攻撃をするこ
とが可能である

シンフォギアモード これはフィス同様に シンフォギアの力を使うことができる
フォーム デステイニーの通常はシャルシャガナが基本形態でそこから帰ることができるようになっている

さらに奇跡のシンフォギアモード イグナイトモードになることが可能である

百獣モード ガオキング ガオマッスル ガオイカルスなどの百獣の力を使用することができ さらに両手が光って変わることが可能で スピアーモード ソード&シールド ストライカー ダブルナックルモード クロスホーンモードになれる

通常はガオキングモードだが ガオマッスルモードやガオイカルスモードに変身が可能

魔法モード この姿ではリリカルなのはに登場をした レイジングハート バル
デイツシユなどが使用可能になるフォームで 姿は白くなる デステイニーの姿が白
くなり武器もレイジングハートたちを使用するみたいになっているのだ

ほかにはレヴァアティン クロスミラージュなども変えることができたのであった
この姿の時はティミがサポートをする

カード紹介

「仮面ライダーデステイニー」 デステイニーに変身をするカード

「武器アイコン」 武器を出す

「フルバースト」 フルバーストモードへと変身をするカード

「ミラー」 ミラーモードへと変わるカード

「工事現場」 工事現場モードへ変えるカード

「エレメント」 エレメントモードへ変えるカード

「シャイニングダークネス」 シャイニングダークネスモードへ変えるカード

「必殺」 必殺技を発動させるカード

「分身」 自身を分身をするカード

「透明」 自身の姿を消すカード

「高速」 自身のスピードを上げるカード

「剛力」 自身のパワーをあげるカード

「ドラグリーン」 ドラグリーンを呼び出して バイクモードジェットモード 合体をして

ドラグリーンモードになる

動きだす 歯車

SONG 基地

健介「・・・・・・・・・・・・・・・・」

ティニ「えっと・・・・・・・・マスター？」

健介「いやーティニってかわいいなって」

ティニ「かわ・・・・・・・・いいですか？」

ティニは赤くしているのであった

健介「ふーむ・・・・・・・・本当にベルトだとは思えないからな」

クロト「何しているんだお前」

健介「クロトか なーにティミのことを調べていたんだよ」

クロト「そうか」

パラド（ク）「なあ健介!!俺と勝負をしてくれ!!」

健介「パラドと？」

パラド（ク）「いいだろ？」

健介（確かにデステイニーの力を試すのもありか）「いいぜ!!」

パラド(ク)「よっしや!!早速やろうぜ!!」

健介「さーてティニ」

ティニ「わかつてますよ」

そういつて手に抱き付いたのだ

健介「え!？」

ティニ「へっへーん」

素晴らしいながら歩くのであった

シュミレーション室では、フェイスたちが戦いをしているのであった

スナイプ「くらいなさい!!」

そういつてバンバンシュミレーションの砲撃で攻撃をしている

ブレイブ「おっと」

ブレイブはタドルファンタジーでよけている

健介「お疲れ」

2人「パパ!!(父上)」

フェイス「お父さん どうしたの？」

ファイルス「そうだな バディ」

健介「ああパラドと今から戦うんだよ」

そういつてお互いに変身をする準備をする

戒斗たちも見学しに来たのだ

戒斗「みせてもらうぞ 健介 お前の新しい力とやらを」

健介「それじゃあティミ」

ティミ「わかりました」

そういつてティミは光りだすと健介の腰にベルトが巻かれている 健介は左腰につ
いているのを開いてカードを出す

ティミ「デステイニー COMPLETE!!」

健介「変身!!」

パラドクス「ク」変身」

「デュアルアップ!!ノックアウトファイター!!」

仮面ライダーデステイニーに仮面ライダーパラドクスになったのだ

パラドクス「さーていくぜ!!」

そういつてパラドクスは拳で攻撃をしてきた

デステイニー「は!!」

デステイニーも拳で攻撃をしていく

パラドクス「は!!」

パラドクスは炎を飛ばして攻撃をしてきた

デステイニー「おっと」

デステイニーは背中の翼を開いて ライフルで攻撃をする

パラドクス「ちい!!」

パラドクスはライフルの弾をかわしながら ゲーマードライバーを付けて パー

フェクトノックアウトになった

デステイニー「であああああああああああ!!」

デステイニーは接近をしてアロндаイトを展開して攻撃をする

パラドクス「おっと」

パラドクスはガシヤコンパラブレイガンでそれを受け止めた

デステイニー「なら」

テイニー「スラツシュブレイカー」

剣を出して 二刀流で攻撃をする

パラドクス（ク）「く!!」

デステイニー「であああああああああああ!!」

そういつて吹き飛ばす

パラドクス（ク）「なら!!」

ガンモードにしてガシヤットギアデュアルを刺した

「パーフェクトクリティカルフィニッシュ!!」

そしてさらにメダルを自身に投入をしたのだ

「鋼鉄化 分身化!!」

するとパラドクスは分身をして 鋼鉄の弾を放ったのだ

「デステイニー!!」

デステイニーは必殺カードをテイニの前にかざす

テイニ「必殺!!デステイニーブレイク!!」

両手の剣が光って

「デステイニー「は!!」

鋼鉄化した弾を切り裂いたのだ

「デステイニー「なら」

テイニ「フォームカード!!エレメント!!」

するとデステイニーの色が赤くなっていく

「デステイニー「は!!」

「ばさり!!赤くなったデステイニー……」

「デステイニー「であ!!」

両手から炎の弾をだして攻撃をする
パラドクス「どあ!!」

さらに接近をして緑色になった

デステイニー「はあああああああああああああああ!!」

接近をして風の蹴りを噛ましていく

パラドクス「ぐ!!」

パラドクスは攻撃の隙をついてデステイニーのボディを切つたが……

パラドクス「な!!」

するとパラドクスの体を巻き付いて 姿が現す デステイニーエレメントウオー

ターになっていたのだ

デステイニー「サブミッション!!」

そういつて関節技をかけていたのだ

パラドクス「いていて!!」

デステイニー「どりゃ!!」

そのままバックドロップをかました

パラドクス「いていて!!」

そういつて立ちあがってパラブレイガンで撃つてきたのだ

デステイニー「どあ!!」

さすがにくらってしまったが 黄色になって岩を作って飛ばしたのだ

パラドクス「ちい!!」

パラドクスは岩をくらってしまったのだ

デステイニー「さーて」

そういつてデステイニーはエレメントソードでエレメントパワーを注入している

デステイニー「は!!」

そういつて地面に刺して パラドクスの足を凍らせたのだ!!

パラドクス「な!!」

デステイニー「さて」

ティニ「必殺!!エレメントストラッシュ!!」

すると属性の色が集まって赤 青 黄 緑が集まって 刀身が光る

デステイニー「でああああああああああ!!」

そういつて攻撃をしたが・・・ぴたっと止めたのであった

パラドクス「降参だ つたく」

そういつてお互いに変身を解除をして テイミも人間に戻るのであった

愛「あれが・・・お父さんの・・・」

そういつて愛は走って

愛「お父さん!!」

健介「ん？」

愛「私と戦って!!」

健介「・・・お前とか？」

そういつて健介は考える・・・

健介「いいだろう フィルス遠慮をするなよ？」

フィルス「ああわかつているさ!!愛!!」

愛「うん!!」

健介「ティミ もう一回頼む」

ティミ「わかりましたマスター」

そういつてお互いにフィス デステイニーへと変身をした

一方で宇宙

「カナリアよ」

カナリア「ハイ主」

「どうだ?闇の力は」

カナリア「はい いい調子です」

「進行はどうなっている?」

カナリア「ええ奴らも邪魔をしてきましてなかなか」

「ふむ……ならば奴を出撃をさせるがいい」

カナリア「ですが……奴はAIが」

「この際 仕方があるまい……」

カナリア「わかりました 主」

一方で大炎軍団は

セイレン「フェニックス どうやら面白いことになっているわね」

フェニックス「その通りですね 相田 健介……奴が元に戻り新たな力を手にし

たようです」

セイレン「そのようね……だが私たちは温存しておくのよ……」

フェニックス「は!!その間に準備を終わらせておきます」

そういつてフェニックスは去るのであった

さてSONG基地では

祥平「フィスとステイニーですか……」

戒斗「かつて健介が使っていたのと 今健介がつかっている力……」

ルノ「どちらが勝つのでしょうか?」

クロト「戦闘的には健介が勝つだろう……だが……ファイルスもいるからな……これはどう転がるかわからないぞ」

そういつて全員が見ている

フィス「いくよお父さん!!」

ライオンクローを展開をして 攻撃をしてきた

デステイニー「!!」

デステイニーは肩のフラッシュエッジを抜いて ビームサーベルにしてライオンクローをはじいていく

フィス「はああああああああああああああああ!!」

さらに蹴りを嘯ましてくる

デステイニー「く!!」

デステイニーは左手についている盾で蹴りをふさぐ

さらにフィスは姿を変えた

ファイルス「オクトパス!!」

フィス「チェンジ!!」

オクトパスランチャーを構えて砲撃をしてきた

デステイニー「く!!」

デステイニーはライフルで攻撃をして 砲撃の弾を撃破していく

デステイニー「なら!!」

テイニ「ミラーモード COMPLETE」

すると緑色のミラーモードになった

ファイルス「気を付けたまえ 愛」

ファイルス「みたいだね」

そういつて砲撃をしていく

デステイニー「ミラーローリング!!」

そういつて連続した 光輪を投げてきた

ファイルス「!!」

ファイルス「任せたまえ リフレクトディフェンダー!!」

そういつてリフレクトディフェンダーを起動させて 光輪をガードをしていく

ファイルス「なら!!」

ファイルス「必殺!!オクトパスパニッシュ!!」

そういつて砲撃をする

デステイニー「・・・げ」

するとタコが爆発をしたのだ

デステイニー「どあああああああ!!」

デステイニーは光弾を受けるが

デステイニー「であ!!」

フィス「いた!!え?」

そう後ろに鏡が発生させて ミラーナイフを投げただ

フィス「いたたた・・・もうお父さんたら!!」

そういつてダツシユをしてデステイニーに接近をしていく

デステイニー「なら!!必殺技!!」

そういつてカードを出して

テイニ「必殺 ミラーデステイニーキック」

フィス「こつちも!!」

ファイルス「必殺!!オクトパスメテオストライク!!」

2人「はあああああああああああああ!!」

2人の蹴りが命中をしてお互いに力を押しをしていくが・・・

フィス「ぐ!!」

デステイニー「せいやあああああああ!!」

フィス「きやあああああああ!!」

わずかでステイニーの勝利で終わったのであった

フィス「いたたたた．．．やっぱりお父さん強い」

ステイニー「なーにまだまだ子供には負けないつもりさ」

そういつてお互いに変身を解除をして それぞれが部屋へ戻っていく

その夜

健介「ちゅ．．．はむ」

調「うむ．．．ちゅば．．．はむ」

つと健介と調はキスをしていた．．．なにせずつと離れていたのもあつて．．．調はすぐに健介がいる部屋へ来て キスをしてきたのだ

調「ねえ．．．健介．．．私を今日は抱いてほしい．．．もう二度と離れたくないから．．．私を．．．壊すほどに．．．」

健介「いいだろう．．．俺もかなりの久しぶりだからな．．．」
そういつて二つの影は一つになったのであつた．．．

大火炎軍団と機械軍団

朝

調「・・・・・・・・・・・・・・・・」

私は起きた・・・・・・・・今の私は裸であつた・・・・・・・・ちらつと私は隣を見る

健介「すー・・・・・・・・」

私の愛する人が隣にいる・・・・・・・・夢じゃない・・・・・・・・本物の健介がここにいる・・・・・・・・

そしてお腹を私はさすつた

調「うふふふ」

つと笑っている

(ずいぶん幸せそうだな)

調(まあね・・・・・・・・了子さん)

了子(そのようね・・・・・・・・良かったわね・・・・・・・・全くあなたってこは)

調(ごめんなさい・・・・・・・・)

了子(まあ彼が無事だったからよかつたじゃないの)

そういつていう了子さん・・・・・・・・

健介「ん・・・・・・・・・・」

調「おはよう 健介」

健介「おはよう 調」

調「昨日は激しかったわw」

健介「あ、はい」

そういつて私たちは起きて着替える

調「・・・・・・・・なんかまた胸 大きくなつたような・・・・・・・・」

素晴らしいながら私はブラジャーをつける・・・・・・・・だが

調「きつ・・・・・・・・」

Dになつたのかな・・・・・・・・前まではAとかBだったのに・・・・・・・・いつ大きくなつたんだらう・・・・・・・・

そして健介は

健介「これが俺の子どもなんだな？」

クリス「ええ・・・・・・・・名前は優子」

マリア「私たちの子どもは歌奈よ」

健介「そうか 優子と歌奈か・・・・・・・・」

そういつて健介は見ている・・・・・・・・

愛「お母さん　なんか幸せそうだよ？」

調「そう？」

愛「うん!!前よりも明るくなった」

愛にまで言われるって……どれだけ私落ち込んでいたのかな……心配をかけたやつだな……

調「ごめんね愛　心配をかけて」

愛「ううん大丈夫だよ」

剣「母上も」

真奈「ママも」

2人「げんきになってよかったね!!」

翼「あ……ああ」

切歌「あはははは……デース」

翼(ク)「しかし……私が子供を産んでるってのも……」

響(ク)「翼さん……それ私もそうなんですけど……」

戒斗「子どもか……」

翼(戒斗)(戒斗との子どもか……)

奏(戒斗)(一番に産みたいな……あたしは)

アルマ（あらーこの二人乙女の顔になってるしw）「そういえばこちらの世界の翼」
翼「なんですか？」

アルマ「今は歌手はしてないのですか？」

翼「ああそのことですか・・・今は引退をしますね・・・」

健介「ああ俺と結婚を発表をしてから 引退宣言をしてなw」

奏「んであたしやマリヤも引退をしているんだよな」

マリヤ「そうね・・・」

翼（戒斗）「え？」

奏（戒斗）「まじかよ」

奏「ああ・・・年かもしれないが 昔みたいに長く歌えなくなっちゃってな・・・」

結婚を機に引退をしたんだよ」

祥平「なるほど・・・」

アーナス「なら納得ね」

パレード（祥平）「だな」

すると警報がなった!!

弦十郎「どうした!!」

「弦十郎総司令!!敵が現れました!!」

見ると

翼「あれは 大火炎軍団!!」

セレナ「まさか彼らが動くなんて」

さらに警報がなった

健介「今度は!!」

「さらに機械軍団が現れました!!」

弦十郎「一気に二つの軍団が動くとは……」

健介「愛!!お前たちは大火炎軍団の方へ向かってくれ 俺は機械軍団の方へ行く」

クロト「なら俺や戒斗はお前と一緒に行くとするか」

戒斗「そうだな」

クリス「待ちな」

マリア「私たちも戦うわ」

全員「!!」

響「クリスちゃん!?!」

セレナ「姉さん!?!」

クリス「丁度なまっっているからな……復帰相手にはふさわしいぜ」

マリア「そうね……いいでしょ? 健介」

健介「わかった 祥平たちは愛の方へついてくれ」

祥平「わかりました」

そういつて二手に別れるのであった

愛 side

私たちは出てきた大火炎軍団太刀を倒すためにライオトレインにのって向かっています
ます

来ているのは私 真奈 剣 紗代 花菜 茜 調お母さん 切歌お母さん 翼お母さん
響お母さん セレナお母さん 奏お母さん 祥平さんにアーナスさんにパラド
さん ルノさんだ

目的の場所へついた私たちは変身をした

エグゼイドゼロ「いた!!」

火炎魔人「げ!!仮面ライダー!!」

フィス「あんたは 火炎魔人!!」

ブレイブ「前は逃がしてしまったが……」

スナイプ「今度は逃がさないよ!!」

そういつて武器を構えていると

「は!!」

上から火炎弾が飛んできた

ビルド「は!!」

「ボルテイツクブレイク!!」

そういつてガンモードにしてガトリングのボトルをセットをして放ったのだ

フェニックス「仮面ライダーにシンフォギアが集まってくるとはね・・・」

翼「お前たちが何を考えているか知らないが・・・これ以上の行動を見過ごすわけにはいかない!!」

フェニックス「なるほど 見たことがないライダーもいるね・・・まあ相手に不足はない!!やれ!!戦闘員たち」

「ぐおおおおおおおおお!!」

そういつてフェニックスが投げた炎から戦闘員たちが出てきたのだ

ゴースト「戦闘員たちが現れました!!」

デイクイド「なら相手をするだけだ」

フォーゼ「やるわよ!!」

ルノ「いきます!!」

そういつて全員が武器を構えるのであった

フェイス「ファイルス 行こう!!」

ファイルス「そうだな愛!!行こう!!」

そういつて私たちは戦闘を始めるのであった

健介 side e

俺たちはクロトとその奏者 戒斗とアルマと奏者 クリス
 優子と歌奈はエルフナインとキャロルと母に預けてきた

クリス「久しぶりにいけるな アイビス」

アイビス「ええ問題ないわ クリス」

マリア「私たちもいけるわね アイビス」

イビルス「ああいけるぜ!!」

そういつて話しているのは クリスのサポートシステム アイビス マリアのサ
 ポートシステムのイビルスだ

そして目的の場所へ到着をした俺たち

クリス「いくぜ!!じゃなかつたいきます!!Killlitter Ichhainval t
 ron」

マリア「Seillicen coffun airgetllamhtron」

そういつて2人はイチイバル アガートラームを装着をして

2人「合体!!」

そういつてアイビス イビルスは分離合体をした
アイビスは分離をしてクリスの腕部 脚部 さらに胸部
背中にも合体して キヤノ
ン砲が装着された

マリアの方も合体をして翼が発生をしたのであった

健介「ティミ 俺たちも行くとするか」

ティミ「はいマスター」

クロト「なら俺も」

バロン「なら俺は今日はこっちだな」

そういつて全員がドライバーを構える

ティミ「仮面ライダーデスティニー インプット」

「マイティアアクションX」

「タドルクエスト」

「パーフェクトパズル」

四人「変身!!」

仮面ライダーデスティニー デスティニーモード

仮面ライダーエグゼイド アクションゲーマーレベル2

仮面ライダーバロン クエストゲーマーレベル2

仮面ライダーパラドクス パズルゲームマー50になった 奏者たちもそれぞれのアマノハバキリ ガングニール

そしてシンフォギアライダーになったのだ

デステイニー「であああああああああ!!」

ダークフェイス「!!」

ダークフェイスにアロンダイトをふるったが交わされる

ダークフェイス「仮面ライダーの皆さんですか・・・」

クリス「なるほどためえが健介の闇をとった奴か」

そういつてクリスは背中のカannon砲を構える

ダークフェイス「これは・・・イチイバルの雪音 クリスさんにアガートラームのマ

リア・カデンツァヴナ・イヴさん・・・なるほど復帰をしたってことですか・・・」

そういつてダークフェイスは機械軍団を差し向ける

クリス「上等だ!!」

そういつてギアを構える

マリア「いくわよ!!」

そういつてマリアも短剣を抜いて戦う準備をする

エグゼイド「いくぜ!!」

「ガシャコンブレイカー!!」

バロン「これより機械兵団を撃退をする!!」

パラドクス「さあお前らは俺の心をたぎらせてくれるか？」

デステイニー「さーてん？」

するとカードが光りだした 3枚ほど

デステイニー「これは」

そこにはフォームカードでシンフォギア 百獣 魔法と書かれているのが書いて

あった

デステイニー「・・・ならまずは!!」

テイミ「百獣モード インプリント」

そういつて姿が変わったのだ

デステイニー百獣モードになった その姿はガオキングみたいになっているが 顔

はデステイニーのままであった 翼は消えて右手は鮫 左はホワイトタイガーになっ

ている

脚部はバイソンになったいるのであった

デステイニー「さていくぞ!!」

吠える動物 ダークチェンジ

火炎魔人「くらえ!! 大火炎!!」

火炎魔人はエグゼイドゼロたちに火炎をぶつけてきた

パラドクス(祥平)「祥平!!」

エグゼイドゼロ「わかつている!!」

そういつてパラドクスは反射のメダル エグゼイドゼロはゼロデイフエンダーを
使つてガードをした

ルミナスはフラァーミアアになつて

ルミナス「であああああああああああ!!」

戦闘員たちを切つていく

ブレイブ「第三剣術」

「ドレミファビート」

スナイプ「第三シューティング」

「ジェットコンバット」

レベルアップをして戦う ブレイブとスナイプ

スナイプ「剣 援護をするよ!!」

ブレイブ「ああ!!」

そういつてブレイブはガシャコンソードをリズムよく切っていき

スナイプ「そーれ!!ミサイル発射!!」

そういつてミサイルを放ったのだ

ゴースト「く!!」

グリム「ここは俺を使って!!」

ゴースト「わかった!!」

「開眼!!グリム 心のドア!開く童話!!」

仮面ライダーゴースト グリム魂になった

ゴースト「それ!!」

そういつて左手に本みたいのを出して 戦闘員たちに対してペンみたいのをだして

攻撃をする

フォーゼ「はああああああああああああああ!!」

「ホイールON」

そういつて左足にホイールモジュールが現れて 移動をして体当たりをする

フォーゼ「さらに!!」

「フラッシュON」

そういつて光らせて 目をくらましたのだ

デイケイド「まずはこれだ」

「カメンライド クウガ!!」

デイケイドクウガになって 蹴りを嘯ましていく

デイケイドクウガ「であああああああああああ!!」

さらに連続した拳で敵を吹き飛ばしていく

フィス「はああああああああああああああああ!!」

ビルド「は!!」

フェニックス「おっと」

フェニックスは二人の剣を自慢の大剣で受け止める

フィス「フィルス!!」

フィルス「ああ!!クロコダイル!!」

フィス「チェンジ!!」

フィルス「クロコダイルモード!!」

そして姿が変わり 武器アイコンを押す

フェニックス「であ!!」

ファイルス「クロコダイルヘッド」

そういつて右手にクロコダイルヘッドがつき 大剣を受け止めたのだ

ビルド「ビルドアップ!!」

姿がキードラゴンに変わり左手のキーで切りかかる

フェニックス「ぐ!!」

フィス「であ!!」

そして剣を離してクロコダイルヘッドでフェニックスのボディに当てる

フェニックス「どあ!!」

ブレイブ「は!!」

「タドルファンタジー!!」

そういつてブレイブはガシャコンソードで火炎魔人を切る

「バンバンシユミレーション」

スナイプ「それ!!」

スナイプは砲撃で 火炎魔人にダメージを与える

「俺がブースト 皆でブースト!!」

ゴースト「でああああああああああ!!」

「NSマグネット ON」

フォーゼ「は!!」

ゴーストは闘魂魂になってサングラススラッシュャーブラスタモード フォーゼはマグネットステイツになってマグネットキャノンで攻撃をした

火炎魔人「ぐおおおお・・・・・・」

「カメンライドドライブ!!アタックライド ハンドル剣 ドア銃!!」

ディケイドドライブ「であああああああああ!!」

ドア銃を撃ちながら接近をしてハンドル剣で火炎魔人を切る

火炎魔人「ぐ・・・・・・」

翼「だああああああああ!!」

翼の剣が火炎魔人の胴体を貫く

奏「とどめは任せろ!!」

そういつて槍が変形をして砲撃モードになって

奏「いっけーーーーー!!」

砲撃が飛び

火炎魔人「フェニックス様ーーーーー!!」

フェニックス「火炎魔人!!」

ルノ「えい!!」

ルミナス「ああああああああああ!!」

フェニックス「ぐあ!!」

エグゼイドゼロ「ああああああああ!!」

パラドクス（祥平）「はああああああああああ!!」

2人の蹴りが命中をしてフェニックスは吹き飛ぶ

フェニックス「ぐ・・・まさかここまで追い込まれるなんて」

フィルス「愛 エレメントアタッチメントだ」

フィス「わかった!!」

そういつてフィルスを外して右腰にエレメントアタッチメントを装着をした

フィルス「エレメントスタイル!!」

姿が変わり エレメントスタイルにかわる

フェニックス「ああああああああ!!」

フェニックスは大剣で攻撃をする

フィス「は!!」

フィスはかわして 右手にカメレオンレイピア 左手にエレファントシールドが装

備された

フィス「は!!」

エレファントシールドでガードをして カメレオンレイピアで攻撃をする
フェニックス「ぐ!!」

フィス「は!!」

イーグルライフルで攻撃をする

フェニックス「であ!!」

フェニックスは火炎の弾を飛ばす

フィス「は!!」

フィスは水のバリアーを発生をして 火炎の弾をふさいだ

フィス「はああああああああああああああああああ!!」

さらに接近をして風の蹴りをかまして 炎のパンチをフェニックスを殴る

フェニックス「ぐううううううううう」

フェニックスは攻撃をする

フィス「は!!」

堅い土をだしてガードをする

エグゼイドゼロ「は!!」

ゼロスラッガーを飛ばして フェニックスを傷つけていく

フェニックス「……………ぐ……………ま……………まさか……………僕が」

フェイス「これでとどめです!!」

ファイルス「必殺!! エレメントストライク!!」

フェイス「はあああ・・・とう!!」

そういつてフェイスは上空へとび

フェイス「でああああああああああ!!」

四つのエレメントの力を集結させた蹴りをフェニックスにむかって放つ

「ふん!!」

フェイス「きやあああああああ!!」

だがそれを邪魔をしてさらにフェイスをダメージを与えたものが現れたのだ

フェニックス「武者・・・どうして」

武者「・・・フェニックス殿申し訳ない・・・だが拙者の夜叉丸たちを倒した仮面

ライダーたちとは戦ってみたくての」

フェイス「あなたは」

武者「拙者は武者軍団の頭領　武者・・・怒涛丸!!」

怒涛丸「は!! 御屋形様」

武者「思う存分に戦うがいい!!」

怒涛丸「ありがとうございます」

そういつて武者たちは消える

ブレイブ「なんだこいつ」

怒涛丸「我こそは怒涛丸!! さあいざ勝負!!」

一方で健介たちの方は

エグゼイド「雑魚は任せろ」

バロン「お前はダークフィスを」

デステイニー「ありがとうな!!」

エグゼイド「いくぞ!!」

バロン「ああ!!」

「ガシヤコンブレイカー!!」

「ガシヤコンソード」

そういつて2人は機械兵団に攻撃をする

アルマ「は!!」

アルマはガンガンセイバーガンモードとバットクロックライフルモードにして二丁にして撃つ

翼ズ「はああああああああ!!」

2人の翼はアームドギアで次々に切っていく

響「せい!!であああああああああ!!」

さらに響の拳

奏「どりやああああああああ!!」

奏の槍が次々に刺していく

クリス「いくぜ!!アイビス!!」

アイビス（いつでもいいですよ!!）

クリスはギアを変えて ガトリング キャノン ミサイルを放った 一斉射撃で

あつた

マリア「だああああああああ!!」

マリアは右手の変形をしたイビルスのソードで切りつけていく

エグゼイド「はああああああああ!!」

さらに切っていく ゲキトツロボッツを起動させて ロボッツアクションゲーマー

レベル3になって 殴っていく

パラドクス「はああああああ!!」

ノックアウトファイターになって次々にKOしていく

バロン「はああああああ!!」

バロンは次々にガシャコンソードで切っていく

デステイニー「シャークシヨット!!」

「そういつて右手の拳でダークフィスに当てていく

デステイニー「タイガーアタック!!」

左手で殴る

ダークフィス「く……」

デステイニー「であああああああああ!!」

さらに上空へとび バイソン連続キックをお見舞いさせる

テイニ「クロスホーン!!」

そういつて左手がクロスホーンになり ダークフィスをつかんで投げ飛ばす

ダークフィス「やりますね……であ!!」

ダークフィスはダークライオソードから斬撃刃を飛ばした

デステイニー「なら」

テイニ「リフレクト」

そういつてバリアーをはり ガードをした

テイニ「マツスルモード」

そういつてマツスルアンカーを出して絡ませる

デステイニー「であああああああああ!!」

「ダークフェイス「ぐ!!」」

「デステイニー「さあ覚悟をしろ!!」」

「ダークフェイス「うふふふ」」

「デステイニー「何がおかしい」」

「ダークフェイス「お忘れですか? このダークフェイスはあなたのフェイスをもちーふにしていることを」

「デステイニー「まさか!!」」

「ダークフェイス「その通りですよ チェンジ」」

「ダークイーグルモード」

すると変わり ダークイーグルモードになったのだ

「デステイニー「!!」」

「テイニ「気をつけください マスター」」

「ダークフェイス「は!!」」

「ダークフェイスは上空から ダークイーグルライフルで攻撃をする

「デステイニー「ぐ!!」」

「ゲキトツクリティカルストライク!!」

「エグゼイド「であ!!」」

ゲキトツスマツシヤーを飛ばす

「ダークフェイス「甘いですよ」

「そういつてかわしたが」

「バロン「せい!!」

「ダークフェイス「ぐ!!」チェンジ」

「ダークビートルモード」

「ダークフェイス「ダークサンダー!!」

「バロン「ぐああああああ!!」

「デステイニー「なら!!」

「テイニ「・・・・・・魔法モード!!」

「そういつて姿が変わり 魔法モードになった

「テイニ「なつちやった・・・・マスターが」

「デステイニー「テイニ?」

「テイニ「マスター私がサポートをします!!」

「デステイニー「あ・・ああ・・・・」

「そういつて持っている杖から 光弾を出す

「ダークフェイス「ぐ!!」

「ダークフェイスはダークビートルアックスを持ち 光弾をふさいでいく

デステイニー「でああああああああああああ!!」

「デバイスが変わり バルディッシュになり サイスモードにして切りかかる

ダークフェイス「は!!」

デステイニー「ぐ!!」

さらに変えて クロスミラーージュにして

デステイニー「であ!!」

光弾が飛ぶ

ダークフェイス「ぐ!!」

エグゼイド「こっちもいるのを忘れるな!!」

「マイティマイティブラザーズ ダブルエックス!!」

パレード「そういうこつた!!」

そういつて エグゼイド Rが攻撃をする

エグゼイド「こっちもいるんだよ!!」

そういつて エグゼイドLが攻撃をした

ダークフェイス「ぐ!!」

デステイニー「でああああああああああ!!」

そういつて必殺のカードをインプットさせる

ティニ「クロスファイアー!!」

デステイニー「であああああ!!」

砲撃をした

ダークフェイス「ぐ!!」

ダークフェイスはそれを受けて下がる

バロン「やったのか?」

エグゼイド「いやまだのようだ」

アルマ「戒斗!!」

そういつてアルマたちも来たのだ

ダークフェイス「なるほど これはあなたたちの戦闘が上がっていると計算をしておき

ましょう」

そういつて消えるのであった

デステイニー「まで!!」

ダークフェイスは逃げたのであった

デステイニー「……………ティニ」

ティニ「はい……………」

デステイニー「何か隠してないか？」

テイニ「え・・・・・・・・・・・・・・・・」

デステイニー「お前は魔法モードを使うときだけ反応が違っていた・・・・・・・・そうだろ」

テイニ「・・・・・・・・・・・・・・・・」

デステイニー「今は話せないってことか・・・・・・・・」

テイニ「・・・・・・・・・・・・・・・・」

エグゼイド「不思議なベルトだな」

デステイニー「まあな・・・・・・・・」

そういつてデステイニーたちはまだフェイスたちが戦闘をしているので向かうので

あつた

怒涛丸「ふん!!」

デイケイド「あう!!」

ビルド「は!!」

怒涛丸「ぬお!!」

フェイス「は!!」

エレメントバスターを放った

怒涛丸「ふん!!」

怒涛丸は剣でエレメントバスターが放った弾をはじめていくのだ

ビルド「くらいなさい!!」

海賊ハツシヤーを使って 射撃攻撃をする

スナイプ「それ!!」

砲撃をする

怒涛丸「ぐお!!」

ブレイブ「であああああ!!」

ゴースト「はああああああああああああああああ!!」

デイケイド「であ!!」

怒涛丸「ぐおおおおおおおおおお!!」

フオーゼ「それ!!」

「エアロON!!」

そういつて風で強風で吹き飛ばす

怒涛丸「ぐああああああああ!!」

ビルド「今よ!!」

フィス「フィルス!!」

フィルス「ああ!!決めよう!!バインド!!」

そういつて動きを止めた

怒涛丸「動けない!!」

ファイルス「必殺!!エレメントストライク!!」

フィス「はああ・・・・・・とう!!であああああ!!」

フィスのエレメントストライクが命中をした

怒涛丸「ぐおおおお・・・・・・」

怒涛丸は吹き飛ばされるが

怒涛丸「まだだ・・・・・・」

全員「!!」

デステイニー「愛!!」

デステイニーたちも駆けつける

怒涛丸「まだ・・・・・・御屋形様のためにも・・・・・・」

そういつて剣を抜いて構えるが・・・・・・

怒涛丸「ぐああああ・・・・・・」

そのまま前のめりに倒れて爆発をしたのであった

デステイニー「・・・・・・なんて奴だ」

エグゼイド「ああ・・・・・・」

帰還をした

フエニックス「悪いな武者」

武者「・・・・・・・・・・・・・・・・」

すると武者は巻物を出して

武者「怒涛丸・・・・・・・・ご苦勞であつた・・・・・・・・」

フエニックス「すまん」

武者「気にしないでほしいでござる・・・・・・・・怒涛丸は自ら殿を務めたでござる・・・・・・・・」

そういつて武者は言うのであつた

帰還した健介はティニと話をしている

健介「ティニ・・・・・・・・君は本当は何者なんだ？」

ティニ「・・・・・・・・・・・・・・・・」

健介「・・・・・・・・・・・・・・・・」

ティニ「私はこことは違う世界の・・・・・・・・住民なんです・・・・・・・・私は高町 なのは・・・・・・・・」

それが私の本当の名前なんです」

健介「高町 なのは・・・・・・・・」

テイニの秘密　そして現れた女性たち

SONG司令室

今　全員が司令室に集まっていた．．．．．そう一人の女性を見て

弦十郎「ではテイニ君．．．いやなのはくん」

なのは「はい．．．．．」

弦十郎「君はこの世界とは違う場所から来たってことでいいのかね」

なのは「その通りです」

クロト「だがどうして君は」

なのは「．．．．．私たちの世界は滅ぼされてしまいました．．．．．」

全員「!!」

なのは「．．．．．突然現れた　謎の敵．．．．．私たちは戦いました．．．．．でも奴らの
猛攻を食い止めることができませんでした．．．．．」

健介「．．．．．」

なのは「私たちは最後の賭けで　このデステイニードライバーへと転送をしたので
す．．．．．」

祥平「そうだったんですか……」

健介「なるほど……あの時感じた力は君以外の人物だったのか」

なのは「え？」

健介「装着をしたとき 色んな人の力を感じたのでね……納得をしたよ」

調「そうだったんだ……」

ファイルス（やはり彼女が健介を見ていたのは……）

つとファイルスは機械に汗を流している

「なのはちゃん!!そろそろ私たちも出してな!!」

「そうだよ なのは!!」

なのは「あ……あのマスター」

健介「なんだ？」

なのは「えっと その出してもらえますか？」

健介「俺が出すのか」

なのは「はい」

健介はデステイニードライバーを持ち

なのは「左側のボタンを」

そういつて押すと 光が二つ現れた

「ふいー久々の外や」

「そうだね」

翼「あの・・・あなたたちは」

「あー自己紹介がまだやったな　うちは八神　はやてや」

「私はフェイト　T　ハラオウンです」

はやて「なるほど　マスターってことやな」

フェイト「みたいだね」

2人は健介を見るのであった

健介「えつと？」

はやて「なるほどな・・・」

つとはやてはニヤニヤしているのであった

祥平「えつと話を戻しますよ」

三人「あ　はい」

切歌「つてことはその中にずっといたのデース？」

はやて「そうやな　うちの世界は滅んでしまったからね」

フェイト「そうだね・・・私たちをこの中へ逃がすために・・・」

健介「一応　確認をするが　その中にはあとどれくらいいるんだ？」

はやて「えっとうちやる フェイトちゃん なのはちゃん シグナム ヴィータ
シヤマル ザフィーラ スバル ギンガ エリオ キャロ ティアナかな」

健介「ずいぶん この中にいるんだな デステイニードライバー」

「そうなんですよ!!」

全員「？」

翼「今の声は」

剣「どこから聞こえたんでしょうか？」

「あーここです」

響（ク）「どこですか？」

「えっとですね 弦十郎さんの肩を見てください」

弦十郎「どあ!!」

弦十郎もびっくりをしているのであった

戒斗「いつのまに」

ルノ「かわいいです!!」

「始めまして マスター 私はリインといいます」

健介「これはご丁寧に 相田 健介だ」

茜「しかし お父さんのベルトの中にいたのですね・・・かなりの人物が」

なのは「そうだね……普段は私がメインですけど」

フェイト「これで私たちも声を出したり出ることができるとことだね」
はやて「長かったなー」

健介「ふむ……」

そういつて光になって戻るのであった

健介「やれやれ うるさくなりそうだな……」

そう思う健介であった

すると警報がなった!!

戒斗「今度は解決をしたと思ったら 警報がなるな」

クロト「しかし 奴らの計画がわからないばかりだからな」

愛「はい 私もそう思います まるで何かをたくらんでいるってわけでもなく……」

祥平「ふむ……」

アーナス「相手は何かをしようとしている……のかな」

健介「いずれにしても現れたのなら戦うしかあるまい」

そういつて出動をしたのであった

そこには機械兵団の機械たちが暴れていたのだ

今回は愛 クロト 戒斗 剣 真奈 健介が出動をしている

ほかのみんなは待機をしている。その理由は、もし敵が現れた際に対処をできるようにするため。

愛「あれですね!!」

戒斗「健介」

健介「なんだ？」

クロト「こいつらでやらしてみないか？」

健介「愛たちに？」

戒斗「そうだ」

健介「・・・愛 真奈 剣」

三人「はい」

健介「今回はお前たち三人でやってみるかい？俺たちは変身はするけど、手を出さない」

愛「わかった!!」

剣「みせてあげますよ」

真奈「うん!!」

そういつて三人はフィス ブレイブ スナイプに変身をした

フィス「さあ覚悟をしなさい!!」

ブレイブ「これより機械軍団へ攻撃をする」

スナイプ「さーて狙い撃つわよ!!」

そういつて三人は攻撃を開始をしたのであった

デステイニー「・・・・・・・・・・・・・・・・」

フェイト（心配ですか？マスター）

デステイニー「まあ・・・・・・・・・・」

フェイト（その・・・・・・・・ごめんなさい・・・・・・・・）

デステイニー「どうして謝るんだ？」

フェイト（実は見たんです・・・・・・・・あなたの記憶を・・・・・・・・全員が）

デステイニー「あー別に気にしてないよ」

ゲナム「しかし　しゃべるベルトか・・・・・・・・」

デステイニー「いやファイルスは確かに喋るが・・・・・・・・あれは」

バロン「見ないでいいのか？」

デステイニー「ああ・・・・・・・・あの子たちを信じているからな　王手」

バロン「・・・・・・・・な!!」

フェイス「てい!!」

フェイスはライオソードで切りつけていき

ダークフェイス「集まってきたわね．．．でもまだまだ足りない．．．」
素晴らしいながらダークフェイスは撤退をしたのであった

デステイニー「．．．．．おかしい」

クロト「確かにな．．．．．」

フェイス「お父さん!!」

デステイニー「よくやったな．．．愛たち」

三人「はい!!」

そして戻る途中で健介は考えるのであった

健介（やつらの目的って：：：俺たちのデータを：：：何かに使うつもりか：：：）

そういつて健介は考えるのであった

その夜

切歌「健介．．．今日は私が相手をしますね」

健介「切歌．．．．．」

切歌「これは全員で決めたことですよ．．．離れていたからね．．．今日は私
を壊すほどに私を．．．．．」

そういつて健介と切歌は一つのベットに入つて

「これがカカナリアよ」

カナリア 「はい……奴らの戦闘データを元に作りだした 機械 001です」

「ふむ……」

カナリア 「ですがまだ足りてませんね だからこそまだまだ」

「お前に任せる」

カナリア 「は!!」

現れた 武者 ゲンム グレードビリオン

ここはセイレンの基地

武者「……………」

武者軍団頭領 武者は今習字をしている

「御屋形様!!」

武者「これは 五王丸どうしました」

五王丸「は……御屋形様出撃の許可をいただけて参上つかまりました」

武者「出撃ですか……ふむ」

そういつて考える

「あー御屋形様 出撃ですか?」

武者「む……アヤマルか」

五王丸「アヤマル 何のようだ!!」

アヤマル「なについてあんたが御屋形様に出撃をしようとしているんだろ? だったらあたしもついていこうかなって」

五王丸「ふむ……………」

武者「いいでしょう アヤマル あなたも出撃をしなさい」

アヤマル「は 御屋形様」

そういつて2人は出動をしたのであつた

一方で基地では

フィス「はああああああああああああああああ!!」

デステイニー「は!!」

フィスとデステイニーがぶつかっている そう今は訓練を行っているのだ

フィスは今ドラゴンモードで デステイニーは魔法モードで対抗をしている

デステイニー「アクセルシューター!!」

そういつて光弾を飛ばして 攻撃をする

フィス「ドラゴンソード!!」

そういつて剣でアクセルシューターを切り裂いたのだ

フィルス「愛!!左からだ!!」

フィス「!!」

フィスはすぐにドラゴンシールドでふさいだのだ

デステイニー「ほう……」

そういつてバルディッシュ ザンパーモードを受け止めたのだ

フェイト（やるわね・・・）

デステイニー「俺の娘だからな」

そういつて攻撃をかわしているのであつた

フィス「当たらなかつた」

ドラゴン「まああいつが相手だしな」

そういつてドラゴンは戻る

デステイニー「さてこれで決める!!スターライト」

つと攻撃をしようとしたときに警報がなつたのだ

2人「!!」

全員がすでに司令室に集まっていた

そこでは 大火炎軍団の戦闘員たちが街で暴れているのであつた

クロト「奴らめ・・・どれだけの人々の平和を壊すつもりだ!!」

そういつて全員で出動したのであつた

五王丸「アヤマル どうやら奴らが来たようだな」

アヤマル「そのようね」

そういつて2人は構えているのであつた

ゲム「貴様たちが」

デステイニー「む!!」

バロン「どうした健介」

デステイニー「まだ避難が終わってない人たちがいる……だがこの姿では」
するとカードが一枚出てきたのだ

デステイニー「なるほど」

そういつてデステイニードライバーの前にかざすと

「レスキューモード インプット」

すると装甲が現れて デステイニーの色も変わる さらに背中にウイングが装着されたのであった さらにビークルの幻影が現れて 合体

デステイニー レスキューモードへと変身したのであった

エグゼイドゼロ「変わった……」

デステイニー「さてまは」

そういつて背中のウイングが回転をして デステイニーは空を飛び 両手から 冷却断が放たれた すると炎が消えていくのであった

デステイニー「もう大丈夫だ」

そういつてデステイニーは避難できなかつたひとたちを救出をしている

エグゼイドゼロ「であ!!」

外ではフェイスたちが戦闘をしている

ゲナム「なら」

ゲナムはシャカリキスポーツを装着をした それはプロトガシヤットであった

そしてプロトスポーツゲーマーを装着をして 車輪を投げて 戦闘員たちを吹き飛ばす

バロン「ならこれだ」

「キウイアームズ!!」

そういつてキウイ撃輪を装備して バロンは攻撃をするのであった

エグゼイドゼロ「ワイドゼロショット!!」

そういつて光線が放たれて戦闘員たちを吹き飛ばす

ブレイブ「であああああ!!」

デイケイド「甘い」

そういつて戦士たちは次々に戦闘員たちを倒していく

五王丸「次は拙者たちが相手だ!!」

アヤマル「うふふふふ」

ゲナム「ここは俺がやろう」

そういつてガシヤットを出した

「ゴットマキシمامマイティX」

すると上空から エグゼイド マキシمامゲームマーの色がゲンム色が出てきたのだ

ゲンム「グレードビリオン・・・変身!!」

そういつてゴッドマキシمامゲームマーを装着をしたのだ

五王丸「そんな鎧を装着をしたことで!!」

そういつて槍で攻撃をするが

ゲンム「ふん」

ゲンムはそれもビクともせず 槍を叩き折ったのだ

五王丸「ぬお!!」

アヤマル「はああああああああああああああああ!!」

バロン「させん!!」

そういつてロードバロンロックシードで アームズを装着をしたのであった

バロン「ふん!!」

そういつてヘルヘイムのツタを操ってアヤマルをしばって投げ飛ばす

アヤマル「きゃああああああああ!!」

エグゼイドゼロ「ならおれも!!」

「マキシマムモード!!」

そういつてマキシマムゲームを装着をしたのであった

フェイスたちは戦闘員たちを相手に戦っている

デステイニー「よしよし」

避難活動を終えた デステイニーが到着をしたのであった

デステイニー「さーてこれでもくらいな!!ウオーターキャノン!!」

そういつて強力な放水が放たれて 二人を吹き飛ばすのであった

2人「どあああああああ!!」

アヤマル「ここは撤退よ!!」

そういつて撤退をしたのであった

フェイス「お父さん!!」

そこにフェイスたちも駆けつけた

フォーゼ「ありや敵は」

デステイニー「もう撤退をしたよ」

そういつて全員が解除をしたのであった

さて宇宙にある 基地

カナリア「もう少しで完成です」

「そうか・・・ならば急ぐがいい」
カナリア「は!!」

機械兵団 兵器登場!!

カナリア「マスター……完成をしました」

「完成をしたのか……」

カナリア「はい ですが……」

するとダークフェイスに変身をしたのだ

「な!!」

カナリア「あなたが邪魔です さようなら」

そういつてダークフェイスガンを抜いて 殺したのであった

ダークフェイス「あなたは最初から邪魔な存在だった……ですがあなたに復讐をする私の目的は達成をしました……お母さんを殺した お父さん……」

そういつて彼女はある機械の場所へ行くのであった

ダークフェイス「うふふふふ」

そして起動スイッチを押したので

ダークフェイス「目覚めなさい……ダークキラー」

するとその機械は起動したのであった

さて地上 SONG基地

ファイルス「ふーむ」

愛「どうしたの ファイルス」

ファイルス「いや少し調べ物をしていたんだよ」

愛「調べ物？」

クロト「そうだ ダークフェイスがやっていることについてのな」

健介「奴がやりそうなことね……………」

祥平「まさか僕たちの戦闘データとか？」

戒斗「可能性はあるだろう…………… 奴は俺たちのことを知っているようだったから

な……………」

ルノ「怖いですね……………」

剣「もしそうでしたら……………」

真奈「うん私たちやばくない？」

すると警報がなったのだ

全員「!!」

モニターが開くと ダークフェイスともう一体何かがいるのだ

クロト「なんだあの黒いのは」

健介「いずれにしても奴らが動いたんだ 俺たちも行くこう!!」
そういつて全員で出動をしたのであつた

現場へついた戦士たちは変身をして 到着をした

ダークフィス「待つていましたよ 仮面ライダーたち」

ルノ「なんですかそれは!!」

ダークフィス「ついに完成をしたのですよ あなたたちの戦闘データが入っている
名前はダークキラー」

ゲンム「ダークキラーだと」

ダークフィス「さあダークキラーあなたの力を見せてあげなさい!!」

ダークキラー「イエス」

そういつてダークキラーは地上へ降りてきたのだ

エグゼイドゼロ「なら俺からだ!!」

そういつてエグゼイドゼロはエメリウムスラッシュを放つたのだ

ダークキラー「……………」

だがダークキラーのボディにエメリウムスラッシュは効かなかつたのだ

エグゼイドゼロ「な!!」

ゲンム「はああああああああああああああああ!!」

バロン「ああああああああああ!!」

さらにゲナム バロンが武器で攻撃をしていく

ダークキラー「・・・・・・・・・・・・・・・・」

2人「!!」

ダークキラーはなんと腕でつかんだのだ

その武器を持ったまま振り回したのであった

2人「が!!」

スナイプ「この!!」

スナイプはガシヤコンマグナム

ゴースト「は!!」

ゴーストはガンガンセイバーガンモードで攻撃をする

ダークキラーはそれを受けても前進をしていく

ブレイブ「はああああああああああああああ!!」

デイケイド「ああああああああああ!!」

二人も攻撃をしていく

フィス「であ!!」

さらにフィスもライオンソードで攻撃をしたが

「ダークキラー」……………」

「ダークキラーはその攻撃を受けてもビクともしてないのだ」

「デステイニー」……………」

「デステイニーは接近をして切りかかるが、それを受けてもダークキラーはデステイ

ニーを攻撃をしたのだ

「ダークキラー」……………」

「デステイニー」……………」

「ダークキラーはさらにデステイニーをつかんで投げ飛ばしたのだ」

「デステイニー」……………」

「デステイニーは壁にめり込むのであった」

「ゲナム」……………」

「シヤカリキスポーツ」

「バロン」……………」

「マンゴーアームズ!!」

「そういつて二人もフォームチェンジをして攻撃をする」

「ダークキラー」……………」

「ブレイブ」……………」

「ブレイブ!!」

スナイプ「くらいなさい!!」

「スナイプ!!」

ドラゴナイトハンターZを起動させて ブレード ガンを装着をして攻撃をする二人

ダークキラール「ダークサンダー」

すると全体に黒い雷を落としてきたのだ

全員「ぐああああああ!!」

フィス「なんて力なの」

ダークフィス「言ったでしょ? あんたたちのデータを入れたのよ それがどういう意味かわかるかしら?」

エグゼイドゼロ「だとしても!!」

ゼロツインソードを構える

エグゼイドゼロ「俺たちはこんな奴に負けるわけない!!」

ゲムム「そうだな・・・」

「ゴッドマキシマムマイティX!!」

ゲムム「データが入ってたとしても・・・それがどうした」

バロン「だな……」

「ロードバロン!!」

バロン「そんなので俺たちが負けることはない!! たとえ機械だろうとな!!」

デステイニー「そうだな……」

フェイト「レスキューモード」

デステイニー「俺たちは負けるわけにはいかないからな!!」

フィス「フィルス……いけるよね？」

フィルス「当たり前だ バディが立っているのなら 私もまだいけるってことだ!!」

フィス「そうだね……ならもうひと踏ん張りしよう!!」

そういつて全員が立ちあがる

ダークフィス「馬鹿な……お前たちの戦鬪データはあるのよ……ダークキラ

!!

そういつてダークキラは襲い掛かる

スナイプ「これでも!!」

そういつて砲撃ユニットを起動させて

ブレイブ「くらうがいい!!」

タドルレガシーになったブレイブの剣がダークキラを攻撃をしたのだ

「ダークキラー」!!」

「クウガ カメンライド アルティメット ファイナルアタックライド ククククウガ!!」

「デイケイド「せい!!」

バイオキネシスの発火能力で攻撃をしていく

ダークキラーは攻撃をしようとしたが

「マジックハンドON!!」

するとバリズンソードの刀身が伸びて ダークキラーを切っていくのだ

ゴースト「であああああああああああ!!」

サングラススラッシュヤーとガンガンセイバーで切り裂いていく

「デステイニー「こい!!」

するとビークルが現れて それがデステイニーに装着をしていく

「デステイニー「完成 ケルベロスモード!!」

そういつてビークルの全力を解放させて 右側のライザーと左側クレーンのアーム

ムがダークキラーをおして

胸部についた ドリルとシヨベルの攻撃

さらに左手につけられた ドーザーのバケットで殴り さらに右手のターボトル

ネードが発動をして　ダークキララーを吹き飛ばす

ゲムム「は!!」

ゲムムは太陽の光を集めて　ダークキララーに光線として当てていく

バロン「ふん!!」

バロン　ロードバロンアームズは専用武器　かつてロードバロンとして使っていた

武器で切りつけていくのだ

エグゼイドゼロ「でああああああああああ!!」

ムテキビヨンドゼロになり　ゼロツインソードとガシャコンキースラツシャーで切

り裂いていくのだ

フィス「はあああああああああああああ!!」

ライトニングドラグユニコーンになって　ダークキララーをドラグリーンセイバーで切

りつけていく

ダークキララー「・・・理解不能理解不能・・・戦闘能力上昇を確認・・・理解

不能理解不能」

そういつてダークキララーはばちばちと火花を散らせている

フィス「これでとどめです!!」

そういつてフィスは必殺アイコンを押す

要塞へ

SONG基地

健介「・・・・・・・・・・・・・・・・」

健介は今 パソコンでかまっている それは前回の戦いでクロトがつけてくれた発信器を探しているのだ

全員「・・・・・・・・・・・・・・・・」

ファイルス「バディ!! 反応あり!!」

健介「反応がわかったな」

そういつてファイルスをとって 愛に渡したのであった

愛「お父さん わかったのですか？」

健介「ああ・・・・場所は宇宙」

調「宇宙・・・・・・・・」

祥平「まさか奴はそこに・・・・・・・・」

ルノ「宇宙に奴らの基地があるのですね」

健介「そのとおりだ・・・・おそらくそこから ヤツらは機械軍団を出していたのだ

ろう………」

戒斗「なるほどな………」

健介「そして………」

そしてパソコンを押す

赤く光っている

健介「奴はここだ……今からテレポートジエムでそこへ侵入をする……だが……」

クロト「どうした？」

健介「全員で行くと おそらくだが……奴は機械兵団を出すと思う」

翼（く）「ならそれは私たちが対応をします」

クロト「翼………」

奏（戒斗）「そうだな……あたしたちが奴らと戦ってやるさ」

戒斗「奏………」

パラド（く）「なら俺はクロトと一緒に行くぜ」

祥平「アーナスとパラド 二人には」

アーナス「わかつているわ」

パラド（祥平）「こっちは任せろ お前は宇宙で暴れてこい」

祥平「ああ!!」

翼「健介さん」

健介「決まったみたいだな……」

そういつて 健介たちの世界の奏者 そして娘たち

クロト&パラド 戒斗とアルマ 祥平 ルノが中へ入るのであった

健介「……よし 弦十郎さんあとは」

弦十郎「こっちは任せろ」

未来「待つてください!!私も行きます!!」

健介「未来……わかった!!いくぞ!!」

そういつて健介はレポートジエムを割り 光りだす!!

健介たちは光に包まれて 消える

弦十郎「頼むぞ……みんな!!」

一方で

カナリア「まさか……ダークキラアが……こうなったら……機械兵団を地上へ」

すると警報がなった

カナリア「!!」

画像が現れた そこには健介たちが写っていたのだ

カナリア「な!!なんで奴らがこの場所へ……」

そういつてカナリアは軍団を呼び出して奴らに対応させるために出動をさせたのであった

さて侵入をした健介達

切歌「ついでです!!」

調「切ちゃん ここは敵の本拠地だよ」

切歌「うーごめんなさい・・・デース」

すると機械たちが出てきたのだ

クロト「どうやら 敵が現れたみたいだな・・・」

戒斗「そうだな・・・こい」

するとガタツクゼクターが現れた

愛「みなさん!!」

全員「おう!!」

そういつて全員が並ぶ

愛「フェイス!!」

ファイルス「了解だ 愛!!仮面ライダーモードレディ?」

愛は動物アイコンを押す

ファイルス「ライオン!!」

劍「第二劍術」

「タドルクエスト!!」

真奈「第二シューティング!!」

「バンバンシューティング!!」

茜「さて」

「カメンライド」

紗代はスイツチを押ししていく

「3, 2, 1」

セレナ「さて実験を始めましょう」

「ラビット タンク!!ベストマッチ!!アユーレディ?」

花菜「よし」

「アーイ バツチリミナー バツチリミナー」

響「B a l w i s s y a l l N e s c e l l g u n g n i r t r o n」

翼「I m y u t e u s a m e n o h a b a k i r i t r o n」

クリス「K i l l i t e r I c h a i v a l t r o n」

マリア「S e i l i e n c o f f i n a i r g e t l a m h t r o n」

調「V a r i o u s s h u l s h a g a n a t r o n」

切歌「Zeios igalimaraisen tron」

未来「Reishenshoujingerizizi」

奏「Croitzalronzellgunnirzizi」

「マイティアクションX!!」

クロト「ノーコンテニューでクリアしてやるぜ!!」

パラド「心が躍るな」

「パーフェクトパズル」

「バナナ!!」

「アーイ!!バッチリミトイター バッチリミトイター」

祥平「ゼロさん」

ゼロ「ああ!!俺たちの力を見せてやろうぜ!!」

「マイティゼロエックスモードレディ!!」

二人「俺たちに限界はねえ!!」

ルノ「きて!!ワイバーン!!」

健介「さて力を貸してくれるな?」

なのは「うん マスター」

健介「健介」

なのは「え？」

健介「俺たちは仲間だ バディだ 名前で呼んでほしい」

なのは「・・・わかりました 健介さん!!」

健介「オーライ・・・いくぜ!!」

そういつてカードを出して デステイニードライバーの前に出す

なのは「デステイニーモード インストール!!」

仮面ライダーたち「変身!!」

ファイルス「ライオンモード!!」

「タドルメグル!タドルメグル!タドルクエスト!」

「バンバン!バンバン!バンバンシユータイング!!」

「ディケイド!!」

「開眼 オレ! レッツゴー! カクゴ!ゴゴゴゴースト!!」

「鋼のムーンサルト ラビットタンク!!」

音声流れ中

「マイティジャンプ!マイティキック!マイティマイティアクションX!!」

「Get tha glory in the chain PERFECT P U Z
Z L E」

「カモン バナナアームズ NIGHT OF SPEAR」

「開眼!!アルマ!! 魂の戦士!!魂のゴッド!!」

「二人で一人 エグゼイドゼロ!!」

ルノはワイバーンに搭乗したのであった

なのは「デステイニーモード!!」

全員が装着をされたのだ ここに仮面ライダー シンフォギアなど集結をしたのであった

デステイニー「みんな・・・いくぞ!!」

全員「おう!!」

機械兵団が集結をしていたのだ

すると全員が攻撃を開始をしたのだ

ブレイブ「これより 機械兵団の排除を始めます!!」

そういつてガシヤコンソードを持ち 機械兵団を切っていく

ブレイブ「はああああああああああああああああ!!」

さらに氷モードにした

「コ・チーン!」

ブレイブ「であ!!」さらに切り付けていき

「ガシャットキメワザ！ タドルクリティカルフィニッシュ!!」

ブレイブ 「はああああああああああああああああ!!」

地面にさして 機械兵団を凍らせていく

ブレイブ 「第三剣術」

「ドレミファ ビート」

そして第二スロットに刺したのだ

「ガチャン!!レベルアップ!!タドルメグル!タドルメグル!タドルメグル!タドルクエスト アガッ

チャド・ド・ドレミファ ソラシド!OK!ドレミファビート!」

ビートクエストゲーマーレベル三になったのだ

ブレイブ 「乗らせていただきます」

そういつて右腕のドレミファターンテーブルをスクラッチして 攻撃をしていく

ブレイブ 「は!!」

リズムのようにけりを入れていき

ブレイブ 「それ!!」

チョップなどで機械兵団を攻撃をしていく

ブレイブ 「はああああああああああああああああ!!」

さらにガシャコンソードを切り付けていくのだ

「ガシヤットキメワザ！ドレミファクリティカルストライク!!」

ドラミファアターンテーブルをスクラッチをしていくと 左肩のワッツアップサウンダーからたくさんのエネルギーボムが放たれたのだ

ブレイブ 「剣術50!!」

「タドルメグル RPG タドルファンタジー」

ファンタジーゲーマーレベル50になった

ブレイブ 「は!!」

ブレイブは手から炎の球を出して 機械兵団に攻撃をし さらにテレポートをして切りつけていくのだ

ブレイブ 「これできめる!!」

「キメワザ!!タドルクリティカルスラッシュ!!」

ブレイブ 「はあああああ………」

空中に浮いて

ブレイブ 「ああああああああああ!!」

ライダーキックをかましたのだ

スナイプ 「あーもう!!しつこいなー」

そういつてガシヤコンマグナムを放ちながら 機械兵団を攻撃をしていく

スナイプ「なら!!」

「ズ・キューン!!」

ライフルモードにした ガシャコンマグナムにガシャットをセットをした

「ガシャット キメワザ!!バンバンクリティカルフィニッシュ!!」

スナイプ「は!!」

巨大な球が放たれて 敵を撃破していく

「ジェットコンバット!!」

スナイプ「第三シューティング」

「ガチャンレベルアツプ!ババンバン!バンババン!バンバンシューティング アガツ
チャ ジェットジェットインザスカイ!ジェットジェット ジェットコンバット!!」

コンバットシューティングゲームマールレベル3になったのだ

スナイプ「はあああああ……」

スナイプは空を飛び ガトリングコンバットで攻撃をして 機械兵団を破壊してい
く

スナイプ「空の敵って感じかな?」

そういつて敵が来たので

スナイプ「ミサイルの雨を受けてみる!!」

そういつてミサイルを放ち 攻撃をしていく

スナイプ「決めるよ!!」

「ガシヤット キメワザ!! ジェットクリティカルストライク!!」

スナイプ「一斉発射!!」

そういつてガトリングコンバット ミサイルが放たれて敵を撃破していく

スナイプは地上へ降りて

「バンバンタンク!!」

スナイプ「第40シユューティング」

「ガチャン レベルアップ バンバンシユューティング アガツチャ! 突き進めー! パワ

フル戦車! バンバンタンク! どごーん!!」

脚部にキヤタピラーが装着されて 両手には戦車の砲塔が装着されている 胸部

アーマーはガードをする硬さを持っている タンクシユューティングゲーマーレベル4

0になったのだ

スナイプ「は!!」

両手の砲塔を持ち 砲撃をしていく 機械兵団は壊されていく

砲塔を両肩にセットをして

「ガシヤットキメワザ バンバンクリティカルストライク!!」

デイケイドはライドブツカーソードモードにして機械兵団を切っていく
そしてカードを出す

デイケイド「変身!!」

「カメンライド 電王!!」

デイケイド電王になってデンガツシャーが出てきて 機械兵団を切っていく
さらにカード出す

「フォームライド 電王 ガン!!」

姿がガンフォームになって デンガツシャーもガンモードにして撃っていく
デイケイド「は!!」

さらに乱射をして カードを出す

「フォームライド 電王 アックス!!」

今度はアックスフォームになって デンガツシャーもアックスモードにして切り付
けていく

デイケイド「はああああああああああああああああ!!」

切っていく

「アタックライド ツツパリ!!」

そういつて連続したツツパリで機械兵団を機械たちを吹き飛ばしていく

「フォームライド 電王 ロッド」

ロッドフォームへ変えて デンガツシャーもロッドモードになり 刺した

デイケイド「さてまだまだ敵がいますね」

そういつて抜いて さらに切り付けていくのであった

デイケイド「この数 きりがありませんね」

「カメンライド 龍騎!!」

デイケイド龍騎になった

「アタックライド アドベント」

ドラグレッターが現れて 口から火炎の光弾を放ち 撃破していく

デイケイド「なら これだ」

「カメンライド オーズ!!」

デイケイドオーズになって トラクローで切っていくのであった

フォーゼ「おわわわ!!」

「シールドON」

シールドモジュールでガードをして

フォーゼ「お返しだ!!」

「クローON ボードON」

そういつてボードモジュールに乗り そのままクローモジュールで切り裂いたのだ
スイッチをOFFにして

「ジャイアントフックON」

フォーゼ「巨大な足をくらえー！ー！ー！ー！！」

そういつて巨大な足で機械兵団を攻撃をする

「ジャイロON ガトリングON」

そういつて上空へとび ガトリングが放たれたのだ

機械兵団は攻撃を受けて破壊されていく

フォーゼ「まだいるのー！ー！ー！ー」

そういつてスイッチを変えていく

ゴースト「だあああああああ！！」

ゴーストはガンガンセイバーで切っていく

ゴースト「ベートベンさん！！」

「開眼 ベートベン！！曲名 運命 ジャジャジャーン！！」

ベートベン魂になって

ゴースト「せい！！」

ピアノの幻影が現れて それをひくと音符が飛び 爆発をしていく

ゴースト「は!!ビリーザキッドさん!!」

「開眼!!ビリーザキッド!!百発百中!ズキyunバキyun!」

ガンガンセイバーガンモード バットクロックガンモードにして 連続で放つていく

ゴースト「ああああああああああ!!」

さらに乱射をして回転をして撃ちまくる

ゴースト「弁慶さん!!」

「開眼ベンケイ!!兄貴 ムキムキ 仁王立ち!」

ガンガンセイバーハンマーモードにして

ゴースト「ああああああああああ!!」

地面にたたきつけるのであった

ビルド「はああああああああああ!!」

ドリルクラッシュャーで次々に攻撃をして

ビルド「ビルドアップ!!」

「天かける ビックウエーブ クジラジェット」

ビルド「さーて」

そういつてガンモードにした ドリルクラッシュャーを構えて 空を飛び 空中から

連続して放つ

機械兵団は攻撃をするも

ビルド「当たりません!!」

回避をして さらに大波をだして機械兵団はさらわれて破壊されたのであった

「輝きのデストロイヤー ゴリラモンド」

そういつて変わり 右手のゴリラハンドで殴りつけていく

ビルド「もう・・・多すぎるですよ」

そういつてビルドはダイヤモンドでガードをして それを殴りつけたのであった

響「だああああああ!!」

響はそのこぶしで次々に 機械兵団のロボットを壊していく

後ろから攻撃を受けようとしている

響「しま!!」

だがそれをビームが飛び 機械兵団のロボットを倒す

未来「もう 響はいつもそうなんだから!!」

響「ごめんごめん ありがとう未来」

未来「おっと」

響「まったく 少しはお話をさせてくれてもいいよね!!」

そういつてロボットの顔面を破壊したのであった

翼「マリア 少し戦線離脱をしていたが……もういいのか？」

マリア「あら？そういうあなただって……」

そういつて剣と短剣で攻撃をしながら話している

クリス「つてか話をしている場合かよ!!」

そういつてガトリングで掃射をしているクリスであった

翼「そうだったな」

奏「まああたしからしたら」

そういつて突き刺した

奏「あんたが戻ってくれたのがうれしかったぜ？」

翼「ああ……私も戻れてうれしき……」

切歌「調!!あれを使うデース!!」

調「これだね!!」

二人が出したのは ドラゴナイトハンターZだった

「ドラゴナイトハンターZ!!」

すると二つのハンターゲーマーが現れて 二人をフルドラゴンにしたのであった

切歌「でーーーーーす!!」

そういつて火炎放射を放ち 兵団を燃やしていく

調「だああああああああ!!」

さらにドラゴブレードで切っていく 調コンビであった

エグゼイド「いくぜ!!」

クロトが変身をした エグゼイドはガシャコンブレイカーで切っていく

エグゼイド「大大変身!!」

「マイティマイティアクシオンX!アガツチャ!ぶつ飛ばせ!突撃!ゲキトツパンチ!

ゲキトツロボツツ!

ロボツツアクシオンゲーマーレベル3になった

エグゼイド「どりやああああああ!!」

接近をして ゲキトツスマツシャーで殴り さらにメダルを取り

「高速化!!」

エグゼイド「どりやああああああ!!」

「キメワザ!!ゲキトツクリティカルストライク!!」

エグゼイド「ああああああああああ!!」

ゲキトツスマツシャーを飛ばして 連続で殴っていくのだ

エグゼイド「健介!!ここは俺たちが引き受ける!!お前たちは先へいけ!!」

フェイス「ですが!!」

デステイニー「わかった!!頼む!!」

そういつてフェイスとデステイニーは行くのであった

エグゼイド「ちい!!パラド!!」

パラドクス「わかった!!」

そういつてパラドクスはエグゼイドの中へ入り

「マイティブラザーズダブルエックス!!」

エグゼイド「だー！ー！ー！ー！ー！変身!!」

「ダブルアツプ!!俺がお前で お前が俺で ウィーアー マイティマイティブラザーズ

ダブルエックス!!」

ダブルアクションゲーマーレベルXXになって

二人「超強力プレイでクリアしてやるぜ!!」

エグゼイド R「はああああああああああああああ!!」

こっちはパラドがメインとなっており ガシヤコンキースラッシュャーで攻撃をして
いる

エグゼイド L「は!!」

こちらはクロトがメインとなっており ガシヤコンブレイカーで攻撃をしていく

二人のエグゼイド「だあああああああ!!」

二人の斬撃で次々に切り裂かれていく

バロン「やるな あの二人!!」

アルマ「そうだね」

そういつてガンガンハンドをだして

アルマ「援護をするからいつて 戒斗」

バロン「ふん いくぞ!!」

そういつてバロンはバナスピアーを構えて突撃をする

バロン「は!!」

バナスピアーで次々に刺していく バロン それを狙っていくロボットたちだが

アルマ「させないよ」

「ダイカイガン オメガスパーク!!」

散弾のように ガンガンハンドが現れて砲撃をする

バロン「はあああああああああああああ!!」

「カモン バナナスカッシュユ!!」

バロン「でああああああああああ!!」

バナスピアーにエネルギーが発生をして 突き刺していくのであった

「マンガアームズ FIGHT OF HAMMER」

マンガーパーニツシャーで次々に攻撃をしていく

バロン「遅い!!」

かわして

アルマ「はああああああああああああああああ!!」

ディープスラツシャーとサングラススラツシャーを二刀流にして 切り裂いたのだ

バロン「であ!!」

さらに吹き飛ばしたのであった

バロン「さて・・・まだいるか」

アルマ「あー多いね」

ルノ「えい!!」

ルノは剣で次々に切っていく

エグゼイドゼロ「であああああああああ!!」

エグゼイドゼロはマイティゼロキックを使って 蹴り飛ばしていく

ルノ「すごいですね 祥平さん」

エグゼイドゼロ「そうかな・・・」

そういつてウルトラゼロランスで刺した

エグゼイドゼロ「ならルノちゃんだつてすごいじゃないか」
ルノ「そうですね？」

「そういつてさしながら言う」

エグゼイドゼロ「さーて」

「ダブルモード!!」

するとエグゼイド ウルトラマンゼロに分離をした

エグゼイド「いくぜ!!」

エグゼイドはガシヤコンブレイカー

ゼロ「であ!!」

ゼロは走り ゼロスラッガーを投げる

ルノ「よし私だつて!!」

そういつて走るのであつた

さて一方で

フィス「ダークフィス!!」

カナリア「なるほど・・・やってくれましたね」

デステイニー「貴様が」

カナリア「そうよ」

そういつてダークフェイスドライバーをつける
カナリア「変身」

「ダークライオンモード」

そういつて姿が変わったのであつた

フェイス「私たちはあなたを止めます!!」

デステイニー「そして勝つて見せる!!」

ダークフェイス「やれるか!!お前たちに!!」

二人「いくぞ!!」

フィス デステイニー対ダークフィス

デステイニー「は!!」

デステイニーはビームライフルでダークフィスに攻撃をしてきた

ダークフィス「ふふふ」

ダークフィスは背中中のマントでガードをして消す

フィス「だあああああああ!!」

フィスはライオンソードで切りつけるが

ダークフィス「甘いわ!!」

そういつてフィスを蹴り飛ばす

フィス「きやあああああ!!」

デステイニー「はあああああああああああああ!!」

デステイニーは空を飛び

フェイト「フルバーストモード インストール」

すると姿が変わり 仮面ライダーデステイニー フルバーストモードになった

デステイニー「はあああああああああああああ!!」

装甲が展開されて ガトリング ミサイルなどが現れて 放たれた

ダークフェイス「ぐ!!」

ダークフェイスはかわそうとしたが

ファイルス「カメレオンモード!!」

するとダークフェイスに絡まる

ダークフェイス「!!」

フェイス「逃がしません!!」

フェイス カメレオンモードが左手の装甲が展開されて ダークフェイスを絡ませたのだ

ダークフェイス「ぐあああああああ!!」

ダークフェイスはデステイニーフルバーストの攻撃が命中をした

フェイス「はあああああああああああああ!!」

さらに接近をしてカメレオンレイピアでダークフェイスのボディに突いたのだ!!

ダークフェイス「ぐ!!」

フェイト「デステイニーストライク!!」

デステイニー「であああああああああ!!」

背中の翼が開いて 蹴りを噛ましたのであった

ダークフィス「ぐ……」

するとベルトに罫が入り、ベルトは崩壊をしたのだ

カナリア「……………」

フィス「もうこれ以上はやめてください!!戦ったって意味ないですよ!!」

カナリア「私もなめられたものね……私はこれだけだと思っただかしら?」

するとゲームードライバーを出した

デスティニー「ゲームードライバーだ!!」

そしてカナリアは装着をし、さらに二つのガシヤットを出したのだ

フィス「あれって!!」

フィルス「マキシマムマイティXにハイパームテキだ!!」

カナリア「残念ね……確かに似ているけど……」

「ダークマキシマムマイティ!!」

「ダークネスムテキ!!」

カナリア「ダークネス 大変身」

「ぱかーん ダークネス!!黒きー獄滅のごとく 暗黒の漆黒のゲーマー ダークネス

ムテキ エグゼイード」

姿は黒いハイパームテキの姿をしている

ダークエグゼイド　ダークネスムテキゲーマーになったのだ

デステイニー「その姿……そしてそのゲーマードライバー……まさか!!」

ダークエグゼイド「その通りよ　あの時　高田　祥平が使っていたゲーマードライバーを私は奴を倒した時に回収をして　改良を加えたのよ……」

フィス「でもそのガシャットは!!」

ダークエグゼイド「そうね……そのデータを使って改良をし　さらなる力をあげたのよ」

すると一瞬で　デステイニーの後ろに来ていたのだ

デステイニー「!!」

デステイニーは蹴りを囓ますが　ガードされる

デステイニー「ぐ!!」

ダークエグゼイド「はああああああああああああああああ!!」

ダークエグゼイドの拳が命中をして　デステイニーが吹き飛ば

デステイニー「ぐああああああああ!!」

フィス「お父さん!!」

そういつてフィスも攻撃をしようとしたが

「ズ・キュン!!」

フィス「きゃああああああ!!」

みるとダークエグゼイドの手にガシヤコンマグナムを持って放ったのだ

デステイニー「ぐ……」

デステイニーはフォームカードを出す

はやて「工事現場モード!!」

そういつて姿が変わり

はやて「轟轟剣!!」

現れた剣を持ち 攻撃をする

デステイニー「はああああああああああああああああ!!」

デステイニーの轟轟剣で攻撃をするが

「ガシヤコンスパロー」

ガシヤコンスパローで受け止めたのだ

ダークエグゼイド「甘いですわ!!」

そういつて鎌モードにして デステイニーのボディを切りつけたのだ

デステイニー「が!!」

フィス「この!!」

フィスはゴリラモードになって攻撃をするが

ダークエグゼイド「どうしたのかしら？」

フィス「な!!」

ファイルス「ゴリラモードの拳を受け止めただと!!」

ダークエグゼイド「力とは・・・こう使うのよ!!」

そういつて引き寄せて フィスのおなかを殴ったのだ

フィス「が・・・あ・・・」

そして投げ飛ばした

デステイニー「愛!!ぐお!!」

受け止めたが・・・後ろへ吹き飛ばされる

ダークエグゼイド「うふふふ・・・どうしたのかしら?仮面ライダー」

フィス「つ・・・強い・・・」

デステイニー「なんて力だ・・・」

ダークエグゼイド「さーてトドメを刺してあげるわ」

そういつてガシヤコンキースラッシャーを構える

「キメワザ!!マキシマムクリティカルフィニッシュ!!」

ダークエグゼイド「!!」

ダークエグゼイドはそれをかわした

エグゼイド「大丈夫か 健介!!」

Baron はレモンエナジーアームズ エグゼイドゼロはルナミラクルになってきたのだ

ブレイブ スナイプはレベル50 ゴーストは平成魂 デイクイドはデイクイド
 ウィザード フォーゼはロケットステイツになってきたのだ
 ビルドはラビットタンクスパークリングになってきたのだ

調「健介!!」

調たちも到着をした

クリス「あいつ・・・なんかエグゼイドみたいだな」

エグゼイドゼロ「あれは!!」

ダークエグゼイド「ええあなたのですよ 高田 祥平・・・」

バロン「あの時に回収をしていたってことか」

そういつてソニックアローを構える

ダークエグゼイド「うふふふ・・・」

エグゼイド「何がおかしい」

ダークエグゼイド「この姿でできることはこれだけじゃないですわ」
すると何かを出して

「ポーズ」

ダークエグゼイド「うふふふふ．．．．．」

笑いながら 何かを出していく

それは武器などが現れて 全員に攻撃をしたのだ

ダークエグゼイド「そして始まる」

「リスタート」

全員「ぐああああああああああああああああ!!」

全員がボロボロになり 変身が解除をされる

健介「が．．．．．」

愛「あぐ．．．．．」

ダークエグゼイド「どうかしら?」

クロト「なぜ奴が．．．．．」

ダークエグゼイド「言ったでしょ?あなたたちの力を調べたのですよ 簡単ですよ」

戒斗「．．．．．」

祥平「が．．．あ．．．．．」

ルノ「あう．．．．．」

全員が倒れてしまったのだ．．．．．調たちはギアが解除されてしまう．．．．．

ファイルス「バディ……………」

なのは「健介さん」

健介「ぐ……………」

全員が立ちあがるようにするが、ボロボロで立ちあがることのできない

ダークエグゼイド「さてこの地球を破壊をしましょうかしら？」

祥平「なに!？」

そういつてダークエグゼイドは何かのボタンを押す……すると砲撃ユニットが現れたのだ

健介「!!」

ダークエグゼイド「これでこの地球は滅びるわ……おっほっほっほ!!」

そしてチャージを開始をしている

健介「……………させるか!!」

健介はボロボロの体で立ちあがり、デステイニードライバーを持ち、変身をして宇宙へ出る!!

ダークエグゼイド「愚かな……………」

調「健介!!やめて!!」

調は泣きながら言うが……………

「デステイニー……」

「デステイニーは何かをしようとしている」

「なのは「まさか……健介さん!!」」

「デステイニー……」

「デステイニーはカードを出す」

「それをベルトのところにかざす」

「なのは「リミッター解除……」」

「ダークエグゼイド「発射!!」」

「そういつて砲撃が放たれた」

「デステイニー「であああああああああ!!」」

「デステイニーは力を解放させて その砲撃を受けながら前へ行く」

「ダークエグゼイド「!!」」

「デステイニー「うおおおおおおお!!」」

「そしてそのままキャノン砲に入って 爆発が起こったのだ」

「キャノン砲は爆発をしたのだ!!」

「調「いやああああああああああああああああああ!!」」

「翼「健介さん!!」」

切歌「いや・・・いやいやいや!!」

つと奏者たちはパニックになってしまった・・・

クリス「あ・・・あああ・・・」

マリア「うそよね・・・うそよ!!」

セレナ「健介さん!!」

ダークエグゼイド「おのれ!!」

クロト「・・・許さん!!」

アルマ「戒斗!!」

戒斗「やるぞ!!」

祥平「ゼロさん!!」

ゼロ「ああ!!俺も許さねえ!!」

愛「よくも・・・よくもよくも!!」

全員が変身をする

怒りの激突!!

全員「うああああああああ!!」

ダークエグゼイド「怒りで攻撃など 私には当たりませんわ」

調「黙れ黙れ黙れ黙れ!!」

そういつて調はシャルシヤガナの鋸で攻撃をする

切歌「殺す!!」

そういつて切歌も鎌で攻撃をするが

ダークエグゼイド「甘いわ!!」

すると地面からツタが現れて 二人を吹き飛ばす

2人「きゃああああああ!!」

翼「切歌 調!!」

クリス「この野郎!!」

そういつてクリスはギアを展開をして 一斉射撃で攻撃をする

ダークエグゼイド「ふん」

ダークエグゼイドはマントでガードをしたのだ

奏「どりゃあああああ!!」

翼「はああああああああああああああああああ!!」

奏と翼は槍と剣を構えて

マリア「はああああああああああああああああああ!!」

マリアは光の短剣で攻撃をしようとするが

ダークエグゼイド「は!!」

ダークエグゼイドはバリアーで攻撃をふさいだのだ

三人「きゃああああああ!!」

響「だああああああ!!」

響は拳で攻撃をしていくが　ダークエグゼイドにすべてふさがれている

響「だ!!」

未来「響ふせて!!」

響「!!」

響はしゃがんで

ビームがダークエグゼイドに飛ぶ

ダークエグゼイド「ぐお」

ゲムム「はああああああああああああああああ!!」

パラドクス「であ!!」

2人のライダーの攻撃が命中をして

バロン「は!!」

アルマ「であ!!」

さらにバロン アルマの攻撃が命中をした

ルノ「ええい!!」

ルノも剣で切りつけた

エグゼイドゼロ「これで終わりだーーーーーーー」

そういつてエグゼイドゼロは攻撃をしようとしたが

「たすけて!!」

エグゼイドゼロ「え・・・・・・・・」

ダークエグゼイド「馬鹿め!!」

そういつてダークエグゼイドはガシヤコンキースラツシャーでエグゼイドゼロを切ったのだ

エグゼイドゼロ「うあああああああ!!」

ゲンム「どうして攻撃を」

エグゼイドゼロ「今 助けてという声が・・・・聞こえたんです」

バロン「助けて……………」
すると

「たすけて…………たすけて!!」

全員「!!」

調「聞こえる……………」

ブレイブ「ええ……………」

デイケイド「でもだれが」

「たすけて!!」

ファイルス「わかったぞ!!彼女だ!!」

フェイス「ファイルスどういうこと」

ファイルス「おそらくだが 彼女は何者かによって体をのつとられているんだ それで残っている力で私たちに助けを求めているのだ!!」

ゴースト「まさか…………あの人がやってきたことって」

ファイルス「おそらく彼女の体に乗っ取った奴がしたことだろう…………」

翼「…………だが…………やつを許すなんて…………」

マリア「そうよ…………あいつによって健介が…………」

パラドクス「くそ…………奴はそいつの体に乗っ取っているからな…………攻撃をし

たらそいつがダメージを受けてしまっぜ……」

ゲンム「ああ……だがどうしたら……」

そういつて考える戦士たち……」

ゼロ「あるぜ……方法が」

エグゼイドゼロ「ゼロさん？」

ゼロ「俺にはダイナとコスモスというウルトラマンの力が今ある　その一つ　コスモスの力を使う」

ゲンム「コスモスの力？」

ルノ「どうするのですか？」

ゼロ「祥平　ルナミラクルモードだ」

エグゼイドゼロ「わかりました」

するとエグゼイドゼロの色が青くなり　ルラミラクルゼロモードになったのだ
ダークエグゼイド「変わろうと私に勝てるはずがない!!」

ゼロ「うるせ!! 大人しくしやがれ!!」

エグゼイドゼロ「はあ!!」

エグゼイドゼロは攻撃を回避をしたのだ

エグゼイドゼロ「すこし大人しくさせましょう!! ミラクルゼロスラッガー!!」

そういつてゼロスラッガーが飛び　ダークエグゼイドを切りつけていく
ダークエグゼイド「ぐ!!」

すると轟が発生をしたのだ

ダークエグゼイド「う．．．動かないだ!!」

バロン「ぐ．．．．．なんて力だ」

エグゼイドゼロ「戒斗さん!!」

バロン「心配するな!!お前は今　自分が何をするのかを考えろ!!」

エグゼイドゼロ「はい!!」

そういつてエグゼイドゼロは行き

エグゼイドゼロ「フルムーンウェーブ!!」

そういつて光を出したのだ

ダークエグゼイド「ぐ．．．ぐああ．．．．．なんだこれは!!」

そういつてダークエグゼイドに光を与えていくのだ

ゲンム「効いている!!ならば!!」

「ゴッドマキシマムマイティX!!」

ゲンム「グレードビリオン　変身!!」

「最大級の神の神の才能!!クロトダーン　クロトダーン　ゴッドマキシマムエックス

!!
」

そういつて着地をしたのだ

ダークエグゼイド「ぐああああああああああああああ!!」
すると 彼女が分離されたので

ゲンム「は!!」

ゲンムは腕を伸ばして彼女を助けたのだ

ダークエグゼイド「おのれ………」

フィス「はああああああああああああああ!!」

フィスはダツシユをして ライオソードで切りつけていく

ダークエグゼイド「ぐ………」

フィス「あなたのような人を許すわけにはいきません!!」

そういつてフィスは切っていく

フィス「カナリアさんを利用したことを絶対に絶対に許すわけにはいきません!!」

そういつてイーグルモードになり イーグルライフルで攻撃をした後

フィルス「愛!!」

フィス「なにこのアイコンは」

フィルス「これは祥平がくれた フォームだ ただし今の君の状態では一度しか使え

ないのだ……それほど強力なフォームだからだ!!」

フィス「わかった!!」

フィスはそのボタンを押す

フィルス「轟天霸王モード!!」

するとフィスの姿が変わり 轟天霸王モードへチェンジをしたのだ

ダークエグゼイド「おのれ!!」

そういつてダークエグゼイドは攻撃をしてくるが

フィス「は!!」

まずフィスがしたことはゲーマードライバーをとったのだ

ダークエグゼイド「な!!」

すると姿が解除をされたのだ

カナリア黒「おのれ……」

するとカナリア黒はネフシユタンに似た鎧を装着をしたのだ

クリス「ネフシユタンだ!!」

カナリア黒「くらうがいい!!」

そういつて鞭を飛ばすが

フィス「ああああああああああ!!」

現れた剣でそれをはじいたのだ

カナリア黒「な!!」

フィス「これで終わりです!!」

そういつてフィルスの必殺アイコンを押す

フィルス「必殺!!轟天霸王ブレイカー!!」

フィス「はあああ・・・はああああああああああ!!」

そういつて強力な攻撃が飛ぶ

カナリア黒「ぐ・・・ぐああああ・・・ぐああああああああああ!!」

カナリア黒は吹き飛ばされるのであった

そして基地が爆発が始まろうとしている

フィルス「愛!!」

愛は倒れたのだ

ブレイブ「大丈夫気絶をしているだけよ」

そういつて全員がテレポートジェムで脱出をしたのだ

基地へ戻ったが

「おのれ!!」

全員「!!」

そこには黒い何かがいたのだ

「貴様たちを生かすわけにはいかないのだ!!」

ゲムム「貴様!!」

愛「フィス」

フィルス「愛!!」

愛「変身」

フィスになつたのだ

フィルス「無理をしてはいけない!!」

フィス「でもお父さんが守ってきた世界だから!!守る!!」

「ぐおおおおおおおおおお!!」

その黒き龍は襲おうとしたが

「必殺!!シンフォギアストライク!!」

「であ!!」

黒き龍に攻撃が当たり 着地をした

調「あ・・・ああ・・・健介!!」

「そう攻撃したのは仮面ライダーデステイニーだった

デステイニー「すまない・・・心配をかけた」

フィス「お父さん!!」

デステイニー「受け取れ 娘たち!!」

そういつてガシヤット カード アイコン スイッチを投げたのだ

フォーゼ「これは……」

デイケイド「お父さん これは」

デステイニー「いいから使ってみろ」

「シンフォギアON」

「カメンライド シンフォギアモード!!」

「戦姫絶唱 シンフォギア!!レベルアップ!!装着 欠片の力を出せよ シンフォギ

ア……」

「開眼!!シンフォギア!!新たな力 目覚めるシンフォギア!!」

フォーゼ シンフォギアステイツ デイケイド シンフォギア ブレイブ スナイ

プ シンフォギアゲーマー ゴースト シンフォギア魂になったのだ

フォーゼ「これはお母さんのアガートラム」

ブレイブ「これは母上の」

スナイブ「こっちはママの」

ゴースト「これはお母さんのだ!!」

ファイルス「愛!!」

フィス「うん!!」

ファイルス「シンフォギアモード!!」

バロン「なら!!」

「カモン!!シンフォギアアームズ 真!!つながりし世界の歌!!」

エグゼイドゼロ「うおおおおおおおおお!!」

ゲナム「なら」

「ハイパームテキゴツド!!」

それぞれも解放させて

ルノ「来てバハムート!!」

そういつて全員が姿を変える

バロンはシンフォギアアームズ真となり

ゲナムはムテキゴツドゲーマーに

エグゼイドゼロはムテキビヨンドモードに

ルノはバハムートに乗り

パラドクスはゲナムの中へ入ったのだ

調たちもギアがエクストライブモードになり

ビルド「なら私も」

「ラビットタンクスパークリング!!」

ビルド「ビルドアツプ!!」

そういつて姿を変えたのだ

デステイニー「さあいくぞ!!これが最後の決戦だ!!」

奇跡の戦い

黒い龍「くらえ!!」

黒い龍は口から光弾を放ってきた

全員「はああああああああああああああああああ!!」

全員が空中に飛び

クリス「くらいやがれ!!」

クリスはギアを展開 ガトリングで攻撃をする

バロン「はああああああああああああああああああ!!」

さらにバロンもクリスのギアに変えて攻撃をする

黒い龍「ぐおおおおおおおおお!!」

ルノ「はああああああああああああああああ!!」

バハムートの高機動攻撃で黒い龍を切っていく

黒い龍「おのれ!!」

さらに黒い龍は口から破壊光線をはなった

エグゼイドゼロ「であ!!」

ゲナム「はああああああああああああああああああああ!!」

エグゼイドゼロのゼロツインスラッガーとゲナムのガシヤコンキースラッシャーでその攻撃をはじめたのだ

響「はああああああああああああああああああ!!」

ゴースト「ああああああああああああああ!!」

親子のダブル拳が連続で放たれていく

ブレイブ「母上!!」

翼「ああ!!いくぞ!!」

そういつて2人は同じ刀のギアを持ち　ダツシユをする

2人「せい!!」

黒い龍「ぐおおおお・・・」

奏「やるじゃん」

デイケイド「お母さんなら私たちも」

奏「あああいつらに負けないところ　見せてやるぜ!!」

そういつて空を飛び

2人「はああああああああああああああああ!!」

親子のコンビで槍を突き刺した

ビルド「さーて」

フォーゼ「お母さん!!」

ビルド「姉さん!!」

マリア「ええ!!いいわねアガートラムは短剣で攻撃をする以外にもあるのよ」

フォーゼ「そうなんですか!!」

ビルド「さーて私がその間時間を稼ぎますから」

そういつてビルドはドリルクラツシャーとホークガトリンガーを構えて攻撃をする

ビルド「よつと!!」

マリア「さあ構えるわよ!!」

そういつてフォーゼは右手を マリアは左手を構える

マリア「セレナ!!」

ビルド「了解!!」

ビルドは回避をして

2人「いっけーいっけーいっけー!!」

強力な砲撃を放つたのだ

黒い龍「ぐおおおおお・・・」

切歌「真奈!!」

スナイプ「はい!!」

2人「だあああああああ!!」

2人の鎌がさらに切りつけていく

調「愛!!」

フィス「うん!!」

2人「せいあああああああああ!!」

大きな鋸が発生をして 黒い龍を切りつけていくのだ!!

黒い龍「ぐおおおお・・・なぜだ・・・なぜ貴様たちに私がダメージを与えることができないのだ・・・私は・・・不滅の悪魔・・・お前たちを滅ぼすための・・・悪魔なのだぞい!!」

デステイニー「だまれ!!」

デステイニーが言う

デステイニー「お前に殺された人たち・・・そして罪のない親子を使い 自らの野望のために利用をしたお前を俺は・・・いや俺たちは許すことはできない!!」

黒い龍「黙れ!!」

そういつて攻撃をするが

デステイニー「はあああああああああ!!」

デステイニーの両手にはイガリマの鎌とシャルシヤガナの鋸
そして右手にはアマノハバキリの剣が装着をされていた

デステイニー「でああああああああああああ!!」

デステイニーが放った斬撃は黒い龍を切り刻んでいったのだ
黒い龍「ぐああ……ぐああ……ぐああ……ぐああ……」

デステイニー「今だ!!」

全員「おう!!」

「カモン!!シンフォギアスカッシュユ!!」

「ハイパーゴッドクリティカルスパークキング!!」

「必殺!!ムテキビヨンドブレイク!!」

「シンフォギア リミットブレイク」

「ダイカイガン!!シンフォギア オメガドライブ!!」

「ガシヤットキメワザ!!戦姫絶唱 クリティカルストライク!!」

「ボルティックファイニッシュユ!!」

フィリス「必殺!!シンフォギアメテオストライク!!」

全員「はああああ……」

全員が空を飛び

全員「であああああああああああ!!」

黒い龍に全員が放った 奇跡の蹴りが命中をしたのだ

黒い龍「ぐあああ………馬鹿な………我は………こんなところで!!」

デステイニー「逃がさん!!」

デステイニーは背中の翼を開いて

デステイニー「なのは 皆 いくぞ!!」

全員「はい!!」

そういつて必殺アイコンをかざす

全員「デステイニー ハイパーメテオブレイク!!」

デステイニー「せいやああああああああああああああ!!」

デステイニーの翼が光の羽となり 黒い龍だったものに蹴りを嘯ましたのだ!!

「ぐああああああああああああ!!おのれ………仮面ライダー………余は必ず………復活を!!」

デステイニー「させない!!絶対に!!うおおおおおおお!!」

「ぎやああああああああああああああああああ!!」

デステイニー「………終わつたな」

そういつてデステイニーは空中からゆっくりと着地をしたのであった

調「健介!!」

調と切歌がデステイニーに抱き付いてきた

デステイニー「心配かけてしまったな」

切歌「そうですねよ!!もういつもいつも心配をかける旦那さんです!!」

ゲナム「だがお前はどうかやって生きていたんだ・・・あの時」

デステイニー「・・・・・・・・・・」

デステイニーは変身を解除をした

健介「あの時 俺は確実にキャノン砲を壊すために突撃をした・・・・・・・・」

マリア「ええ・・・・・・・・」

健介「だが俺を助けてくれた人物がいたんだ」

愛「それって」

そういつて健介はあるものを出した

セレナ「これって・・・ギア」

健介「別世界の調たちだった・・・・自分たちの命と引き換えに・・・・俺を生かし

てくれたんだ」

全員「!!」

健介「・・・・・・・・あいつらはこういった」

調「生きて……………」

健介「つとな……………そしておれは彼女たちに助けてもらい……………体の回復させて シンフォギアの力をガシャット スイッチ アイコン カードの力へと変換させただんだ……………それが」

茜「この力つてことか……………」

なのは（みんな……………敵はとつたよ……………）

健介「……………」

愛たち仮面ライダーの活躍で 機械帝国は崩壊をしたのであった

健介「よし……………」

健介が改修したのは 大炎軍団が使用をしていた 異次元装置だった

あの後次元装置を見つけて 停止をして S O N G が改修をして健介がさらに改造をしたのであった

健介「さてこれでクロト達を無事に世界へ返すことができる」

クロト「ありがとうな 健介」

健介「気にするなつて まあたフィルスのデータを活用させてもらったしね」

そういつて笑うのであった

健介「それじゃあまずはクロト達から」

そういつてスイッチを押して

クロト「それじゃあ健介」

翼（ク）「お世話になりました」

響（ク）「また会えることを願って!!」

パラド（ク）「今度は負けないからな!!」

健介「もう勘弁してくれよw」

クロト「それじゃあ・・・またな 健介」

健介「そちらもな 一夏」

クロト「お前・・・」

健介「・・・ふふ」

そういつてクロト達は入っていくのであった

健介「それじゃあ次はルノちゃんだよ」

ルノ「はい!!クロトさん以外にも仮面ライダーがいたこと・・・そして共に戦った

ことを私は忘れません!!」

健介「もし今度俺たちが行くことになったら・・・よろしくな?」

ルノ「はい!!」

健介「それじゃあルノちゃん」

そういつてスイッチを押す

ルノ「それじゃあ皆さん!!お元気で!!」

そういつてルノちゃんが入っていった

戒斗「次は俺たちだな」

健介「戒斗助かった」

戒斗「気にするな おれがしたかったから助けただけだ」

健介「それでもだ」

そういつてスイッチを押す

戒斗「今度は俺たちの世界へ来るがいい」

アルマ「その時は僕が送るよ!!」

翼（戒斗）「ぜひ来てください!!」

奏（戒斗）「あたし的にはあたしと戦ってみたいけどな」

奏「お、それは楽しみな!!」

そういつて笑う奏で同士であった

健介「それじゃあ スイッチを押すよ」

そういつてスイッチを押して 扉が開いた

戒斗「じゃあな 健介」

そういつて戒斗たちも中へ入っていき

健介「さて……祥平」

祥平「はい」

健介「ありがとうな わざわざ助けに来てくれてよ」

祥平「いいえ 俺も新たな力をもらいました……それでお相子です……それと」
そういつて渡したのは

健介「これは……ゲームードライブとガシヤット」

祥平「俺はもう使えません……だから」

健介「いいのだな？」

祥平「はい」

健介「わかった 大事にもらっておくよ それとカナリアを任せる こっち
じゃ……」

祥平「わかってますよ……」

カナリア「あの……ありがとうごさいました……色々とご迷惑をおかけしまっ
て……」

健介「気にしてないさ……君は操られてやったことだから……」

健介はそういつてスイッチを押す

もらったガシャットはマイティアクションX ゲキトツロボツツ シャカリキス
 ポーツ マイティブラザーズダブルエックス マキシマムマイティX ハイパームテ
 キだ

健介「さて・・・その前に どうやら祥平 お前に対して怒っている人たちがこちら
 へ来るそうだw」

祥平「え？」

すると来たのは

セレナ（祥平）「祥平・・・・・・」

そういたのは セレナ 奏 翼 調と祥平が付き合っている人物たちが怒りのオー
 ラを纏ってきていたのだ

祥平「ガタガタブルブルガタガタブルブル（；。D。）」

アーナス「あちやー・・・」

パラド「ばれちまったな」

マリア「ごめんなさい祥平・・・皆にばれてしまったわ・・・」

セレナ「あら・・・」

調「祥平さんだまってきちやつたですか・・・」

切歌「それは皆怒って当然デース・・・」

クリス「だな……」

全員「さあ祥平……OHANASIをしようか」

祥平「いやだ!!まだ死にたくない!!死にたくない!!」

パラド「えつとお世話になったぜ」

アーナス「えつとまた会いましょう」

健介「ああ この装置をつかえば いけるけどなw」

そういつて笑うのであった

祥平「いやああああああああああああああああああああああああああああ!!健介さん助けてくださいー」

健介「自業自得だ……」

すると健介の肩をつかむものたちがいた

健介「あれー」

クリス「さーて健介」

マリア「このいなくなっていたことも含めてお話があるわ」

健介は見ると 奏者たちの目から光が消えているのであった

健介「ファイルス……もしかして？」

ファイルス「バディ……さすがの私も助けることはできないからな……」

健介「とほほ……やっぱりこうなりますか……」

そういつて引きずられていく戦士たちであった 装置はファイルスが切ったのであつた

あの後健介は皆に説明をするはめになったのであつた

第三章 日常とギャラホルン

セレナ 怪盗をする

セレナ「えつと……」

今セレナはブルーレイを出して 何かを見ようとしているのだ

セレナ「切歌がこれは面白いから見たほうがいいデースって言うからどんなのか気になるって……」

セレナはそれを見ることにしたのであった

「待て——ルパン——」

「あばよとつちゃん——」

セレナ「……これだ!!」

何かをひらめいたのかセレナは急いである場所へ向かった

SONH基地 健介の部屋

健介「……ふむ」

今健介は 別世界での未来の調たちが救ってくれたギアをなんとかしている……
なのは「どうなんですか？健介さん」

健介「ああ・・・だいぶなおって・・・」

セレナ「健介さん!!」

健介「せ・・・セレナ!?!」

突然ドアが開いた あれ?そこって自動ドアじゃなかったっけ?

セレナ「お願いがあります!!」

健介「はい?」

セレナ「アガートルームありますか!!」

健介「アガートルーム?どうして」

セレナ「怪盗をしたのです!!」

健介「・・・え?」

なのは「ふえ?」

健介「えつとセレナもう一度言ってくれる?」

セレナ「怪盗!!」

健介「O U T ー ー ー ー !!何言っているの君!!怪盗!!なぜ!!ホワイ!!」

セレナ「健介さん 落ちついてください!!」

健介「すまない・・・だがどうして怪盗」

セレナはあるものを出した

健介「ルパン三世……」

つと頭を抑えるのであった

セレナ「それで悪事を働いている輩を成敗をするのです!!」

健介「ふーむ……怪盗ね……」

健介は何かを考えると

健介「そうだ ながらも怪盗って一人じゃ」

セレナ「大丈夫です!!」

すると入ってきたのは

マリア「えつと……」

調「えへへ……」

切歌「ごめんです……」

健介「このメンバーね……」

つと健介は苦笑いをするのであった

マリア「セレナが上目遣いで……見てきて……」

調「私は巻き込まれて……」

切歌「私は責任者として出そうデース……」

健介「まあいいわ ほい」

そういつて健介が出したのは

セレナ「これって!!」

健介「前の戦いで俺を助けてくれた 別世界の未来のセレナが使っていたのを修復したんだ……」

セレナ「これでまた私は奏者として戦えますね」

健介「まずは……皆で怪盗というのを見ていこう」

そういつて怪盗というブルーレイなどを探してみるのであった

そして数時間後

健介「それじゃあ次は ギアを使った特訓だよ」

四人「はい!!」

つと動くが

健介「まだ音が出ているよ これじゃあすぐに見つかってしまふ!!」

愛「ねえファイルス」

ファイルス「なんだい？」

愛「お母さんたち何をしているの？」

ファイルス「怪盗とやらをするそうだ」

愛「怪盗……ってどろぼ……!!?」

ファイルス「どあ!!」

ファイルスは愛の大きな声にびっくりをしてしまったそうだ

健介「あー大丈夫 実はあるものを取り返してもらうんだよ」

二人「あるもの?」

健介「ファイルスのデータだよ」

ファイルス「私のデータだ!!」

健介「そうだ お前のデータを使った奴らがいるんだよ」

ファイルス「あの時か 翼のお兄さんが使っていたのかだな」

健介「そういうこと」

こうして特訓が始まって 数時間がたったのだ

健介「それじゃあ四人ともギアをまとってみて」

四人「うん!!」

マリアたちは聖書を唱えると その姿は普段とはちが い 怪盗ができる格好になっ

ているのだ

セレナ「すごい・・・これが怪盗なのですね!!」

調「うん ギアが軽い」

切歌「これならどこでも侵入ができるデース!!」

健介「それじゃあ今からテストをする……四人はある場所へ侵入をしてもらいうよ」

そういつて渡したのであつた

そしてある場所では

ブレイブ「ふむ……異常なし」

スナイプ「こつちもだよ……敵が攻めてくるつてお父さんが言っていたけど」

ブレイブ「父上が言うんだ　とりあえず警戒はしておこう」

スナイプ「だね」

切歌「真奈!？」

調「とりあえず移動をしよう」

そういつて移動をして探す

デイケイド「はあ……」

そういつて警戒をしている

ゴースト「どうですか？」

デイケイド「いいや異常なし」

ゴースト「こつちもですー」

調「ここもだめ」

セレナ「あそこだね!!」

そういつて侵入をして移動をするのであった

マリア「健介の部屋をチエツクをしましょう」

そういつて入る

調「ここにはないわ」

切歌「あ、健介寝ているデース」

セレナ「まって切歌 あれは罠があるわ」

切歌「でででーす!?!」

そういつてやめるのであった

そして色々と探すが

シユミレーション室

健介「待っていたぞ さあこいつを倒せるかな?」

そういつて出したのはノイズであった

愛（あれーお父さん ノリノリなんだけど・・・）

っと思う娘たちであった

そして彼女たちはノイズを倒したのであった

健介「さて合格をした皆に依頼を頼みたいな」

セレナ「はい!!なんですか!!」

健介「それはある研究所にあるファイルスのデータをとってきてほしいんだ」

マリア「ファイルスのデータ?」

健介「そうだ 前に翼の兄貴がガーマスに変身をしたときにつかっていたあれ・・・
おそらくあれはファイルスのデータが使用をされているんだ・・・そしてその場所が判明
をしたんだよ」

セレナ「そうなんですネ」

健介「それでセレナにはこれを渡しておくよ」

そういつて渡したのは

セレナ「これは?」

健介「クローズドラゴンというものさ 相棒として使ってくれ」

セレナ「よろしくねクローズ」

クローズ「ぎやおぎやお!!」

そしてセレナたちは準備をしていくのであった

セレナたちは移動をして その研究所へ到着をしたのであった

マリア「あの研究所ね」

セレナ「あの中にデータが入っている可能性が高い研究所なのですネ」

調「とりあえず センサーを確認をしよう」

そういつて調はバイザーを降ろす

調「……………赤外線センサーは起動をしてない」

切歌「なら大丈夫ですね」

そういつて侵入をしてデータを探し出す

マリアたちは抜き足 差し足 忍び足でギアを使用した姿のため 移動を素早くで

きるのであつた

切歌「ここですね……………」

そういつて中へ入ると あたりにはデータがある

セレナはその確認をする……………

セレナ「これじゃない」

そうフィルスの画面があつたのだ

セレナは急いでそのデータを回収作業をしている

マリアたちは警戒をしているのであつた

セレナ「……………」

切歌「セレナ まだでーす?」

セレナ「よしできました!!」

そういつて四人は脱出をするために移動をする

脱出に成功をしたのであった

セレナ「ちゃんと盗みましたって書いておきましたし」

三人「いつのまに」

「大変だ!!データを盗まれた!!」

全員「なにーにーにーにー!!」

「仮面ライダーフェイスのデータは確かにいただきました 怪盗 ムーンジエイル」

つと

セレナ「私たちはムーンジエイル!!悪い奴らを成敗する怪盗よ!!」

そういつて去るのであった

健介「ありがとう……」

健介は確認をしている

健介「うん 間違いないフィルスのデータだ」

そういつて確認をしたのであった

マリア「ふうでも面白かったわ」

切歌「スリル満点で楽しかったデース!!」

調「うん」

そこに

剣「父上 異常なかつたですよ」

真奈「いったい誰が侵入者だったのですか？」

健介「やれやれお前たち侵入されたのにのんきだな」

二人「え!! 誰が侵入をしたのですか!!」

切歌「私たちです!!」

真奈「え!! お母さんたち!!」

剣「どういうことですか？」

健介説明中

剣「そういうことでしたか」

真奈「まさかお母さんたちが怪盗したなんて」

健介「まあおかげでウイルスがもう増えることはないだろう」

そういう健介は思うのであった

ギヤラホルンへ

ある日のこと大火炎軍団が大人しくしているのであった

翼「しかし 大火炎軍団が動きませんね」

弦十郎「ああ・・・奴らは機械兵団が消えて動くと思つたが・・・」
愛「でも動いてきませんね」

その大火炎軍団はというと

セイレン「ふにゆ・・・」

武者「なあフェニックス殿」

フェニックス「なんだ武者殿」

武者「セイレン殿はいかがした」

フェニックス「なんか知らんがふてくされて 全員出動停止だそうだ」

武者「まじですか」

フェニックス「まじまじ」

つとなつているからであつた

ファイルス「だがそれでも油断はできないからな」

調「あれ？ファイルス 愛と一緒にやなかったの？」

ファイルス「愛が忘れていったのだ」

調「あの子………」

一方で

愛「しまった……ファイルス忘れてきた……」

つとりディアン学園で言う愛であった

さてさて戻って警報がなったSONG基地

あおい「これは!!ノイズ反応です!!」

全員「!!」

弦十郎「ノイズだと!!」

健介「子どもたちは学校だな……仕方がない ファイルス 久々に使うぜ？」

ファイルス「了解だバディ!!」

そういつて久々にデステイニーじゃなく

ファイルスに変身することにしたのであった

はやて「なんや留守番かいな」

健介「悪いね」

そういつて出動をしたのであった

健介「さーて久々に」

ファイルスをかまって

ファイルス「ライオン」

するとドライバーが現れて

健介「変身!!」

ファイルス「ライオンモード!!」

本家仮面ライダーファイスになったのだ

ファイス「悪くない」

翼たちもギアをまとい ノイズたちに対応をする

ファイス「は!!」

ファイスはライオンクロードで対抗をする

ビルド「は!!」

ビルドはドリルクラツシャーで攻撃をして ノイズを粉砕をしていく

調「でもどうしてノイズが」

切歌「それがわかったら苦労をしないデース!!」

そういつて攻撃をしていく

翼「だがソロモンの杖は健介さんが」

フェイス「そのはずだ」

そういつて攻撃をしていく

マリア「じゃあこいつらはいったい」

奏「さあな」

短剣と槍で攻撃をする

クリス「くらいやがれ!!大型ミサイル発射!!」

そういつて四問のミサイルが放たれて ノイズたちを吹き飛ばしていくのであった

フェイス「さーて久々の!!」

必殺アイコンを押した

フィルス「必殺!!ライオンメテオストライク!!」

フェイス「とう!!」

フェイスは上空を飛び

フェイス「でああああああああああああ!!」

フェイスのライオンメテオストライクが命中をして ノイズたちは粉砕を粉砕をした

フェイス「久々に・・・ふう・・・」

フィルス「久しぶりにそれを聞いたなバディ」

フェイス「まあね」

そういつて変身を解除をした

セレナ「いつたいノイズはどこから出てきたのでしょうか」

全員が基地へ戻ると

愛「お父さん!!ノイズが現れたって本当!!」

健介「ああ撃退をしてきたよ」

フィルス「やれやれ愛 私を忘れていくなんてな」

愛「ごめんつてお父さんが持つていつていたんだ デステイニードライバーが置いて

あったから」

健介「ああ久々にフィスをねw」

そういつてフィルスを愛を渡したのであった

翼「どうだったの?」

健介「なにがだ?」

翼「久々にフィスになった感想ですよ」

健介「かわつてなかつたよw」

翼「そうですかw」

弦十郎「さて諸君 原因がわかつたぞ」

剣「おじさま といいますと」

キヤロル「原因はギャラホルンが起動をしていやがった……」

クリス「つてことは異次元かよ」

健介「ふむ……」

愛「あのギャラホルンつて」

マリア「愛 パラレルワールドつてのを知っているわね」

愛「はい 並行世界のことですよ」

調「そう私たちの世界のようにいろんな場所があるの 例えば……健介がない世

界……」

健介「そうだな……」

奏「あたしが死んでいる世界に」

セレナ「私が死んでいる世界など……世界は色々あるのよ」

紗代「でもギャラホルンが起動をしているつてことはどこかの世界がつながっているつてことですよね？」

花菜「どうするの？」

弦十郎「うむ……ギャラホルンへ入り 調査をする必要があるが……」

健介「……なら俺はこちらへ残っておいた方がいいな」

調「え？」

健介「敵がいつ現れるかわからないからな……」

愛「なら私調査に行きたい!!その別世界へ……行ってみたいのです!!」

真奈「私も!!」

弦十郎「ふむ……」

調「なら私が行きます」

切歌「私もデース!!」

健介「となると」

剣「私もいいでしょうか」

翼「なら私がお供をしよう」

健介「なら決まりだ フィルス何かあったら頼むぞ」

フィルス「任せてくれ」

そして彼女たちはギヤラホルンの前に立っていた

調「まさかギヤラホルンへ行くことになるなんてね」

そういつてギアを装着をしている

愛たちも仮面ライダーへ変身をしているのだ

翼「いいか どの世界にいくかわからないからな……油断はするなよ?」

ブレイブ「もちろんです」

スナイプ「わかってますよ!!」

翼「うむではいくぞ!!」

そういつて中へ入って行くのであった

ギャラホルンの中へ入っていった翼たち

外

フィス「……ここは？」

調「ここつて……リディアン近くの公園だね」

切歌「そのようデース……」

ブレイブ「あまり変わりませんね」

スナイプ「そうだね」

翼「月は…….かけている……ルナアタックがあつた世界か……」

つと考える翼であつた

フィス「とりあえず移動をしましょう ドラゴンジェット」

そういつてフィルスをかまうと フィルスからドラゴンジェットが出てきたのだ

ドラゴンジェット「任せろ」

そういつてドラゴンジェットはジェットモードになってフィスたちはその上へ乗

ろうとしたとき

何かの攻撃が飛んできたのだ

翼「は!!」

翼は小刀でそれをはじめさせたのだ

ドラゴン「なんだ!!」

すると現れたのは……………

クリス「……………」

翼「クリス?」

クリス「……………」

クリスは無言でガトリングを構えて放ってきたのだ

フェイス「危ない!!」

フィルス「リフレクトディフェンダー!!」

フェイスはリフレクトディフェンダーでクリスが放ってきたガトリングをふさいだ

切歌「どうしてクリス先輩が攻撃をしてくるデース!!」

調「それがわかったら苦労をしてない!!」

スナイプ「どうしようか」

ブレイブ「真奈 何かある?」

スナイプ「うーん麻痺属性の攻撃をすればいいじゃないかな……………」

フィス「麻痺麻痺……あつた!!」

そういつてフィスは考えたようだ

ファイル「仮面ライダーブレイド!!」

そういつてフィス ブレイドモードになったのだ

翼「何をする気だ？」

フィス「いくよーー!!」

そういつて接近をして ブレイラウザーをだして

ファイル「サンダー」

ブレイラウザーをクリスに当てたのであつた

クリス「あびやびやばばあつばばあつばばあ!!」

そして倒れるのであつた

フィス「ふう……」

調「大丈夫かな」

そういつてツンツンさす

クリスが目覚めるまで待つことにした

クリス「……うう」

翼「目覚めたようだな」

クリス「あたしはいっただい……って……先輩!？」

翼「なんだ私を見て叫ぶとは」

クリス「どういうことだ……確か……」

翼「クリス 詳しく話してもらおうぞ」

クリス「え……ああ……」

クリスから話を聞くと 突然として現れた謎のノイズ……それに立ち向かったクリスたちであつたが……意識がなくなつたそうだ……

切歌「クリス先輩は私たちを襲つてきたのデース!!」

クリス「そうだったのか……すまねえ……ってそういえばあんたらは……」

フェイス「……まあ今は味方と思つてください」

クリス「お、おう……」

調（どうするです 翼さん）

翼（いずれにしてもどうやらこちらで起こつたのに間違いないだろう……解決をするためにもその謎のノイズを倒すことが先決だ）

切歌（つてことは）

翼（ああ仕方がないが接触をするしかあるまい……おじさまたちと）

クリスの案内で 翼たちはSONG基地へ

弦十郎「翼!?それに切歌君に 調君だと……」

翼「おじさま 私たちはおじさまが知っている翼じゃありません……」

弦十郎たちに説明をする

弦十郎「なるほど……ギャラホルンが開いて君たちの世界に……という
ことだな」

翼「そういうことです それで私たちはこの世界へ来ました」

弦十郎「なるほど……それでその子たちは……」

翼「あれは私の娘 剣といひます」

切歌「この子は私の娘で真奈でーす」

調「私の娘の愛です」

愛「愛です」

真奈「真奈でーす!!」

剣「剣です おじさま」

弦十郎「うむ……だがクリス君だけでも取り返すことができました……」

調「つてことは私たちも操られているつてことですね?」

翼「なら助けるのみだ」

すると警報が鳴った

朔也「イガリマ シャルシャガナの反応です!!」

切歌「なら私たちが相手をするデース!!」

全員が出動をした

調（並行）「・・・・・・・・・・・・・・・・」

切歌（並行）「・・・・・・・・・・・・・・・・」

フィス「お母さんたちが暴れている」

調「止めないと」

フィスはモードを変えることにしたのであった

フィルス「ウルフモード!!」

そういつてウルフモードに変身をしたのであった

フィス「はああああああああああああああ!!」

素早い動きで ウルフクローで攻撃をする

切歌（並行）「・・・・・・・・・・・・・・・・」

切歌（並行）は鎌で攻撃をするが

切歌「させないデース!!」

鎌で受け止めたのだ

翼「少し大人しくしてもらおうぞ!!」

そういつて翼は小刀で影を狙ったのだ

二人「!!」

ブレイブ「あれは母上の影縫い……………」

すると上空から短剣がたくさん降ってきたのだ

ブレイブ「危ない!!」

「ガシャット キメワザ!!タドルクリティカルフィニッシュ!!」

ブレイブ「はああああああああああああああああ!!」

ブレイブは炎の剣で短剣をはじかせのだ

スナイプ「つてことは」

マリア「……………」

翼「やはりマリアか……………」

するとさらに

響「……………」

翼（並行）「……………」

翼「やはり私もいるのか……………」

フィス「まずは」

ウルフカッターを構えて

ファイルス「必殺!!ウルフメテオカッター!!」

フィス「ごめん!!」

そういつて投げて調(並行)たちを気絶させたのであった

響「!!」

切歌「響先輩我慢をしてくださいデース!!」

そういつて両肩の鎌を展開をして抑え込もうとする

スナイプ「もう大人しくしてください!!」

そういつて2人で抑えるのであった

ブレイブ「ぐ!!」

翼(並行)「・・・・・・・・・・・・・・・・」

翼「させん!!」

翼は剣ではじかせる

クリス「このマリア!!」

マリア「・・・・・・・・・・・・・・・・」

調「強い・・・・・・・・でも!!」

フィス「止めて見せる!!」

クロコダイルモードになってクロコダイルヘッドで短剣を抑えているのだ

スナイプ「あれは!!」

そういつてメダルをとる 武器に

「麻痺化!!」

スナイプ「お母さん離れて!!」

「キメワザ!!バンバンクリティカルフィニッシュ!!」

そういつてライフルモードにした ガシャコンマグナムから弾が放たれた
響はそのまましびれて倒れたのであつた

翼「は!!」

翼は剣をおなかにあてて気絶させたのであつた

翼「許せ……」

ブレイブ「やりましたね」

マリア「……」

マリアはたくさんの短剣を放ってきた

フィス「させない!!」

フィルス「必殺!!イーグルフルブラスト!!」

そういつてガトリングモードにしたイーグルライフルで相殺をしたのだ

調「はああああああああああああああ!!」

調は飛び 反転キックで地面に叩き落としたのだ

調「後は………」

するとノイズが現れたのだ

クリス「あいつだ!! あたしたちを襲ってきて………」

「……………」

ノイズは何かを伸ばしてきた

ブレイブ「させない!!」

そういつてガシャコンソードで切り裂いた

「!!」

スナイプ「は!!」

さらにスナイプがガシャコンマグナムで連射をする

フィス「ああああああああああ!!」

ビートルモードになって ビートルアックスで切り裂いた

「!!」

「タドルレガシー!!」

ブレイブ「第100 剣術!!」

「バンバンシユミレーション!!」

スナイプ「第50シューティング!!」

「レベルアップ!!タドルメグル!目覚める騎士!タドルレガシー!」

「デュアルアップ!スクランブルだー!出撃 発進! バンバンシユミレーシヨ 発

進!!」

レガシーゲーマーとシユミレーシヨンゲーマーへアップをしたのだ

フィス「フィルス!!私たちも!!」

フィルス「うむ!!ライオトレイン!!」

ライオトレイン「出番だな!!」

フィルス「ライオトレインモード!!」

そういつてライオトレインが分離をして合体をしたのだ

翼「これは私たちを操ってくれたお礼だ」

調「だね」

切歌「行くデース!!」

フィス「私たちも!!」

ブレイブ「ああ!!」

スナイプ「いくよ!!」

フィルス「必殺!!ライオトレイン砲!!」

「ガシヤットキメワザ!! タドルクリティカルストライク!!」

「バンバンクリティカルファイア!!」

六人はエネルギーをためて

六人「ああああああああああああ!!」

「斉に攻撃を放ち

」

そのノイズを倒したのであった

「ブレイブ」これにて一件落着

翼「だな」

こうしてこちらの事件で起こったことが終わり

響「えつとありがとうございました」

翼（並行）「面目ない……まさか操られていたとは……」

二人（並行）「ごめんなさい」

調「ううんもう大丈夫ですよ」

切歌「そうデース さて私たちは戻るとするデース」

そういつてギヤラホルンに入って元の世界へ戻るのであった

健介「どうやら解決をしたようだね」

翼 「はいそちらでも？」

マリア 「ええ戦っていたらノイズが突然消えたわ」

茜 「ええまるで何か停止をしたかのように……」

奏 「ああ……でそっちではいったい何が？」

愛 「向こうでは奏者たちが操られていたのです」

セレナ 「そうだったんだ」

切歌 「でも大丈夫デース!! 解決をしてきたのデースから!!」

そういつて切歌はP E A C Eをするのであった

響 「そうなんだ!!」

復活の歌姫たち

ある部屋にて

「・・・・・・・・・・のはどうでしょうか・・・・・・・・・・」

「確かに・・・・・・・・歌姫たちの復活を望んでいる人たちはいますからね・・・・・・・・」

愛「お父さんたちの声だ」

そういつて愛は入ることにしたのであった

愛「お父さん 何の話をしているの？」

健介「ん？愛か」

緒川「こんには 愛さん」

愛「あ、緒川さん!!」

彼は緒川 慎次 かつてはツヴァイウイングのマネージャーをしており またなを

忍者でもあったのだ

愛「でも一体何の話をしているのですか？」

健介「これだよ」

そういつて見せたのは

愛「ツヴァイウイングって・・・確か」

緒川「奏さんと翼さんが組んでいたユニットですよ」

健介「二人とも俺と結婚を機に引退をしたんだよ・・・それで復活をしようかと考えているんだよ」

愛「私 翼お母さんたちが歌っているのをみたことがない!!」

健介「そうだな・・・せっかくだしな」

そういつて全員を集めるのであつた

翼「いったいどうしたのですか？」

健介「ああ・・・翼 奏 マリア・・・久々に歌を歌ってみないか？」

翼「え・・・・・・・・」

奏「歌って・・・・・・・・」

マリア「まさか」

健介「そうだ・・・ツヴァイウイング復活ライブバンド歌姫復活のね」

剣「ツヴァイウイング？」

茜「お母さん あたしそんな話知らないよ」

奏「あははは・・・話してなかったっけ？」

翼「ツヴァイウイング復活ですか」

マリア「私も歌姫復活ってことね……」

子どもたちは歌っているのをみたことがなかったからだ

奏「面白いじゃねーか……翼!!マリア!!やってやろうじゃねーか!!」

翼「うん!!」

マリア「私も燃えてきたわ!!」

健介「決まりだな 子どもたちも見に来るから 後俺もな」

三人「燃えてくるわ!!」

こうして ツヴァイウイングアンド歌姫復活コンサートは決まり その発表される
とすぐに予約が完売をするほどであった

剣「すごい……」

翼「ああ……私もびつくりをしているよ……まだこんなに皆に愛されている
とは……」

こうして始まった 復活コンサートは準備を進めている 場所はかつて被害があつ
たあの場所で行う……

響「あそこか……」

花菜「確かお母さんが……」

響「うんでももう大丈夫だよ……」

そういつて笑うのであった

健介たちも準備に大忙しであった　マリアたちも歌詞やダンスなどの復習などをして
ている

ステージなどもSONGがすべてを負担を持ち準備を急がしているのだ
それから準備は進んでいき　リハーサルも行われた・・・

衣装なども色々準備をされており　あつという間に時間は過ぎていくのであった
次の日　コンサート会場　健介たちはすでにお客さんとしてコンサート会場へ入っ
ている

剣「これがコンサート・・・・・・・・・・」

茜「お母さんが出るんだね・・・・・・・・・・」

健介「そうだな・・・・・・・・・・」

さて裏では

翼「・・・・・・・・・・」

奏「なんだ緊張をしているのか翼」

翼「当たり前だよしかも健介さんや娘たちも見ているんだよ」

マリア「まあ私もだけどねw」

歌奈「あーうー」

マリア「よしよし 見ててね ママ 頑張ってくるから」
歌奈「きやきや!!」

緒川「皆さん 準備をお願いします!!」

三人「わかりました!!」

セレナ「頑張つてね姉さん 歌奈は見ておくから」

マリア「お願いね セレナ」

そういつて三人はステージへ行くのであった

さてこちらでは

響「さーてさて」

準備をする 響であった

花菜「お母さん何それ」

響「コンサートとはこういうのだよ」

そういつて全員に渡すのであった

健介「そろそろ始まるぞ」

そして歌が始まり……まず登場したのは ツヴァイウイングだ!!

「うおおおおおおおおおおお!!」

「翼ちゃん—————!!」

「奏ちゃん—————!!」

つとツヴァイウイングは今でも人気らしい

つと歌を歌い　そこにマリヤも参戦をするとさらにステージは盛り上がっているのだ

切歌「マリア—————!!」

そういつて振っているのであった

ステージも盛り上がっていき

奏「久しぶり—————みんな—————」

つと奏が声をかけてきたのだ

奏「盛り上がっているか—————」

「いえええええええい!!」

奏「今日は楽しんでいってくれよ—————!!」

「いえええええええええええい!!」

つと盛り上げていったのであった

そしていよいよ最後の曲はそう・・あのコンサートでは歌えなかった逆光フリュールを三人VERSIIONで歌ったからであった

三人「今日はありがとう!!」

そういつて降りていった彼女たち

さてそのあととはというと

全員「お疲れ様でしたー……」

つと子どもたちも参加をした 打ち上げパーティーであつた

子どもたちはさすがにお酒を飲ませるわけにはいかなのでジュースで乾杯であつ

た

翼「……」

翼もお酒を飲んでいる

健介「やれやれ」

そういいながらも健介もお酒を飲むのであつた

健介「でどうだつた久々のステージは」

奏「ああ……気持ち良かったぜ」

マリア「ええ……とても」

翼「悪く……にやい……」

健介（ありや……翼 酔つてきているな……）

そう思い 健介は部屋へ連れて行くのであつた

健介「全く お酒飲めないだろうが」

翼「……………いいや二人きりになるのを待っていたのですよ」

健介「え？」

翼「……………ありがとうございます 健介さん」

健介「ん？」

翼「私はもう一度歌いたいと思いました……………まさかまたあの場所で立てるとは思ってもなかったですから」

健介「そうか……………」

翼「あと……………もう一つおねがいをしてもいいですか？」

健介「なんだい？」

翼「……………年を取ってしまいました……………私を抱いてくれますか？」

健介「……………当たり前だろ……………」

そういつて翼とキスをして……………お互いに……………服を脱ぎ……………一つになった……………」

次の日

健介「……………」

健介は倉庫で何かをしている

調「健介 何をしているの？」

健介「ん？バイク作っているの」

調「バイク……って人型だよね」

健介「名前はオートバジンと違って 仮面ライダーファイズが使っていたバイクだよ」

調「へー」

そういつて見ている

健介「だがまだ完成をしてないんだよな……」

調「そうなんだ……」

健介「……さて疲れたな」

そういつて健介は戻るのであった

愛「あーバイクだ」

ファイルス「どうやらバディが新しく作ったものだね」

愛「そうなんだ」

ファイルス「これはファイズのオートバジンだ」

愛「オートバジン？」

ファイルス「バイクから人型へ変形をして援護をするらしい」

愛「そうなんだ」

健介「ふぁー疲れた」

愛「あ、お父さん 昨日はお疲れ様」

健介「まあね・・・あの後から時々だけど歌うらしいからね」

そういつて結果を言うのであった

健介「まあ成功だねw」

愛「だね!!」

剣「母上 私にも歌を!!」

茜「あたしも!!」

翼「え・・・・・・・・」

奏「おいおい」

つと二人とも困っているのであったw

動きだす 大火炎軍団 新たな幹部現る

さてここは大火炎軍団の基地

セイレン「……………」

「セイレンの嬢ちゃん!!」

セイレン「その声は……あなたですか ワイレীগ」

ワイレীগ「おうよ!! フェニックスや武者が仮面ライダーに苦戦をしていると聞いてな!!」

セイレン「なるほど ならあなたが勝てるって言うのですね？」

ワイレীগ「おうよ!! いでよ!! ガングラー!!」

ガングラー「へい!! 旦那!!」

そういつて出てきたのであった

セイレン「いいでしょう ワイレীগあなたに命じます」

ワイレীগ「任せろ!!」

そういつてワイレীগは出るのであった

さて一方でSONG基地では

「嵐を呼ぶ 巨塔 キリンサイクロン!!」

ビルド「は!!」

左手の扇風機が回転をさせて

フォーゼ「うおおおおおおおおお!!」

フォーゼも負けじとスイッチを変える

「エアロON」

フォーゼ「どりやあああああ!!」

つと風は風で返すのであった

ビルド「お・・・やるわね 紗代」

フォーゼ「その勢いで!!」

ビルド「うえ!?!」

フォーゼ「メガトン頭突き!!」

そういつてずつきをお見舞いさせる

ビルド「いった!!この!!」

そういつて右手のキリン槍で攻撃をしたのだ

フォーゼ「がふ!!」

ビルド「こうなったら」

さらにフルボトルを変える

「ローズ ヘリコプター ベストマッチ!!」

ビルド「ビルドアップ!!」

「情熱の扇風機!・ローズコプター!・イエーイー!」

ビルド「は!!」

右手から黒い茨が放たれて フォーゼを巻き付ける

フォーゼ「え!?!」

ビルド「せい!!」

ローターブレードを外して切りつけたのであった

フォーゼ「げふん!!」

フェイス「すごいねあそこ」

デイケイド「そうだな」

つと見ている二人であった

すると警報が鳴ったのであった

全員「!!」

全員が出勤をしたのであった

デステイニー「あれか」

「おらおらおら!!」

そういつて銃を放ちながら攻撃をしているのだ

クリス「やめろ!!」

クリスはギアを構えて放ったのだ

ワルグーレ「おっと来たな」

フィス「あなたは何者なのですか!!」

ワルグーレ「俺はワルグーレ!! 大火炎軍団幹部だ!!」

ブレイブ「幹部か」

ワルグーレ「いでよ!! ガングラー!!」

ガングラー「どしん!!」

っと現れた

デイケイド「怪人が現れた」

ガングラー「くらえ!!」

そうってガングラーはガトリングを放ってきた

スナイプ「は!!」

スパイクがガシヤコンマグナムを連射をして相殺をする

フィス「ぐ!!」

「デステイニー」「うおおおおおおおおお!!」
「なのは」「フルバーストモード!!」

「デステイニーは姿が変わり 砲撃をする」

「ワルグーレ」「おらおらおら!!」

「翼」「ぐ!!」

「奏」「接近ができねえ!!」

「ビルド」「ビルドアップ!!」

「未確認ジャングルハンター トラユーフオー」

「ビルド」「は!!」

「ユーフオーをだして 空から飛び体当たりをする」

「ワルグーレ」「ご!!」

「フォーゼ」「はあああああああああああああ!!」

「ハンマーON!!」

「そういつて強力な一撃を入れる」

「ワルグーレ」「ぐお!!」

「フィス」「は!!」

「フィスはスコープオンランサーで切りつけていく」

調「ティミ!!」

そういつてティミをもって放つ

ワルグーレ「どあ!!」

切歌「切りつけるデース!!」

そういつて鎌でダメージを与えていく

ワルグーレ「おのれ・・・やるじゃねーか」

そういつて構えていた銃をしまつて

ワルグーレ「ガングララー!!」

ガングララー「へい!!」

そういつて何かを出したのだ

ガングララー「いでよ!!」

そういつてガングララーは地面に叩いて 何かを出したのだ

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

マリア「ノイズですつて!!」

ガングララー「いけ!! 火炎ノイズ!!」

燃えるノイズが襲い掛かってきたのだ

ゴースト「きや!!」

フェイス「熱い!!」

翼「なんて炎だ……」

クリス「くそ先輩たちは離れてい・・・じやなかった　はなれてください!!」
そういつて砲撃をする

翼「……クリス無理をしてないか？」

クリス「……」

ビルド「そうだ!!」

「クジラ ジェット ベストマッチ!!」

ビルド「ビルドアツプ!!」

「天かける ビックウエーブ クジラジェット!」

そういつて姿が変わり

ビルド「であああああああああ!!」

すると水が大量に現れて火炎ノイズの炎を消した
ガングラー「!!」

響「今だ!!」

そういつて響の拳がノイズを貫いたのだ

デステイニー「はああああああああああ!!」

なのは「魔法モード!!」

「デステイニー」「これで決めるぞ」

そういつて必殺アイコンをかざした

なのは「必殺!! スターライトブレイカー!!」

デステイニー「はああ・・・であああああ!!」

砲撃が放たれて 命中したのであつた

ガングラー「ぐお!!」

ワルグーレ「ほう火炎ノイズの火炎を消す威力をもっているってことか・・・さて今日は撤退をするぜ」

そういつて銃を地面に放ち 消えたのであつた

ブレイブ「逃げたか」

そういつて全員が変身を解除をした

セレナ「・・・動いてきましたね 大火炎軍団も」

健介「ああ・・・これからは油断ができないな・・・そして火炎ノイズ・・・」

翼「あの炎があつては私たちはやけどをしてしまうぐらいです」

切歌「やけどは嫌デース・・・」

そういつて苦笑いをするのであつた

健介「・・・・・・・・・・・・・・・・」

マリア「健介どうしたの？」

健介「いやなんでもない・・・・・・・・」

その夜

健介「・・・・・・・・」

デステイニードライバーが浮いている

はやて「どうしたんや？ 健介はん」

健介「はやてか・・・なーに今日の戦いを考えているんだ」

ヴィータ「戦いか？」

健介「そうだ奴の目的がさっぱりだ・・・・・・・・」

シグナム「確かにそうですね・・・・・・・・」

健介「・・・・・・・・ いずれにしても・・・・・・・・ どうするかな」

そういつて健介は寝ることにしたのであった

現れた黒いパラドクス

あるショッピングセンター

健介「・・・・・・・・・・・・・・・・」

健介は乳母車に二人の娘 優子と歌奈と一緒に買い物をしている クリス マリアを待っているのだ

健介「長いね・・・お母さんたちは」

そういつて娘たちに笑顔で接している・・・何者かが近づいてきている

健介「・・・・・・・・・・・・・・・・」

健介は顔を上げると パラドがいたのだ

健介「パラド？」

パラド「相田 健介 俺と戦え」

健介「なに・・・・・・・・・・」

するとパラドはゲーマードライバーをつけて

「ステージセレクト!!」

するとステージを変えたのだ

健介「……………」

健介はデステイニーードライバーを装着をして　なのは　フェイトを出した

健介「二人とも娘を頼む」

そしてカードを出した

はやて「ほなくて!!仮面ライダーデステイニー!!」

健介「変身!!」

仮面ライダーデステイニーだったのであった

パラドも黒いパラドクスになっている　　ダークパラドクスつつけておこう

パラドクス「さーていくぞ」

そういつてガシャコンパラブレイガンが黒くなったのを俺に向けてきた

はやて「スラッシュブレイカー!!」

そういつて剣を装備して　ダークパラドクスが放ってきた攻撃を受け止めた

ダークパラドクス「おらおら!!」

連続して攻撃してきたのだ

デステイニー「なら!!」

俺はいったん離れて　砲撃ユニットを出して　構えて攻撃をする

ダークパラドクス「は」

するとダークパラドクスはメダルを取り

「反射」

デステイニーが放った砲撃を返したのだ

デステイニー「ぐ!!」

ダークパラドクス「は!!」

ダークパラドクスのけりが俺に命中をした

デステイニー「なら!!」

俺はカードを出して

はやて「百獣モード!!」

そういつて回転をして 姿を変えたのだ

デステイニー「は!!」

接近をしてシャークショット タイガーアタックを放ち ダークパラドクスを吹き

飛ばす

ダークパラドクス「は!!」

ダークパラドクスはパラブレイガンガンモードにして デステイニーに放つ

デステイニー「であ!!」

フィンガーブレードで放った球を切っていくのだ

ダークパラドクス「ならば!!」

「ガシャット パーフエクトクリティカルフィニッシュ!!」

そういつて球を放ってきた

デステイニー「なら!!」

はやて「必殺!!スーパーアニマルハート!!」

デステイニー「おら!!」

砲撃をして ダークパラドクスに当たるのであつた

ダークパラドクス「が!!」

デステイニー「さあどうする・・・お前の負けだ!!」

ダークパラドクス「まだだ!!」

そういつて立ち上がり ダークパラドクスはデステイニーのボディを殴つたのだ

デステイニー「ぐあ!!」

デステイニーは吹き飛ばされる

デステイニー「ぐ・・・・・・」

はやて「大丈夫かいな!!」

デステイニー「なんとかな・・・・・・」

そういつて立ち上がる

ダークパラドクス「……ち……時間切れか」

そういつてダークパラドクスは撤退をしたのであつた

健介「……」

健介はデステイニードライバーを外し 変身を解除をした

クリス「健介!!」

マリア「ながあつたの!!」

そういつて二人が駆け付けたのであつた

健介「パラドに襲われたんだ」

二人「パラドに!!」

健介「なのは フェイトありがとうな」

そういつてベルトに戻す

クリス「でもよかった……健介や優子が無事で」

マリア「そうね……」

健介「だが……あのパラドはいつたい……」

そういつて考える健介であつた

一方で

パラド「……」

「失敗をしたようだな パラド」

パラド「あんたか……」

「……相田 健介は厄介みたいだな」

パラド「次はかつ」

そういつて消えたのであった

「せいぜい 私のために働いてもらうぞ パラド……そう私 マーベルのためにな!!」

なんとパラドを送ったのは かつて健介の父を殺した バクテスの生みの親マーベル博士であった

だが彼は健介によって倒されたはずだが……どうして彼は生きているのか

SONG 基地

翼「パラドに襲われた……」

健介「だがあれは クロトのところや祥平のところとは違う……別の存在だったな……」

愛「お父さん……」

健介「大丈夫だつて……」

そういいながら部屋を後にした健介であった

弦十郎「念のために健介の周りをガードをしよう」

そういつて指示を出す

健介は部屋へ戻ると何かを考えているのであつた

健介「いったい誰が・・・パラドを送つたんだ・・・」

大激突

そして今 SONG基地

愛「大火炎軍団にダークパラドクス………」

フィルス「バディが襲われたからな………油断はできないぞ」

愛「わかつているよ フィルス」

そういつてフィルスに言う 愛であった

一方で

セイレン「……さてどうするかしら……フェニックス 武者 そしてワルグー

レ……今回の作戦は合同作戦はうまくいくかしらw」

そういつて笑うのであった

そして警報が鳴る

全員「!!」

弦十郎「諸君 三か所で大火炎軍団が暴れているそうだ………出動を頼む!!」

全員「了解!!」

そういつて三か所へ別れるが 健介は嫌な予感がしたため 待機をしている

健介「……………」

フェイト「健介さん どうして待機を」

健介「いや何か嫌な予感がな……………」

そういつて後ろを向いて

パラド「ばれていたか」

そういつてパラドが現れたのであつた

健介「貴様がいることはわかつている感じだからな……………」

そういつてパラドはパラドクスへと変身をしたのであつた

健介「変身!!」

仮面ライダーデステイニーへ変身したのであつた

さて一方で三か所へ別れた 戦士たちは

ワルグーレ「待っていたぞ!!仮面ライダーども!!」

ワルグーレのところにいったのは ビルド フォーゼ ゴースト 響であつた

響「お前は!!ワルグーレ!!」

ワルグーレ「ふっはははは!!覚えていてうれしいぜ!!」

そういつて銃を放つた

ゴースト「させません!!」

ガンガンセイバーではじかせる

ワルグーレ「ほう俺の攻撃を流したか……」

そういつて二丁の銃を構えて攻撃をする

フォーゼ「ぐ!!」

ビルド「ビルドアップ!!」

キードラゴンになったビルドは左手の鎖で攻撃をする

ワルグーレ「は!!」

ワルグーレはそれを回避をして　ビルドに銃の弾が当たった

フォーゼ「お母さん!!」

ビルド「大丈夫よ!!」

そういつて蹴りを入れる

ワルグーレ「ぐ!!」

さて一方で

武者「……………きたでござるな……………」

そういつていたのは武者であった

ブレイブ「お前は……………」

武者「すでにこの人たちは避難を済ませた」

翼「どういふつもりだ」

武者「邪魔者がいたらお前たちは全力で戦えないと思っただけでござる……」

翼「くるぞ」

デイケイド「なら このライダーに」

そういつてカードを入れる

「カメンライド 鎧武」

デイケイド鎧武になつて 大橙丸が装着される

ブレイブ「これより幹部 武者を倒す!!」

奏「いくぜ!!」

そういつて構えるのであつた

さてこちらでも

フェニックス「くつくつく……きたみたいだな」

フェイス「フェニックス!!」

スナイプ「私たちの相手がフェニックスだったのね」

調「……………」

切歌「……………」

二人も武器を構えている

マリア「四人とも気を付けて!!」

マリアも短剣を装着をして構えるのであった

さて一方では

パラドクス「は!!」

デステイニー「ぐ!!」

ガシヤコンパラブレイガンを受けて デステイニーはダメージを受けてしまう

するとミサイルがたくさん飛んできたのだ

パラドクス「ぐあ!!」

デステイニー「クリスか!!」

クリス「正解だぜ!!」

そういつて現れたのは アメリスを装着をしてパワーアップをしたクリスであった

クリス「さてうちの旦那をいじめているのはお前か？」

そういつてクロスボウを構えている

パラドクス「甘いんだよ!!」

そういつて回避をして 立ちあがる

デステイニー「逃がすか!!」

そういつてスラツシユブレイカーを構えて

なのは「必殺!!」デステイニーブレイク!!」

デステイニー「ああああああああああああ!!」

そういつて衝撃刃を飛ばすが

パラドクス「ふん!!」

「ノックアウトクリティカルフィニッシュ!!」

そういつてアックスモードで攻撃を受け流そうとしたが

クリス「おまけだ!!」

そういつてキャノン砲が放たれて パラドクスに命中をしたのだ

パラドクス「ぐあ!!」

パラドクスは二人の攻撃を受けて ライダーゲージが減っているのだ

パラドクス「ここは引くとするか」

そういつてパラドクスは撤退をしたのであった

デステイニー「・・・・・・・・・・・・・・・・」

クリス「いったみたいだな・・・・・・・・」

デステイニー「ああ・・・・・・・・だが奴はいつたい・・・・・・・・」

一方で

武者「ぬ・・・・・・・・」

攻撃を受けたようだ

四人「はあ・・・・・・・・はあ・・・・・・・・」

武者「ここは撤退をしましょう」そういつて撤退をしたのであった

フェニックス「了解だ」

ワルグーレ「ち」

そういつて2人も撤退をしたのであった

フィス「いったい・・・・・・・・」

愛たちは何かを考えるが 調べてみてもなにも出なかったのであった

基地にて

セレウス「さて準備はいいみたいですわ・・・・・・・・」

武者「やつらの自作戦に引っかけたおかげで作業が順調にできたのでござんる」

フェニックス「そういうこつた」

ワルグーレ「ち もつと楽しみたかったが」

セレウス「さて始めるとしましょう・・・・・・・・ 最初で最後の大作戦 日本大噴火作戦

をね」

日本大噴火作戦

SONG 基地

弦十郎「・・・・・・・・・・・・・・・・」

健介「弦十郎さん いったいどうしたのですか!!」

弦十郎「今富士山から高エネルギー反応が発生をした」

翼「富士山から」

弦十郎「ああ出勤をしてほしいのだ」

愛「怪しいですね」

そういつて健介たちは出勤をしたのであつた

ライオトレインの中

健介「・・・・・・・・・・ふむ」

調「健介 どうしたの？」

健介「奴らの目的だ・・・・おそろくだが富士山を噴火させることで日本を轟沈させようとしているんじゃないかな・・・・・・・・」

切歌「それって大変じゃないデースか!!」

健介「そうだ……そこでだ……おそらくヤツラは地下で何かをしようとしているのはわかっている……そこでだ　まず囿となるのが　俺　翼　奏　マリア　クリス　仮面ライダーからは剣　真奈　紗代だ」

調「名前を呼ばれなかった人たちは」

健介「調　切歌　響　セレナ　愛　華菜　茜は奴らの地下にある装置を破壊をしてほしいのだ」

調「わかった……でも」

健介「わかっている　とりあえず作戦は決行をするぞ!!」

作戦が決まり　ライオトレインは調たちを降ろして　出発をしたのであった

調「よし」

そういつて奏者はシンフォギアを　仮面ライダーたちは変身をする

さて囿をする健介たちも戦闘がいつでもできるように変身をしているのであった

DESTINY「さていくぞ!!ライオトレイン!!」

ライオトレイン「おうよ!!ライオビーム!!」

ライオビームが放たれて敵を吹き飛ばした

フェニックス「なんだ!!」

武者「仮面ライダー……やはりきたでござるな」

ワルグーレ「ふん!!俺は戦い足りないと思つていたからな!!くらいやがれ!!」
そういつてガトリングを放った

ライオトレイン「おっと!!」

ライオトレインはかわして デステイニーたちは降りる!!

デステイニー「はああああああああああああああああ!!」

アロンダイトを振り下ろして切り裂いたのだ

クリス「おらおらおら!!」

そういつてガトリングを連射をしていく

スナイプ「は!!」

ライフルモードにして 敵を撃ちぬいていく

ブレイブ「はああああああああああああああああ!!」

翼「参る!!」

そういつて切っていく

奏「さーて・・・」

マリア「いくわ!!」

そういつて槍と短剣で切っていく

フェニックス「くらいやがれ!!」

なのは「リフレクト!!」

そういつてバリアーをはってガードをした

武者「はああああああああああああああああ!!」

翼「なんの!!」

ワルグーレ「くらいやがれ!!」

クリス「遅いんだよ!!」

デステイニー（頼むぞ・・・皆）

そういつて攻撃をするのであった

さて一方で

切歌「富士山の地下にこんなところがあるなんて」

調「おそらく敵が掘った穴だと思うよ」

ファイルス「そのとおりだ調　そこから強大なエネルギー反応が出ている」

ビルド「つてことはこの先だね」

デイケイド「行きましょう」

そういつて中へ入っていく戦士たち

ゴースト「じめじめしてるー」

デイケイド「・・・そうね」

響「でも中へ入ったしね」

そういつてゴーベルトを合体をした状態で言う響であった
ファイルス「気を付けたまえ 何か いるようだ」

そういつて全員が警戒をしながら見ると 敵の戦闘員だ
デイケイド「何かを運んでいるようですね」

ゴースト「もしかしてあの先に何かあるってことかな？」
フィス「きつとそうだよ」

そういつて彼らの後を追い欠けることにしたのであった
一方外では!! 激しい戦闘をしているのであった

フェニックス「くらいやがれ!! 俺様のバーニングをな!!」
そういつて炎を飛ばしてきたのだ

ブレイブ「甘い!!」
ブレイブはガシャコンソードで炎の弾をふさいだ

スナイプ「これはお返し!!」
そういつてガシャコンナムを放つが交わされた

フェニックス「おつとあぶね!!」
フォーゼ「ライダーロケットパンチ!!」

武者「ふん!!」

武者はフオーゼのロケットモジュールを刀ではじかせた

翼「はああああああああああああああああ!!」

翼はアームドギアの剣で攻撃をするが武者はそれをはじいたりしている

クリス「くらえ!!」

そういつてミサイルをとばす

武者「ぐお!!」

ワルグーレ「くらいやがれ!!」

マリア「甘いわよ!!」

奏「どりゃ!!」

槍がワルグーレの銃を壊す

ワルグーレ「これだけが俺の武器だと思ふなよ!!」

そういつてさらに銃をだしたのだ

デステイニー「はああああああああああああああああ!!」

肩のフラッシュエッジIIを投げる

ワルグーレ「ぐ!!」

さて一方で中へはいった調たちは戦闘員たちの後をおつて謎の部屋へ入る!!

調「あれが……」

ビルド「間違いない……あれが噴火装置だよ」

フィス「とりあえず……」

そういつて全員が構えて

全員「うおおおおおおお!!」

戦闘員たち「どあ!! 仮面ライダー!!」

そういつて追撃をしようとしたが

フィス「遅い!!」

ファイル「イーグルライフル!!」

イーグルモードになってイーグルライフルで攻撃をしていく

調「はああああああああああああ!!」

切歌「行くデース!!」

そういつて2人は武器を構えて切っていくのだ

ビルド「は!!」

ドリルクラツシャーで攻撃をして 切りつけていく

ゴースト「いきます!!」

ガンガンセイバーを構えて攻撃をして切っていく

「カメンライド アギト」

デイケイド「は!!」

仮面ライダーアギトになったデイケイドは殴りながら 後ろから襲ってきた敵を蹴りを入れる

響「どりゃあああああああ!!」

右手の装甲が展開をして 炎を纏った拳で相手を吹き飛ばしていく

パラドクス「面白いことをしているな」

調「お前が・・・黒いパラドクス」

そういつて構えるのであった

ダークパラドクスの目的

ダークパラドクス「さーて」

「デュアルガシヤット!!キメワザ!!ノックアウトクリティカルフィニッシュ!!」

ダークパラドクス「は!!」

ダークパラドクスが放った ガシヤコンパレイガンアックスモードの斬撃が噴
火装置を破壊をしたのだ

全員「!!」

調「何のつもり？」

ダークパラドクス「さあな・・・さて俺は撤退をするぜ」

そういつて消えるのであった

調「まて!!」

切歌「調!!今は脱出をするのデース!!」

調「そうだね」

ビルド「・・・・・・・・・・・・・・・・」

一方で外でも

フェニックス「な!!」

武者「む!!」

ワルギーレ「装置が破壊されたぞ!!」

そういつて外でも爆発が確認をされたのだ

デステイニー「調たちがやったのか?」

翼「にしては速すぎるような・・・」

フェニックス「やむを得ん 撤退をする!!」

そういつて撤退をしたのであった

デステイニー「いつたい」

フェイス「お父さん!!」

そこにフェイスたちが駆けつけたのだ

デステイニー「愛たち いつたい破壊をしたのか?」

切歌「それが・・・」

基地へ戻る途中

健介「なに パラドクスが破壊をしていつた?」

調「そう・・・いきなり私たちの前に現れたと思ったたら装置を破壊をしていつたの」

健介「いつたい何が目的なのか・・・わからないな・・・」

そういつて健介は考えるのであった

一方で基地へ帰還をしたフェニックスたち

フェニックス「セイレンさま 帰投を」

パラド「おう遅かったな」

武者「貴様!!何者だ!!」

パラド「悪いがお前らの基地は俺がいただいた」

ワルギーレ「貴様!!セイレンはどうした!!」

パラド「あーあいつなら 俺が支配をしてやったぜ?」

三人「!!」

セイレン「……………」

パラド「MAX大変身」

「パーフェクトノックアウトローラー」

パラドクス「さーてお前らも侵略させてもらうぜ」

そういつてガシヤコンバグヴァイザーを出したのであった

すると何かを三人に放ったのだ

フェニックス「ぐああああああああああああああああ!!」

武者「む……………無念……………」

ワルギーレ「ちくしょー！！」

そういつて三人は倒れたのであった

パラドクス「さーて立て」

そういつて三人は立ちあがるのであった

パラドクス「お前たちは誰の部下だ」

三人「パラドさまの部下です」

パラドクス「いや俺はパラドじゃない」

すると変身が解除をされて 一人の男性になった

「お前たちはこの私……壇 黎斗神のな!!」

そういつて一人の男 壇 黎斗神と名乗る男であった

さてSONGへ戻った 健介たちは

健介「……………」

健介は 祥平からもらった ゲーマードライバー そしてガシャットを見ている

改良しており 誰でも装着ができるようにしているが 誰も使う人がいないから

だ

健介「これを祥平に返しても……大丈夫かな」

そういいながらも それを大事にしまう 友が使っていたものだからだ

健介「だがいずれ使うかもしれないな……」

デステイニードライバーが空中に浮かんで光っている

健介「……」

健介は今回の事件を考えていたのだ

愛「お父さん」

健介「愛にフィルスか」

フィルス「バディ 今回の事件 なにか裏があると考えているのかい？」

健介「そうだ パラドクスがどうして機械を破壊をしたのか……そして奴は一体何者なのか……」

そういいながら健介は考えるのであった

フィルス「いずれにしても 嫌な感じはしているってこと……だな」

健介「そうだ……」

愛「お父さん」

健介「心配をするな お父さんはもうどこへも消えないから」

そういつて愛の頭を撫でる健介であった

なのは「健介さん……」

なのはあの感じを思い出した……かつての自身の父を

なのは「……………」

守れなかった……………何も……………魔力があっても……………守れなかった……………父
母 兄 姉 そして友達……………なのはやフェイトたちは失ってしまった……………

健介「……………心配をするな お前たちだって 俺の大事な仲間だ」
そういつてデステイニードライバーをなでるのであった

健介「……………さて」

健介は部屋を出ようとしたら 何かを感じたのだ

健介「祥平のゲーマードライバー？」

健介は祥平のゲーマードライバーが光ったように見えたのであった

健介「気のせいか」

そういつて健介たちは部屋を出るのであった

黎斗「さて……………」

黎斗は新たな何かを作ろうとしていたのだ

黎斗「さてみせてもらうぞ この世界の仮面ライダーの力をな」

そういつてバクスターを出現させるのであった

現れた 仮面ライダーゲーム

黎斗「さて……行くがいい」

そういつて黎斗はリボルバクスターとソルティバクスターを出して出撃させたのだ
一方でSONGでは

警報がなり 仮面ライダーたちは出動をしたのであった

デイケイド「確か この辺だったよね？」

ブレイブ「ああ……」

スナイプ「あれだ!!」

リボル「おらおらおら!!」

そういつて右手のマシンガンで攻撃をしている
ソルティ「おや仮面ライダーって!!」

リボル「なんでスナイプがここにいるんだ!？」

スナイプ「私のこと？」

そういつて聞くのであった

フォーゼ「とりあえず!!」

「ランチャーON」

フォーゼ「ファイア!!」

そういつてランチャーが放たれたのだ

二人「どああああああ!!」

フィス「いくよーーー!!」

フィスはイーグルモードになり イーグルライフルで攻撃をする

ソルティ「おのれ……」

ブレイブ「は!!」

ブレイブは接近をしてガシヤコンソードで切りつけていく

ソルティ「げ!!ブレイブまでいるのかよ」

デイケイド「なんだこいつらは」

そういいながらガンモードでリボルバクスターに攻撃をしているのだ

リボル「仮面ライダー多すぎるだろ!!」

「ダイカイガン!!ビリーザ・キッド オメガインパクト!!」

ゴースト「えい!!」

ガンガンセイバーライフルモードにして オメガインパクトを放ったのだ

二人「どああああああ!!」

ブレイブ「いくぞ!!」

スナイプ「これで!!」

「ガシャット!!キメワザ!!タドル(バンバン)クリティカルストライク!!」

二人はクリティカルストライクで二人のバグスターを蹴飛ばしたのだ

二人「どああああああ!!」

そういつてバグスターを撃破をしたのであった

ブレイブ「完了をしました」

フィス「でもなんでバグスターが?」

「それは私が召還をしたからさ」

全員「!!」

そこには一人の男性が立っている

フィス「あなたは」

黎斗「私は 壇 黎斗神・・・」

そういつてガシャットを出した

ゴースト「あれって!!」

デイケイド「マイティアクションエックス・・・でも」

黎斗「グレード0・・・変身!!」

「がちゃん!!レベルアップ　マイティジャンプ!マイティキック!マイティ——アクシヨooooooooエックス」

そういつて仮面ライダー　ゲンム　レベル0になったのだ

フィルス「気を付けたまえ!!彼は敵だ!!」

ゲンム「ふあ!!」

ゲンムはガシヤコンブレイカーを装備して攻撃をしてきたのだ

ブレイブ「あなたは一体何が目的なんですか!!」

ゲンム「しれたことよ・・・神の才能さ」

スナイプ「わけのわからないことを!!」

そういつてガシヤコンマグナムを撃つ

ゲンム「ふあ!!」

ゲンムはそれをかわした

ゲンム「君たちのガシヤットは回収させてもらうよ・・・私以外がそんなガシヤッ

トを作られたのがたまらん!!」

ブレイブ「ふざけるな!!」

スナイプ「パパが作ったのを馬鹿にするな!!」

フォーゼ「その通りよ!!」

そういつてフォーゼはライダードリルキックをお見舞いさせたのだ

ゲンム「ぐ!!」

「オオメダマ!!」

ゴースト「えい!!」

オレ魂に戻った ゴーストのオオメダマが発動をしてゲンムに命中をしたのだ

ゲンム「ぐ・・・さすがにこの人数相手は・・・」

フィス「だああああああああああああ!!」

フィスはシャークモードになってシャークセイバーで切りつけたのだ

ゲンム「ぐああああああああああああああああああ!!」

デイケイド「逃がさない!!」

そういつてライドブッカーガンモードからカードを出して

「アタックライド ブラスト!!」

デイケイド「は!!」

ゲンム「ぐあ!!」

ゴースト「どうしますか!!」

ゲンム「やむを得まい・・・」

そういつて撤退をしたのであった

ブレイブ「いったいあの人は何者なのでしょうか？」

スナイプ「あの姿って．．．前にお父さんと一緒に戦っていたクロトさんが変身を
していたのだよね？」

フィス「うん．．．とりあえずもどってお父さんに報告をしよう」

そういつて基地へ帰還をするのであった

フィルス（ふーむ．．．あのゲンム．．．．．いったい何者だろうか．．．）

そう考えている フィルスであった

そして基地へ戻った愛たち

健介「お帰り 愛たち」

愛「お父さん 実は」

愛たちは戦ったゲンムのことを話したのだ

健介「ゲンムね．．．フィルス」

フィルス「わかった」

そういつてフィルスが出した映像を見ているのであった

健介「．．．．．」

フィルス「以上だバディ」

健介「なるほどね……これはクロトが変身をしたゲンムじゃないね」

茜「つてことは偽物か!!」

健介「どうだろうか……それはわからないが……いずれにしても油断はできないさ」

剣「そうですね……それに奴がああな怪人たちを出した可能性もありますしね」

健介「何よりも大火炎軍団が動いていないのもある……」

真奈「そういえば動いてないね」

紗代「いったい何があつたんだろう？」

花菜「でも油断はできないよね……お父さん」

健介「花菜の言う通りだ……皆も警戒をしておくことを言っておく」

そういつて健介は考えながら部屋へ行く

デステイニードライバーが浮いている

健介「ん どうしたんだ」

するとなのはたちが出てきたのだ

なのは「健介さん 大変です!!」

健介「何が大変なんだい？」

フェイト「前に祥平って人からゲームードライバーとガシャットをもらったでしょ

？」

健介「ああ確かそれは大切にしまっているはずだが……」

はやて「とにかくきてな!!」

そういつてその場所へ行くと

健介「……ない……なくなっているだと……」

そう 保管をしてあつた ゲームドライバーそしてガシャットがなくなっているからだ

健介「……」

あれからゲームドライバーとガシャットはデータをとった後は大切に保管をしていた……だがとられたのに警報も何も鳴っていない

健介「いつたい……」

行く場所

響「健介さん」

健介「響かい どうしたんだい？」

響「いいえ ただ暇だなんて思いました」

健介「そうだな．．．．．敵が動かないのが不思議でたまらないんだ．．．．．」

響「そうですよね．．．．．」

健介「．．．．．ちよつと娘たちとある場所へ行ってくるよ」

響「ある場所？」

健介「ああ．．．．報告を兼ねてね」

そういつて健介は愛たちを連れてある場所へ連れて行くのであった

ライオトレインの中

愛「お父さん 一体どこに行くのですか？」

健介「それはついでからお楽しみに」

そういつて健介は言うのであった

剣「いったい父上はどこに連れて行くのでしょうか？」

茜「さあ私もわからない．．．．．」

真奈「私もー」

紗代「ついたららのお楽しみにってことでしょうか？」

花菜「楽しみー」

ライオトレイン「まもなく到着をするぜ？」

ライオトレインのスピードが遅くなっていき 健介たちは降りる

愛「．．．．え．．．．」

剣「ここって．．．．」

そして健介は墓のところへ行く

健介「父さん．．．．．」

真奈「お父さん．．．．．ここって」

健介「．．．．．ここはお前たちのおじいさんが眠っている場所だよ」

茜「おじいちゃんが．．．．．」

健介「そう 俺の父．．．お前たちのおじいさんは昔 お父さんが倒したバクテス

に殺されたんだ．．．母さんを守るために」

子どもたち「!!」

健介「本当はすぐにも連れて行きたかったが．．．．まあ俺が色々あったから

ねw」

剣「……父上 あれって」

健介「前までうちがあつた場所だ」

全員「!!」

健介「さあ愛たちもおじいさんの墓に」

愛「わかった」

そういつて線香を立てて 手を合わせる

SONG基地

弦十郎「そうか…… 健介はあの場所へ連れていったんだな」

翼「はい……」

未来「兄さん」

麗菜「……」

未来「お母さん」

麗菜「大丈夫よ 未来……あの人はいつもそうよ……私を守るために……」

うう……」

お墓

健介「さて戻るとしよう……お父さん……これが俺の娘ですよ」

そういつて健介はお墓にそう報告をするよ

「……そうか……俺の孫か……大事に育てるよ?」

健介「!!」

愛「お父さん?」

健介「……………何でもないよ（ありがとう父さん）」

そういつて健介たちはライオトレインに再び乗り込む

一方で壇 黎斗神はというと

黎斗「ええい 足りない……仮面ライダーの新たなガシャットを作るためにも……

データが足りなすぎる!!フェニックス!!」

フェニックス「は……………」

黎斗「なんでもいい!!怪人とかで仮面ライダーたちをおびき寄せろ!!」

フェニックス「承知をしました」

そういつてフェニックスは怪人を出して出撃をさせたのであった

黎斗「ふっはっはっはっはっはっはっはっは!!」

SONG 基地

び—————び—————!!

弦十郎「どうした!!」

あおい「大火炎軍団の怪人が街で暴れています!!」

健介「了解した!! 出動をする!!」

そういつて健介は出るのであった

調「まっつて健介!! 私たちも!!」

健介「いいや今回はおれ一人で大丈夫 愛たちは念のために待機をしてほしい……奴らがこれだけだとは思えないからね」

そういつて健介はドラグーンを呼び出した

ドラグーン「出番だな」

健介「そういうことだ」

ドラグーン「わかった」

そういつてドラグーンはバイクモードになって 健介は乗り込む

健介「いくぞ!!」

そういつてアクセルをひいて 出動をする

街では

「あばれろ!! 戦闘員ども!!」

「おーーう!!」

そういつて暴れている

「この俺!!ダンプダンプが仮面ライダーを倒してやるわ!!」
「ダンプダンプさまが燃えているw」

そういつて笑うのであった

火炎弾がダンプダンプに命中をしたのだ

ダンプダンプ「どああああああ!!」

「ダンプダンプさまが吹き飛ばされた!!」

ダンプダンプ「ええいだれだ!!俺様を吹き飛ばしたのは!!」

健介「なんだあれ」

ドラグーン「知らんな」

ダンプダンプ「そうか 貴様が仮面ライダーだな!!」

健介「そうだが?」

ダンプダンプ「この俺 大火炎軍団の一人 ダンプダンプさまが相手をしてやるわ!!」

健介「そうか・・・ならこの俺が相手をしてやるよ」

そういつてデステイニードライバーを装着する

健介（今日は誰の声だ?）

そういつてカードを出す

「仮面ライダーデステイニー!!」

健介「誰？」

「あ、はじめまして!!高町 ヴィヴィオです!!」

健介「あ、これはご丁寧に相田 健介です」

そういつて挨拶をしてしまったのであった

なのは「ちよつと!!二人とも!!挨拶をしている場合じゃないでしょ!!」

「そうですよ ヴィヴィオさん!!」

ヴィヴィオ「あ、ついつい挨拶をしちゃったw」

「全く……」

健介「えつと聞いたことがない声が聞こえてくるのですが」

「あ、私はギンガ ナカジマといいます」

「私はアインハルトです」

健介「あ……どうも 相田 健介です」

ダンブダンブ「こらーーーーー貴様!!」

健介「あ……忘れていた」

そういつてデステイニーに変身をしたのであった

ダンブダンブ「やつと変身をしたわ!!いくぞ!!」

ダンブダンブは棍棒をもって攻撃をしてきた

デステイニー「は!!」

デステイニーはライフルで攻撃をする

ダンブダンブ「ふん!!」

ダンブダンブは棍棒でライフルの弾を回転させてはじいたのだ

「くらえ!!」

戦闘員が攻撃をしてきた

デステイニー「おっと」

デステイニーはかわして 蹴りを入れる

「どああああああ!!」

ボーリングのように当たり 倒されていくのであった

デステイニー「くらえ!!」

高エネルギー砲をだして 戦闘員たちを薙ぎ払ったのであった

ダンブダンブ「これでもくらえ!!」

ダンブダンブは火炎弾をとばした

デステイニー「!!」

ライフルが破壊されてしまったのだ

デステイニー「ちい」

ダンブダンブ「でああああああああああ!!」

ダンブダンブは棍棒で攻撃をしてきたのだ

デステイニー「なら!!」

デステイニーは両手のパルマフィオキーナ掌ビーム砲でこん棒を受け止めたのだ

ダンブダンブ「ぐお!!」

デステイニー「はあああああああああああああ!!」

そしてビーム砲をだして　こん棒を壊したのであつた

ダンブダンブ「な!!俺のこん棒が!!」

デステイニー「さーていくぜ!!」

ヴィヴィオ「スラツシユブレイカー!!」

そういつて剣を装備をして　攻撃をする

ダンブダンブ「おのれ!!」

ダンブダンブは攻撃をするが　デステイニーは素早い動きでかわしていき　切りつ

けていく

ダンブダンブ「ぐお!!」

デステイニー「は!!」

さらに連続で切りつけていくのであった
ダンブダンブ「がは!!」

デステイニー「さてこれでとどめだ!!」

そういつて必殺のカードを出した

ヴィヴィオ「必殺!!デステイニーブレイザー!!」

背中の翼を開いて デステイニーは空を飛ぶ

デステイニー「であああああああああ!!」

そして上空から一気に降りてきて そのままダンブダンブを切り裂いたのだ
ダンブダンブ「ぎやああああああああああああああああああああ!!」
ダンブダンブは攻撃を受けて爆散をしたのであった

すると燃える炎が発生をしたのだ

デステイニー「フェニックス」

フェニックス「仮面ライダー抹殺をする」

そういつて大剣を構えてこうげきをしてきたのだ

デステイニー「なんか普段と違う気が」

そういいながらフォームカードを出す

ヴィヴィオ「ミラー」

緑色になっていき ミラーモードとなったのだ

フェニックス「ぐああああああああああああああああああああ!!」

フェニックスは攻撃をしてきたが 攻撃が単調になっているのだ

デステイニー「……………」

デステイニーはなんかフェニックスがいつもと違う気がしてたまらないのだ

デステイニー「いったいどうしたんだ!!フェニックス!!」

フェニックス「仮面ライダーは倒す敵」

そういつて攻撃をするのだ

デステイニー「やむを得まい ミラーナイフ!!」

そういつて光のナイフを飛ばす

フェニックス「!!」

フェニックスはそれでも攻撃をしてくる

デステイニー「ぐあ!!」

デステイニーのボディをフェニックスの剣が命中をしたのだ

デステイニー「スライサーH!!」

そういつてカッター光線を飛ばして フェニックスにダメージを与えた

フェニックス「ぐ…………ぐぐぐううう」

デステイニー「なんか知らんが いまだ!!」

そういつて必殺のカードを前に出す

ヴィヴィオ「必殺!!シルバークロス!!」

デステイニー「であ!!」

シルバークロスがフェニックスに命中をしたのだ

フェニックス「ぐ……つて……仮面ライダー?……俺はいつたい……」

デステイニー「覚えてないのか」

フェニックス「ああ……何も覚えてない……確か 基地へ戻った後に……」

そうだ!!パラドクスと名乗るやつに!!セイレンたちが!!」

デステイニー「なに……パラドクスだ!!」

フェニックス「そうだ……それで俺は……」

そういつてフェニックスは思い出したかのように

デステイニー「そういうことか……」

フェニックス「こうもしてられない!!基地へ戻って奴らを」

デステイニー「やめた方がいい……お前たちがやられたんだろ?」

フェニックス「だったな……くそ!!」

デステイニー「……」

デステイニーは少し考えると

デステイニー「ならお前らの基地の案内をしてくれないか？」

フェニックス「・・・・・・・・・・・・・・・・本当だったら断るところだ・・・・・・・・だが・・・・・・・・

頼む 俺の仲間たちを助けてくれ!!」

デステイニー「わかったただし 条件がある」

フェニックス「条件？」

デステイニー「そうだ・・・・・・・・助けたら大人しく地球侵略をやめてほしい」

フェニックス「・・・・・・・・わかった その条件を乗る」

デステイニー「交渉成功だな」

燃え盛る 勇気 フェニックスモード!!

健介 side

今 俺たちはフェニックスの案内で 奴らの基地へ向かっていたのだ

フェニックス「あそこだ」

翼「ウソを言ってるじゃないだろうか？」

フェニックス「俺を疑っているのはわかっているが……こればかりは本当だ」
そういつていると 攻撃が飛んできたのだ!!

全員「!!」

ワルギーレ「……………」

フェニックス「ワルギーレ!!」

すると……………

デステイニー「ちい!!」

剣を受け止めたのだ

武者「……………」

フェニックス「武者まで……………」

二体が現れたのだ

デステイニー「愛たちは先に行ってくれ!!」

フィス「でも!!」

デステイニー「奴らの基地を叩くチャンス……お前らならできる!!」

フィス「お父さん……」

調「わかった……でも健介 生きて帰ってきて」

デステイニー「ああ……約束!!」

そういつて調たちは先へ急ぐのであった

フェニックス「いいのかよ」

デステイニー「あああいつらだつて戦い抜いてきたんだ……」

そういつてカードを出す

フェニックス「だったら 武者を任せるぜ」

デステイニー「なら俺は」

フェイト「レスキューモード!!」

そういつて姿が変わる

デステイニー「フェイトなのね」

フェイト「どうしたの？」

デステイニー「いいや さて」

そういつて武器アイコンカードを出す

フェイト「レスキューブレイカー!!」

そういつて出てきた武器をとる

デステイニー「は!!」

ブレイクアックスにして攻撃をする

武者「……………」

武者は剣でブレイクアックスを受け止めたのだ

フェニックス「くらいな!!バーニングサラマンダー!!」

そういつて火炎弾を作りだして ワルギーレに放ったのだ

ワルギーレは銃でバーニングサラマンダーを相殺をしたのだ

デステイニー「なら!!」

フェイト「レスキューターボ」

デステイニー「ハイパーアップ!!」

そういつて左肩に装着されたのだ

武者は攻撃をしてきたが デステイニーは左手の盾でこうげきをふさいで 左肩の

ターボの回転させて風を起こして 吹き飛ばしたのだ

武者「!!」

フェニックス「ちい!!」

デステイニー「大丈夫か？」

ワルギーレはガトリングでフェニックスを攻撃をしたのであった

フェニックス「なあ健介 俺の賭けにのらないか？」

デステイニー「かけ？」

フェニックス「俺の力をあんたに渡すんだよ」

デステイニー「まさか？」

フェニックス「合体だ!!」

デステイニー「いいだろう・・・その賭け 乗ってやるぜ!!」

するとカードが光りだして 燃え盛る翼のマークであった

そしてデステイニーはそのカードをドライバーの前に出す

フェイト「フェニックス!!」

するとフェニックスがデステイニーに装着されていくのであった

デステイニー「ぐ・・・ぐああああああああああああああああ!!」

そして背中の翼が開いて 燃え盛る炎のマークが発生をして ボディも赤くなる

デステイニー バーニングフェニックスモードになったのだ

デステイニー「ふん!!」

武器アイコンカードを出して 前に出す

フェイト「バーニングセイバー!!」

炎の剣が発生をして デステイニーはつかむ

ワルギーレは攻撃をしてきた

デステイニー「おっと」

背中の燃え盛る 翼で空を飛ぶ

武者「……………」

武者も空を飛び攻撃をしてきたが

デステイニー「であ!!」

バーニングセイバーで受け止めて そのまま切ったのだ

武者「!!」

ワルギーレ「……………」

ワルギーレはガトリングで攻撃をするが デステイニーはそれをもかわして ガト

リングを切ったのだ

デステイニー「これで決める!!」

そういつて必殺アイコンを出して

フェイト「必殺!!バーニングブレイカー!!」

デステイニー「とう!!」

デステイニーは上空から回転蹴りを嘯ましたのだ

二人は吹き飛び 壁に激突をしたのであった

武者「・・・・・・・・ぐ・・・・・・・・」

ワルギーレ「俺たちは・・・・・・・・いつたい・・・・・・・・」

フェニックス（二人とも!!どうやら目を覚ましたな!!）

武者「フェニックス殿？」

デステイニーは説明をしたのであった

ワルギーレ「なるほどな・・・・・・・・くそつたれ」

武者「健介殿 我らも協力をさせてください・・・・奴に一太刀嘯まさないと腹の怒り

が収まらないでござる」

デステイニー「わかった共に行こう」

グレートビリオン

デステイニーたちが武者たちと戦っている時

フィルス「この先に反応がある!!」

フィス「ああああああああああ!!」

私は蹴り飛ばしてドアを破壊した

ブレイブ「あなたね……」

つと剣が言うが 大丈夫だ問題ない(・ω・)です!!

「よく来た……」

そういつて壇 黎斗 「壇 黎斗神だ!!」どっちでもいいでしょうが

スナイプ「あなたがこの事件を起こしているのですか!!」

黎斗神「いかにも」

そういつてゲーマードライバーを装着をして 何かのガシャットを出した

調「あれって」

黎斗神「グレードビリオン……変身!!」

「マキシマムガシャット!!ゴッドマキシマムパワーX!!」

そういつて黒いマキシマムマイティを装着をしたのだ
翼「あれって……」

クリス「クロトつて奴が装着をしていたやつにそっくりだ!!」
そういつて全員がびっくりをしている

ゲナム「ふっはっはっはっはっはっはっはっは!!」

つと笑い 攻撃をしてきたのだ

フィルス「来るぞ!!」

響「だああああああああああ!!」

響お母さんは接近をして ナツクルを放つが

ゲナム「ふん!!」

彼はそれをはじいて 響お母さんを蹴り飛ばした

響「が!!」

ゴースト「お母さんを!!」

「開眼 ノブナガ!! 我の生き様 桶狭間!!」

ゴーストノブナガ魂になって ガンガンハンドを構える

「ダイカイガン ノブナガ!! オメガスパーク!!」

ゴースト「だああああああああ!!」

そういつて放つが

ゲムム「ふん」

するとゲムムはペンみたいなのを出して バリアーを張ったのだ

スナイプ「バリアー!!」

ゲムム「コズミックパワー発動!!」

フォーゼ「な!!」

すると上空から隕石がたくさん降ってきたのだ

全員「ぐああああああああああああああああああああ!!」

翼「なんだあのゲーマーは」

調「隕石とかバリアーとか・・・」

ゲムム「ふっはっはっはっはっはっはっは!!このゲーマーは私の考えた通りの

ゲームができるようになってるのだ!!」

フォーゼ「もしかして先ほどのも」

ゲムム「そうだ 攻撃を通さないようにしただけさ」

ブレイブ「なんて奴だ」

そういつてガシヤットを出す

ブレイブ「第100戦術」

スナイプ「第50シユューティング!!」

そういつてレガシーゲーマー シユミレーションゲーマーを装着をしたのだ
ゴースト「なら!!」

「無限進化!!超カイガン!!無限!!」

「ファイナルカメンライド デイケイド!!」

「コズミックON!!」

そういつて仮面ライダーたちは最強の姿になったのだ

ブレイブ「はああああああああああああああああ!!」

スナイプ「くらいなさい!!」

そういつて砲撃をして ガシャコンソードで切りかかるが

ゲンム「無駄さ」

透明化

ブレイブ「消えた・・・・・・・・」

デイケイド「剣 後ろだ!!」

ゲンム「は!!」

ブレイブ「が!!」

ゲンムの拳がブレイブのおなかに当たる

フォーゼ「この!!」

バリズンソードを構えて攻撃をする

「イノチダイカイガン!!シンネンインパクト!!」

ゴースト「ええい!!」

そういつて放つも

ゲンム「ふん!!」

神らしく上空へ浮かびかわしたのだ

デイケイド「ちい!!」

「クウガ カメンライド アルティメット」

隣にクウガ アルティメットフォームが現れた

「ファイナルアタックライド クククククウガ!!」

デイケイド「は!!」

パイオキネシスを放つ

ゲンム「ちい」

スナイプ「そこよ!!」

そういつて砲撃をして

クリス「続いて食らいな!!」

そういつてクリスは起き上がり ミサイルを放ったのだ

ゲナム「私に傷を付けただと!!」

フィス「だああああああああああああ!!」

さらにフィスが接近をして ボディを切りつけていく

ゲナム「貴様!!」

そういつて殴ったのだが

ゲナム「なに!?!」

そうフィスを殴ったが

フィルス「残念だったね 私はボディがつくつたシステム……このような拳では

壊れないようになってるのだ!!」

そういつてフィスは蹴りを入れて 着地をした

ゲナム「おのれ!!」

そういつてゲナムは何かをしようとしたとき

何かがゲナムに当たったのだ

ゲナム「?」

見ると デステイニーがいたのだが……姿がいつものと違うのだ

デステイニー「デステイニーワルギーレモード!!」

そういつてもつていた スナイパーライフルを持ちながら降りてきたのだ
調「健介!!」

デステイニー「お待たせ」

ゲナム「貴様!!あいつらと戦っていただろ!!」

(あ?誰が戦っていただつて?)

そういつてデステイニーの目が光ったのであつた

切歌「健介?」

デステイニー「今 俺の姿はこいつらの力を借りているんだよ」

そういつてカードを出して

シグナム「無双武者モード!!」

そういつて鎧が装着をされていき 剣が発生をする

武者(・・・拙者たちを操った罪・・・貴様を切りつけることで味わせてやるでござる!!)

そういつてデステイニーは剣を構える

ゲナム「ふん・・・たかが」

つと言った瞬間

デステイニーは剣をしまっていた

ゲナム「ぐ!!ぐああああああああああああああああああ!!」

するとベルトのガシヤットがバチバチつと音を立てているのだ

ゲナム「ぐ!!」

するとゲナムのマキシマムゲーマーが解除をされたのだ

デステイニー「・・・・・・・・・・・・・・・・」

ゲナム「な・・・・・・・・ば・・・・・・・・馬鹿な・・・・・・・・なぜゲーマーが解けたのだ」

全員がびつくりをしているからだ

デステイニー「簡単さ」

そういつてデステイニーは弾を出したのだ

ゲナム「!!」

デステイニー「アンタの中にあつた 天才ゲーマーと才能を消させてもらった」

そういつて説明をしたのだ

ゲナム「なに!!」

デステイニー「言つてしまえば リクロミングプログラムを撃つたのさ さつきの弾

だよ」

ゲナム「さつきののか!!」

そういつて言う

デステイニー「……………」
そういつて構える

ゲナム「おのれおのれおのれおのれ!!」
そういつて構えるが

デステイニー「……………!!」

みると時空の穴が広がっているのだ!!

ゲナム「ふっへっはっはっは!!この世界を壊してくれるわ!!」

フェイス「このままじゃ!!」

デステイニー「……………愛 皆を頼むぞ」

そういつてデステイニーは何かをする

ゲナム「な!!貴様 何をする気だ!!」

なんとデステイニーがゲナムをつかみ 時空の穴に向かっていくのだ

ゲナム「ぐああああああああああああああああ!!」

デステイニー「があああああああああああああ!!」

調「健介!!何をしているの!!」

デステイニー「この時空を止めるには…………膨大なエネルギーをぶつける必要がある

あるんだ…………そして今 その方法でこの穴を止めて見せる!!」

マリア「まって!!そんなことしたら!!」

フィルス「バディ……やめるんだ!!」

調「いやー!!健介!!」

フィス「お母さん!!」

調「離して!!愛!!健介 健介!!」

デステイニー「……………」

「全く……お前つて奴は」

するとデステイニーは離れたのだ

デステイニー「!!」

見るとフェニックス 武者 ワルギーレがゲンを抑えているのだ

デステイニー「お前ら!!」

フェニックス「言っただろ……これで借りを返したぜ!!」

武者「感謝をするでござる……」

ワルギーレ「こいつのことは任せろ!!だからよ……アクエスのこと任せていいか

？」

デステイニー「……………わかった」

フェニックス「それと これを渡してくれ!!」

そういつて三人は投げたのであった

「デステイニー」

「フェニックス」はやく脱出をしやがれ!!」

「ゲムム」離せ!!私は・・・私はこんなところで!!」

「フェニックス」へ!!」

武者「貴様を逃がすほど拙者たちは愚かじやないでござる!!」

「ワルギーレ」そういうこつた!!あきらめやがれ!!」

「ゲムム」ぐああああああああああああああああああ!!」

「フェニックス」あばよ・・・アクエス」

健介たちが脱出をすると 基地は爆発をしたのであった

健介「・・・・・・・・・・・・・・・・」

病院

「アクエス」・・・・・・・・・・うう・・・・・・・・」

「アクエスは目を覚ましたのであった

健介「目を覚ましたようだね アクエス・・・いいや 冴島 麗香さん」

麗香「・・・・・・・・・・調べていたのね・・・私は・・・」

健介「・・・・・・・・・・・・・・・・」

健介はすつと出したのだ

麗香「!!」

麗香はすぐにわかったのだ……

麗香「ふ……フェニックスたちは……」

健介「それをあんたに渡してくれ……彼らはゲナムを止めるために……」

麗香「……うう……うううう……」

麗香は涙を流したのだ

麗香は元々は普通の女性だった……だがある日さらわれて今のような状態になったのだ……

そしてその復讐をするために組織を作ったのであった……そしてゲナムに倒されたのであった……

麗香「……」

そして今は普通の体になっているのは……おそらくフェニックスたちが起こした奇跡ともいえるのであろう……

麗香「……私は……」

健介「今は泣いてもいい……」

麗香「け……健介……さん」

そういつて抱きしめるのであった……

そして数日後

健介「もう行くのか？」

麗香「ええ……今は少しでも休みたいですからね……」
調「どうかお元気で」

麗香「はい……たまに手紙を送りますね」

そういつて麗香は空港へ行き 飛行機にのつて海外へ旅立ったのであった

切歌「……寂しい人ですね」

健介「ああ……親を殺され……そして自分はなぞの組織にさらわれて……
殺し屋として……」

そういつて健介は言うのであった

愛「……お父さん」

健介「大丈夫だ 愛」

そういつて頭を撫でるのであった

第四章 コラボ再び 復活のバクテス

復活のバクテス!! 駆けつけた戦士たち!!

ゲンムが開けた 時空の穴はフェニックスたちが自らの命と引き換えにゲンムと共に消滅したのであった

アクエスは元の麗香に戻り 海外へ旅立っていったのであった

愛「そういうえばお父さんってどうして戦っていたの?」

健介「え?」

愛「いやお父さんとお母さんが出会った話聞いてなかったって」

調「そ・そ・それは」

健介「まあいざれ話すことだと思ったよ なら話すとするかな」

そういつて子どもたちは聞くのであった

健介「お父さんは 当時 10歳の時に海外へ奴らを追いかけていったんだよ 相棒

である フィルスと共にね」

剣「奴ら?」

フィルス「そう 健介が仮面ライダーになったきつかけを作った奴ら……バクテ

ス率いる ガーデム軍団だ」

真奈「ガーデム軍団？」

健介「当時 マーベル博士が作ったのと俺の父 つまりお前たちのおじいちゃんとおばあちゃんが合同で作ったロボットだ……だがマーベル博士はそんな父を殺し 自らもバクテスに殺されたんだ」

茜「そんなことが」

健介「そして俺は旅をして奴らを探したが キャロルと出会って戦ったのもその時だったな」

キャロル「ん？」

現在のキャロルは大人モードになっており 聞いてなかったのであった

健介「そして俺は医者としての活動もその時からしていたんだ もちろんちゃんと医者免許はとっているけどねw」

そういつて笑うのであった

調「その時かな 出会ったのって」

健介「かもね」

そういつて笑っている

警報がなったのだ!!

全員「!!」

紗代「警報!!」

花菜「でも大火炎軍団は解散をしたはずです!!」

そういつて指令室へ行く

弦十郎「来たか」

翼「おじさま いったい」

弦十郎「あおいくん」

あおい「はい ノイズ反応が発生をしました」

奏「ノイズだって!!」

マリア「でもソロモンの杖は・・・・・・・・・・」

セレナ「健介さんがあの時」

健介「・・・・・・・・・・」

弦十郎「いずれにしても市民をノイズから守らないといけない!!」

響「行きましょう!!」

そういつて出動をするのであった

マリア「いくわよ!! セレナ!!」

セレナ「はい!!」

そういつてサイドバツシャーに乗る

健介「愛 ライオトレインだ」

健介は相棒である ドラグーンバイクモードに乗り先に行く

フィルス「ライオトレイン!!」

そういつてライオトレインがフィルスから出てきたのだ

ライオトレイン「現場まで直行だ!!」

そういつて出動をしたのであった

翼「あれは間違いないノイズだ」

そういつて翼はアマノハバキリを装着をした

マリアはアガートラーム

セレナ「さて実験を始めましょう」

「ラビット タンク ベストマッチ!!」

セレナ「変身」

「鋼のムーンサルト!ラビットタンク!!イエーイ」

つとビルドに変身をして

ビルド「よいしょ」

ドリルクラツシャーをガンモードにして ノイズに放つたのだ

健介「まさか ノイズが復活をしているとは」

そういつてデステイニードライバーを装着をして

健介「変身!!」

なのは「デステイニーモード コンプリート!!」

そういつてデステイニーに変身をして 降りる

そこにライオトレインも到着をして 全員が降りて 奏者はシンフォギアを纏い

仮面ライダーたちは変身したのであつた

フォーゼ「しゃ!! 宇宙きたー!ー!ー!ー!ー!ー!ー!ー!!」

ブレイブ「あなたはそれを言わないといけないのですか!!」

フォーゼ「まあつい言つてしまうなw」

そういつて笑い

フォーゼ「さーて仮面ライダーフォーゼ!! タイマンをはらせてもらうぜ!!」

ゴースト「でも多数だからタイマンとは」

フォーゼ「おりや!!」

そういつて殴りに行った

スナイプ「全く」

そういつてガシャコンマグナムを構えて攻撃をする

ブレイブ「これよりノイズを切り裂いていきます!!」

そういつてガシヤコンソードを持ち 攻撃をする

フィス「えい!!」

フィスはライオンクローでノイズたちを切り裂いていく

調「でもどうして……ノイズが」

切歌「確かにデース……」

そういつて2人は攻撃をしながらも構えるのであつた

マリア「だとしても!!」

短剣で切り裂いていき

ビルド「ノイズたちをほっとくわけにはいかないよ!!」

そういつてガトリングのフルボトルをドリルクラツシャーにセットをして

「ボルティックブレイク!!」

ビルド「であ!!」

そういつてガトリングの弾が放たれたのだ

フオーゼ「うおおおおお!!」

ロケットモジュールでノイズたちを倒していく

すると何かの光弾が飛んできたのだ

フォーゼ「おっと!!」

そういつて着地をした

ブレイブ「なんだ」

「.....」

するとずしんずしんと歩いてきたのだ

ファイルス「そんな馬鹿な!!」

フィス「ファイルス？」

「久しぶりだな 仮面ライダー」

ファイルス「バクテス!!」

全員「!!」

一方でデステイニーは別の場所でノイズたちと戦っていたのだ

弦十郎「健介君!!」

デステイニー「弦十郎さんどうしました？」

弦十郎「バクテスが現れたんだ」

デステイニー「な!!」

そういつてデステイニーは背中の翼を開いて 空へ飛ぶのであった

一方で

バクテス「・・・・・・・・・・・・・・・・」

クリス「てめえ・・・・・・・・なんで生きてやがるんだ」

バクテス「ほう・・・・・・・・シンフォギア奏者か・・・・・・・・そうだななぜ私が生きているか・・・・・・・・」

そういつてバクテスは武器を構えて

バクテス「私を倒してから聞くといい!!」

そういつてバクテスは武器を構えて 攻撃をする

ブレイブ「ぐ!!」

ゴースト「きや!!」

二人はガシヤコンソードとガンがセイバーで受け止めたのだ

バクテス「ほう・・・・・・・・仮面ライダーいつのまにか増えているのか・・・・・・・・」

スナイプ「せい!!」

スナイプはライフルモードにしたガシヤコンマグナムから弾が放たれたのだ

バクテス「ふん!!」

バクテスは左手の装甲が展開をしてフィールドを張ったのだ

フォーゼ「な!!」

デイケイド「フィールドを張ったのね」

クリス「くらいやがれ!!」

クリスはガトリングで攻撃をする

デイケイド「変身」

「カメンライド 龍騎!! アタックライドソードベント!!」

デイケイド龍騎になってドラグセイバーで攻撃をする

バクテス「甘い!!」

そういつてバクテスは回避をして デイケイド龍騎が放った剣を受け止めたのだ

デイケイド龍騎「な!!」

バクテス「とうあ!!」

そういつて右手の拳で殴ったのだ

デイケイド「が!!」

ブレイブ「茜!!」

そういつて駆け寄る

バクテス「あまいわ!!」

そういつてバクテスは左手に発生させた銃でブレイブを撃ったのだ

ブレイブ「が!!」

フィス「はああああああああああああああ!!」

ライオンソードで攻撃をする

バクテス「貴様を倒せるときたようだな 仮面ライダー!!」

そういつてバクテスはフィスの剣を剣で受け止めたのだ

フィス「ぐ!!」

バクテス「くあ!!」

そういつてきりさいたのだ

フィス「きやあああああああ!!」

調「お前!!」

そういつて調たちも攻撃をするが

バクテス「マツハシステム!!」

そういつて高速で走り 止まったのだ

全員「うあああああああああ!!」

全員が倒れる

ビルド「・・・な・・・なにが」

バクテス「マツハシステム・・・高速で移動をしてお前たちを切りつけたのだ」

ビルド「こうなったら」

「ハザードON!!ラビットタンク!!スーパーベストマッチ!!」

ビルド「ビルドアップ!!」

そういつてラビットタンクハザードになったのだ

ビルド「はああああああああああああああああああ!!」

そういつて攻撃をするも バクテスにダメージを与える

バクテス「なるほど……だが!!」

そういつてバクテスは離れて 攻撃をしてきたのだ

ビルド「があああああああああああああああああ!!」

ビルドはダメージを受けてしまい

ビルド「ぐああああああああああああああああああ!!」

暴走をしよう!!

マリア「せ……セレナ!!」

デステイニー「であ!!」

デステイニーがハザードトリガーをとったのだ

セレナ「あうん……」

デステイニー「バクテス!!」

バクテス「その声……そうか 貴様……」

そういつてフェイスを見る

バクテス「なるほど・・・そういうことか・・・それが貴様の新しい力か」

デステイニー「バクテス・・・なぜお前が蘇っている!!」

バクテス「貴様と再び戦うためだ!!」

そういつてバクテスは攻撃をしてきたのだ

デステイニー「!!」

デステイニーは左手の盾で攻撃をふさいだ

バクテス「ほう 俺の攻撃をふさいだか」

デステイニー「であ!!」

デステイニーは蹴りでバクテスを蹴り飛ばした

バクテス「やはり貴様は俺を高ぶらせる・・・」

そういつてライフルと剣を構えるのであった

デステイニー「いくぞ!!」

デステイニーは背中のアロンダイトを抜いて 攻撃をする

バクテス「ふん!!」

バクテスも剣でアロンダイトをふさいで 右手に持っているライフルで攻撃をする

デステイニー「おっと」

そういつてかわして 蹴りを入れたのだ

バクテス 「ぐ……やるな……やるな……ならば」

そういつてバクテスはライフルと剣を合体させて ライフルモードにしたのだ

スナイプ 「す……すごい」

ブレイブ 「ああ……私たちが手も足も出なかつたのに……」

バクテス 「やるな……仮面ライダー だが!!」

そういつてバクテスの装甲が開いて 光弾が放たれたのだ

デステイニー 「ぐああああああああああああああああああ!!」

デステイニー はそれを受けてしまい 地面に叩き落とされたのだ

デステイニー 「が……あ……あ……」

バクテス 「私の弾を受けて生きていたのは貴様だけだ……さすが仮面ライダー……」

だがこれで止めだ!!」

調 「健介!!」

フィス 「お父さん!!」

デステイニー に剣が刺さろうとしたとき

「はい 曲がるよ!!」

「いきなりマガール!!」

バクテス「ぐあ!!」

突然弾が飛んできて バクテスに命中をしたのだ

バクテス「誰だ!!」

デステイニー「……あれは」

「追跡!!撲滅!!いずれも マツハ!!仮面ライダーマツハ!!」

と構えているのだ

「おいおいいきなりかよ 剛」

マツハ「いいのいいの」

バクテス「仮面ライダーだと」

奏「あたしかよ!!」

そういつてツツコミをする奏であった

バクテス「ならば」

そういつて銃を構えるが

「ゲキトツ!!クリティカルストライク!!」

バクテス「ぐあ!!」

謎のロケットパンチがバクテスに当たり バクテスは吹き飛ば

「ゲキトツロボツツ!!」

「よし」

デステイニー「あれはエグゼイド」

翼「はああああああああああああああああああ!!」

セレナ「であ!!」

二人の剣と短剣が命中をしたのだ

ビルド「あれって……別の世界の私!!」

そういつてベルトにはゲーマードライバーが装着をされていたのだ

翼「つてことは久しぶりだな クロトの世界の私」

翼（クロト）「ああ……その通りだな 健介の世界の私」

マツハ「あらー翼が二人もいるぜ!!」

バクテス「己……貴様たち!!」

「マイティクリティカルストライク!!」

エグゼイド「であああああああああああ!!」

バクテス「ぐああああああああああああああああああ!!」

バクテスは蹴りをくらい吹き飛ばす

「祥平ーーーーー」

そこにビルドにオーブが現れたのだ

デステイニー「祥平……それは!!ゲームマードライバー!!」

バクテス「まさか仮面ライダーがこんなに集まるとは……撤退をする」

そういつて消えるのであった

デステイニー「さて バクテス……ぐあ!!」

そういつて膝をつこうとしたとき

二人のエグゼイドがデステイニーを支えたのだ

そして変身を解除をしたのであった

健介「久しぶりだな クロトに祥平……助かったぞ」

クロト「なーに久しぶりだな本当に」

祥平「そうですね」

健介「それと助かったよ」

「いいつて気にするなつて」

健介「俺は 相田 健介 あんたは？」

「おれ?俺は朝倉 剛だ!!よろしく!!」

そういつて仮面ライダーたちは集まったのであった

バクテス「……仮面ライダー……」

「バクテスさま」

バクテス「ケーラスか」

そういつて現れたのは バクテスと行動をしていた ケーラスであった

ケーラス「ずいぶんやられてしまいましたね」

バクテス「ああ………仮面ライダーたちにやられたさ だが宣戦布告をする
としよう」

そういつてバクテスは何かをするのであった

バクテス「いでよ エレキング」

エレキング「きいいいいいい!!」

光の戦士 ウルトラムンジード

SONG 基地

弦十郎「それで君が」

剛「朝倉 剛だ よろしく頼むぜ おっさん!!」

弦十郎「まあおっさんだからいいが……」

健介「それでそこのお嬢さんは？」

那奈「始めまして 高田 那奈といます!!」

セレナ「私の娘って……」

紗代「ママ 私はこっちだよ」

セレナ「ごめん 紗代」

セレナ(クロト)「私が……三人も……」

つと落ち込む セレナがいたのであった

愛「祥平さんそういえば 左手のブレスレットがなくなっていますよ」

祥平「ゼロさんは元の宇宙へ戻りました」

愛「そうなんですネ」

そういつて愛は思うのであった

フィルス「しかしバディ……………」

健介「ああ……………バクテスが蘇っているなんて……………」

クロト「そのバクテスとは……………」

健介「かつて俺が倒した ガーデムの総統……………」

祥平「つてことは……………」

健介「そのとおりだ……………誰が奴を蘇らせたのかわからないんだ……………」

そういつて健介は言うのであった

すると映像が流れる

バクテス「きけい!!わがなはバクテス……………この世界を支配をするものだ」

翼「あれは……………」

バクテス「我が組織の名前は大ガーデム!!かつてのガーデムを超えた組織となったのだ!!まずは……………私の挨拶を受けてもらおう……………いでよ!!エレキング!!」

エレキング「きいいいいいい!!」

すると地面から怪獣エレキングがしゅつげんをしたのだ

奏「怪獣!?!」

剛「まさかあいつ 怪獣なんて持っていやがるのか」

健介「怪獣か……大きい敵とは戦ったことがないからな」

剛「大丈夫だ!!俺の考えがある!!」

調「考え?」

剛「俺にはもう一つ 姿があるんだ まあ見てなつて」

そういつて何かを出す

剛「融合!!」

ウルトラマン「シエア!!」

剛「アイゴー!!」

ベリアル「しえ!!」

剛「ファイアーウイゴー!!」

そういつてカプセルをセットして ジードライザーに読み込ませる

「フュージョンライズ!!」

剛「決めるぜ 覚悟!!ジ——ド!!」

「ウルトラマン ウルトラマンベリアル!!ウルトラマンジード プリミティブ!!」

すると光が発生をして エレキングを蹴り飛ばしたのだ

エレキング「きいいいい!!」

あおい「巨人が出現をしました!!」

ジード「つい……あーマツハじやなかった……俺はジード!!ウルトランジード!!」

そういつて構えるのであった

健介「ウルトランジード」

エレキング「きいいいい!!」

エレキングは攻撃をしようと歩きだす

ジード「シユア!!」

ジードが先に先制攻撃をする 膝蹴りをしたのだ

エレキング「きいいいい!!」

エレキングはそのまま倒れて ジードはその上に乗り 殴る殴る殴るのであった

エレキング「きいいいい!!」

するとエレキングは尻尾を巻き付けて 電気ショックを与える

ジード「しゅああああああ!!」

ジードは払うと

ジード「やるじゃん……でも まだまだ!!」

そういつて構えてジャンプ蹴りを噛ましたのだ

エレキング「きいいいい!!」

エレキングは口から三日月の光弾を放つが

ジード「ジードバリア!!」

そういつてバリアをはって エレキングが放った光弾をガードをする

エレキング「きい!!」

ジード「これだとどめだ!!」

すると全員が発行をしていき 十字にする

ジード「レッキングバースト!!」

ジードの必殺技 レッキングバーストが放たれて エレキングに命中をして エレ

キングはそのまま爆散をしたのであった

切歌「すごいデース」

クロト「あれが……ウルトラマンの力か」

ジード「いえい!!」

そしてジードは空を飛び 基地の方へ帰還をしたのだ

剛「ただいまー……」

健介「あれがもう一つの姿なんだな？」

剛「そう 俺のもう一つの姿 ウルトラマンジードさ!!」

そういつてくるつと回転をして いうのであった

そして健介は今 ビルドのハザードトリガーの調整をしており……そして今の道具が完成をしようとしているのだ

健介「あともう少しで完成だな……フルフルビットタンクボトルがね」

そういつて完成をしようとする……そしてもう一つを作っているのだ

健介「これはクロトと祥平にプレゼントをするためのものさ」

なのは「これって……」

健介「そう フィスとデステイニーの力を入った ガシヤット……名前はガシヤツ

トデュアルK……」

そしてその移った エグゼイドの姿……マザルアップをした姿が……フィスと

デステイニーが混ざった姿

健介「仮面ライダーエグゼイド フィスデステイニー レベル99」

つとそこには文字で書いてあったのだ

なのは「フィスデステイニー……」

健介「……だがまずはセレナのビルドのこつちが先だな」

そういつて作るのであった

さて一方で

マツハ「おっと」

「タイヤ交換!! ヒツパーレ」

マツハ「おら!!」

するとフツキングレツカーが発生をして 飛ばす

ブレイブ「きゃ!!」

ブレイブの足を絡ませて 浮かせたのだ

スナイプ「は!!」

マツハ「おっと なら」

「シグナル交換!! トマーレ」

マツハ「よつと」

「急にトマーレ!!」

スナイプ「え!？」

すると動きが止まったのだ

デイケイド「変身」

「カメンライド キバ!!」

ゲムム「は!!」

ゲムムに対して デイケイドキバになって攻撃をする デイケイド

フォーゼ「ファイア!!」

リーダーとランチャーを使って放ったのだ

ゲンム「おっと」

ゲンムはディケイド キバを蹴り飛ばすと 飛んできた ランチャーの弾を ガ
シヤコンブレイカーで切っていくのだ

「フォームライド キバ バツシヤー!!」

ディケイドキバ「は!!」

バツシヤーマグナムから弾が放たれて ゲンムに当たる

ゲンム「ぐ」

ゴースト「それ!!」

「オメガストライク!!」

そういつてアローモードから弾がはなたれる

エグゼイド「なら!!」

「シヤカリキスポーツ!!」

エグゼイド「なら 大大変身!!」

スポーツアクションゲーマーになっている

フィス「はああああああああああああああああ!!」

接近をして ゴリラモードになって攻撃をする

ビルド（那奈）「おっと」

ビルドはゴリラモードのゴリラナックルをかわして 反撃をする
今 子どもたちは特訓をしているのであつた

健介「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」

最初の敵

バクテス「ケーラスよ」

ケーラス「はいバクテスさま」

バクテス「怪人たちの再生は今 どれくらいだ？」

ケーラス「は、すでに完了をしている怪人はおります」

バクテス「では出させてくれ」

ケーラス「はい プラツシユ!!」

するとバラが舞い降りてきて プラツシユが現れたのだ

プラツシユ「バクテスさま 私を蘇らせていただき ありがとうございます」

バクテス「気にするな スプラツシユよ お前を倒した仮面ライダーに復讐をする

チャンスを与える」

プラツシユ「ありがたき幸せでございます」

バクテス「行け!!そして暴れて来い!!」

プラツシユ「はは!!」

そういつてプラツシユを向かわせたのであった

ケーラス「いいのですか？」

バクテス「奴の復讐をする　心が強いからな……奴はわが怪人でも　仮面ライダーに倒されてしまったが　強い方だ……」

そういつてバクテスは言うのであつた

さて一方で剛はブランクのシグナルバイクを出している

剛（うーん　奏と翼の力が入ったのはできたが……）

そういつてまだブランクのがあつたのだ

剛「どうすつかな……」

つと考える

さて一方で

エグゼイド「はああああああああああああああああ!!」

祥平がエグゼイドが戦っているのは

デステイニー「……」

デステイニーに変身をした　健介とであつた

エグゼイドの攻撃をかわして　デステイニーの蹴りが当たる

エグゼイド「さすが健介さんだ　なら!!」

「ゲキトツロボッツ!!」

エグゼイド「大大大変身!!」

「ゲキトツロボッツ!!」

ロボッツアクションゲーマーになった

エグゼイド「だああああああああああ!!」

ゲキトツスマツシャーをつけた拳がデステイニーに襲い掛かる

デステイニー「ぐ!!」

デステイニーは左手の盾で塞いでいるが

デステイニー「なら」

そういつてカードを出す

「工事現場モード!!」

そういつて姿が変わる

デステイニー「轟轟剣!!」

そういつて剣を持ち ゲキトツスマツシャーをはじめさせる

エグゼイド「は!!」

さらに攻撃をしてきた!!

デステイニー「ショベル!!」

そういつて左手に装着をして ショベルナックルでゲキトツスマツシャーとぶつか

る!!

二人「ぐ!!」

クロト「すごいな……………」

翼（クロト）「ああ……………ってクロト 何をしているの？」

クロト「ああ、ステイニーの力をな」

そういつていつの間にか持っていたパソコンでステイニーのデータが出ていたのだ

クロト「俺でもこんなスペックを作るのは難しいな」

セレナ（クロト）「でもあれって健介さんが作ったものじゃないんですよね？」

クロト「そうだ……………確か 高町たちの世界で作ったものだからな……………どれだ

けの技術が使われているのか……………」

そういつてクロトはデータを見ながら言うのであった

愛「すごい……………」

ファイルス「大丈夫だ愛 君もあーなるさ」

そういつて言う ファイルスであった

愛「ありがとうファイルス」

そういつて笑顔でいると警報が鳴ったのだ

全員がその場所へ行く

調「あいつは!!」

プラツシユ「おっほっほ あらーあなたたちはあの時の子どもちゃんじゃないの」

切歌「・・・・・・・・・・・・・・・・」

調「・・・・・・・・・・・・・・・・」

プラツシユ「ん!!あんたはあの時の仮面ライダー!!」

健介「なるほど・・・お前はあの時倒したガーデムの怪人だな・・・なら 愛

悪いがフィリスを貸してくれるか？」

愛「いいよ はい」

フィリス「バデイ 久々にやるか？」

健介「ああ悪いが祥平たちは見ていてほしい」

そういつてフィリスのボタンを押す

クロト「わかった」

プラツシユ「ずいぶんなめられているわね」

健介「一度倒したことがある怪人だからな・・・だからこそ 俺が倒すんだ フィ

リス」

フィリス「おーらい!!仮面ライダーモード!!ライオン!!」

健介「変身!!」

フィスドライバーにフィルスを設定をする

フィルス「ライオンモード!!」

健介の体をライオンのエネルギーが回り 仮面ライダーフィスへと変わったのだ

フィス「仮面ライダーフィス」

そういつて構える

プラツシュ「仮面ライダー……これでもくらうといいわ!!」

そういつて両手を茨の鞭に変えて とげを放ってきた

フィス「おっと」

フィスはフィスガンをとり 撃ちおとす

剣「あれが……父上の戦い方……」

フィス「は!!」

ソードモードにしてプラツシュに攻撃をする

プラツシュ「ちい!!」

プラツシュは両手の鞭でガードをして 巻き付けてこようとするが

フィス「甘い!!」

そういつてアイコンを押しした

ファイルス「ファイアー!!」

するとファイルスの全身が燃えるようになり 鞭を焼き切ったのだ

プラツシュ「なんですって!!」

ファイルス「ああああああああああ!!」

蹴り飛ばしたのだ

剛「へえ強いな」

祥平「さすが健介さんだ」

ファイルス「さて止めは必殺技で終わりだ!!」

そういつてファイルスが必殺ボタンに変わる

ファイルス「必殺!!ライオメテオストライク!!」

ファイルス「とう!!」

ファイルスは上空に飛び

ファイルス「ああああああああああ!!」

ライオン型のエネルギーを纏い 蹴りをいれてきたのだ

プラツシュ「バラのバリアー!!」

そういつてガードをする

ファイルス「どあ!!」

バラのバリアーでガードされたが　フィスはさらに上空で回転をして
フィス「反転キツク!!」

さらに威力をあげて　バラのバリアーを破り　プラツシユのボディに蹴りが決まっ
たのだ

プラツシユ「ば．．．馬鹿な!!プラツシユがやられるなんて!!」

そういつて爆散をしたのであつた

フィス「ふい．．．．．」

バディ「ナイスだバディ」

そういつてフィルスを外して解除をしたのだ

健介「しかし　怪人が復活をするなんてな．．．．．」

フィルス「おそらくだが：：：かつて戦つた敵がまた出てくる可能性が高い：：：」

健介「そうだな．．．．．」

クロト「お疲れだな　健介」

健介「ありがとうな．．．．．」

祥平「何を考えていたのですか？」

健介「なーにかつて戦つた敵が再びと考えるとな．．．いやあの仮面ライダーたち

もでてくるかなつて」

剛 「仮面ライダー？」

翼 「まさか……………でも……………」

翼 がそういうのであった

剣 「母上？」

翼 「……………」

あの戦いが再び　ゲームス

SONG 基地

愛「お父さん　どうしたんだろう」

剣「わからない……だが父上もなにか考えがあるんだろう」

真奈「そうだね……」

つと話している子どもたちであった

ファイルス「どうしたんだい？」

ファイルスをなのはが持っているのであった

愛「あ、ファイルス　充電終わったんだ」

ファイルス「ああなのは　ありがとう」

なのは「どういたしまして」

そういつて笑顔で言うのであった

剣「なのはさん父上は？」

なのは「健介さんならデステイニードライバーを調べるから私たち全員でしたんだよ

ね」

愛「それって大丈夫なんですか？」

なのは「うん!!大丈夫だよ 普通に出て大丈夫だしねw」

そういつて笑顔でいるなのは

ファイルス「ふむ・・・」

すると警報が鳴ったのだ

健介「警報!!」

そういつてデステイニードライバーを持って出る

なのは「あ、健介さん」

健介「ああ丁度いい 警報が鳴ったらしい」

なのは「そうですね 行きましょう!!」

そういつて全員が待っている

弦十郎「・・・・・・・・・・・・・・・・」

健介「どうしたのですか？」

翼「健介さん・・・・・・今回は私が戦います」

クロト「どういうことだ？」

剛「そう 教えてもらってもいいよね」

そういつてモニターを見ると

健介「あれは……」

そう暴れているのが仮面ライダーガーマスだからだ

翼「あれは……私の兄さんだったもの……」

翼（クロト）「え……」

健介「……だめだ　ここは全員でいくぞ!!」

そういつて全員で出動をしたのであつた

ライオトレインの中

翼「……」

奏「翼　気を張り過ぎだぜ」

翼「わかつている……でも……」

そして現場に到着をすると　仮面ライダーやシンフォギア奏者　シンフォギアライ

ダーに変身をしたのだ

ゲムム「いたぞ!!」

そこでランチャーをもって街を破壊している　ガーマスがいたのだ

ガーマス「……」

ガーマスはこちらを見る

すると襲い掛かってきたのだ!!

翼「させない!!」

ガーマスが襲い掛かってきた拳を翼はギアの剣を大きくしてガードをしたのだ
ゲナム「は!!」

エグゼイド「ああああああああああ!!」

二つのガシャコンブレイカーでボディに当たり

マツハ「おら!!」

つとゼンリンシューターを放ち ガーマスのボディに命中をしたのだ

ガーマス「……………」

ガーマスはもっているランチャーをビームモードにしてこちらへ放ってきたのだ

デステイニー「であ!!」

デステイニーはスラッシュブレイカーを装備して ビームモードをはじめたのだ

ビルド（那奈）「は!!」

那奈が変身をした ビルドのドリルクラッシュャーが命中をして

セレナ「はああああああああああああ!!」

さすがにセレナはビルドがいるため アガートラームを装着をして 短剣で攻撃を

する

ガーマス「……………」

ガーマスはたこのあしを出してきたのだ

ファイルス「なら!!」

フィス「うん!!」

ファイルス「オクトパスモード!!」

そういつて姿が変わり タコの足同士がぶつかり合う!!

クリス「くらいやがれ!!」

スナイプ「は!!」

ゴースト「であ!!」

ガンモードにして放ったのだ

ガーマスは吹き飛ぶが立ちあがったのだ

マリア「うそでしょ!!」

セレナ(クロト)「あれだけの攻撃をしても……」

ガーマスは必殺技ボタンを押す

デステイニー「!!」

デステイニーはビームシールドを展開して全員を守るようにガードをしたのだ

デステイニー「ぐぐぐ……ぐあ!!」

デステイニーは吹き飛ばされたのだ

翼「健介さん!!」

ゲナム「なんて威力だ……」

デステイニーはビルに激突をしたのだ

エグゼイド「こうなったら……」

そういつて構えるが オクトパス爆弾がつけられている

ゲナム「なんだこれは……」

マツハ「やば!!」

そういつてマツハはマツハドライバ―炎のスイッチを押す

「ずっとマツハ!!」

そういつて高速移動をしてガーマスに攻撃をしたのだ

二人「ぐああああああああああああああああああ!!」

タコ型の爆弾が爆発をして 二人も吹き飛ばされた

マツハ「ちい!! だったらこれだ!!」

「シグナルバイク!! レジエンド!! 電王!!」

するとボディ以外が電王のようになり 頭部の色も電王になった 電王マツハに

なったのだ!!

マツハ「いくぞー……」

そういつて右手にデンガツシャーが現れて ガーマスに攻撃をする

フィス「は!!」

フィスも攻撃に加わる

デイケイド「は!!」

援護をするようにデイケイドはライドブツカーガンモードで攻撃をする

ガーマス「!!」

ガーマスは吹き飛び・・・ビルに激突をしたのだ

マツハ「さすがに・・・な」

だが・・・

マツハ「まじかよ・・・」

響「やめてください!!これ以上は!!」

フィルス「皆!!聞いてくれ!!やつから生命反応がないんだ!!」

全員「!!」

デステイニー「まさか・・・ロボットってことか?」

フィルス「わからないが・・・」

デステイニー「なら正体を明かしやがれ!!」

そういつて魔法モードになって レイジングハートエクセリオンを構える

なのは「必殺!!」

二人「スターライトブレイカー!!」

そういつて砲撃が放たれて ガーマスに命中をしたのだ

ガーマスの装甲がバチバチといわせてきたのだ

マツハ「なるほど ロボットだったんだな!!」

エグゼイド「ならば!!」

ゲンム「決めるぞ!!」

「ガシャット!!キメワザ!!マイテイクリティカルストライク!!」

「必殺!!フルスロットル!!電王!!」

三人「とう!!」

三人は飛び トリプルライダーキックをお見舞いさせたのだ!!

ガーマスは爆発をしたのであった

翼「・・・・・・・・・・・・・・・・」

するとガーマスが倒れる・・・・・・・・そしてその姿を見たのだ・・・・・・・・

翼「にい・・・・・・・・さん・・・・・・・・」

健介「まさか・・・・・・・・あの人が使われていたのか・・・・・・・・」

そういつて全員が駆けつけたのだ・・・・・・・・

翼「・・・・・・・・・・・・・・・・」

剣「母上・・・・・・・・」

クロト「許せないな・・・・・・・・」

祥平「はい・・・・・・・・」

剛「だな」

一方でガーデム基地

バクテス「そうか・・・・・・・・」

ケーラス「失敗をしました 申し訳ありません・・・・・・・・」

バクテス「・・・・・・・・ 気にするな ケーラス 奴らの戦闘力は我らが予想を超

えるからな・・・・・・・・ 楽しみだ」

そういつてバクテスは楽しみをしているのであった

エグゼイドゼロ 再び!!

大ガードム基地

バクテス「ケーラスよ」

ケーラス「はいバクテスさま」

バクテス「どうやら私は仮面ライダーたちを侮っているようだ……」

ケーラス「バクテスさま……」

バクテス「奴らは私が創造をした以上にパワーアップをしてる……私は彼らと戦うのが楽しみだよ……異世界の仮面ライダーともね」

そういつてバクテスは何かのスイッチを押す

ケーラス「そのスイッチは!!」

バクテス「戦闘員たち出撃せよ」

一方でSONG基地では警報が鳴り続けている!!

セレナ「私がいけます!!」

現在 戦闘員たちが現れて 出動をしていくのであった
今はセレナがビルドとなって出撃をしていくのであった

健介「奴らの目的がわからない」

そういつて健介は言った

クロト「俺たちを疲労をさせてから攻撃をするのか？」

健介「それだとしても近すぎるだろ!!」

そう出てきた場所はほとんど基地の近くなのだ

響「ただいまーーーーー」

花菜「つかれましたーーーーー」

つと出撃をしてきた 響と花菜が帰ってきたのだ

健介「おかえり」

マリア「あーーーーー」

クリス「くそだりーーーーー!!」

つと戻ってきた 2人であった

健介「ほれ」

そういつてジューズを渡した

クリス「ありがとうな」

マリア「疲れるわ」

剛「でもよ いったい確かにどうなってやがんだ？」

健介「だがまずいな……近くとはいえこうも何度も出動をしているんだ　そろそろ疲労がたまるとまる………」

そういつて実はなのはたちにも頼んで出動をしてもらっているのだ

クロト「うちのシンフォギアライダーたちも戻ってきたな」

祥平「セレナさん　那奈　おかえり」

セレナ（祥平）「うーん」

那奈「疲れました………」

そして警報が鳴ったのだ

切歌「もう!! いい加減にしてほしいデース!!」

そういつて切歌は出撃をしたのだ

調「まって!! 切ちゃん!!」

健介「俺も出るか」

そういつて二人を追いかける

祥平「待ってください!!」

祥平もであった

クロト「おい!!」

剛「あらら　行っちゃったねー」

つと

一方で出撃をした 切歌たちは

切歌「もう!!しつこいデース!!」

調「いくら私たちでも!!」

デステイニー「でああああああああ!!」

デステイニーはアロンダイトで切り裂いていく

エグゼイド「は!!」

エグゼイドはガシヤコンブレイカーで切っていく

切歌「あう!!」

デステイニー「切歌!!どあ!!」

切歌がくらったのを見て デステイニーは助けに行こうとしたが 攻撃を受けてし

まったのだ

調「健介!!きや!!」

エグゼイド「皆さん!!ぐあああああああああああああああああ!!」

そしてエグゼイドの吹き飛ばされたのだ

「ふっふっふ バクテスさまの言う通りだ・・・疲れが出てきているようですね」

デステイニー「ちい・・・百獣モード!!」

そういつてモードチェンジをして

デステイニー「ダブルナックル!!」

そういつて両手にガオポラーガオベアーが合体をして デステイニーは攻撃をす
る

「おっと 大ガードム怪人 ガルラーさまのガトリングをくらえ!!」

そういつてガトリングを放ったのだ

デステイニー「どあ!!」

デステイニーはそのガトリングを受けてしまう

二人「健介!!」

エグゼイド「こうなったら・・・・・・・・」

そういつて出すが

エグゼイド「しまった・・・・・・・・ゼロさんがいないからなれないんだ・・・・・・・・」

ガルラー「馬鹿め!!」

そういつて攻撃をしてきたのだ

エグゼイド「ぐああああああああああああああああああ!!」

現在 クロト達も出動しており 誰も援護をできる余裕がないのだ・・・・・・・・

ガルラー「さあ止めを刺してくれるわ!!」

そういつてガトリングを構えてトリガーを引こうとしたが
何かが飛んできたのだ

ガルラー「誰だ!! 俺様のガトリングを切った奴は!!」

「俺だ————————————————————!!」

つと蹴りを入れてきたのだ

ガルラー「ぐああああああああああああああああああ!!」

つとガルラーが吹き飛ばされる

デステイニー「今のは」

「全く だらしねえぞ!! 祥平!!」

エグゼイド「え!?! ゼロさん!!」

ガルラー「なんだ貴様は!!」

「教えてやるぜ．．．俺は．．．俺の名前をよ!! 俺はウルトラマンゼロ!! セブンの息子だ!!」

つと構えるのであった

ガルラー「なにウルトラマンゼロだと!!」

つとガルラーがびっくりをしているのだ

ゼロ「さーて．．．祥平!!」

エグゼイド「はい!!」

そういつてエグゼイドゼロドライバーをつける

エグゼイド「ゼロ大変身!!」

つとゼロが光となり 祥平の中へ入っていく

するとエグゼイドの装甲がパージされて ゼロの模様などが発生をして 頭部にゼ

ロスラツガーとビームランプが発生をした エグゼイドゼロになったのだ!!

エグゼイドゼロ「いくぞ!!」

そういつてエグゼイドゼロは構える

ガルラー「は!!」

ガルラーはミサイルを放つが

エグゼイドゼロ「であ!!」

エグゼイドゼロは頭部のゼロスラツガーを放ち ミサイルを撃破していく

デステイニー「今 誰がデステイニードライバーにいたつけ?」

そうなんでもか変身ができているのだ

「私だよ——————」

デステイニー「あの・・・どちらさまですか?」

声はフェイトや翼に似ているが・・・誰だ?

「私……ふっふっふ……私の名前はアリシア テスタロッサ!! フェイトの姉よ!!」
「デステイニー」「はぁ……んていつのまに?」

アリシア「いやー私って死んでいたんですよーそうしたらいつの間にかこのド
ライバーの中にいたつといますかー」

デステイニー「さようですか……」

つとデステイニーは言うのであつた

調「健介?」

デステイニー「何でもないさ」

アリシア「さーていくわよー健介ー!!」

つと動かしたのだ

デステイニー「どあ!!」

つと勝手に動いたのでびっくりをしているのだ

ガルラー「ん?」

デステイニー「どああああああ!!」

つと体当たりをしたのだ

ガルラー「ふげら!!」

デステイニー「ええい!!」

つと必殺カードをセットをして

アリシア「デステイニーライトニングサンダー!!」

デステイニー「え!? そんな技あったっけ!」

つとすると両手に電撃が発生をしたのだ

デステイニー「であ!!」

つと両手を前に出した

ガルラー「しびびびびびびびびびびびび!!」

つと痺れさせて

デステイニー「でああああああああ!!」

切りつけたのだ

ガルラー「ぎやああああああああああああああああああああ!!」

つと爆散をしたのであった

そして基地へ戻ると、なのはたちも戻っているのだ

フェイト「健介 おかえり」

健介「・・・・・・・・・・・・・・・・」

するとデステイニードライバーのすいっちを押すと

アリシア「しゅたつと!!」

つとフェイトそっくりで 髪をツインテールにした女性が出てきたのだ
全員「え？」

アリシア「私参上!!」

つとポーズをしてまで

剛「えつとお嬢ちゃん？今ベルトから出てきたよな？」

クロト「ああ・・・俺もそう見えたぞ」

アリシア「そうだよーーーーーって私の体ーーーーー!!成長をしているやつ
ふーーーーー」

つと喜ぶアリシアに

フェイト「え・・・・・・ええ・・・・・・」

アリシア「ん？」

つとみるのであつた

すると突然 夕日となつた

愛「え・・・・ここって基地内ですよね？」

フェイト「え・・・・アリシア姉さん？」

アリシア「そういうあなたは・・・なるほどね・・・だいたいわかつたわ・・・フェイト・・・私の妹・・・そして大事な私の妹!!」

フエイト「ね……姉さん……」

つと抱き付いたのだ

フエイト「本物だよね!!」

アリシア「ええそうよ……私は本物のアリシア テスタロッサ……あなたの姉よ」

健介「……」

調「健介 涙が出ているよ」

健介「そういう全員もな」

つと姉妹の再会を喜ぶのであった

復活をした幹部怪人たち

バクテス「……………」

バクテスの前にある謎のカプセルが開いたのだ

デスルム「バクテスさま」

バクテス「デスルムよ お前を蘇らせたのは 仮面ライダー討伐を命ずるからだ」

デスルム「は!!ただちに」

そういつて出撃をしたのであった

バクテス「ガトリングガン 貴様も行くがいい」

ガトリングガン「はは!!」

そういつて出撃をしたのであった

一方でSONG基地にて

健介「できたーーーーー!!」

セレナ「何ができたんですか?」

健介「これさ」

そういつて何かを出す

セレナ「なんですこれ？」

健介「これでハザードトリガーを全力でつかえるようにしてあるもんさw」

セレナ「なるほど……」

すると警報がなった!!

二人「!!」

二人が駆けつけると

デスルムたちが暴れているのだ

クロト「奴らは？」

健介「デスルムとガトリングガンだ」

祥平「出撃をしましょう!!」

そういつて出撃をしたのであった

そして全員が変身をする

ライオトレインで出撃をして 場所へ到着をしたのであった

ガトリングガン「あれは!!来たぞ デスルム!!」

デスルム「ええそのようですね」

そういつて戦士たちが降りてきたのだ

デイケイド「あれは」

デスルム「おや仮面ライダー多いようですね」

ガトリングガン「そんなの関係ないぜ!!くらいやがれ!!」

そういつてガトリングを放ってきた

マツハ「つたく!!名乗りもあげさせてくれないわけね!!」

つとゼンリンシューターを放つ

デスルム「ふん!!」

マツハ「あら・・・」

ゲンム「ならば」

「シャカリキスポーツ!!」

ゲンム「グレード3」

そういつてスポーツアクションゲームになったのだ

エグゼイド「ならおれも!!」

「シャカリキスポーツ!!」

つとスポーツアクションゲームレベル3になったのだ

マツハ「いくぜー」

つと何かを出す

「デステイニー」それは？」

マツハ「ああ　これはシフトカーってやつでな」
そういつて

「タイヤ交換!!ササール!!」

つとゼンリンシューターからとげが飛ばされるのだ

ガトリングガン「どあ!!」

エグゼイド「であ!!」

ゲンム「は!!」

2つの車輪が飛び　デスルムに当たる

デスルム「ぐ!!」

ダイケイド「はあああああああああああああああ!!」

スナイプ「援護をするよ!!」

そういつて撃つ

ガトリングガン「甘いんだよ!!」

つとガトリングを放つ

ダイケイド「きや!!」

スナイプ「うわ!!」

ゴースト「でああああああああ!!」

ガトリングガン「ぐ!!」

ブレイブ「はああああああああああああああああああ!!」

ブレイブのガシヤコンソードがガトリングガンのボディを切っていく

セレナ「……………こうなったら……………試してみる!!」

そういつてハザードトリガーをセットをして

「マックスハザードON!!ラビットラビット」

セレナ「ふふ……………勝利の法則は決まったわ!!」

そういつてセットをして変身をしたのであった

セレナ「ビルドアップ」

「紅のスピーディージャンパー!ラビットラビット!ヤベー!ハエー!」

仮面ライダービルド ラビットラビットフォームが完成をしたのだ

ビルド(那奈)「あれが……………」

デステイニー「成功をしたようだな」

ゲナム「健介 もしかしてあれが?」

健介「ああ……………完成をしたものだ フルフルラビットタンクが!!」

ビルド「は!!」

ガトリングガン「この!!」

ガトリングガンはガトリングを放つが

ビルド「おっと」

ビルドはジャンプでかわしていく

デスルム「は!!」

デスルムは攻撃をするも

ビルド「遅いですよ!!」

するとビルドの腕が伸びて デスルムに命中をしたのだ

マツハ「うひゃーやるね」

つとみるのであつた

マリア「すごいわ」

セレナ（クロト）「はい」

奏（剛）「あれが別の世界のライダーってことかよ」

ビルド「はああああああああああああああああああ!!」

そしてフルボトルバスター ブレードモードからバスターモードにして

「ラビット!!」「パンダ!!」「タカ!!」「ライオン!!」「アルティメットマツチデース!!」

そしてブレードモードに戻す

ビルド「はああ……」

デスルム「!!」

ビルド「であああああああああ!!」

接近をして 切り裂いたのだ

デスルム「ぎやああああああああああああああああああああ!!」

デスルムは爆散をしたのであった

ガトリングガン「よくも デスルムを!!」

ビルド「ならもう一つ見せてあげましょう」

そういつて抜いて 降ると

「タンクタンク」 っとビルドドライバーにセットをして回す

すると青い車輪型の戦車が現れる

ビルド「ビルドアツプ」

そしてラビットトラビットのアーマーがパージされて

今度は青い戦車たちを装着していく

「鋼鉄のブルーウォーリアー！タンクタンク！ヤベー！ツエー！」

っと仮面ライダービルド タンクタンクフォームへと変わったのであった

ガトリングガン「な!!」

ビルド「は!!」

バスターモードになって攻撃をする

ガトリングガン「どあ!!」

ガトリングガンはその攻撃を受ける+ 肩のキャノンも放っている

ガトリングガン「ぐおおお・・・」

ビルド「さーてどうしましょうかしら？」

フィス「セレナお母さん次は私たちだよ!!」

フォーゼ「てかやりすぎでしょ」

ビルド「ごめんごめん ついついw」つと笑うのであった

フィス「というわけで!!」

フォーゼ「いくぜー!!!」

フィルス「必殺!!ライオンメテオストライク!!」

「ドリル リミットブレイク」

フォーゼ「ライダードリルキック!!」

フィス「せいやあああああああ!!」

二人の蹴りが命中をして ガトリングガンはダメージを受けて爆散をしたのであつ

た

ビルド「すごい・・・ハザードつかつても暴走をしない・・・」

であつた

一方で

バクテス「ガトリングガン デスルム お疲れだ……キヤットよ」

キヤット「しやーーーーー」

バクテス「お前はパワーアップをして復活をさせた その力を奴らに見せるがいい」

キヤット「かしこまりました……バクテスさま」

そういつて消えるのであつた

キャットの攻撃 現れた 謎の仮面ライダー

愛たち side

今 私 剣 真奈 茜 紗代 花菜の六人はお母さんたちが利用をしていた お好み焼き屋さん フラワーへ向かっています

剣「母上たちが絶賛としていた フラワーへ行くの 私楽しみにしてましたよ」

真奈「私も私も!!」

つと愛たちは話をしていると

どん!!とぶつかったのだ

愛「きや!!」

「悪い、大丈夫か?」

愛「あ、はい すみません」

「いや、こつちもぼーつとしていたから・・・それでなんだけど・・・」

愛「なんででしょうか?」

「この辺に飲食店はないかな?・・・俺、この街初めて来たから分からなくて」

真奈「それでしたら 私たちと一緒に行くのはどうですか?」

「え?」

紗代「それはいいねー 私たちは今から そのフラワーというお好み焼き屋へ行くと
ころだったんですよ!!」

「・・・いいの?」

剣「はい かまいませんよ」

「ありがとう・・・つて、名前を名乗ってなかった。俺は一条 一誠」

愛「桐野 愛です!!」

剣「桐野 剣です」

真奈「桐野 真奈です!!」

茜「桐野 茜です」

紗代「桐野 紗代です!!」

花菜「桐野 花菜です!!」

一誠「君達は・・・姉妹なのか?」

愛「まあそんなところですねw」

つと笑うのであった

そして彼女たちは彼を連れて フラワーへ行き お好み焼きを食べるのであった

愛「うまい!!」

花菜「お母さんたちがうまいとிட்டたのは本当だった!!」

つと食べているのであった

一誠「うまい……どこの世界でも、ここは変わらない……」

そういつておいしく食べていると……

剣「……すまない 私だ」

剣の携帯がなったのだ

剣「はい 剣です はい……はい……はい……わかりました」

そういつて剣は報告をする

愛「わかった すみません 一誠さん私たち用事ができまして……ではお金は置い

ていきます!!」

そういつて出ていくのであった

一誠「……」

そして愛たちは現場へ到着をしたのであった

そこには

キャット「しゃー……仮面ライダー待っていたわよ」

愛「お前は!!」

キャット「私はキャット……お前らを倒すためによみがえったのさ!!」

そういつてキャットは爪を構えるのであつた

愛「フィルス!!」

フィルス「了解だ!!」

「タドルクエスト」

剣「第二剣術」

「バンバンシューティング」

真奈「第二シューティング」

茜「変身」

「3. 2. 1」

紗代「変身!!」

「アーイ!!」

花菜「変身!!」

フィルス「ライオンモード!!」

「タドルメグルタドルメグル タドルクエストーーーーー」

「バンバン!!バンバン!!バンバンシューティング!!」

「カメンライド デイケイド!!」

「フォーゼ 変身音」

「レッツゴーカクゴゴゴゴースト!!」

つと変身をしたのであった

つと仮面ライダーに変身をしたのであった

フィス「いくわよ!!」

そういつてライオンクローを展開をしたのだ

キャット「パワーアップをしたキャット様の力をみるがいい!!」

そういつてキャットが動く!!

フィス「は!!」

フィスはライオンクローで攻撃をするが

キャット「あまいしや!!」

爪で受け止めたのだ

スナイプ「は!!」

スナイプはガシヤコンマグナムで攻撃をする

キャット「しやしや!!」

キャットはかわして 次の態勢をとる

フォーゼ「うおおおおおおおおお!!」

フォーゼがロケットモジュールで攻撃をする

フォーゼ「ライダーロケットパンチ!!」

キヤット「あまいしゃ!!」

そういつて回避をして

キヤット「キヤット様の新しい技を受けるがいい!!」

するとキヤットは髪の毛を飛ばしてきたのだ

デイケイド「く!!」

ブレイブ「な!!」

そういつてブレイブとデイケイドはガシャコンソードとライドブツカーではじいた
りするが

フィス「この数は!!」

スナイプ「もう!!」

つと落としたりしている

フォーゼ「どあああああああ!!」

ゴースト「きや!!」

キヤット「さらに!!」

するとキヤットは素早い動きで ダッシュをしたのだ

フィス「どこに!!」

キャット「終わったよ」

六人「え!!きやああああああ!!」

すると突然ダメージが発生をして　フィスたちは地面に倒れていたのだ

フィス「なに・・・今のは」

デイケイド「何も見えなかった・・・」

ブレイブ「ぐ・・・」

キャット「これでとどめじゃ!!」

つと攻撃をしようとしたとき

「はっ!!」

突然　キャットを蹴り飛ばしたものが現れたのだ

そう　先ほど　愛たちと一緒にご飯を食べていた男　一条　一誠であったのだ

フィス「一誠さん？」

一誠「なるほど、君達がこの世界の仮面ライダーか」

キャット「くそ・・・このキャット様にダメージを与えると貴様、何者だ!!」

一誠「俺か?・・・俺はただの通りすがりだ。悪いがその運命のシナリオ、俺が書

き換える!」

そういつてベルトを装着をした

「デイケイド「あれはデイケイドドライバーに似ている」
そしてカードを出す

一誠「変身!!」

「カメンライド ドライグ!!」

つと姿が変わった 仮面ライダー ドライグへと変わったのだ
キヤット「おのれ……くらえ!!」

そういつてキヤットは爪を伸ばして攻撃をしようとしたが

ドライグ「はあ!!」

だがドライグはキヤットの攻撃をかわして お腹を殴ったのだ

キヤット「ごふ!!」

ドライグ「であ!!」

さらに右 左からの拳で殴り さらに蹴り飛ばしたのだ

キヤット「ごふ!!」

キヤットは倒れてしまうが 立ちあがり 攻撃をする

ドライグ「まだまだいくぜ!!」

そういつてライドウエポン ソードモードでキヤットのボディを切りつけていくの

だ

キャット「おのれ!!」

素晴らしいながらもキャットは苦戦をしているのだ

ドライグ「おりやあ!!」

ドライグのライドウエポン ソードモードがキャットのボディを切り裂いたのだ

ドライグ「これで終わりだ」

カードを出して それをドライグドライバーにセットしたのだ

「ファイナルアタックライド ドドドドライグ!!」

ドライグ「はああああ・・・・・・」

するとエネルギー状が発生をして

ドライグ「はっ!!」

ドライグは上空を飛び

ドライグ「せいやあああああああ!!」

必殺技が放たれて キャットに命中をしたのだ

キャット「ぎやあああああああああああ!!申し訳ござい

ません・・・バクテスさまーーーーー」

そういつて爆散したのであった

ブレイブ「つ・・・強い・・・」

スナイプ「あれが……別の世界のライダーの力？」

「愛……皆……」

そこに遅れて健介たちが駆けつけた

クロト「すまない バクテスの部下たちに手間をかけてしまった」

ドライグ「……分かった、今から戻る」

健介「待ってくれ……愛たちを助けてくれてありがとうな」

ドライグ「気にしないでくれ、彼女達にお礼をしたかったからな」

健介「ところで君は」

ドライグ「……また 会うことがあれば……その時に教えますよ」

そういつて彼は開いていった 時空へ入っていったのであった

健介「……謎の仮面ライダーか……またいずれ会えるかもな」

そういつて健介は言うのであった

剛「それにしても 愛ちゃんたち大丈夫かい？」

真奈「大丈夫……と思うけど」

ファイルス「バディ キヤットが蘇っていたのだ」

健介「キヤットね……かつて調たちが倒した奴だな……」

そういつて健介は思うのであった

さて基地では

バクテス「さて次はこの怪獣と いでよサイボーグ怪人 サボーグ!!」

ザボーグ「はは バクテスさま」

バクテス「いけ!! ロボット怪獣 キングジョー サイボーグ怪人サボーグ!!」
そういつてしゅつげきをしたのであつた

新たな 姿 レベル50

健介「・・・・・・・・・・・・・・・・」

健介は二本のガシヤットを作っていた・・・・・・・・

健介「はぁ・・・・・・・・フィスとステイニーのデータタをガシヤットに転送をして

あともう少してとところで完成だな まあ使うとしたらぶつつけ本番だな」

そういつてデータインストールを完成をした ガシヤットをとりだしたのだ

健介「あとは・・・・・・・・真奈 剣用に作っておかないとねw」

つと笑う健介であつたが 警報がなつたのだ!!

健介「!!」

健介は急いで指令室に行く

街でロボットと 地上で暴れている敵がいたのだ

弦十郎「バクテスめ・・・・・・・・あんなものまで」

剛「あのロボットは俺に任せろ!!」

クロト「なら俺たちは地上の敵を倒すでしょう」

翼（クロト）「そうだなクロト」

セレナ（クロト）「頑張ろう!!」

祥平「行こう!!」

そういつて健介たちは移動をするのであった

剛「ならロボットならこの形態だな!!」

剛「融合!!」

セブン「デュア!!」

剛「アイゴー!!」

レオ「イア!!」

剛「ヒアーウィーゴー!!」

そういつてカプセルを装着ナツクルにセットをして ジードライザーでスライドさせる

剛「燃やすぜ!! 勇気!! ジ——ド!!」

「ウルトラセブン!! ウルトラマンレオ!! ウルトラマンジード ソリッドバーニング!!」

ジード「しゅあ!!」

そういつてキングジョーに蹴りを噛ました

ジード「追跡!! 撲滅!! いずれもマツハ!! ウルトラマンジード!!」

つとマツハと同様に構えるのであった

キングジョーは立ちあがり 光線を放った

ジード「おっとエメリウムブーストビーム!!」

そういつて頭部のビームランプから放ったが キングジョーは効いてないぜみたい
な感じていたのだ

ジード「あらー堅いのね……」

つと構えるのであった

一方で地上では

ザボーグ「来たな 仮面ライダーとシンフォギア」

翼「あれは」

ビルド（那奈）「ロボットです!!」

ビルド「来るわよ!!」

そういつてミサイルが飛んできたのだ

クリス「ミサイルならあたしにまかせな!!」

そういつてミサイルで相殺をしたのだ

スナイプ「なら!!」

「ジェットコンバット!!」

スナイプ「第三シューティング」

「ジェットコンバット!!」

コンバットシューティングゲームになって上空からガトリングで攻撃をする
ブレイブ「は!!」

ブレイブはガシャコンソードで切りつけていく
デイケイド「変身」

「カメンライド フォーゼ!!」

フォーゼ「おお!!二人で宇宙キターーーー!!」

デイケイドF「やらないからね!!」

そういつてアタックライド ロケットモジュールをだして装着をした

フォーゼ「なら決めるぜ!!」

「ロケット ON」

フォーゼ「ダブルライダーロケットパンチ!!」

そういつて2人でパンチをしたのであった

「開眼!!弁慶!!」

ゴースト「ああああああああ!!」

ガンガンセイバーハンマーモードで地面を叩き浮かしたのだ

響「だああああああああ!!」

コーベルトを装着をした。響の拳が浮かした。ロボットたちを粉碎をしていくのだ。フィス「はああああああああああああああああああああ!!」

サボーグ「ふん!!」

フィスが放った。ライオンソードをサボーグは腕で受け止めたのだ。

ゲンム「はああああああああああああああああああ!!」

エグゼイド「であ!!」

さらにダブルガシヤコンブレイカーで攻撃をするも片手で塞いだのだ。

デステイニー「ミラーナイフ!!」

そういつて光のナイフを飛ばして。サボーグの手下を破壊していく。

デステイニー「三人とも!!」

フィルス「バディ!! 奴は硬すぎる」

デステイニー「堅いね」

そういつてデステイニーはガシヤットを出したのだ。

ゲンム「なんだそのガシヤットは」

デステイニー「おれが開発をした。ガシヤットデュアルK!!」

二人「ガシヤットデュアルK?」

デステイニー「その通り。これには仮面ライダーフィス。デステイニーの力がはいっ

さてまず ゲンムの姿はフィスの動物の力がまじっているため 背中にはイーグルモードの翼とフェニックスモード翼が

左手にはトータスシールドが装着されており 脚部はラビットモードの足

頭部はライオンモードになっているなどの動物パワーが入っている状態であった
頭部にはビートルモードの角もある

さて反対にエグゼイド デステイニーゲーマーは背中にデステイニーの翼 肩部にはブーメランが装備されており デステイニーに近い姿になっているが 腕にあるパルマファイオキーナ掌ビーム砲は装備されていないのだ

アロンダイトなどは装備されており デステイニーの姿のままほかの形態の武装をつかうことができるみたいだ

さて一方でジードは

ジード「じゅあ!!」

キングジョーと力比べをしている

ジード「だあもう!!ゼロから話を聞いているからな!!厄介だぜ!!」

そういつて殴るが 堅いのだ

ジード「この野郎!!ストライクブースト!!」

そういつて放ってキングジョーに当たる

キングジョー「がしんがしん!!」

ジード「わお・・・ストライクブーストで生きているって・・・まあいいか」
そういつてジードは構え直して

さて一方で

サボーグ「新たな力・・・データなしデータなし」

ゲムム「は!!」

ゲムムは背中の翼を開いて 光弾を飛ばした

サボーグ「ぎぎぎぎ!!」

エグゼイド「おりやあああああ!!」

エグゼイドは背中の大剣アロンダイトを抜いて サボーグの腕を切ったのだ

サボーグ「ぎぎぎぎぎぎ!!」

フィス「だあああああああ!!」

ジード「お 地上もそろそろ終わりそうだな」

「ピコンピコン」

ジード「こつちも限界みたいだし 一気にいくぜ!!ブーストスラッガー!!」

そういつて頭部のジードスラッガーを飛ばして キングジョーに放ち そのまま接近をして

ロイヤルメガマスターになったのだ

ジード「しゅあ!!」

そして三回 キングソードをスナップをして

ジード「くらえ!!ロイヤルエンド!!」

そういつて杖モードのキングソードに左手を添えて 放たれた光線がキングジョー

に命中をして 爆散をした

ジード「いえーい!!」

そして地上でも

ゲナム「これで」

エグゼイド「決める!!」

フィス「フィルス!!」

フィルス「ああ!!」

「ガシユン キメワザ!!がちゃん!!フィス(デステイニー)クリティカル クラツシユ
!!」

そういつて三人は空を飛び

フィルス「必殺!!ライオメテオストライク!!」

そういつて三人の技が命中したのであった

ケーラス「バクテスさま……………」

バクテス「いいだろう 仮面ライダー……………次は私が相手をしてやろう」

ケーラス「なら お供をさせてください」

バクテス「わかった 仮面ライダー この場所へ来るがいい 我がアジトへ」

そういつてデータを送るのであった

バクテス基地再び

健介「・・・・・・・・・・・・・・・・」

現在 健介は一人である場所へ来ていたので

それは数日前

健介「ん・・・・・・・・・・・・・・・・」

健介のパソコンにメールが届いた

健介「誰からだ？」

健介はそのメールを見ると

バクテス「久しいな 相田 健介」

健介「バクテス・・・・・・・・・・・・・・・・」

バクテス「お前と一対一で戦い・・・・場所は我が基地に来るがいい・・・・このメールに添付しておくさ」

そういつてメールを見ると場所が書かれていた

健介「・・・・・・・・・・・・・・・・」

健介はすぐに出立準備をして 相棒である ドラグーンにまたがり 出撃をしたの

だ

調「健介？」

調は健介の部屋に来ていたが 健介の返事がない

調「？」

調は不思議と思い 中に入ると・・・

調「皆!!」

そういつて調は顔を青くして入ってきたのだ

愛「お母さん？」

フィルス「どうしたんだい!!」

調「急いで!!健介を!!」

翼「どういうことだ!!」

そういつて調は説明をしている

クロト「なんだと!!」

祥平「な!!」

剛「・・・・・・・・今シフトカーたちがあいつを追っている だが急いだ方が

い!!」

全員がバクテスのいる 大ガーデンの基地へ向かうのであった

一方で健介は

なのは「健介さん本当に」

健介「ああ……皆には悪いが……この決着は俺がつけないといけないんだ」

そういつてデステイニーードライバーをセットをしてカードを出す

健介「変身!!」

なのは「デステイニーモード!!」

仮面ライダーデステイニーになったのだ

デステイニー「参る!!」

そういつてデステイニーは背中のアロンダイトをとり 切り裂いていくのであった

一方で今 その場所へ向かっている クロト達

ライオトレイン「うおおおおお!!」

ライオトレインが急いでその場所へと走っていくのであった

奏者たちも 心配をしている

剛「……………」

クロト「……………」

祥平「……………」

それは彼らも一緒であった
間に合ってくれと

一方でデステイニーは

「デステイニー「おりゃ!!」

肩のフラッシュエッジ2を投げて そのまま敵を切り裂いていく そして戻ったの
を肩に戻して ビームライフルで攻撃をする

なのは「ファイナルアタックモード!!」

そういつてライフルを構えて

「デステイニー「いつけ!!」

強力なビームを放ち 突破をしたのだ

「デステイニー「いそぐ!!」

そういつて背中 of 翼を広げて 先へ進むのであった

いっぽうで調たちは到着をするとシンフォギアを纏ったり 仮面ライダーになった
りして進むのであった

エグゼイド「これって……」

ゲンム「まさか……あいつ一人でやったのか……」

マツハ「まじで?」

そういつて見ると あたりには機械の残骸などがたくさん切り裂かれたり 溶けた
りしているのであつた

オーブ「皆さんあれを!!」

そういつて上空を見る するとそこに現れたのは

ケーラス「ここから先は行かせないわよ」

調「あなたは!!」

ケーラス「あなたたちとこうして会うのはあの暴走をしたときかしら? 改めて私は
ケーラス・・・バクテスさまの部下よ・・・悪いけどあなたたちをここから通すわけ
にいかないのよ!! いでよ!! 我がゴーレムたち!!」

ゴーレムたち「ぐおおおお・・・・・・」

ゲンム「なら」

そういつてゲンムはエグゼイドになり

「ゲキトツロボッツ」

ロボットアクションゲームレベル3になったのだ

オーブ「シユア!!」

マツハ「ならいくぜ!!」

そういつて全員が構えるのであつた

フェイス「あなたを倒して お父さんの元へ急ぎます!!」
そういつて武器を全員が構えるのであつた

一方でデステイニーは

デステイニー「ドーーーーーん!!」

つと蹴り飛ばしたので

デステイニー「・・・・・・・・・・・・・・・・」

そしてデステイニーが向いた方には

バクテス「待っていたぞ 仮面ライダー」

デステイニー「ケーラスは」

バクテス「彼女には君の仲間を抑えてもらうために戦ってもらっているよ」

デステイニー「なるほどな・・・・・・・・」

バクテス「では始めよう 仮面ライダー・・・・・・・・ 私たちの戦いを」

そういつてバクテスは武器を構えるのであつた

デステイニー「・・・・・・・・」

なのは「スラッシュブレイカー」

そういつてデステイニーも発生をした剣を構える

デステイニー「いくぞ!!バクテス!!」

そういつて俺たちは戦いを始めるのであった!!

マツハ 新たな力

ケーラスたちと戦うフェイスたち

ブレイブ「これで!!」

スナイプ「は!!」

「キメワザ!!タドル（バンバン）クリティカルストライク!!」

二人「であああああああ!!」

二人は蹴りを入れるが

ケーラス「そんなもん!!」

ケーラスは大きくした手で二人をはじかせた

二人「きやああああああああああああああああああああ!!」

翼「剣!!真奈!!」

デイケイド「この!!」

ゴースト「はああああああ!!」

二人はライドブッカー ガンガンセイバーで攻撃をするが

ケーラス「そんなものにやられる 私じゃないぞ!!」

そういつて2人の剣をつかんで 投げ飛ばしたのだ

二人「きやああああああああああああああああああああ!!」
フォーゼ「こうなったら!!」

「ランチャーON ガトリングON」

フォーゼ「そーれ!!」

そういつて放っている

ケーラス「バリアー!!」

そういつてケーラスはバリアーで攻撃をふさいだのだ

フィス「なんて奴なの!!」

マツハ「この野郎!!」

そういつてゼンリンシューターで撃つが

ケーラス「は!!」

左手の二連キャノンを放ち相殺をする

ゲムム「なんて威力だ・・・」

エグゼイド「なら!!」

そういつてロボットアクションゲーマーレベル三になって

エグゼイド「おらおら!!」

そういつて接近をして攻撃をするが
がし!!

エグゼイド「!!」

ゲキトツスマツシャーをつかんだのだ

ケーラス「はああああああああ!!」

ケーラスはエグゼイドを投げると 仮面ライダーオーブと仮面ライダービルドの方
へ投げ飛ばしたのだ

二人「きやああああああああああああああああああ!!」

オーブ「祥平 降りてよ!!」

エグゼイド「鎧がからまった!!」

セレナ「なんてやつなの!!」

セレナ(ク)「このままじゃ!!」

そういつて全員が構えて

クリス「くらいやがれ!!」

そういつてガトリングを放ち

響が接近をする

ケーラス「は!!あんたはこれよ!!」

そういつて響を巻き付けて 投げつけたのだ

響「うあああああああああ!!」

調「ちょ!!響さん!!」

切歌「こつちに來ないでデース!!」

そういつてぶつかつたのであつた

三人「きゅーーーーーーー」

翼「響!!切歌!!調!!」

奏「あの野郎 パワーアップをしてやがる!!」

ケーラス「その通りよ!!今頃バクテスさまは相田 健介を倒してところでしょう」

調「そんなことはない!!健介はかつ!!」

ケーラス「まあいいわ・・・私はお前たちをここで食い止めるのが私の役目よ!!」

マツハ「だつたら!!」

「シグナルバイク シフトカー!!ライダーデットヒート!!マツハ!!」

マツハはデットヒートマツハになって ケーラスに殴りかかる!!

マツハ「おらおらおら!!」

そういつて連続した拳で ケーラスを殴っていく

ケーラス「あまいわ!!」

そういつてケーラスは右手から鞭が伸びて マツハをつかんで投げ飛ばした
ゲナム「どあ!!」

それをゲナムに投げ飛ばしたのだ

オーブ「スペリオン光線!!」

そういつて光線を放つ

ケーラス「ぐ!!」

ケーラスはそれをガードをして

「LADYゴー!!ボルティック フィニッシュ!!」

ケーラス「な!!」

ビルド「であああああああ!!」

威力をあげた蹴りが当たる

ケーラス「ぐ!!」

マツハ「ん?」

するとマツハが持っている 無地のシグナルバイクが光る

ファイル「なんだ!!」

するとファイルから光が放たれて マツハが持っている無地のバイクが光りだした

マツハ「これは!!」

するとバイクがドラゴンジェットターバイクになったのだ

マツハ「これは!!」

そしてデットヒートを変える

「レジェンドバイク!!ライダー!!フェイス!!」

マツハの姿が変わり、フェイスのような姿。仮面ライダーフェイスマツハになったのだ

ケーラス「フェイスにかわったですって!!」

マツハ「さーていくぜーろーろー!!」

そういつてダツシユをして、ライオンクロウを展開をして攻撃をする

ケーラス「ぐ!!」

ゲンム「なら」

「ゴッドマキシマムマイティX!!」

ゲンム「グレートビリオン 変身!!」

エグゼイド「なら!!」

「マキシマムマイティエックス!!」

エグゼイド「MAX大変身!!」

二つの巨大なゲーマーを装着をするのであった

ケーラス「はあああああああ!!」

ケーラスは攻撃をするが

ゲナム「は!!」

エグゼイド「おりゃ!!」

二人の拳が命中をして ケーラスを吹き飛ばす

マツハ「おら!!」

つと何回もオス

「ずつと フィス!!ドラゴンモード!!」

そういつてドラゴンモードのような姿になった

マツハ「剣が武器なんだな!!」

そういつて攻撃をしていく

ケーラス「ぐ!!」

マツハ「さらに!!」

そういつて切りつけていくのであった

ブレイブ「はあああああああ!!」

スナイプ「援護 援護」

そういつて攻撃をして ブレイブのガシャコンソードが切りつけたのだ

デイケイド「はあああああああ!!」

デイケイド電王になって デンガツシャーで攻撃をする

フオーゼ 「ライダーロケットパンチ!!」

「開眼 フーデイニ!!マジイジャン!!すげーマジジャン!!」

そういつてゴースト フーデイニ魂になって 鎖でケーラスの動きを止める

ケーラス 「ぐ!!」

ゴースト 「今です!!」

マツハ 「あいよ!!」

フェイス 「これで!!」

ゲンム 「決めさせて」

エグゼイド 「もらうぜ!!」

「必殺!!フルスロットル!!」

ファイルス 「必殺!!」

「キメワザ!!」

「キメワザ!!」

「フェイス!!」

ファイルス 「ライオメテオストライク!!」

「ゴッドマキシマム クリティカルブレッツシング!!」

「マキシマム マイティ クリティカルブレイク!!」
そういつて四人は飛び

四人「はああああああああああああああああああ!!」

ケーラス「きやああああああああああああああああああ!!」

ケーラスは吹き飛ぶのであった

ケーラス「ば・・・バクテスさま・・・ケーラスはここまででございます・・・ぎや
ああああああああ!!」

そういつて爆散をしたのであった

フィス「急ぎましょう!!」

そういつて全員が急いで向かうのであった

一方で

なのは「工事現場モード!!」

デステイニー「ワイヤーフック!!」

そういつてワイヤーフックパンチを飛ばしたが

バクテス「ふん!!」

バクテスの腕力で はじかれたのだ

バクテス「は!!」

デステイニー「ぐあああああああああああああああああああああ!!」

デステイニーは吹き飛ばされる

バクテス「どうした 仮面ライダー!!」

デステイニー「まだだ!!」

なのは「ミラーモード!!」

姿も変わったのだ

デステイニー「ミラーハーレション!!」

すると鏡がたくさん出てきたのだ

バクテス「ぬ!!」

デステイニー「シルバークロス!!」

そういつてシルバークロスが鏡にはじいてバクテスを攻撃をする

バクテス「ちい!!」

バクテスはビームで鏡を割ったのであった

デステイニー「もらった!!」

そういつてミラーナイフを放ったのだ

バクテス「ふあ!!」

バクテスの剣がボディを切りつけたのだ

デステイニー「がは!!」

デステイニーは地面に倒れてしまう

バクテス「ふっふっふっふ」

デステイニー「く!!」

「百獣モード!!」

デステイニー「まけてたまるか!!」

バクテスの本気 デステイニー 大ピンチ!!

デステイニー「シャークシヨット!!」

そういつて右手で殴ろうとするが バクテスは左手で受け止めたのだ

デステイニー「!!」

バクテス「ふん!!」

そしてそのまま投げ飛ばし 壁に激突させたのだ

デステイニー「が!!」

デステイニーは壁から なんとかかであるが そこにバクテスの蹴りが命中をする

デステイニー「がは!!」

さらに蹴りを入れられた デステイニーは ダメージが大きいのだ

バクテス「さて・・・」

そういつて離れた バクテスはライフルを出して

「イグニツション」

ライフルにエネルギーがたまっているのだ

バクテス「くらうがいい 仮面ライダー!!」

そういつて放たれた　一撃がデステイニーに当たる

デステイニー「ぐああああああああああああああああああ!!」

デステイニーは吹き飛ばされて　変身が解除される

健介「がは………」

健介はそのまま倒れてしまう

バクテス「……はあ……弱いな仮面ライダー……お前の力はそんなものか

?」

そういつてバクテスが迫ってこようとしたとき

フィス「はああああああああ!!」

フィルス「ライオンメテオストライク!!」

バクテス「ぬ」

バクテスは回避をする

するとほかのライダーたち　シンフォギア奏者たちも到着をしたのだ

調「健介!!」

ブレイブ「お父様!!」

スナイプ「貴様!!」

バクテス「仮面ライダー……ケーラスは……まさか!!」

ゲナム「お前が言っているケーラスは俺たちが倒した」

バクテス「そうか……ケーラス……お前は先にいつてしまったか……」
ならば仮面ライダー……お前たちを倒すだけだ!!」

すると

ゴースト「え……」

フォーゼ「が!!」

二人が突然倒れたのであった

デイケイド「今のは」

「カメンライド カプト アタックライド クロックアップ」

デイケイドカプトになった デイケイドはバクテスと戦う

ゲナム「これは……」

エグゼイド「いつたい!!」

すると

デイケイド「がは!!」

デイケイドが倒れたのであった

響「だあああああああああああ!!」

未来「であ!!」

二人もこうげきをするが バクテスの攻撃で倒れてしまう
奏「なんだけい が!!」

マリア「これ・・・が!!」

翼「マリア!! 奏!!」

切歌「見えないデース!!」

スナイプ「この!!」

スナイプはガシヤコンマグナムで攻撃をするが バクテスに当たらない
ブレイブ「ならば凍らせるだけだ!!」

「キメワザ!! タドル クリニティカルフィニッシュ!!」

そういつて地面にガシヤコンソードをさすと 凍らせていく

バクテス「む・・・・・・・・・・」

するとバクテスの動きが止まりかかるのだ

フィス「だあああああああああああああ!!」

フィスはライオンクローを展開をして 切りつけていく

バクテス「ぐ!!」

健介「うう・・・・・・・・・・」

調「健介!!」

切歌「大丈夫デース!!」

健介「ああ………ほかは」

調「今は戦っているよ」

健介「うぐ」

健介はデスティニーードライバーを持とうとしたが

切歌「その体で変身はダメデース!!」

健介「だが……あいつらが戦っているのに 俺だけ戦わないで………」

そういつてデスティニーードライバーを構えていると

全員「ぐああああああああああああああああ!!」

するとフェイスたちがこっちへ転がってきたのだ

ブレイブ「が………」

スナイプ「がふ」

フェイス「が………」

エグゼイド「なんて力なんだ」

マツハ「これはやばいかな………」

ゲンム「ぐ………」

バクテス「これで終わりだ 仮面ライダー………」

そういつて剣を構える

フィスたちは立ちあがれないほどであった

健介「うおおおおおおお!!」

するとデステイニードライバーを装着をしたのだ

ビルド「え!!」

オーブ「健介さんなにを!!」

すると何かのカードを出したのだ

なのは「バーストモード!!」

健介「ぐおおおおおおお!!」

仮面ライダーデステイニーになった後 青い色が赤くなっていく

さらに目の色が赤くなる

デステイニー「ぐおおおおお!!」

デステイニーは背中のアロンダイトを抜いて 切りかかる

バクテス「ふん!!」

バクテスは剣で攻撃をしたが しゅん

バクテス「なに」

バクテスの剣は空回りしたのだ

デステイニー「ぐおおおおおおおおおおおおおおおおお!!」

連続で切りつけていくのだ

バクテス「ぐお!!」

バクテスのボディに火花が散るが

マツハ「おい あれやばくないか・・・」

みるとデステイニーの体から煙が出ているのだ

ファイルス「まずい!!」

フィス「ファイルス？」

ファイルス「おそらくボディの体温が上がっている・・・このままでは!!」

ゲナム「とめるぞ!!」

そういつてゲナム エグゼイドが止めようとしたが

デステイニー「ぐおおおおおおおおお!!」

二人「どあ!!」

二人は吹き飛ばされたのだ

ゲナム「が!!」

エグゼイド「ごふ!!」

そして変身が解除されてしまうのだ

クロト「が・・・・・・・・・・・・・・・・」

祥平「このままじや・・・・・・・・・・・・・・・・」

デステイニー「ぐああああああああああああああああ!!」

デステイニーはアロンダイトを構えながら 必殺のカードを出す

なのは「必殺 デステイニースプラッシュ!!」

デステイニー「ぐああああああああああああああああ!!」

デステイニーはそのまま バクテスのボディを貫かせたのだ

バクテス「ぐお・・・・・・・・・・・・・・・・」

だがバクテスはデステイニーのアロンダイトをつかんだままなのだ

バクテス「ふはははは・・・・・・・・仮面ライダー・・・・・・・・お前も私と一緒に道ずれ

だ・・・・・・・・」

デステイニー「・・・・・・・・・・・・・・・・」

すると色が戻り

デステイニー「なら お前を地獄に送ってやる!!」

調「健介!!」

デステイニー「来るな!!」

全員「!!」

クロト達は元の世界へ戻り……世界は再び平和になったのであった……

第5章 盗まれた フルボトル

盗まれた フルボトル

ネオガーデムの攻撃は 相田 健介が命をかけた 戦いでバクテスと行方不明になつて終わった……

戦士たちの心の傷は大きいかつたのであつた……

弦十郎「皆 よく聞いてくれ」

翼「どうしたのですか おじさま？」

弦十郎「実はセレナ君が使っている ビルドのフルボトルが何者かに盗まれたのだ」

セレナ「え!？」

弦十郎「俺が行つたときには これらしか取り返せなかつた」

そういつて出したのは フルフルラビットタンクフルボトル ラビットタンクス
パークリング ハザードトリガーであつた

セレナ「でもいったい……」

剣「わかりませんが……調査をした方がいいですね」

茜「だね」

そういつて全員が調査に向かうのであった

切歌「フルボトル どこですかー」

真奈「お母さんそれで見つかるわけないでしょ」

切歌「ですよねーでもいったい何が目的なんでしょうかね」

調「はあ……」

ファイルス「調 バディは生きてるさ」

調「うん……生きているとは思っているけど……でも……フィスじゃないから……心配……あの女たちに何をされているかね」

つと怒りのオーラを感じるメンバーたちであった

切歌（まあ調の気持ちはわかりますけどねw）

つと思つた切歌であった

さて愛はファイルスと一緒に探しているのであった ファイルスを先ほどから改修をしたのであった

愛「……」

ファイルス「愛 どうしたんだい？」

愛「ううん 何でもないよ ファイルス……それよりも……!!」

ファイルス「あれは!!」

そう彼女たちが見たのは 白髪 of 青年がボトルが入ったアルミケースを持っているのだ

愛「ファイルス 追いかけてよう!!」

そういつて愛は 彼の後を追いかけていく

廃棄工場付近まで追いかけた

ファイルス「おかしい……こんなところが奴らのアジトなのか？」

愛「わからない……」

するとドアが突然しまったのだ!!

愛「!!」

ファイルス「しまった これは罠だ!!」

「そのとおりで 仮面ライダーフィス いや相田 愛」

愛「!!」

愛が見つけたのは フルボトルをもったサングラスを付けている先ほどの青年だからだ

愛「あなたがフルボトルを……」

「まあそんなところだ……君をおびき寄せるにはいいかと思つてね」

そういつてサングラスを外す

愛「私の名前を知っている　あなたいつたい!!」
「俺はヴァーリ・・・そして」

ベルトを装着をしたのであった

愛「!!」

ヴァーリ「変身」

「カメンライド　アルビオン!!」

すると彼の姿が変わり　白いディケイドドライバー　いやアルビオンドライバーから音声が流れて　彼の姿が変わったのだ

愛「あなたも仮面ライダー・・・」

「仮面ライダーアルビオン」

愛「ファイルス!!」

ファイルス「了解だ!!仮面ライダーモード　LADY!!」

愛はアイコンを押す

ファイルス「ライオン!!」

愛「変身!!」

フィストドライバーにファイルスをセットをする

ファイルス「百獣の王!!ライオンモード!!」

「そういつて愛の体を仮面ライダーフィスに変身が完了をしたのであった
フィス「フルボトルを返してもらいます!!」

「そういつて腕のライオンクローを展開をして 迫る

フィス「せい!!」

「そしてライオンクローで攻撃をする・・・だが

アルビオン「ふん!!」

「アルビオンの強力な拳がフィスに当たり フィスは吹き飛ばされる

「フィルス「気を付けろ 愛 彼は強い!!」

「フィス「そうだね・・・なら!!」

「そういつてフィスは動物アイコンを押す

「フィルス「イーグルモード!!」

「フィス「チェンジ」

「フィルス「大空の王者!!イーグルモード!!」

「フィルス「イーグルライフル!!」

「フィス「これで決める!!」

「そういつて上空を飛び

「フィルス「必殺!!イーグルフルブラスト!!」

フェイス「は!!」

鳥型のエネルギーの弾が放たれたのだ

アルビオン「……………」

だがアルビオンは動かないで受けたのであったが

フェイス「が!!」

いつの間にか後ろにいて叩き落とされたのだ

フェイス「ぐ!!」

ファイルス「昆虫の王者!!ビートルモード!!」

フェイス「チェンジ!!」

そういつてチェンジをして

フェイス「さらに」

ファイルス「イリキュジョン!!」

そういつて増えて

ファイルス「深海の王者 シャークモード!!」

ファイルス「アイアンナックル!!ゴリラモード!!」

ファイルス「毒の王者 スコーピオンモード!!」

ファイルス「俊足の王者!!ラビットモード!!」

そういつて五人になったのだ

アルビオン「ほう………」

そして攻撃をする　フェイスたち

アルビオン「ふ」

アルビオンはスコピーオンモードのランサーを受け止める

だが横からゴリラモードのフェイスがゴリラナックルで攻撃をしてきたのだ

アルビオンは次の攻撃をかわして　さらに迫ってきたラビットモードに蹴りをくら
わせたのだ

フェイス「あう!!」

フェイス「だあああああああああああああ!!」

ビートルアックスで攻撃をするも

アルビオン「であああ!!」

アルビオンは回転蹴りを嘯まして　フェイスたちを吹き飛ばしたのだ

フェイス「なら!!」

エレメントスタイルにチェンジをして　エレメントバスターを放つ

フェイス「くらえー！ー！ー！ー！ー！ー!!」

だがアルビオンはそれをかわして接近をして　フェイスを殴り　吹き飛ばしたのだ

フェイス「が!!」

アルビオン「その程度か・・・・・・・・」

そういつてカードを出して

「カメンライド クロノス!!」

そういつて仮面ライダー クロノスになったのだ

フェイス「こうなったら!!」

ファイルス「閃光の一角獣!!ライトニングユニコドラグーン!!」

そういつてフェイス最強の姿になったのだ

フェイス「これできめる!!」

ファイルス「必殺!!ライトニングブレイク!!」

フェイス「はあああ・・・・・・・・」

ドラグーンソードを持ち エネルギーがたまり

フェイス「でいああああああああああ!!」

そういつて一撃を放ったのだ

フェイス「やった・・・・・・・・の?」

アルビオン「・・・・・・・・はあ、これがお前の全力か?」

フェイス「う・・・・・・・・うそでしょ・・・・・・・・」

愛はショックを受けているのだ

アルビオン 「終わりだ」

「クリティカル クルセイド」

アルビオン 「ふん!!」

フェイス 「きやああああああああああ!!」

そして変身が解除されたのであった

ヴァーリ 「……………お前に ライダーになる資格はない……………」

「そこまでだ!!」

そこに現れたのは ブレイブとスナイプだったのだ

ヴァーリ 「まあいい……………今日のところはここまでだ」

そういつて消えたのであった

ブレイブ 「消えた……………」

スナイプ 「愛!! しっかりして!!」

こうして二人は愛を運ぶのであった

最悪な戦い

愛「・・・・・・・・・・・・・・・・・・ううん・・・・・・・・・・」

愛は目を覚ました

愛「ここは？」

調「愛 大丈夫？」

愛「調お母さん・・・・・・・・そうだ私・・・・・・・・うう」

調「無理をしてはダメ・・・・・・・・あなたはからだの負担が大きいだから」

愛「うん・・・・・・・・・・」

剣「よかった 無事で」

真奈「そうそう」

茜「全くだよ」

紗代「でも元気でよかった」

愛「うん・・・・・・・・ありがとう・・・・・・・・」

花菜「愛姉ちゃんどうしたの？」

愛「・・・・・・・・・・何でもないよ 花菜」

すると警報が鳴った!!

全員「!!」

剣たちは急いで 基地の門へ行く……そこには壁に寄りかかっているヴァーリがいた

ヴァーリ「ようやく来たか」

見ると彼の周りには警備員が倒れていたのだ

剣「あなたが？」

ヴァーリ「ああ眠らせてもらったのさ スリープっていうアタックライドだな」

真奈「どうしてフルボトルを……あれを返して!!」

ヴァーリ「……ふっ」

すると笑って壁に寄りかかるのを止め

ヴァーリ「そうだな……」

アルビオンドライバーを装着をして

ヴァーリ「アルビオンの能力を使わせたら教えてやるよ」

そしてカードを出して

ヴァーリ「変身!!」

「カメンライド アルビオン!!」

そして姿が変わり アルビオンになる

愛「・・・・・・・・・・・・・・・・」

愛は震えていた・・・恐怖という感情が出ていたのであった・・・・・・・・

アルビオン「さて・・・・・・・・」

白いライドウエポンをソードモードにして

アルビオン「かかってこい」

ブレイブ「なめるな!!」

ブレイブはガシヤコンソードで攻撃をしていき他のみんなもアルビオンに向かう

アルビオン「単純な剣技だな」

そういつて受け止めると

「開眼!!エジソン エレキヒラメキ 発明王!!」

ゴースト「それ!!」

ガンモードにした ガンガンセイバーから弾が放たれた

アルビオン「甘いな」

ブレイブを蹴り飛ばして 武器をガンモードにして相殺をした

デイケイド「はあああああああ!!」

「カメンライド 響鬼!!アタックライド音激棒烈火」

デイケイド響鬼になった。デイケイドが音激棒烈火をふるう

アルビオン「はっ!!」

デイケイド「ぐうあ!!」

ガンモードでそのまま攻撃をする

フォーゼ「うおおおおおおおおお!!」

ライダーロケットパンチをアルビオンに放つがアルビオンは防ぐ

アルビオン「まずは 君だ」

「カメンライド フォーゼ!!」

フォーゼ「変わった!?!」

アルビオン「ふっ!」

そしてそのままつかんで頭突きを嘯ました後 投げ飛ばした

フォーゼ「なら!!」

「ファイアー!!ファイアーON リミットブレイク!!」

フォーゼ「ライダー爆熱シユート!!」

そういつてファイアーステイツになって爆熱シユートを放つたのだ

アルビオン「そんな攻撃で倒せるなど・・笑わせてくれるな」

そう言つてロケットモジュールとドリルモジュールのスイッチを入れ、フォーゼドラ

イバーのレバーを引く

「リミットブレイク！」

アルビオン「ライダー・・・ロケットドリルキイイック！」

フォーゼ「きやああああああああああ!!」

そして変身が解除される

その手にはフォーゼドライブを持っていた

ゴースト「よくも!!」

そういつて走り

「開眼 ムサシ!! 剣豪! ズバット! 超剣豪!」

そういつてムサシ魂になって ガンガンセイバー二刀流をふるった

アルビオン「君にはこのカードだ」

「カメンライド スペクター」

そういつてスペクターになって、ゴーストドライブにノブナガ魂を入れた

「カイガン! ノブナガ! 我の生き様! 桶狭間!」

そしてガンガンハンドをガンモードにして

「ダイカイガン! オメガスパーク!」

アルビオン「はあ!!」

オメガスパークを放ち

ゴースト「きやああああああああああ!!」

ゴーストドライバーを回収をしたのだ

ディケイド「くっ!!」

スナイプ「この!!」

ブレイブ「二人をよくも!!」

アルビオン「冷静を失うか・・・落第点だ」

「カメンライド デイエンド!!」

そういつてまた姿が変わる

アルビオン「お前らにはこいつらが相手だ」

「カメンライド ゾルダ ナイト!!」

そういつてデイエンドドライバーにカードを入れ二体のライダーを召還した

スナイプ「こいつら!!」

ディケイド「邪魔をするな!!」

そういつて2人は攻撃をする

アルビオン「さて剣なら剣で相手をするか」

「カメンライド ブレイブ」

そういつてブレイブになったのだ

ブレイブ「……………」

ブレイブは無言でガシャコンソードを構える

そしてダツシユをして

ブレイブ「はああああああああ!!」

アルビオン「はっ!!」

アルビオンはライドウエポン ランスモードで防ぎ

アルビオン「甘いな」

そう言つてガシャコンソードを挿んだ

ブレイブ「なっ!?!」

そしてそのままぶんどり ブレイブを切りつけていく

ブレイブ「があっ!!」

アルビオン「これで終わりだ」

「キメワザ! タドル! クリテイカルフィニッシュ!」

アルビオン「はあ!!」

まずは氷モードにしたガシャコンソードを地面にさし ブレイブを動けなくさせる

アルビオン「でえああああああああ!!」

そして持っているライドウエポン ソードモードとガシャコンソードでブレイブを切りつけたのだ

ブレイブ「ぐうあああああ!!」

そしてそのままゲーマードライバーを奪った

デイケイド「剣!!」

スナイプ「この!!」

ガシャコンマグナムを放とうとするが ゾルダ達が後ろから攻撃をされる

アルビオン「さて、悪いがこの運命のシナリオは俺が書き換えた」

「ファイナルアタックライド アアアアルビオン!!」

するとカード型のエネルギーが発生をして たくさん現れたのだ

アルビオン「はあ!!」

そしてそのままカードの中へ行く

スナイプ「どこ!!」

デイケイド「見えない!!」

アルビオン「せえあああああ!!」

そして二人に蹴りが命中をしたのだ

二人「きゃあああああ!!」

二人は変身が解除されて ベルトをとられる

アルビオン「お前たちにライダーになる資格はない……………」

剣「返せ……………それは……………」

アルビオン「返してほしければ……………アルビオンの能力を使わせることだな」

そういつてアルビオンは同じことを言つて消えるのであつた

剣「ちち……………うえ……………」

そういつて剣たちは気絶をした……………ほかの子たちも気絶をする

愛「……………」

愛は何もできなかった……………アルビオンが出てきたとき……………自分はみているだけだつた……………怖い怖いという恐怖の感情が彼女を埋めていたのだ……………

そしてふと思う……………私は仮面ライダーの資格がないと……………

だがそれがある場所から見ている人物 いや仮面ライダーが見ていた……………

「ずいぶんと暴れているようだな……………」

その仮面ライダーのベルトは そして赤い翼をはやした仮面ライダーが見ているのであつた

「……………」

倒れている彼女たちを見ている

「すまない……娘たちよ……
そういつて翼を開いて飛び立つのであった」

彼女の決意

SONG 司令室

弦十郎「仮面ライダー・・・アルビオンか・・・」

翼「おそらく、奴がフルボトルなどを奪った可能性が高いです・・・そして剣達と戦いベルトを奪っていった・・・」

クリス「くそ！こんな時健介が居たら・・・」

全員「・・・・・・・・・・・・・・・・」

調「だとしても、健介はいない・・・なら私達がやるしかない!!」

切歌「その通りデース！娘達の敵は私達を取るデース！」

セレナ「ならどうします？」

響「セレナさんがビルドに変身をして囨になつて・・・」

マリア「なるほど・・・そこから私達が叩くつて事ね？」

弦十郎「よし！作戦は決まった！全員・・・必ず取り返すぞ!!」

全員「了解!!」

こうしてアルビオンに対しての作戦が始まろうとしている

一方……

フィリス「ふむ……」

愛達「……」

現在、愛達は落ち込んでいた……ベルトを奪われた自分達……母親達からは待機するように言われた

調「大丈夫……必ず、ベルトは取り返すから……！」

切歌「皆はここで待っていてほしいデース！」

愛「……私……仮面ライダーになる資格ないのかな……」

全員「!!」

すると鏡から

「よつと」

仮面ライダー龍騎が現れたのだ

茜「仮面ライダー龍騎？」

すると龍騎は変身を解除すると

「よお、久しぶりだな」

全員「一誠さん……！」

そこに現れたのはかつて愛達を救ってくれた、仮面ライダードライグ事、一条一誠だった

一方・・・

ビルド「はあ！」

フルボトルバスターを放ちながら、ビルドはアルビオンに攻撃を続けていた

アルビオン「・・・・・・・・」

アルビオンはフルボトルバスターの弾を弾きながらも、ビルドの後を追いかけているビルド（後もう少し！）

そう心の中で呟きラビットラビットの力で高速で移動する、アルビオンはその場所へ着くと

トラップが発動して捕獲用の紐が体を巻き付いた

アルビオン「・・・・・・・・」

そして装者達が一齐に現れた

翼「さぁ・・・娘達のベルトを返してもらおうぞ？」

そう言つて翼は剣を構えて、アルビオンに言うのであった

アルビオン「・・・ふっ」

奏「何がおかしい!!」

アルビオン「お前達の考えている事は分かっているんだ……ビルドを囮にして俺をこの場所へおびき寄せる事も……」

調「なっ!？」

アルビオン「はっ!」

アルビオンはライドウエポンをソードモードにして紐を切った

クリス「くそ!」

アルビオン「さて、お前達の運命のシナリオは俺が書き換えた!」

そう言つてアルビオンは戦闘を開始するのであった

一方SONG基地では……

一誠「なるほど……」

彼は彼女達の愚痴を聞いていた……アルビオンの圧倒的な力の前に恐怖が出てきた……あの恐ろしいほどの力が……怖い……そして自分達はライダーとしての資格があるのかどうか……

一誠「確かに……恐怖とか怖いとか……戦いにはある……だが、どんな強敵や敵わない相手が現れて、心が折れそうになつたとしても、君達には戦つてきた理由と戦う覚悟があつたからじゃないのか?」

全員「!!」

一誠「俺だつて怖い事はある．．．でも誰かを守る為にこの力を使う．．．そして恐怖より失う怖さを知っているから戦つてこれたはずだ」

愛「．．．．．」

一誠「君達のお父さんだつてそうかもしれない．．．いやお父さんだけじゃない．．．この世界の響達だつて同じ思いで守ろうとしてきたんじゃないのか？」

愛「一誠さん．．．」

一誠「それに．．．忘れてはいけない、命ある限り戦う．．．それが仮面ライダーじゃないのか！」

愛「っ!! そうだ．．．私はあの時、子どもが襲われていて．．．助きたい思いで仮面ライダーになった!! そしてその事を忘れない為に!! 私は戦つてた!!」

そう言つて愛はファイルを持って、調達がいる場所へ向かった。その様子に一誠は笑みを浮かべた

一方調達は．．．

調「きゃああああああああああ!!」

アルビオン「．．．チエックメイトだ」

アルビオンの圧倒的な力の前に．．．倒れていた．．．

翼「なんという．．．力だ．．．!」

クリス「あたし達が手も足も出ないなんて・・・」

切歌「し、しら・・・べ・・・！」

アルビオン「お前らのパターンはある程度分かっている。・・・まあ、あつちの方が

まだ歯応えはあるが・・・」

「そこまでです！」

全員「!!」

調「愛・・・！」

愛「これ以上・・・お母さん達に手は出させない！」

アルビオン「・・・ほう、昨日とは違って良い目つきをしてる・・・」

愛「私は忘れていた・・・何の為に仮面ライダーになった事を・・・当たり前前事を

忘れていた!!だからこそもう忘れない!そして恐怖から逃げない!ファイルス!!」

ファイルス「了解だ!!愛!!変身だ!!」

そう言つてフィスドライバーが現れる

ファイルス「ライオン!!」

愛「変身!!」

ファイルス「百獣の王!!ライオンモード!!」

恐怖を乗り越え、戦う理由を思い出し、今ここに仮面ライダーフィスが復活をした!

アルビオン「なら、見せてもらうか・・・お前の覚悟を・・・ライダーとしての覚悟を!!」

フェイス「私はあなたに勝って剣達のベルトを取り返す!!」

そういつてライオンクローを展開をして構えるフェイス!!

フィス対アルビオン

アルビオン「ほう……いい目をしているな」

フィス「ええ、ある人から教えてもらったからね……仮面ライダーとしての使命を……
そして自分自身がどうして仮面ライダーになったのかを!!」

そういつてフィスはライオンクロードで攻撃をしていく!!

フィス「は!!」

アルビオンはそれをかわしてライドウェポンをソードモードにしてフィスに攻撃をする。

フィス「だあああああああ!!」

フィスはそれをライオンクロードで受け止めてはじかせる!!

アルビオン「……………」

だがアルビオンはガンモードにしてフィスに放ったのだ!!

ファイルス「なら!!歴代のライダーの力お借りします!!」

ファイルス「クウガ!!」

するとフィスの姿がクウガになり

フェイス「おりや!!」

マイティフォームのクウガの拳がアルビオンに攻撃をするが、アルビオンは蹴りを入れてフェイスクウガを吹き飛ばすが

ファイルス「フォームチェンジ!!ペガサス!!」

すると緑のクウガ ペガサスフォームへと変わる!!

フェイス「であ!!」

ペガサスボウガンから空気弾が放たれて アルビオンに攻撃をする!!

アルビオン「・・・・・・・・・・ほう」

するとフェイスの姿が見えないのだ!!

アルビオン「・・・・・・・・・・」

アルビオンはランスマードにして構えているが・・・フェイスの姿がないのだ!!

アルビオン「そこか」

そういつて槍をさすが・・・

アルビオン「外した？」

ファイルス「ストライクベント!!」

フェイス「は!!」

アルビオン「・・・・・・・・・・」

炎がアルビオンを襲う、そうフィスはフィス龍騎になって鏡へ逃げていたのだ。

アルビオン「なるほどな……歴代の仮面ライダーの力も使えるってことか」

フィス「そうですね……でも私は先輩たちが守ってきた力を……悪用などはしない!!」

そういつて次のライダーに変身をしたのだ!!

フィルス「ブレイド!!」

すると姿が仮面ライダーフィスブレイドに変わったのだ!!

アルビオン「いくぞ……」

大剣モードで攻撃をしてくる

フィルス「ライトニングスラッシュ!!」

フィス「だああああああ!!」

アルビオン「ふん」

アルビオンはライトニングスラッシュを軽々大剣で受け止めるが、フィスはボタンを押したのだ!!

フィルス「マグネット!!」

ブレイドのスピードの8 マグネットを使用したのだ!!

アルビオン「ほう……」

アルビオンはマグネットではじきだされたのだ!!

フィルス「マツハ!!」

アルビオン「・・・・・・・・・・・・・・・・」

フィス「だああああああ!!」

連続で攻撃をするフィス、前よりも太刀筋が強くなっているのだ!!

アルビオンもツインソードモードにして対抗をする。

フィス「だああああああ!!」

さらに蹴りを入れてアルビオンを後退させる。

フィス「よし!!」

蹴りを与えたのか、フィスはさらにチェンジをする!!

フィルス「シンフォギアモード!!」

アルビオン「・・・・・・・・それは見たことがないな」

フィス「これはお父さんがいれてもなかったフォーム・・・・・・・・これがお母さんたちが

お父さんを愛すること!!」

そういつてシャルシャガナフォームになってヨーヨーを振り回している!!

するとヨーヨーから刃が出てきてアルビオンに攻撃をする!!

アルビオンはそれを剣ではじいて、ガンモードにして攻撃をしてくるが

フィス「イチイバルモード!!」

そういつてガトリングで相殺をする!!

アルビオン「ほう……」

フィス「だああああああああああああ!!」

さらにアマノハバキリモードになって大剣で対抗をする!!

フィス「私は勝つ!!あなたを倒すためじゃない!!仮面ライダーとしてもない!!」

アルビオン「……」

フィス「それは……私が……お父さんのような!!仮面ライダーとしてフィスの名を引き継いだんだ!!」

そういつて連続した攻撃をアルビオンにしていく

アルビオン（そういうことか……）

そういつてアルビオンははじかせていく!!

アルビオン「ならば見せてもらおうぞ……お前のシナリオをな!!」

そういつてカードを出す

フィス「こっちも!!」

ガングニールモードになってファイルを押し

「ファイナルアタックライド アアアアルビオン!!」

ファイルス「必殺!!シンフォギアメテオストライク!!」

二人「はあああああ………」

二人の足にエネルギーがたまる!!

二人は一気に飛び、ライダーキックの構えをする!!

二人「でああああああああ!!」

二人の蹴りが同時に命中をする!!

アルビオン「どうした……お前の力はそんなものか？」

ファイルス「ぐ!!」

アルビオンはファイルスを押している。

アルビオン「お前が守りたいのはそんなものだったのか……そしてお前の父親

も………」

ファイルス「確かに私は弱い……でもいつまでもそこでとまっつてはいけない!!それが

私だから!!」

アルビオン（……どうやら迷いは晴れたようだな……）」

ファイルス「でああああああああああああああああああああ!!」

アルビオン「ふ………」

しゅん

フィス「おととと」

突然の解除にフィスはバランスを崩しかけたのだ。

アルビオン「・・・・・・・・・・・・・・・・」

するとアルビオンは何かを出すと、何かが出てきたのだ!!

フィス「これは!!」

そこには彼に奪われた、ゲーマードライバーなどがあつたのだから・・・・・・・・

アルビオン「・・・・・・・・・・・・・・・・」

そのまま彼は姿を消したのであつた・・・・・・・・

セレナ「フルボトル!!」

そしてフルボトルも一緒に置いてあるのであつた。

ある場所にて

アルビオン「・・・・・・・・・・・・・・・・」

「ありがたいな、娘たちを鍛えてくれて」

アルビオン「・・・・・・・・・・・・・・・・」
本当はお前がやるはずだろ? 相田 健

介・・・・・・・・

健介「まあそうだけどねwでも・・・・・・・・あの子たちも成長をしたってことだけは

わかつたよ・・・・・・・・」

アルビオン「なら俺は帰る」

そういつて時空を通り彼は戻るのであった。

健介「ありがとうな、別世界の仮面ライダー……」

さて一步で基地へ戻った愛たち。

剣「ありがとう、愛……」

愛「ううん、私だけじゃない……勝てたのはあの人の言葉と……お父さんたちの言葉だよ……だからこそ私はあの人に勝てたと思う……それが仮面ライダーとしての役目だから……」

そういつて彼女たちは行方不明である父 相田 健介のことを思うのであった。

現れた謎の黒いライダーたち

アルビオンとの戦いから、三週間がたった。

フィス「だあああああああ!!」

ビルド「は!!」

フルボトルを取り戻した、セレナは今キードラゴンとなり、フィスと戦っているのだ!!

フィス「であ!!」

ロツクの方からチェーンが飛び、フィスに攻撃をしようとしているのだ!!

フィス「であ!!」

ライオセイバーでチェーンをはじいていくフィス。

ファイルス「アイアンボディ!!ゴリラモード!!」

ビルド「ゴリラなら」

「ゴリラ ダイヤモンド!!ベストマッチ!!」

ビルド「ビルドアップ!!」

「輝きのデストロイヤー ゴリラモンド!!」

二人「うおおおおお!!」

二つのゴリラのナツクルが激突をしていく!!

フィス「は!!」

そういつて両手のゴリラナツクルを飛ばして ビルドへ放つたのだ!!

ビルド「は!!」

ダイヤモンドのバリアーをはりガードをしたのだ!!

フィス「あらら……」

そういつてゴリラハンマーを持ち、攻撃をする!!

フィス「であああああああああああああああああああああ!!」

接近をして振りかざす!!

だがその戦いは警報がなり終了をしたのであった。

セレナ「警報……いったいどうしたんだろう……」

愛「わかりませんが、行ってみましょう」

そういつて愛たちは司令室へ行くのであった。

弦十郎「来たか」

そこには奏者たちが全員そろっているのであった

クリス「どうしたんだ、おっさん」

弦十郎「ああ、怪人が出現をしたんだ全員で出動を頼む!!」
全員「了解!!」

そういつて出動をしたのであった。

ライオトレインに搭乗をして、その場所まで到着をする!!

フィス「これは!!」

そこには怪物たちが暴れているのだ!!

翼「止めない!!」

そういつて全員がシンフォギア、仮面ライダーになって怪物たちを止めるために戦う。

響「ゴーベルト!!」

翼「サード!!」

クリス「アイビス!!」

マリア「イビルス!!」

奏「アマリス!!」

そういつて強化状態になったのだ!!

スナイプ「この!!」

ガシヤコンマグナムを放ちながら 怪物たちに攻撃をする!!

ゴースト「えい!!」

ガンガンセイバーで切りつけていく!!

調「はあああああああ!!」

切歌「くらうデース!!」

そういつて2人は鋸 鎌で攻撃をする!!

「ぐおおおおおおお!!」

フオーゼ「ライダーロケットパンチ!!」

そういつてロケットで怪物を殴る!!

ブレイブ「はあああああ!!」

そういつて燃えさかるガシヤコンソードで切りつけていく!!

デイケイド「は!!」

デイケイドブラストを放ち、次々に落としていく!!

クリス「くらいやがれ!!」

そういつてミサイルを放ち 怪物たちは撃破していく。

フィス「多すぎる」

デイケイド「同感、ならどうする?十秒間だけ付き合ってくれよ?」

フィス「上等よ」

ファイルス「ファイズモード モードファイズアクセル!!」

「フォームライド ファイズアクセル!!」

すると二人のファイズアクセルフォームになる。

「スタートアップ」

すると二人は高速で移動をして次々に怪人たちを攻撃をしていく!!

響「速いね……………」

未来「うん……………」

「3. 2. 1 タイムアップ」

そういつて元のフィスとデイケイドに戻るのであった。

「シユートベント」

全員「!!」

すると黒い矢が飛んできてフィスたちに攻撃をしてきたのだ!!

ゴースト「させません!!」

「開眼 ニュートン!!」

そういつて右手を前に出して攻撃をはじかせていくのであった。

「……………」

デイケイド「なにあれ……………」

そう現れたのは黒い仮面ライダーだからだ……
ビルド「なんかナイトに似ているような……」

すると黒い剣を持ち 攻撃をしてきたのだ!!

ブレイブ「第50 剣術!!」

翼「はああああああ!!」

「タドルファンタジー……」

そういつて親子は剣で受け止めるのだ!!

「……………」

翼「貴様がこの怪人たちを……………」

だが黒い仮面ライダーは答えない。

「タカ!! ガトリング!! ベストマッチ!!」

ビルド「ビルドアップ!!」

「天空の暴れん坊!! ホークガトリング!! イェーイ!!」

「開眼 ロビンフッド!!」

二人「は!!」

ホークガトリンガーとガンガンセイバーアローモードを放ち、黒い仮面ライダーに攻撃をする!!

「……………」

黒いライダーは攻撃を受けるも、接近をしてくるのだ!!

フォーゼ「くらえ!!」

「ジャイアントフットON」

フォーゼ「せいせい!!」

そういつて巨大な足を出して攻撃をする。

「……………」

するとカードを出して

「ブラストベント」

すると黒いコウモリが現れて 強烈な風を起こしてシンフォギア奏者たちを吹き飛

ばしていく!!

フィスたちも風に耐え切れず飛ばされる

フィス「なんて風なの!!」

スナイプ「つてことはあいつの相棒つてこと?」

そういつてバンバンシューミレーションゲーマーになって放つ!!

だが 砲撃が落とされたのだ。

スナイプ「な!!」

「CLOCKOVER」

全員「!!」

見ると黒いクワガタのライダーがスナイプが放った攻撃を落としたようだ。

「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」

ゴースト「別の仮面ライダー？」

デイケイド「くそ!!が!!」

ビルド「茜!!」

奏「誰だ!!」

そこには黒いライダーが銃をもってデイケイドを撃つたのだ。

「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」

すると三人のライダーがそこに集結したのであった。

調「黒い・・・仮面ライダー・・・・・・・・」

切歌「三人も・・・・・・・・」

そういつて三人は武器を構えているのであった。

デイケイド「向こうはやる気みたいだよ？」

そういつて全員が構えるのであった。

すると何かが発生をすると、そこに仮面ライダーが現れたのだ。

「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」

ゴースト「え!? 茜ちゃんがふたり!？」

デイケイド「!!」

そうそこにいたのはもう一人のデイケイドだからだ。しかも黒いデイケイドが立っていたからだ・・・・・・・・

すると三人が膝をついているのだ

「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「」

「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「」

三人「は」

そういつてダークデイケイドは彼らを見ている。

ダークデイケイド「なるほど、シンフォギア世界ってことか・・・・いいだろうこの世

界を俺が破壊してやろう」

そういつて構えている!!

響「いくよ!!」

そういつて響は接近をして攻撃をしようとしたが

響「・・・・・・・・・・・・・・・・」

どさという音ともに倒れるのであった。

ゴースト「お母さん!!」

翼「なんだ、今は……」

マリア「ええ響がいきなり倒れたわ……」

すると一瞬でダークデイケイドが動いて、全員の後ろに立っていたのだ

全員「!!」

すると

翼「が!!」

マリア「ぐあ!!」

ビルド「ぐ!!」

ブレイブ「な」

スナイプ「が!!」

デイケイド「がは」

フオーゼ「う」

ゴースト「うう……」

クリス「な!!」

調「いったい……」

奏「どういうことだ!!」

ダークデイケイド「知りたいか・・・教えてやろう、俺は世界のライダーを倒してきた・・・その力をカードにしなくて自身の力で使えるようにしたのさ。」

ファイルス「まさか!!今の力はカブトのクロックアップてことか!!」

ダークデイケイド「そういうことだ」

切歌「この!!」

調「切ちやんだめ!!」

ダークデイケイド「ふん」

そういつてメタルシャフトをだして切歌に当てたのだ

切歌「が!!」

ダークデイケイド「終わりだ」

「ファイナルアタックライド デイデイデイケイド!!」

ダークデイケイド「おら!!」

そういつて放たれた ダークデイメンションブラストが命中をして全員が倒れる。

フィス「ぐああ・・・」

デイケイド「なんて威力なの・・・桁違いよ・・・」

ダークデイケイド「弱いな・・・さて終わらせてやるよ・・・」

調「うう・・・」

「ダークデイケイド「まずはお前からだ」

「そういつて切歌と調の首を絞めているのだ

二人「が……ああ……」

フィス「お母さん!!」

スナイプ「ママ!!」

すると上空から何かの光がダークデイケイドを吹き飛ばしたのだ!!

「ダークデイケイド「ぐ!!」

すると二人を支えるのであった。

「……………」

「ダークナイト「ダークデイケイドさま!!」

「ダークデイケイド「くるな……何者だ」

すると光がはれると 紅い翼が閉じるのだ。

切歌「ううん……」

「大丈夫か? 切歌 調」

二人「!!」

調「健介!!」

そう彼女たちを助けたのは、復活をしたネオガーデムのバクテス共に行方不明になっ

ていた相田 健介だからだ。

デステイニー「さて………」

そういつて振り返ると

ベルトから光が出てきた、シヤマルが出てきたのだ。

デステイニー「シヤマルさん、回復をお願いします」

シヤマル「わかったわ」

そういつてシヤマルは響達を回復させるために動く。

さらにベルトからシグナムとヴィータが現れる。

デステイニー「それじゃあ シグナムさん ヴィータ行きませよ!!」

シグナム「いいだろう」

ヴィータ「よっしゃ!!」

ザフィーラも登場をする。

ザフィーラ「三人では不利だろう、俺も出る」

デステイニー「ああ いくぞ!!」

帰ってきた健介

ダークナイトたちはシグナムたちに任せてきた・・・さて俺がやることは

ダークデイケイド「ほう、貴様・・・仮面ライダーってことか？」

デステイニー「ああ仮面ライダーデステイニーだ!!」

そういつて俺はアロンダイトを抜いて構える!!

ダークデイケイド「なら見せてもらうぞ・・・お前の力をな!!」

すると俺はアギトが使うフレイムセイバーとストームハルバードを出してきた。

デステイニー「・・・・・・・・・・・・・・・・」

俺は奴はカードを使わずにあの力を得るってことはおそらく俺が知っている仮面ライダーの別次元で奴が生まれ、それらのライダーたちの力を奪っているんだ・・・

デステイニー「は!!」

ダークデイケイド「ふん」

俺はアロンダイトで攻撃をするが、奴は両手の剣と槍でガードをする。

ダークデイケイド「どうした？」

デステイニー「なら、これならどうだ!!」

そういつて俺はライフルを放ち攻撃をする、だが奴は剣ではじかせていくが・・・俺はそれも予想をしている通りだ・・・

なのは「マツハスペシャル」

俺はスピードをあげるカードをインプットさせて高速移動をしているのだ。

デイケイド「面白い」

「クロックアップ」

すると奴はカブトたちが使うクロックアップを使ってきやがった。

お互いの剣がぶつかり合い、俺は奴の武器をはじかせる!!

ダークデイケイド「ならこれならどうだ？」

すると奴はトリガーマグナムとスカルマグナムをこちらに向けてきたのだ!!

デステイニー「ちい!!」

奴は放つ弾を左手のビームシールドを展開をしてガードをする。

デステイニー「ならこのカードだ」

俺はフォームカードをインプットさせる

なのは「フルバーストモード」

デステイニーの色が青緑になり、両手にはツインガトリング 肩部と脚部にミサイル

ポット 胸部ハッチにはガトリングが、さらに背中にはキャノン砲が装備される。

デステイニー フルバーストモードだ。

俺は両手のツインガトリングをダークデイケイドに放つ!!

ダークデイケイド「おっと、なら接近すればいいだけだ!!」

そういつて奴はライドブツカーソードモードとウィザーソードガンを構えてくるが、俺は胸部ハッチを開ける。

ダークデイケイド「な!!」

デステイニー「武器はここにもあるんだよ!!」

そういつて両肩と脚部のミサイルポットを開けて同時に発射させる!!

シグナム「回避!!」

シグナムたちには当てないようにほかのライダーたちに命中させるためにはなったのだ!!

ダークガタツク「クロックアップ」

ダークガタツクだけはクロックアップで回避をしたが・・・

デステイニー「いつ俺が一人だと言った?」

ダークガタツク「ぐあ!!」

CLOCKOVER

全員「!!」

見ると鏡からデステイニーが出てきたのだ。

デステイニーミラーモード、鏡を使った攻撃やナイフ ローリングカッターなど色々な技を使用することができるフォームなのだ。

先ほど俺はイリリュージョンカードを使ってもう一人を生み出していたのだ。

もう一人はミラーモードなり、おそらくガタツクあたりがクロックアップで回避をするだろうと予想をしていたからだ。

二人のデステイニー「いえーい!!」

ダークナイト「……………」

「トリックベント」

するとダークナイトが増えてこちらに攻撃をしてきたのだ!!

デステイニーA「どうする?」

デステイニーB「あいつに任せましょう」

ダークナイトたちが攻めてくるが

「ウォーターキャノン!!」

ダークナイトたち「!!」

すると強烈な水流がダークナイトたちを吹き飛ばしたのであった。

デステイニーC「よっしゃ!!」

デステイニー レスキューモード 通常がこの状態だが、そこからサポートビークルと呼ばれるのと合体をして色んな力で戦う。

ダークイクサ「……………」

ダークイクサがブロウクン・ファンングを構えていると

「は!!」

ダークイクサ「!!」

「せい!!」

すると上空から光弾が飛んできたのだ。

ダークイクサ「!!」

ダークイクサは攻撃をくらいながらもブロウクン・ファンングを放ったのだ。

上空から撃つたのは魔法モードのデステイニー、接近をしたのがアニマルモードのデステイニーであった。

ダークデイケイド「イリュージョンをかなりしていたのだな？」

デステイニー「まあな」

そういつて一つに戻るのであった。

ダークデイケイドたちは睨むが……………

ダークデイケイド「まあいいだろう、今日のところは引くぞ」

花菜「パパ!!」

そういつて子どもたちもやってくるのであった。

健介「すまないな、お前たちも苦勞をさせてしまった……」

愛「ううん」

フィルス「バグデイ……無事で何よりだ」

健介「ああフィルスご苦勞だったな」

そういうが……健介の顔は暗いのであった。

健介「ダークライダーか……」

愛「なんだろう、あの人たちは心って言うのが……」

調「そうだね……わからないけど……」

切歌「でもあれは反則デース!!」

翼「全ライダーの力を使えるってことかか……」

奏「こりや厄介な戦いになるぜ……」

マリア「でも私たちに敗北は許されないわ……」

クリス「だな」

そういつて彼女たちは新たな決意を固めるのであった。

ハザードフォーム

SONG シュミレーション室

「デステイニー」それで、ハザードの力をあげるために戦うってことだね？」

セレナ「はい、ではお願いします!!」

そういつてセレナはハザードトリガーをセットをする。

「ハザードON」

さらにもう一度押す。

「ゴリラ ダイヤモンド スーパーベストマッチ!!」

セレナ「変身!!」

「ドンテンカン! ドンテンカン! ガタガタゴットン! ズツタンズダン! アンコントロールスイッチ! ブラックハザード! ヤベーイ!」

通常のハザードフォームのゴリラモンドになつて。

ビルド「は!!」

そういつて攻撃をしていく!!

「デステイニー」おっと

デステイニーはかわして、フラッシュエッジを投げていく。

ビルド「は!!」

ビルドはダイヤモンドをだしてガードをして、そのまま右手でダイヤモンドを粉碎をして拡散弾のように飛ばす!!

デステイニー「いていていて!!」

そういつて拡散弾を飛ばされたのでデステイニーはいたいのであった。

「忍者・コミック・スーパーベストマッチー」

ビルド「ビルドアツプ」

さらに姿を変えて ニンニンコミックハザードとなり、四コマ忍法刀を装備して切りかかる!!

デステイニー「なら!!」

デステイニーはアロンダイトで受け止める!!

ビルド「ぐ・・・・・・・・・・・・・・・・」

トリガーを一回引く。

「分身の術!!」

デステイニー「どあ!!」

攻撃をいきなりぶんしんでかわされたので、デステイニーはアロンダイトを構え直す

!!

ビルド「は!!」

さらに手裏剣で連続して攻撃をする!!

デステイニー「ちい!!」

全体にリフレクターをしてガードをする!!

デステイニー「なら!!」

フェイト「魔法モード!!」

そういつて姿を変えて魔法モードとなった!!

ビルド「!!」

デステイニー「アクセルシューター!!」

そういつて連続した光弾を飛ばしてビルドを吹き飛ばしていく!!

ビルド「あう……」

デステイニー（やはり本物と違うからな……ハザードで暴走をしないようにしてあるが……やはりオリジナルと比べたら……）

そういつて上空で待機をしながら思うのであった。

ビルド「まだです!!」

「フェニックス！ロボット！スーパーベストマッチ!!」

ビルド「ビルドアップ!!」

さらにフェニックスロボハザードフォームとなり。

そしてレバーをまわして……

「LADYGO!ハザードフィニッシュ!!」

背中の赤い翼が開いて炎が纏い、ロボットアームが発生をしてデステイニーに攻撃をする!!

デステイニーも必殺のカードを出してデステイニードライバーの前にかざす!!

フェイト「ファイナルアタック!!」

デステイニー「はあああ……」

レイジングハートエクセリオンが光りだす!!

デステイニー「スターライトブレイカー!!」

お互いの技が激突をして……衝撃が走るのであった。

二人「うあ!!」

二人は吹き飛ぶ、セレナは変身が解除される。

セレナ「いたたたた……あれ?」

デステイニー「おおーい……」

愛「お父さん?」

デステイニー「だ・・誰か抜いてくれー」
つと壁にめり込んだデステイニーがいたのであった。

調「え!？」

切歌「うそーん!!」

そういつて全員がギアやライダーになってデステイニーを引っ張るのであった
が・・・・

スナイプ「すごく刺さって抜けないよー」

ブレイブ「どうしましょう?」

フィス「まかせて!!」

ファイルス「ゴリラモード!!」

フィス「チエンジ!!」

ファイルス「アイアンボディ!!ゴリラモード!!」

全員が愛が何をするのかを見ていると、ファイルスをかまっているのだ。

ファイルス「必殺!?!ゴリラメテオボンバー!!」

フィス「行くよー」

そういつてデステイニーを殴り飛ばしたのだ!!

全員「・・・」

「デステイニー」がふ．．．．．

「デステイニーはなんとか壁から抜けれたが．．．ダメージがかなり入ったのであった

W

「フィス「よし!!」

「デイケイド「よしじゃねーよ!!」

「アタックライド ハリセン!!」

「そういつて叩いたのであった。

「フィス「あた!!」

「フォーゼ「とりあえずお父さんを運ぼうよ」

「そういつて運ぶのであった。

司令室

弦十郎「．．．．．」

翼「おじさま? どうしたのですか」

弦十郎「いや．．．．すこしな．．．．」

「そういつて見ていた写真を隠すのであった．．．．」

翼「そうですか．．．．では」

「そういつて翼は去るのであった．．．．」

弦十郎「…………お前なのか…………お前がダークデイケイドなのか…………カナト」

そういつて小さいときの翼と映っているもう一人の男の子を思っているのであった。
ある基地にて

ダークデイケイドは変身を解除をしている、その髪は翼と同じ髪をしており目も青かったのだ…………

そう彼こそ 風鳴 カナト…………数十年前行方不明となっている青年なのだ…………カナト「…………翼姉ちゃん…………ごめん…………でも俺もやることがある…………だからこそ…………俺はダークデイケイドとなった…………」

そういつてダークデイケイドドライバーを持ち変身をする。

彼が変身をするダークデイケイドの力は彼が倒したのではなく、データを元に作られたのであった。

いわゆる力は本物だが本人を倒してないということになる。

ダークデイケイド「…………さて」

そういつて機械をかまう前にカードを出す。

そのカードはライダークードだ、出したのはゾルダ、カイザのカードだ。

そして機械にセットをするとデータが現れて体が組成されていく。

そして色が黒くなり、ダークゾルダ　ダークカイザが誕生をしたのであった。
ダークデイケイド「さてお前たちにもはたらいてもらおうぞ？」

二人「は……ダークデイケイドさま」

そういつて彼らも動くのであった。

ダークデイケイド「……………」

ダークディケイドの正体

健介「……………」

健介は自室でデステイニードライバーとファイルスの調整をしているのであった。

健介「やはりダメージが大きいつてもあるからな……………」

ファイルス「そこまでなのか？」

健介「ああ俺が行方不明になったときから調整をできなかったからな……………強度も落ちてきている……………オーバーホールをしたほうがいいかもしれない……………」

ファイルス「だがバディ、その時間がないんだろ？」

健介「ああ……………あのダークディケイドやアルビオンってやつの中の時のダメージがあるからな……………だからこそ修理をしておく必要がある」

そういつてファイルスを調整をしているときに警報が鳴るのであった。

健介「……………仕方がない　なのは……………悪いが愛のところへ行つて力になつてほしいんだ。」

なのは「え？」

健介「ファイルスを修理をするつて言つておいてほしい」

なのは「わかりました。」

そういつてなのはは走るのであった。

司令室

愛「え!?ファイルが!!」

なのは「はい……………」

弦十郎「なら仕方がない愛君以外出動だ!!」

全員「了解!!」

そういつて出撃をすると

ダークカイザとダークゾルダが暴れているのであった。

ブレイブ「こいつらが……………」

するとダークカイザはダークブレイガンを構えて攻撃をしてきた。

デイケイド「ならこれで相手をしてやる」

「カメンライド ファイズ」

そういつてファイズエッジをもって攻撃をする。

ブレイブ「なら、第五剣術」

「ドラドラドラゴナイトハンターZ!!」

そういつてフルドラゴン状態になり ドラゴンブレードで攻撃をする!!

スナイプとゴーストとフォーゼはダークゾルダと戦っている。

「シニートベント」

そういつてダークギガキャノンで攻撃をしてくる!!

スナイプ「あぶな!!」

そういつてガシヤコンマグナムで攻撃をするが マグバイザーで相殺される。

フォーゼ「しかし、あの射撃 クリスお母さんなみ!!」

ゴースト「でもお母さんたちは・・・」

そう今ダークディケイドと戦っているのであった!!

スナイプ「もう!!あの射撃厄介だよー!!」

そういつて撃ちながら言うのであった。

一方でダークディケイドと戦う翼たち

翼「はああああああああああああああああああ!!」

ダークディケイド「ふん」

ダークディケイドはライドブッカーで受け止める。

響「だああああああああああ!!」

響は接近をして殴ろうとしたが

「アタックライドメタル」

そういつてカードを出して装填をする。

響「ぐ!!」

響はガードされてはじかれる

マリア「だああああああああああああ!!」

ビルド「は!!」

二人は短剣とドリルクラツシャーで攻撃をするが……

ダークデイケイド「甘いんだよ」

そういつて音激棒烈火をだして二人の攻撃をふさいだのだ。

二人「!!」

クリス「くらいやがれ!!」

そういつてミサイルを放ち、マリアとビルドは離れる

ダークデイケイド「ちい……」

ダークデイケイドはミサイルをくらい少しだけ下がる

切歌「くろうデース!!」

そういつて鎌を連続して飛ばしていく

調「これはおまけ!!」

そういつて調も鋸を飛ばして二人のぶきが飛ぶのであった。

ダークディケイド「甘い」

そういつてバツシャーマグナムとデンガツシャーガンモードにして放った武器を落としていく。

奏「なら!!」

そういつて奏は背中のブースターで空を飛び。

奏「くらいやがれー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー!!」

そういつて勢いよくやりをふるったのだ!!

だがダークディケイドは槍をつかんだのだ!!

奏「な!!」

翼「奏!!」

翼が小刀を連続で投げる

ダークディケイド「ふん」

だがそれをかわして翼に接近をしたのだ!!

ブレイブ「母上!!が!!」

ブレイブは後ろからグランインパクトをくらい吹き飛ばす!!

ディケイド「ブレイブ!!この!!」

そういつてダークカイザを切りつけた。

スナイプ「もうこれでとどめ!!」

「ガシヤット バンバンクリティカルフィニッシュ!!」

「ドリルON!!」

フォーゼ「ライダードリルキック!!」

そういつて放たれた技がダークゾルダに命中をして爆散をする。

「ファイナルアタックライド ファアファアファイズ!!」

デイケイド「はあああああ・・・・・・」

ファイズショットを構えて接近をする。

ダークカイザはブレイガンで攻撃をするが、デイケイドファイズはそれをかわして

デイケイド「は!!」

グランインパクトが命中をしてダークカイザを吹き飛ばす。

ダークカイザ「!!」

「ドラゴナイトクリティカルストライク!!」

ブレイブ「はああああああああああああ!!」

ブレイブの蹴りが命中をして爆散をするのであった。

ダークデイケイド「・・・・・・」

ダークデイケイドは二体が爆散をするのをみて奏を飛ばした

響「奏さん!!」

響がキャッチをする。

奏「サンキュー」

そういつて立ちあがる。

ダークディケイド「こうなれば・・・一気に」

つと攻撃をしようとしたとき

「ラビットアロー!!」

そういつて何かがダークディケイドを切りつけたのだ!!

ダークディケイド「ぐ!!」

「は!!」

そういつてダークディケイドを蹴り飛ばした!!

「俊敏のラビットモード!!」

そういつて現れたのは仮面ライダーフィスなのだ。

ダークディケイド「フィスだと・・・」

フィス「・・・」

フィスはさらに接近をしてラビットアローで切りつけていく。

ダークディケイド「調子に乗るな!!」

そういつて孔隙をしようとしたが、後ろにバックステップをしてラビットアローを引いてエネルギー矢を放ち命中させる。

ダークデイケイド「く!!」

ファイルス「オクトパス」

フィス「チエンジ」

ファイルス「八本の足!!オクトパスモード!!」

そういつて姿が変わりオクトパスモードとなったのだ!!

フィスは無言でフィスガンを構えてブレードモードで攻撃をする!!

ダークデイケイドはメタルシャフトで対抗をしていく。

がきん!!という音が鳴りお互いの武器が火花を散らしていく。

フィス「・・・・・・・・・・・・・・・・」

するとフィスの背中からたこ足が現れてたこ百裂拳が放たれる!!

どどどどどどどどど!!という音がダークデイケイドに当たりダークデイケイド

を吹き飛ばしていくのであった。

ダークデイケイド「ぐ・・・・・・・・・・・・・・・・」

フィス「・・・・・・・・・・・・・・・・」

オクトパスランチャーを構えて フィルスをセットをしたのであった。

ファイルス「必殺!!オクトパスバニツシュ!!」

ファイルス「は!!」

タコ型のエネルギーの弾が放たれてダークディケイドに命中をして吹き飛ばされる、するとダークディケイドの変身が解除されるのであった。

翼「な・・・・・・・・かな・・・・・・・・と・・・・・・・・」

カナト「!!」

するとカナトはレポートジエムを砕いたのだ。

翼「まっ て!! どうして逃げ の!! カナト!! カナ

ト・・・・・・・・・・・・・・・・!!」

それを司令室で見ている弦十郎・・・・・・・・

弦十郎「カナト・・・・・・・・お前だったのか・・・・・・・・なんで・・・・・・・・」

つというのであった。

ファイルス「・・・・・・・・」

するとファイルスを押す

ファイルス「解除」

すると愛が変身をしているかと思つたら・・・・・・・・

健介「ふい」

相田 健介がフェイスに変身をしているのであった。

全員「健介（お父さん!?!?!）」

愛「お父さん、いつのまに」

であった。

カナトの真実 彼の関係

SONG基地

クリス「おっさん!! 答えてもらおうぞ!!」

弦十郎「・・・・・・・・・・・・・・・・」

弦十郎は何かを考えている・・・・が口を開く。

弦十郎「そうだな・・・・・・・・君達にも教えておいた方がいいかもしれない・・・・・・・・」

翼「・・・・・・・・・・・・・・・・」

剣「母上・・・・・・・・」

弦十郎「風鳴 カナト・・・・翼の弟だ。」

全員「!!」

健介「翼の弟・・・・・・・・」

奏「ちよつとまってくれ!! あたしはそいつのことは知らないぞ!!」

弦十郎「当然だ・・・・なにせカナトは数十年前にさらわれているからだ・・・・・・・・」

全員「!!」

調「どういうことですか!!」

弦十郎「今から数十年前だ、カナトは翼と一緒に遊んでいた……だが突然として黒い車にさらわれてしまったんだ……」

翼「……」

弦十郎「我々は必死に捜査をしたが……カナトを見つけることはできなかつたんだ……」

切歌「まさか……：ダークデイケイドの正体はそのカナトさんだったのデース……」

健介「……ふむ」

愛「お父さん……」

健介「わかっているが……どうもな……：ダークデイケイド……いやカナトが何をしたいのかがさっぱりわからないんだよな……」

健介「それはあいつの意思なのか……それとも」

一方で

カナト「ぐ……うああ……」

「戦え……戦え!!」

カナト「うるさい!!僕は……戦わない……お姉ちゃんを傷つけるな!!」

「お前は俺だ……」

カナト「違う!!違う!!僕は風鳴 カナトだ!!」

そういつて自身の頭をふるっている……

だが彼の目が赤くなると……

「おろかだ……変身」

「カメンライド デイクライド」

ダークデイクライドに変身をした。

ダークデイクライド「さて」

そういつてダークデイクライドドライブをだしてカードを装填する。

「カメンライド ガイ ライア シザース」

そういつて黒い三体のライダーたちが召喚されたのだ。

ダークデイクライド「行け」

そういつて出撃をするのであった。

一方で話を聞いた愛たち……

剣「母上……」

翼「大丈夫よ……でもあのカナトが……どうしてもあんなことをするとは思えな

いの……」

すると警報がなり出撃をするのであった!!

デイクライド「は!!」

茜たちは変身をしてダークライアたちに攻撃をする!!

ダークライアたちもカードを装填をする

「ストライクベント」

「スイングベント」

そういつて武器が装着されて攻撃をしてきた!!

切歌「カニなら鎌で切り刻むデース!!」

そういつて切歌は鎌で攻撃をするが、ダークシザースは腕のクロウで受け止めて攻撃をしてこようとしたが。

スナイプ「させない!!」

スナイプのガシヤコンマグナムが放たれてダークシザースを吹き飛ばす

フォーゼ「ライダースイングバーン!!」

そういつてダークシザースの足をマジックハンドでつかんで投げ飛ばしたのだ!!
一方で

ビルド「は!!」

「ゴリラモンド!!」

ゴリラモンドになりダークガイと戦うがガイはメタルホーンでゴリラモンドを吹き飛ばす!!

ビルド「きゃ!!」

マリア「セレナ!!この!!」

マリアは砲撃をしようとしたが……

「コンファインメント」

マリア「な!!」

マリアの砲撃のユニットを消したのだ。

響「いくよ!!花菜!!」

花菜「はい!!お母さん!!」

そういつてゴーストは蹴りを、響も蹴りを噛ましてガイを吹き飛ばす!!

「アドベント」

するとサイ型のモンスター、ダークメタルガラスが現れて二人を吹き飛ばす!!

一方でライアと戦う、フィスたち

フィス「はああああああああああああああああああ!!」

ブレイブ「ああああああああああああああああああ!!」

ダークライア「!!」

ダークライアはカードを装填する

「アドベント」

するとエイ型のモンスターが二人を当てる!!

調「愛!!」

翼「剣!!」

そしてカードを入れる

「ファイナルベント!!」

そしてダークライアはその上に乗り攻撃をしようとしたが

クリス「おら!!」

クリスが大型ミサイルを放ち ライアを撃退する!!

ブレイブ「これで終わりだ!!」

ブレイブは走りながらガシャットを入れる

「ガシャット キメワザ!!ドラゴナイトクリティカルフィニッシュ!!」

ブレイブ「は!!」

燃え盛るハンターゲーマーがライアに突撃をしてダークライアは爆散をしたのだ!!

フオーゼ「これで終わりよ!!」

デイケイド「決める!!」

「ロケット ドリル リミットブレイク!!」

「ファイナルアタックライド デイデイデイケイド!!」

二人「は!!」

二人の蹴りがダークシザースに命中をして爆散をする!!

一方でダークデイケイドは……

ダークデイケイド「やっぱり使えないか……まあいいだろう俺が」

そういつてライドブツカーを構えたとき……

だだだだだ!!

ダークデイケイド「ぐ!!」

デステイニー「……………」

そうダークデイケイドに攻撃をしたのは、仮面ライダーデステイニーだったのだ!!

デステイニー「さて、お前は何者だ？」

ダークデイケイド「何を言っている？」

デステイニー「今のお前は風鳴 カナトなのか、それとも別の人物なのかってね」

そういつてデステイニーガンを構えながら言う

ダークデイケイド「なるほどな……俺はダークデイケイドそのものだからな……」

デステイニー「なるほど……(つてことは俺の闇つてことか……)」

そういつてデステイニーガンを構えながらも ビームライフルを構えてる。

デステイニー「お前……あの時の闇か……」

ダークデイケイド「くつくつく．．．その通りだよ、相田 健介．．．」
そうカナトの体に乗っ取っていたのは、かつて健介の体に乗っ取っていた闇だったのだ。

デステイニー「お前はあの時カナリアに消されたはずだ．．．」

ダークデイケイド「その通りだ．．．だが私は生きていた．．．そしてこいつの中で私はこうしてよみがえったのだ!!」

そういつてダークデイケイドは衝撃波をだしてデステイニーを吹き飛ばす!!

デステイニー「うああああああああああああああああああ!!」

地面にどしん!!とぶつかる。

調「健介!!」

デステイニー「ぐ．．．．．」

するとダークデイケイドが上空から降りてきたのだ。

翼「カナト．．．．．」

デステイニー「翼!!あいつはカナトじゃない!!」

全員「!!」

フィス「お父さん、どうということなの!!」

デステイニー「．．．．．」

ダークデイケイド「ここまでだな……」

そういつてダークライアを回収をして撤退をしたのであった。

デステイニー「……………」

切歌「健介……………」

デステイニー「俺と闇のけりは……まだついてなかったのか!!くそ!!」

そういつて地面を殴る!!

奏「どういふことだよ……けりがついてないって……………」

変身を解除をする。

健介「あのダークデイケイドは……俺の中にいた闇だ……………」

全員「!!」

響「でも闇はカナリアさんが!!」

健介「だが奴は生きていた……そしてカナトの体に乗っ取ったんだ……………」

全員「……………」

健介「奴とのけりは必ずつける!!」

闇を追いはらえ!!

カナト「はあ．．．はあ．．．」

無駄だ、お前に俺の闇を払うことなどできないからな．．．さああらがうのをやめてもらおうか？

カナト「誰が．．．お前になんか．．．」

つと彼は闇と戦うが．．．

無駄なことを．．．すると奴はダークデイケイドへと姿を変える。

ダークデイケイド「さーてあいつらと遊ぶとするか」

一方でSONG基地にて

健介「．．．．．」

ファイルス『バディ、どう思う？』

健介「ああ、あれは俺の中にいた闇だ．．．俺の時は調たちが助けてくれた．．だが今回のカギは．．．彼女だろうな．．．」

ファイルス『翼だねバディ』

健介「そのとおりだ、さて俺は作戦室へ戻るか」

ファイルス『バディ!!私を連れていってくれーーーーー』

健介「ああ悪い悪い」

そういつて健介はファイルスを持ち移動をするのであった。

司令室へ行くと、どうするか考えているのであった。

未来「あ、兄さん」

健介「どうですか、何か思いつきました?」

弦十郎「ああ色々と考えているが・・・どうもな・・・」

花菜「パパだったらどうするの?翼お母さんの人に対して」

健介「そうだな、お父さんだったら説得などをするかな?調たちが俺にしてくれたよ

うに・・・・・・」

愛「あの時だね、お父さんが闇に乗っ取られたときにお母さんたちが説得をしたよう

にね」

切歌「でもどうやってやるデース?」

全員「うーーーーーん」

すると警報が鳴り出したのだ!!

弦十郎「どうやら考えている時間を与えるほどないってことか・・・全員出動!!」

全員「了解!!」

そういつて出動をしたのであった。

ダークデイケイド「どうやら来たようだな」

ダークデイケイドダークブツカーを構えている。

フィス「カナトおじさんの体返してもらいます!!」

ダークデイケイド「そうは行くか。やつと手に入れた体をみすみす逃がすとも思
うのか!!」

そういつてガンモードにして攻撃をしてきた!!

クリス「どうするんだ!!」

デステイニー「攻撃をする、とりあえずはこちらにも被害がでる!!」

調「わかった!!」

そういつて全員が武器を構える。

翼（私は切れるのか・・・カナトを・・・あの子を・・・私が・・・）

ブレイブ「はああああああああああああ!!」

スナイプ「援護をするよ!!」

タドルレガシーにバンバンシユミレーシヨンになったブレイブとスナイプがダーク
デイケイドに攻撃をする。

ダークデイケイド「甘いな」

ダークデイケイドはライドブツカーではじかせてブレイブのガシヤコンソードをはじかせたのだ。

フィルス『毒の王者!!スコープオンモード!!』

フィス「はああああああああああああ!!」

ゴースト「であ!!」

二人の槍とガンガンセイバーがダークデイケイドを攻撃をするがそれさえもダークデイケイドはカードを装填をして烈火大斬刀をつかつて二人を攻撃をしたのだ。

調「愛!!」

響「花菜!!」

フオーゼ「あいつ、前よりも強くなってるやない?」

デイケイド「ええ私もそう思ったわ」

奏「つてことはあいつさらに強いのかよ!!」

マリア「でもどうするのかしら?絶唱を使っても勝てる気がしないわ……」

デステイニー「はああああああああああ!!」

デステイニーはアロンダイトを構えて切りかかる。

ダークデイケイド「やはり貴様と私は決着をつけないといけないみたいだな……相

田 健介

「デステイニー」当たり前だ、お前を封印を解いてしまったの俺だ!! だからこそ貴様の決着はおれ自身がつける!!」

そういつてビームライフルで攻撃をしてダークデイケイドに当たる。

「デステイニー」でああああああああああああああああああああああああああああああああ!!」

カナト「馬鹿め」

「デステイニー」く!!」

「デステイニー」はすぐにアロنداイトを退かせたが、カナトの蹴りがデステイニーを吹き飛ばしたのだ。

未来「兄さん!!」

翼「もうやめてくれ!! カナト!!」

すると翼が前にでてカナトのところへ。

翼「あなたはそんなことをする子じゃないわ!! お願いよ!! 元のカナトに戻って!!」

「ダークデイケイド」無駄なことを・・・今楽にしてやるよ」

「そういつてライドブッカーを構えて切りかかってきたが・・・翼に剣が降りることはなかったのだ。」

翼「？」

翼は目を開けると・・・

カナト「ね・・・ねえさん・・・」

翼「カナト？」

カナト「久しぶりだね・・・姉さん・・・でも時間が無い・・・僕の体をこいつが乗っ取ろうとしているから・・・これが姉弟の最期の会話になるねw」

翼「そんなことはないよ!!また一緒に!!」

カナト「駄目、こいつをなんとかしないと・・・」

デステイニー「いや秘策はある!!」

全員「!!」

秘策

調「健介、秘策があるって本当？」

デステイニー「ああある!!だが……」

フェイス「お父さん？」

デステイニーはあるものを出した。

切歌「それってマキシマムマイティエックスガシャットでーす!!」

そう健介が出したのはマキシマムガシャットであったが、色が灰色なのだ。

デステイニー「だがこれは試作品だ、リクロミングを使うことであいつを追いだすのだが……」

マリア「まさか、一回しか使えないってこと？」

デステイニー「残念ながら、こつちのガシャコンキースラツシャーは普通にできているが、マキシマムマイティエックスはクロトと祥平のデータ状しか作れてないから一回だけしか使えないんだ……」

スナイプ「つてことは一発が重要だね……」

デステイニー「翼……」

翼「……………」

するとデステイニーは翼にガシャコンキースラツシャーとマキシマムガシャットを渡した。

デステイニー「お前がやるんだ、その間に俺たちはチャンスを作る」

翼「でも!!」

デステイニー「弟を救いたいんだろ? そのチャンスは俺たちが作る、翼はその一発に集中するんだ!!」

翼「健介さん……はい!!」

ブレイブ「母上、おじさまは必ず救い出しましょう!!」

そういつてブレイブたちはダークデイケイドに攻撃をする。

ダークデイケイド「無駄なことを、お前たちの作戦が成功をしても?」

デステイニー「だからこそ俺たちはお前を止める!!」

そういつてアロンダイトを抜いてダークデイケイドに切りかかる!!

ダークデイケイド「無駄なことを」

ダークデイケイドはダークブツカーで受け止めたが。

デステイニー「調!! 切歌!!」

調「これでも!!」

切歌「くらうデース!!」

鎌と鋸のコンボが放たれてダークデイケイドのボディに命中をする。

ダークデイケイド「ぐ!!」

ダークデイケイドはガンモードにして放とうとしたが。

「ダイカイガン!! ニュートンオメガドライブ!!」

ゴースト「お母さん!!」

ニュートン魂となったゴーストが左手をだして吸い寄せてダークデイケイドを上空へ上げると

響「はああああああああああああ!!」

響の拳が放たれてダークデイケイドに攻撃をする。

ダークデイケイド「おのれ!!」

フォーゼ「これでも食らいなさい!!」

「ファイアーリミットブレイク」

フォーゼ「ライダー爆熱シユート!!」

ビルド「それ!!」

「LADYGO ボルティックファイニッシュ!!」

ホークガトリンガーから放たれた弾が命中をする。

翼「カナト……お姉ちゃんが助けるから!!」

「マキシマムガシャット!!キメワザ!!マキシマムマイティクリティカルフィニッシュ!!」

奏「おらああああああああああああ!!」

デイケイド「はああああああああああ!!」

二人がダークデイケイドに槍と剣で攻撃をする。

ダークデイケイド「ぐ!!」

翼はダッシュをして接近をしていく!!

ダークデイケイド「させるか!!」

ブレイブ「させない!!」

するとブレイブは魔法を発動させてダークデイケイドの動きを止めたのだ!!

ダークデイケイド「な!!」

ブレイブ「母上!!」

翼「カナトおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
!!」

翼の放ったガシャコンキースラッシュャーの斬撃がダークデイケイドに一閃をする!!

ダークデイケイド「ぐ……なんだこれは!!」

デステイニー「俺の中にあつたお前の抗体から得たのを入れているからだ!!」
翼「であああああああああああああああああああああああああああああ!!」

さらに斬撃をして切りつけたのだ!!

ダークデイケイド「お・・・おのれ!!」

するとカナトが出てきたのだ。

スナイプ「おっと」

スナイプが駆けつけてカナトをキャッチをする。

マリア「これで遠慮なく攻撃ができるわね!!」

フィス「はい!!」

ダークデイケイド「まだだ、私が・・・大いなる闇である俺が貴様たち如きに!!」

デステイニー「前にも言ったはずだ、闇が支配する世界は永遠にこないということ

!!愛!!」

フィス「フィルスいくよ!!」

フィルス『ああいつでもいいぞ!!』

デステイニーおよびフィスは必殺技の準備をする。

なのは「必殺!!デステイニーストライク!!」

フィルス『必殺!!フィスメテオストライク!!』

二人「はああああああああああああああああああ!!」

二人は一緒に飛び蹴りの構えをとる!!

ダークデイケイド「おのれ!!」

「FINAL ATTACK RIDE DEDEDEDDEDDELIKEIDO!!」

ダークデイケイド「であああああああああああああ!!」

ダークデイケイドも飛び蹴りを入れる。お互いの足が激突をして力がぶつかる!!

ダークデイケイド「無駄だ!!闇の力は不滅!!」

フィス「そんなことはない!!お父さんだつて闇に勝つた、あなたに・・・絶対に私たちは負けたりしない!!」

デステイニー「そのとおりだ!!俺が今までお前に負けなかったのは、調や切歌・・・俺のことを信じている奴らがいたから俺はお前に屈しなかった!!だからこそ・・・お前を倒すことができた!!」

ダークデイケイド「認めん!!認めんぞ!!」

二人「愛を知らないお前に、俺（私）たちは負けない!!はああああああああああああああああああ!!」

二人の蹴りの威力がダークデイケイドを押ししているのだ。

ダークデイケイド「ぐ・・・ううううぐあ!!」

そしてダークデイケイドは地面に落ちて立ちあがったときに。

二人「であああああああああああああ!!」

デステイニーとフィスのダブルライダーキックが命中をしてダークデイケイドは吹き飛ぶのであった。

ダークデイケイド「こ……これで勝ったと思うなよ……仮面ライダーども……」
するとダークデイケイドはポロポロの体で何かを言う。

ダークデイケイド「すでに……動き始めている……のだよ……」

デステイニー「動きだしている……」

ダークデイケイド「そうだ……俺が先発だと思えばいいさ……くつくつく……偉大なる……ジエネラル……ダグエンさま……ばんざい……」

そして爆散をしたのだ!!

デステイニー「ダグエン……それがダークデイケイドいや闇の意思を復活させた敵なのか……」

一方で

「ダグエンさま、ダークデイケイドの反応が消失しました、おそらく仮面ライダーやシンフォギア奏者たちにやぶれたかと……」

ダグエン「そうか……ダークデイケイドよくやった、直ちにメンバーを集合さ

せろ」

「はは!!」

ダグエン「青き地球、美しい星は私ダグエンがもらう!!くつくつくつく……」
地球病室

カナト「……………」

翼「カナト……………」

今カナトはダークデイケイドに解放されたが目を覚ましてない……

健介「どうだ?」

翼は首を横に振る。

健介「おそらくだが、あいつは生きるのを拒否しているかもしれない……………」

翼「え?」

健介「操られたとはいえ、姉であるお前に刃を向けてしまったからな……………」

弦十郎「馬鹿野郎……………カナト……………俺はそんなこと思っていない……………帰っ

てこい……………お前の無事な姿だけでも見れて……………本当に……………よかった……………」

健介「弦十郎さん……………」

カナト（おじさん……………）

翼「カナト、姉ちゃんはずっと探していたの……………あなたが行方不明なったときか

ら……」

健介「そういえば前に見たな、翼が駅前で配っているのを……」

翼「あなたが生きていたと知ったときどれだけ喜んだか……お姉ちゃんはうれしかったよ……」

カナト（翼姉さん……おじさん……）

健介「始めましてかな、俺は相田健介だ……」

カナト（翼お姉ちゃんの旦那さんか……）

健介「生きろ、そして今まで家族との思い出を忘れないでくれ……」

カナト（……）

健介「君を思っている人たちがいるんだろ？死のうなんて考えるな……かつて俺も彼女たちに刃を向けてしまったんだ……」

カナト（え……）

健介「君と同じ闇に俺は体を支配されてね、抵抗をした……だが奴の力は強力で……俺は翼だけじゃなく娘たちにも攻撃をしてしまった……」

カナト（そうか……健介さんも……）

健介「だが彼女たちはそれでも俺を許してくれた……攻撃をしまい殺しかけた俺を……涙を流して俺を迎えてくれた……彼女たちは俺にこういった……」

調「確かに健介は攻撃をした、でもね健介：私はあなたがいたから愛が生まれて：：
ともうれしかった．．．だからあなたが生きていてくれてよかった．．．」

健介「つてな．．．だからこそ生きるんだ．．．俺は彼女たちを悲しませ過ぎた．．．」

カナト「うう．．．」

健介「それでも俺を信じてくれたあいつらのためにも．．．俺は戦い続ける」

カナト「お．．．れは．．．」

翼「カナト!!」

カナト「おねーちゃん．．．俺．．．俺は．．．」

翼「いいんだ．．．いいんだよカナト!!おかえり．．．」

カナト「ただいま．．．お姉ちゃん」

つと笑顔で言うカナトとそれをみて泣く翼。

健介「．．．」

健介は黙って部屋を出ると。

剣「母上．．．よかったです．．．」

響「よかったよー翼さん!!」

つと全員が外から見ていたのだ。

調「健介……」

調は健介に抱き付いた。

健介「調……」

調「暖かい……健介を感じる……夢じやないってくらいに……」

健介「……」

みると調は涙を流していた、おそらく自分がいなかったときのことを思い出したんだろう……

調「本当に……つらかった……健介が消えたときに……私……とてもつらかった……いつもそばにいてくれた健介がいなくなったとき……心に穴が開いた感じになった……」

健介「……」

調「帰ったときにお帰りや……ただいまという健介の音が……もう聴けないって思うって……私……私……」

健介「調……」

調「クロトさんたちが助けに来た時、現れたあのダークフェイスが健介だと知ったとき……私ねうれしかったの……健介は生きていてくれたって……でもね健介もうあんな言葉聞きたくない……ここに居る皆が思っていること……」

健介「・・・・・・・・・・・・・・・・」

調「自分の命を軽々に殺してくれなんて言わないで!!」

健介「・・・・・・・・・・ごめん」

調「私たちを殺してしまうかもしれないから、俺を倒せと聞いたとき私は真つ暗になつた・・・・・・・・たぶん全員がそれは思ったことだよ・・・・・・・・」

ファイルス『バディ、調たちははずつと君のことを気にしていたんだ・・・・・・・・自分たちがいたのにバディを守れなかった・・・・・・・・もつと力があればとな・・・・・・・・』

健介（俺は・・・・・・・・彼女たちにそこまで・・・・・・・・情けないな・・・・・・・・）

健介「調・・・・・・・・」

すると健介は調を抱きしめる。

健介「もうお前たちの前から消えたりしない・・・・・・・・たとえ何があつても・・・・・・・・必ず」

調「健介・・・・・・・・」

健介「・・・・・・・・」

調「うう・・・・・・・・うううううううううううううううう」

愛「お母さん・・・・・・・・」

真奈「あれ？ママは・・・・・・・・あ・・・・・・・・」

みると健介の背中にぴとつといたのであつた。

健介（いつのまに・・・）
健介も気づかなかったようだ。

番外編 健介 翔平の世界へ

ダークデイケイドを倒してカナトを救った健介たち。

健介「ん？」

健介はパソコンを見ていると相棒であるファイルスが声をかけてきたのだ。

ファイルス『どうしたんだい健介』

健介「ああさつきから高エネルギー反応が出ているんだ、まるで何かを指示をするかのように……」

翼「健介さんどうしました？」

健介「翼か、いやさつきからエネルギー反応が……」

すると警報が鳴りだした!!

二人「!!」

全員が出勤をすると何かの兵隊たちがいたのだ。

デステイニー「なんだこいつらは……」

クリス「だがよこいつらを倒さないと!!」

デステイニー「そういうことだいくぞ!!」

全員 「おう!!」

そういつて全員が謎の敵と戦うのであった。

フィス 「だああああああ!!」

フィスはラビットモードになりラビットアローで切りつけていく。

フィス 「そこだ!!」

離れた敵にアローを放ち落とす。

ブレイブ 「はああああああああああああああああ!!」

ブレイブはガシャコンソードを使って次々に切り裂いていく。

ブレイブ 「まだいるのか!! 第三剣術」

「ドレミファビートーーーーー」

ビートクエストゲーマーレベル三になった。

ブレイブ 「だああああああああああああああああ!!」

スナイプ 「この!!」

「ジェットコンバ——ット!!」

コンバットシューティングゲーマーレベル三になり空から攻撃をする。

スナイプ 「おっととと!!」

スナイプはかわしてガトリングを放ち落としていく。

「ダイカイガン!! ベートベンオメガドライブ!!」

ゴースト「はああああああああああああ!!」

ゴーストはベートベン魂となり音楽を放ち撃破していく。

ゴースト「ビリーザキッドさん!!」

「開眼ビリーザキッド!!」

ビリーザキッド魂を装着をしてガンモードとなったガンガンセイバーとバットク
ロツク銃モードで乱射をする。

フォーゼ「おらああああああああああああ!!」

フォーゼは背中への噴射で飛び、現れた敵にボディプレスを嘯ましてスイッチを変え
た。

「ビートON」

フォーゼ「音波をくらいなさい!!」

音波が流れて敵にダメージを与えていく。

フォーゼ「おまけ!!」

「チェーンアレイON」

フォーゼ「どでかいハンマーアタック!!」

つと降ろされたチェーンアレイが敵を吹き飛ばす。

「デイケイド「変身」

「カメンライド ウィザード」

「デイケイドウィザードへと変身をしてウィザードソードガンをだして攻撃をする。

「デイケイド「であ!!」

ガンモードへと変えて弾丸を当てていく。

「デイケイド「まだいるのね？」

「アタックライド ビック!!」

「デイケイド「巨大な手を受けてみなさい!!」

そういつて降ろされた巨大な手が敵を次々と吹き飛ばしていく。

響「だああああああああ!!」

響は接近をして拳で敵を次々に殴り飛ばしていく。

クリス「これでもくらいやがれ!!」

クリスはクロスボウとしたイチイバルを放ち次々に撃破していく。

マリア「であああああああああああああああ!!」

切歌「マリアと一緒に切り刻むデース!!」

つと二人は短剣と鎌で切っていく。

調「健介!!」

デステイニー「ああこいつらはロボットだ!!」

そういつて2人はアロンダイトと巨大な鋸をだして切りこんでいく。

未来「いつて!!」

未来は扇を出してビームを放ち、接近をしてくる敵を薙刀で切り裂いた。

未来「伊達に兄さんから学んでないわ!!」

奏「だがこいつらどれだけいるんだよ!!」

ビルド「どうみても・・・原因はあれですよね?」

つと穴を見ていう。

デステイニー「・・・・・・・・・・・・・・・・」

フェイス「お父さん?」

デステイニー「愛、お前にデステイニードライバーを渡しておく、なのはたちには愛

たちのサポートをお願いします。」

なのは（わかったけど、健介さんは?）

すると健介はデステイニーを解除をする。

健介「愛、悪いがフェイスを貸してもらうぞ?」

愛は変身を解除をして。

愛「わかった、それじゃあファイルス」

ファイルス『了解した。』

「そういつてお互いに変身ベルトを交換をして。

二人「変身!!」

デステイニー「これがデステイニー……」

ファイルス「調、俺はあの時空を超えて原因をつかんでくる、なーに心配するな必ず帰ってくるよ」

調「健介……」

ファイルス「さーていくぞ!!」

ファイルス『了解だバディ、久々にいくとしよう!!』

そういつてファイルスへと変身をした健介はボタンを押す。

ファイルス『不死鳥の力!!フェニックスモード!!』

ファイルス「は!!」

ファイルスは背中のフェニックスウイングを展開をして空を飛ぶ、向かう場所は時空の穴だ。

ファイルス「邪魔だ!!」

フェニックスライフルを連結をしてファイルスをセットをする。

ファイルス『必殺!!フェニックスバスター!!』

フェイス「は!!」

フェニックスの弾が飛び敵を爆散させてフェイスはその穴へと入っていく。

フェイス「どああああああああああああああああああああああああああああ!!」

フィルス『バディ!! バランス調整は任せたまえ!!』

フェイス「頼むぜフィルス……だが何がいたい……それにこの場所って……」

フェイスはある場所へ着地をすると一人の男性が近づいてきた。

「貴様はフェイス、相田 愛か?」

フェイス「ん……あんたは駆文 戒斗」

戒斗「俺のことを知っているってことは、どっちだ?」

フェイス「俺は健介の方だ、どうしてあんたが?」

戒斗「謎の敵が現れてな、その場所へ向かっていた。」

フェイス「なら俺と一緒にさ、さーてその場所が判明をしたようだぜ?」

フィルス『二人とも、おそらく世界は翔平がいた世界だ』

フェイス「翔平ね、とりあえず向かいますか」

こうして俺たちはまさか翔平に何かあったのか……そのあと知ることになりました。

第六章 強敵ダグエン

新たな敵 ダグエン出現!!

健介が祥平を助けるために時空を超えていつてから数週間がたった、ギャラホルンの前で調たちは待っているのだ。

それは健介が間もなくギャラホルンを使ってこの世界へ帰ってくるということだ。

愛「お父さん大丈夫かな？」

真奈「うんファイルスから変身ができなくなっただけで聞いたときはびくりをしたね。」

剣「だが父上は恐怖を乗り越えて再び変身ができるようになったようだ。」

調「まだかな・・・まだかな・・・」

切歌「もう調、まあ私もワクワクしてまーす!!」

響「だよね!!はやく健介さんに抱き付きたいなー」

未来「もう響たらw」

花菜「お母さんw」

するとギャラホルンの扉が開いたのだ!!

奏「お!!どうやら主役が到着のようだぜ!!」

そしてその中から戦士が降りたつたのだ!!

フィス「よっと」

中から仮面ライダーフィスが到着をして地面に降りたつたのだ。

フィス「ふいー久々に帰ってきたな」

フィルス『ああその通りだな、バディ』

そういつてフィスは変身を解除をすると、相田健介に戻るのであった。

健介「本当に祥平が消滅をしかけているからな．．．びつくりをしたぜ、おっと」

そういつて健介は見ると調たちが立っていたからだ。

フィルス『バディ随分と皆を待たせてしまったようだなw』

健介「みただいな、皆ただいま!!」

全員「「「おかえり!!」」」

そして健介は祥平の世界での話をしているのであった。

愛「そんなことがあったんだね．．．」

健介「ああ、それでも俺は仮面ライダーとして．．．相田健介として再び変身をす

る決意を固めたんだ、愛ほれ」

そういつてフィルスを渡す。

愛「お父さん．．．」

健介「デステイニードライバーをつかって変身をしていたんだろ？」
愛「うん!!」

そういつてファイルスを愛に渡して健介は再びデステイニードライバーを返してもらったのだ。

なのは『おかえりなさい健介さん』

健介「ああなのは私たちもありがどうな愛たちを支えてもらってよ」

なのは『いいえ、私たちができることといえばこれぐらいですから．．．』

健介「そうか？」

そういつて健介はデステイニードライバーをしまつて部屋へ戻るとフィスの新しい姿を作ろうとしている。

一方で愛は久々にフィスへと変身をしていたのだ。

フィス「あれ？なんか前よりも感覚が違う気がする．．．」

ファイルス『そうだ、出力が上がったことで前よりもパワーアップをしているはずだ。』

フィス「なるほど．．．あれ？なんか武器ウェポンが増えている気がするよ？」

そういつてファイルスの武器アイコンが増えていたのだ。

ファイルス『ああバディが新しく武器アイコンを増やしたんだよ、さらにこしのフィス

ガンも変わっているだろ？』

フェイス「本当だ」

そういつて抜いたのは銃なのだ。

ファイルス『名前はフェイスデイツク、サーチャーしてロボットなどを確認をしたりすることが出来る銃だ。』

フェイス「この武器アイコンは？」

拳のアイコンだ。

ファイルス『ブレイクナツクルという武器だな、これは相手にロケットパンチを放つことが出来るものだ。』

フェイス「よくある閉じ込められたら使えって奴？」

ファイルス『どうしてそうなるのか君は』

そういつてほかにはウイングバルカンにウイングブレード、さらにアークファイアーという火炎放射機まで装備されていたのが判明をしたのであった。

フェイス「よーし!!」

そういつてフェイスは特訓をしようとしたとき警報が鳴ったのだ!!

ファイルス『警報!?!』

フェイス「とりあえず行ってみよう!!」

そういつてフェイスは愛に戻ると司令室へ急ぐのであった。

司令室には全員がそろっていた、画面を見ると何かの戦闘員たちが暴れているのだ。翼「ひどい……」

クリス「おっさん!!」

弦十郎「全員で出動だ!!」

全員「了解!!」

ライオトレインに乗り全員が到着をすると敵が攻撃をしてきたのだ。

フィス「うわ!!」

ブレイブ「いきなり攻撃か……」

デイケイド「は!!」

ゴースト「くらえ!!」

デイケイドとゴーストはライドブッカーガンモードとガンガンセイバーガンモードにして攻撃をする。

クリス「あたしに任せな!!」

クリスの脚部からミサイルポットが現れて放たれたのだ。

すると敵は吹き飛ばされていく。

響「さすがクリスちゃん!!」

マリア「いくわよ!!」

ビルド「ええ実験を始めるわよ!!」

そういつてビルドに変身をしたセレナはドリルクラッシュャーを持ち攻撃をしていく。

デステイニー「さーて」

なのは『健介さんどうしますか?』

デステイニー「きまっていますぜ、このフォームだよ」

なのは『エレメントスタイルセットアップ!!』

デステイニーの姿が変わりエレメントスタイルへと変わったのだ。

デステイニー「さーて!!」

デステイニーはエレメントソードを装備をして炎の力を纏わせて切り裂いたのだ!!

フォーゼ「ライダーロケットパンチ!!」

そういつてロケットモジュールを発動させて殴るのだ!!

翼「どうやら終わったみたいだな……」

そういつて翼は剣を構えを解いた。

切歌「ですね、でもこいつらっていったい?」

切歌は鎌をツンツンさせている。

調「危ない!!」

ファイルス『デифエンダー!!』

するとフェイスが発動させたディフェンダーでガードをしたのだ。
フェイス「いったいどこから!!」

「ほう、俺の攻撃をふさいだってことか……」

全員「!!」

すると謎の戦士が地面に降りたつたのだ。

ブレイブ「何者だ貴様!!」

ブレイブはガシヤコンソードを構える。

「私はダグエン、お前たちの敵といえればいいだろうな」

響「ダグエン……」

奏「それでそんなあんたが何のようだ？」

ダグエン「決まっている、私の邪魔をする貴様たちを排除をするのだ!!」

ダグエンは時空から自身の剣を呼び呼びそれをつかんだのだ。

ダグエン「幾多の戦いを乗り越えてきた戦士たちよ、貴様たちの力を我に示せ!!」

デステイニー「いくぞ!!ダグエン!!」